

道の駅那須高原友愛の森 観光交流センター増築工事

図面番号	図面タイトル	縮尺
A-01	建築工事仕様書（その1）	S=N. S
A-02	建築工事仕様書（その2）	S=N. S
A-03	建築工事仕様書（その3）	S=N. S
A-04	建築工事仕様書（その4）	S=N. S
A-05	建築工事仕様書（その5）	S=N. S
A-06	建築工事仕様書（その6）	S=N. S
A-07	建築工事仕様書（その7）・案内図	S=N. S
A-08	面積求積図・求積表（既存改修部分）	S=1:100
A-09	面積求積図・求積表（増築部分）	S=1:100
A-10	敷地求積図	S=1:500
A-11	敷地求積表	S=1:100
A-12	仕上表（既存部）	S=1:100
A-13	仕上表（増築部）	S=1:100
A-14	配置図	S=1:200
A-15	平面詳細図（改修前）	S=1:50
A-16	平面詳細図（改修後）	S=1:50
A-17	既存部立面図（東面・西面）	S=1:30
A-18	既存部立面図（南面・北面）	S=1:30
A-19	増築部北立面図	S=1:30
A-20	増築部南立面図	S=1:30
A-21	増築部東立面図	S=1:30
A-22	増築部西立面図	S=1:30
A-23	増築部矩計図1（短手方向）	S=1:20
A-24	増築部矩計図2（長手方向）	S=1:20
A-25	屋根伏図（改修前）	S=1:50
A-26	屋根伏図（改修後）	S=1:50

A-27	天井伏図（改修前）	S=1:50
A-28	天井伏図（改修後）	S=1:50
A-29	既存部展開図1（バス待合所）	S=1:50
A-30	既存部展開図2（バス待合所）	S=1:50
A-31	既存部展開図3（バス待合所）	S=1:50
A-32	既存部展開図4（観光案内所）	S=1:50
A-33	既存部展開図5（観光案内所）	S=1:50
A-34	既存部展開図6（観光案内所）	S=1:50
A-35	既存部展開図7（観光案内所）	S=1:50
A-36	既存部展開図8（観光案内所）	S=1:50
A-37	既存部展開図9（観光案内所）	S=1:50
A-38	既存部展開図10（観光案内所）	S=1:50
A-39	増築部展開図1	S=1:50
A-40	増築部展開図2	S=1:50
A-41	銅製建具 キープラン	S=1:50
A-42	銅製建具 建具表 1	S=1:50
A-43	銅製建具 建具表 2	S=1:50
A-44	家具図 キープラン	S=1:50
A-45	家具図 1	S=1:500
A-46	家具図 2	S=1:500
A-47	木製建具キープラン図	S=1:500
A-48	木製建具表	S=1:500
A-49	部分詳細図（案内カウンター）	S=1:500
A-50	部分詳細図（芦野石）	S=1:500
A-51	部分詳細図（屋根）	S=1:500
A-52	サインキープラン	S=1:50
A-53	S-1 サイン看板	S=1:30

図面番号	図面タイトル	縮尺
S-01	構造特記仕様書その 1	S=N. S
S-02	構造特記仕様書その 2	S=N. S
S-03	鉄筋コンクリート構造配筋標準図（1）	S=N. S
S-04	鉄筋コンクリート構造配筋標準図（2）	S=N. S
S-05	鉄骨構造標準図（1）	S=N. S
S-06	鉄骨構造標準図（2）	S=N. S
S-07	ベースバック柱脚工法設計施工標準図	S=N. S
S-08	基礎伏図	S=1:100 S=1:30
S-09	梁伏図	S=1:100 S=1:20
S-10	軸組図	S=1:100
S-11	鉄骨詳細図	S=1:100
S-12	室内屋根構造図	S=1:30

図面番号	図面タイトル	縮尺
E-01	電気設備特記仕様書（その 1）	S=N. S
E-02	電気設備特記仕様書（その 2）	S=N. S
E-03	電気設備特記仕様書（その 3）	S=N. S
E-04	電灯盤 動力盤単線結線図	S=N. S
E-05	照明器具参考図	S=1:50
E-06	幹線設備図	S=1:50
E-07	電灯設備	S=1:50
E-08	コンセント設備	S=1:50
E-09	動力設備	S=1:50
E-10	弱電設備	S=1:50
E-11	幹線・空調電源・弱電設備撤去図	S=1:50
E-12	電灯設備撤去図	S=1:50
E-13	非常誘導灯設備撤去図	S=1:50
E-14	コンセント設備撤去図	S=1:50

図面番号	図面タイトル	縮尺
M-01	機械設備特記仕様書（その 1）	S=N. S
M-02	機械設備特記仕様書（その 2）	S=N. S
M-03	（撤去・改修）配置図	S=1:500
M-04	空調・換気・機器表	S=N. S
M-05	（改修）空調・換気平面図	S=1:50
M-06	衛生・機器表	S=N. S
M-07	（改修）衛生 平面図	S=1:50
M-08	（撤去）空調・換気 機器表	S=1:50
M-09	（撤去）空調・換気 平面図	S=1:50
M-10	（撤去）衛生 平面図	S=1:50

図面番号	図面タイトル	縮尺
K-01	解体工事特記仕様書（その 1）	S=N. S
K-02	解体工事特記仕様書（その 2）	S=N. S
K-03	解体工事施工箇所配置図	S=1:500
K-04	観光交流センター横倉庫解体参考図	S=1：20・30
K-05	観光交流センター横 プレハブ倉庫解体参考図	S=1:30

工事名称	道の駅那須高原友愛の森 観光交流センター増築工事	
図面名称／縮尺	表紙・図面リスト	図面番号
設計年月日	平成31年3月	A－〇〇
設計者	一級建築士（第332111号） 神谷 太郎	
発注者	那須町建設課	

2 章仮設工事

○2-1 監理事務所 (2. 3. 1)

・ 設ける	◎ 設けない	備品 ()
監理事務所の規模	・ 20 m ² 程度	・ 35 m ² 程度
・ 10 m ² 程度	・ 65 m ² 程度	・ 100 m ² 程度

○2-2 工事用水

構内既存の施設	◎ 利用できない	● 利用できる (◎ 有償・無償)
---------	----------	-------------------

○2-3 工事用電力

構内既存の施設	◎ 利用できない	● 利用できる (◎ 有償・無償)
---------	----------	-------------------

○2-4 足場その他 (2. 2. 4)

足場を設ける場合は、「手すり先行工法に関するガイドラインについて」(厚生労働省平成 21 年 4 月)の「手すり先行工法等に関するガイドライン」により、「働きやすい安心感のある足場に関する基準」に適合する足場とし、足場の組立て、解体又は変更の作業時及び使用時には、常時「手すり先行工法による足場の組立て等に関する基準」の 2 の(2)手すり据置方式又は(3)手すり先行専用足場方式により行うこと。

3 章土工事

○3-1 埋戻し及び盛土 (3. 2. 3)

種別	・ A 種	◎ B 種	・ C 種	・ D 種
	・ 建設汚泥から再生した処理土 [6]			

○3-2 建設発生土の処理 (3. 2. 5)

1 章一般共通事項 3 発生材の処理等による

・ 3-3 山留めの撤去 (3. 3. 3)

鋼矢板等の抜き後の処理◎直ちに砂で充填する・山留めの存置・行う (存置範囲◎図示・)

4 章地業工事

・ 4-1 載荷試験 (4. 2. 3, 4)

- 平板載荷試験 () 箇所 最大荷重 () t 試験を行う深さ 6L () m 及び土質 ()
- ・ 杭載荷試験 () 箇所 最大荷重 () t 試験種別 () 方法及び報告書の記載事項は敷地調査共通仕様書 4 章 7 節及び 1 5 節による。試験位置は図示による。

・ 4-2 既製コンクリート杭地業 (4. 2. 2) (4. 3. 3～6, 8)

種別	◎ 遠心力高強度プレストレストコンクリート杭 (PHC 杭)

杭頭の処理	◎ 切断しない		
先端部形状	◎ 開放型	・ 閉そく型	・ 半開放型
杭の継手	◎ アーク溶接継手		
	・ 無溶接継手 (建築基準法に基づく指定機関で性能評定を受けたもの)		
施工方法	・ セメントミルク工法		
	・ 特定埋込杭工法		
掘削深さ	・ 1. 5m 程度		・
杭の支持層への根入れ深さ		・ 1. 0m 以上	・
杭の精度	・ 水平方向の位置ずれ		
	・ 杭径の 1/4 かつ 100mm 以下		
	・ 杭の傾斜		
	・ 1/100 以内	・ 評定条件又は認定条件による	・

・ 4-3 場所打ちコンクリート杭地業 (4. 5. 3)

セメントの種類	◎ 普通ポルトランドセメント	・ 高炉セメント B 種 [6]
コンクリートの種類	・ A 種	・ B 種 (表 4. 5. 1)
コンクリートの設計基準強度	() N/mm ²	
構造体強度補正	・ 行わない	・ 行う (◎ 3N/mm ² ・)
杭 径 (mm)	杭 長 (m)	セ ッ ト 数
試験 杭		長期設計支持力 (kN/本)
本 杭		
掘削工法	・ アースドリル工法 (◎ 安定液使用	・ 無水掘削) (4. 5. 4)
	・ リバース工法	
	・ オールケーシング工法 孔内の水張 (◎ 行う・行わない)	
	・ 場所打ち鋼管コンクリート杭工法	
	・ 拡底杭工法 (◎ 安定液使用・)	(4. 5. 5)
	・ 各部配筋参考図 2. 2④丸型 (ロ) による	・ 図示
帯筋		
鉄筋の最小かぶり厚さ	・ 100mm	・
孔壁測定	・ 行う (・ 超音波測定器・)	・ 行わない
杭の精度	・ 水平方向の位置ずれ	
	・ 杭径の 1/4 かつ 100mm 以下	
	・ 杭の傾斜	
	・ 1/100 以内	・ 評定条件又は認定条件による
組み立てた鉄筋の節ごとの継手		(4. 5. 4) (4. 3. 4)
◎ 重ね継手	重ね継手の長さ	・ 図示
スランブ	◎ 18cm	・ (4. 5. 4)

・ 4-4 鋼杭地業 (4. 3. 5) (4. 4. 2, 5, 6) (表 4. 4. 1)

	杭 径 (mm)	杭 長 (m)	セ ッ ト 数	長 期 設 計 支 持 力 (kN/本)
試験 杭				
本 杭				
試験杭位置、本数及び寸法		・ 図示		・
先端部形状		・ 開放型		
掘削工法		・ 中掘り拡大根固め工法		
杭の精度		・ 水平方向の位置ずれ		
		・ 杭径の 1/4 かつ 100mm 以下		
		・ 杭の傾斜		
		・ 1/100 以内	・ 評定条件又は認定条件による	・
杭の現場継手				

・ アーク溶接継手	
・ 無溶接継手 (継手部に接続金具を用いた方式のもの)	
工 法	◎ 審査 (評定又は大臣認定) を受けた工法
検 査	◎ 審査 (評定又は大臣認定) により定められた項目
施 工	◎ 審査 (評定又は大臣認定) された施工管理基準による
杭頭の処理 (切断方法)	◎ 切断しない
	・ 切断する

○4-5 砂利地業 (4. 6. 2)

◎ 再生クラッシャーラン [6]	・ 切込砂利又は切込砕石
------------------	--------------

○4-6 床下防湿層 (4. 6. 5)

ポリエチレンフィルム厚さ 0. 15mm 以上重ね幅縦横共 250mm 以上
施工箇所◎建物内の土間スラブ及び土間コンクリート下 (ピットを除く)

○4-7 地盤改良

◎セメント及びセメント系固化材を使用した地盤改良の施工にあつては、「改訂版建築物のための改良地盤の設計及び品質管理指針」(平成 14 年発行) により、施工前及び施工後に指定された試験を実施し結果を監督職員に報告すること。また、土質条件、施工条件等により試験方法、検体数に変更が生じた場合は、監督職員と協議するものとする。 [試験用土壌の採取方法等] ◎採取場所は現場指示によるが、改良土柱部分にかららないよう注意して採取すること。・採取土壌の種類 (種類)・採取最深深さ (m)・採取箇所数 (箇所) ◎採取方法 ◎バックホウ ・ポーリング 六価クロム溶出試験 ◎現場で採取した試料を用い、施工前及び施工後に環境庁告示第 46 号に基づき、試験を実施すること

試験方法	試験内容	実 施 時 期	試験箇所数	試験の必要性
試 験 方 法 1	配合設計段階で行う検査	材 齢 7 日	土質ごとに実施	必ず実施すること。
試 験 方 法 2	施工後の改良体を検査	材 齢 28 日	20箇所	試験方法 1 で六価クロム溶出量が基準値を上回った場合のみ実施。但し、火山灰質粘性土を改良する場合は試験方法 1 の結果にかかわらず、試験方法 2 及び 3 を実施。
試 験 方 法 3	タンクリーチング試験	材 齢 28 日	試験方法 2 で溶出量が最大の試験体を使用	

セメント系固化材を用いた深層混合処理工法は、国土交通大臣が指定する審査機関 (第三者機関) により、技術評価を受けた工法とする。工法採用にあたっては、監督職員の承諾の上、決定すること。尚、下記工法を参照のこと。

工 法	審 査 証 明 番 号 (審 査 機 関)
● E C M 工 法	BCJ-審査証明-66 (財団法人日本建築センター)
N C コラム	BCJ-審査証明-60 (財団法人日本建築センター)
スーパーアイマーク工法	BCJ-審査証明-77 (財団法人日本建築センター)
D コラム工法	BCJ-審査証明-96 (財団法人日本建築センター)
テノコラム工法	技審証第 2001 号 (財団法人先端建設技術センター)

5 章鉄筋工事

○5-1 鉄筋の種類 (5. 2. 1) (表 5. 2. 1)

規格	種類の記号	使用箇所	呼び名 (mm)
鉄 筋 コ ン ク リ ー ト 用 棒 鋼 (異 形 鉄 筋)	● SD295A	構造図参照	◎ D16 以下・
	● SD345	構造図参照	◎ D19 以上・
	・		

・ 5-2 溶接金網 (5. 2. 2)

形状等	種類の記号	網目の形状、寸法	鉄線の径 (mm)	使用部位
・ 溶接金網		◎ 100×100・	◎ 6. 0・	
・ 鉄筋格子				

○5-3 鉄筋の継手 (5. 3. 4) (表 5. 3. 3) 構造図参照

柱及び梁の主筋、耐力壁の鉄筋 ◎ガス圧接継手・重ね継手 (L=) ・機械式継手・溶接継手

○5-4 鉄筋のかぶり厚さ (5. 3. 5)

鉄筋の最小かぶり厚さは目地底から算定する・耐久性上不利な箇所の鉄筋の最小かぶり厚さは下記による

施 工 箇 所	標 仕 表 5. 3. 6 の 値 に 加 え る 寸 法 (mm)
・ 柱、梁、壁及び庇などの外気に接する打放し面	◎ 10 mm・

柱及び梁の主筋に D29 以上の鉄筋の使用の有無

- ・ 無し
- ・ 有り (適用箇所：) 主筋のかぶり厚さ・最小かぶり厚さ () mm

・ 5-5 各部配筋 (5. 3. 7)

◎各部配筋参考図による・図示

・ 5-6 既成コンクリート杭の杭頭補強方法 (5. 3. 7)

・ A 型 ◎ B 型 ・ 図示

・ 5-7 最上部柱頭補強 (参 2. 1)

・ 行う・行わない

○5-8 帯筋 (参 2. 2)

◎各部配筋参考図 2. 2 による H 形 (口は除く)・図示

・ 5-9 壁開口部の補強

一般壁 ◎各部配筋参考図 4. 4 による B 形 (参 4. 4)

・ A 型 ・ 図示 (参表 4. 3～4)

耐震壁 ◎図示

○5-10 梁貫通孔の補強

補強形式 ◎各部配筋参考図 7. 1 による H 形 (参 7. 1)

・ H 型 ・ M 型 ・ () (参表 7. 1～3)

○5-11 圧接完了後の試験 (5. 4. 9)

◎ 外観試験 (全数)
◎ 抜取試験
◎ 超音波探傷試験
・ 引張試験 ()

6 章コンクリート工事

○6-1 コンクリートの種類 (6. 2. 1) (表 6. 2. 1)

◎ I 類 ・ II 類

○6-2 セメントの種類

◎普通ポルトランドセメント又は混合セメントの A 種 (6. 3. 1. 2) (6. 13. 2) (6. 15. 2)・早強ポルトランドセメント・高炉セメント B 種 [G] ・フライアッシュセメント B 種 [G] 普通ポルトランドセメントの品質は JISR5210 に示された規定の他、次の規定の全てに適合するものとする。ただし、無筋コンクリートに用いる場合を除く

水和熱	7 日	352J/g 以下
	28 日	402J/g 以下

○6-3 骨材の種類 (6. 3. 1) (6. 5. 4)

使用骨材のアルカリシリカ反応による区分 ◎A ・B (コンクリート中のアルカリ総量 Rt=3. 0 kg/m³ 以下)

○6-4 混和材料 (6. 3. 1)

◎混和剤 (JISA6204 に規定する AE 剤、AE 減水剤又は高性能 AE 減水剤とし、化学混和剤の塩化イオン量による区分は I 類とする。・混和材 (JISA6201 に適合するフライアッシュの I 類又は II 種、JISA6206 に適合する高炉スラグ微粉または JISA6202 に適合する膨張剤

○6-5 レディーミクストコンクリート工場の選定

レディーミクストコンクリート工場の選定においては、「標準仕様書」6. 4. 1 (コンクリート製造工場の選定) によること、かつ、配合設計及び品質管理等を適切に実施できる工場 (全国品質管理監査会議の策定した統一監査基準に基づく監査に合格した工場) から選定することを基本とする。ただし、上記工場が工事現場近くに見当たらない場合は、監督員との協議により選定することとする。

○6-6 普通コンクリート (6. 2. 1～4) (6. 5. 4) (6. 9. 1)

設計基準強度 F _c (N/mm ²)	気乾単位容積 質量 (t/m ³)	スランブ	適用箇所	施工時期
◎ N1	2. 3 程度	● 18		
・		・ 15		

構造体強度補正値◎標仕 6. 3. 2 による・塩化物量試験

◎行う (ただし、製造工場が行っている管理試験結果の提出により省略する事ができる)・行わない

単位水量の測定

◎行う (「建築工事における『レディミクストコンクリート単位水量測定要領(案)』の運用について」による)・行わない

(1) 単位水量の測定は、150m³ に 1 回以上及び荷下ろし時に品質の異常が認められたときに実施する。(2) 単位水量の上限値は、標仕 6. 3. 2 (4) (c) による。

(3) 単位水量の管理目標値は次の通りとして施工する。ア 測定した単位水量が、計画調査書の設計値 (以下、「設計値」という。) ±15kg/m³ の範囲にある場合は、そのまま施工する。

イ 測定した単位水量が、設計値±15kg/m³ を超え±20kg/m³ の範囲にある場合は、水量変動の原因を調査すると共に生コン製造者に改善を指示し、その運搬車の生コンは打設する。その後、設計値±15kg/m³ 以内で安定するまで、運搬車の 3 台ごとに 1 回、単位水量の計測を行う。

ウ 設計値±20kg/m³ を超える場合は、生コンを打ち込まずに持ち帰らせ、水量変動の原因を調査するとともに、生コン製造者に改善を指示しなければならない。その後の全運搬業者の測定を行い、設計値±20kg/m³ 以内であることを確認 3 する。さらに、設計値±15kg/m³ 内で安定するまで、運搬車の 3 台ごとに 1 回単位水量の測定を行う。

エ 不合格生コンを持ち帰ったことを確認すること。(4) 単位水量管理についての記録を書面 (計画調査所、製造管理記録、打ち込み時の外気温、コンクリートの温度等) と写真により提出する。

(5) 単位水量の測定方法は、高周波誘電加熱乾燥法 (電子レンジ法)、エアメータ法、静電容量測定法又は () 法による。

・ 6-7 軽量コンクリート (6. 10. 1) (表 6. 10. 1)

設計基準強度 F _c (N/mm ²)	気乾単位容積 質量 (t/m ³)	種 別	スランブ	適用箇所、及び土又は水に直接接する部分	施工時期
・	・	種	・ 15・18		
・		種			

・ 6-8 無筋コンクリート (6. 14. 1～3)

種類	設計基準強度 F _c (N/mm ²)	スランブ (cm)	粗骨材の最大寸法	適用箇所
◎ 普通コンクリート	◎ 18	・ 15・18	◎ 25	

○6-9 打ち継ぎ目地の寸法、位置及び形状

打継ぎの位置 梁及びスラブ ◎スバンの中央又は端から 1/4 の付近・柱及び壁 ◎スラブ、壁又は基礎の上端・

目地の寸法◎標仕 9. 7. 3 による (6. 6. 4) (6. 8. 1) (9. 7. 3) ひび割れ誘発目地の位置◎図示 (6. 8. 1) 並びに誘発目地、打ち継ぎ目地の深さ寸法は、躯体外側の打増厚さ部で処理する。

○6-10 コンクリート打放し仕上げ (6. 2. 5) (6. 8. 2)

種 別	コーンの穴埋め	施工箇所
・ A 種	・ 面うちに仕上げる ◎面にあわせて仕上げる	
● B 種	・ 面うちに仕上げる ◎面にあわせて仕上げる	一般腰壁、基礎
・ C 種		
●化粧型枠		連絡通路腰壁
コンクリートの仕上りの平たんさ		
種 別	施工箇所	
・ a 種	・ 図示による ()	
● b 種	● 図示による (基礎)	
・ c 種	・ 図示による ()	

○6-11 打放し面の打増し (6. 8. 1)

打増し厚さ (外部に面する部分) ◎20mm ・

打増し厚さ (内部に面する部分) ◎10mm ・ 20mm

打増し範囲 ◎意匠図による・

・ 6-12 コンクリート躯体表面の処理

外装タイル後張り面の躯体表面の処理 MCR 工法を行う場合は、せき板面に MCR 工法用気泡ポリエチレンシート張りとし、仕上がり面凹凸状態とする。高圧水洗工法の目荒しを行う場合は、水圧 50N/mm² 以上かつ、2. 5 分/m² 以上とし、施工計画書を監督職員に提出し承諾を受ける。また、目荒しの状態は、事前に監督職員に承諾を受ける。コンクリートの増打ち厚さ ◎20 mm ◎施工範囲は図示による。

○6-13 寒中コンクリート (6. 11. 1)

● 適用する ・ 適用しない

・ 6-14 高強度コンクリート (公住仕 6. 16. 1～3)

設計基準強度 F _c (N/mm ²)	水セメント比	単位セメント量	スラッ又はスラッ フロー=スラッ フロー=	混和材料
45 未満	・		◎ 21cm 以下	◎ 50cm 以下 ◎高性能 AE 減水剤
45 以上 60 以下	・		◎ 23cm 以下	◎ 60cm 以下 ◎高性能 AE 減水剤

7 章鉄骨工事

○7-1 鉄骨の製作工場 (7. 1. 3)

製作工場の加工能力 ●監督職員の承諾する製作工場・建築基準法第 77 条の 45 第 1 項に基づき国土交通大臣から性能評価機関として認可を受けた (株) 日本鉄骨評価センター又は (株) 全国鉄骨評価機構 ((旧) 社) 全国鉄鋼工業協会) の「鉄骨製作工場の性能評価基準」に定める (「) グレード以上) として国土交通大臣から認定を受けた工場

○7-2 施工管理技術者 (7. 1. 4)

◎ 適用する

○7-3 鋼材 (7. 2. 1) (7. 2. 10) (表 7. 2. 1)

鋼材の材質	種類の記号	使用箇所	規格等
構造図参照			◎ JIS 規格による
			◎ JIS 規格による
			◎ JIS 規格による
			◎ JIS 規格による

○7-4 高力ボルト (7. 2. 2)

◎トルシア型高力ボルト・JIS 型高力ボルト・溶融亜鉛メッキ高力ボルト

○7-5 普通ボルト (7. 2. 3)

ボルト及びナットの材料 ◎標仕表 7. 2. 3 (JIS 付属書品) による・

○7-6 ターンバックル (7. 2. 6)

ターンバックル胴 ◎割枠式 ・パイプ式 ターンバックルボルト ◎羽子板ボルト ・アイボルト ・両ねじボルト ネジの呼び径 ()

○7-7 エンドタブ

鋼製エンドタブ 切断する箇所 ()

○7-8 スカラップ

◎改良型スカラップ

○7-9 溶接部の試験 (7. 6. 12)

平 12 建告第 1464 号第二号に関する外観試験方法等・「突合せ継手の食い違い仕口のずれの検査・補強マニュアル」3. 5. 2 受入検査による・抜き取り検査①・抜き取り検査②

JASS6 付則 6 [鉄骨精度検査基準] の付表 3「溶接」に関する試験方法等・JASS10. 4 [受入検査] e. 溶接部の外観検査 (1) から (5) までによる。ただし、完全溶込み溶接部の外観検査の抜取箇所は、超音波探傷試験の試験箇所と同一とする。外観試験の不合格箇所は、すべて標準仕様書 7. 6. 13 による補修を行い、再試験する。

完全溶込み溶接部の超音波探傷試

◎ 行う ・ 行わない

- ・ 工場溶接の場合
- ・ A O Q L ◎ 4. 0% ・ 2. 5% 検査水準 ◎ 第 6 水準
- ・ 工事現場溶接の場合
- ◎ 全数

その他の試験

- ・ 試験方法 () ・ 試験箇所 ()

○7-10 鉄鋼面の素地ごしらえ

種 別	・ A 種	・ B 種	◎ C 種	(7. 8. 4)
-----	-------	-------	-------	-----------

○7-

・7-12 耐火被覆 (7. 9. 2～7. 9. 8)

種別	所要性能及び適用構造区分
・ラス張りモルタル塗り	
・耐火材吹付け	・乾式吹付けロックウール
	・半乾式吹付けロックウール
	・湿式ロックウール
	・
・耐火板張り	
・耐火材巻き付け	

○7-13 アンカーボルトの保持及び埋込み工法 (7. 10. 3)

- 構造用アンカーボルト
- 材質 ●SNR400B ・SNR490B
- 埋込み工法 ●A種 ◎B種
- ・建方用アンカーボルト
- 材質 ・SS400
- 埋込み工法 ・A種 ◎B種

○7-14 柱底均しモルタル (7. 2. 9)

モルタル	◎無収縮モルタル	・ ()
無収縮モルタルの製造所	評価名簿による	
工法	◎A種[モルタル厚さ 50]	・B種[モルタル厚さ 30]

・7-15 溶融亜鉛めっき工法 (7. 12. 4)

亜鉛めっきの種別	材料	適用部位
A 種 (HDZ55)	最小板厚 6mm 以上の形鋼、鋼板類	
B 種 (HDZ45)	最小板厚 3. 2～6mm の形鋼、鋼板類	
C 種 (HDZ35)	最小板厚 1. 6～3. 2mm の形鋼、鋼板類普通ボルト、アンカーボルト	

素地ごしらは、JISH 9124 溶融亜鉛めっき作業指針による

・7-16 溶融亜鉛めっき高力ボルト接合 (7. 12. 5)

摩擦面の処理	
◎ブラスト処理	・ブラスト以外の特別な処理 ()
	耐力確認方法 ()

8 章コンクリートブロック・ALC パネル・押出成形セメント板工事

・8-1 補強コンクリートブロック造 (8. 2. 2～5)

ブロックの種類等 (8. 2. 2)					
断面形状及び圧縮強さによる区分	正味厚さ (mm)	モジュール呼び寸法 (mm)	化粧の有無	適用箇所	備考
	長さ	高さ			
・空洞ブロック C (16)			・無・有		
・			・無・有		
モルタルの割合 (容積比) (8. 2. 3)					
・セメント () : 砂 ()					

各部の配筋 ◎図示 ・

○8-2 コンクリートブロック帳壁及び堀 (8. 3. 2～4)

ブロックの種類等 (8. 3. 2)					
断面形状及び圧縮強さによる区分	正味厚さ (mm)	モジュール呼び寸法 (mm)		化粧の有無	(表 8. 3. 1) 以外の適用箇所
		長さ	高さ		
●空洞ブロック C (16)	120			・無・有	腰壁
・型枠状ブロック 20				・無・有	
・				・無・有	

堀の厚さ (8. 3. 2) ・ ()

壁鉄筋の継手、定着及び末端部の折り曲げ形状 (8. 3. 4) ◎図示 ・

各部の配筋 (8. 3. 4) ◎図示 ・

・8-3ALC パネル (8. 4. 2～5)

種類	単位荷重 (N/㎡)	厚さ (mm)	構法の種別
・外壁パネル	・1180・1960	◎100・	・A 種・B 種
・間仕切り壁パネル		◎100・	・C 種・D 種・E 種
・屋根パネル	・980	◎100	・F 種
・床パネル	・2350・3530	・100・150	

パネルの相互の接合部に充填する耐火目地材 ()

外壁、屋根パネルの工法

- ・建築基準法に基づき定まる風圧力の (・1・1. 15・1. 3) 倍の風圧力に対応した工法
- ・耐火性能 (・1 時間・2 時間)
- ・外壁パネルの出隅及び入隅のパネル接合ならびにパネルと他部材との取合い部の目地幅 (mm)
- ◎10～20・
- ・伸縮目地への耐火目地材の充填 ・適用する ・適用しない
- ・パネル幅の最小限度を 300mm 未満とする場合 ()

・8-4 押出成形セメント板 (E C P) (8. 5. 2～5)

◎薄物 (厚さ 50mm 以上)				
パネルの種類	形状	厚さ (mm)	工法種別	耐火性能
・外壁パネル	・ F (フットパ 板)	・50・60・		◎有り ()
	・ D (デザインパ 板)	・50・60		・A 種
	・ T (タイムパ 板)	・60		・B 種
・間仕切り壁パネル	・ F (フットパ 板)	・50・60・		◎有り ()
	・ D (デザインパ 板)	・50・60		・B 種
	・ T (タイムパ 板)	・60		・C 種
				・無し

◎薄物 (厚さ 50mm 未満)

施工箇所	形状	厚さ (mm)	耐火性能
	◎ F (フットパ 板)		◎無し
	・ D (デザインパ 板) (図示)		・有り

やむを得ず欠き込み等を行う場合は、下表の寸法を限度とする。ただし、欠損部分を考慮した強度を確認のうえ、施工計画書を提出する。

		開口の大きさ		切断後のパネルの残り部分の幅
		短辺	・ 図示 ・	
パネルに開口を設ける場合		長辺	・ 図示 ・	・ 図示 ・

パネルを切り欠く場合	短辺	・ 図示 ・	・ 図示 ・
	長辺	・ 図示 ・	・ 図示 ・

外壁パネルの工法

建築基準法に基づき定まる風圧力の (・1・1. 15・1. 3) 倍の風圧力に対応した工法

耐火構造以外の目地及び隙間の処理 ◎ パネル 製造 ・

所の仕様

9 章防水工事

・9-1 アスファルト防水 (9. 2. 2～5) (表 9. 2. 3～9)

種別	施工箇所	断熱材 [G]	絶縁用シート	立上り部の保護
・ A ー 1			◎ホ ーリスフレフィルム 厚さ 0. 15mm 以上	・乾式保護材 ・コンクリ押え
・ A ー 2				
・ A ー 3				
・ B ー 1				
・ B ー 2				
・ B ー 3				
・ A I ー 1		【材質】 ◎標仕 9. 2. 2 (8) (ス ン層付き) 【厚さ】 ◎25mm ・	◎フラットヤンクロス 70g/㎡程度	
・ A I ー 2				
・ A I ー 3				
・ B I ー 1				
・ B I ー 2				
・ B I ー 3				

種別	施工箇所	断熱材 [G]	仕上塗料	高日射反射率防水の適用
			種類	使用量
・ D ー 1			・製造所の指定による	指定による
・ D ー 2				
・ D ー 3				
・ D ー 4				
・ D I ー 1				
・ D I ー 2				
		【材質】 ◎標仕 9. 2. 2 (9) (ス ン層付き) 【厚さ】 ◎25mm ・		

種別	施工箇所	種別	施工箇所
・ E ー 1		・ E ー 2	
保護層	◎設ける		・設けない
屋上排水溝	◎設ける		・設けない

・9-2 改質アスファルトシート防水 (9. 3. 2、3) (表 9. 3. 1～3)

種別	施工箇所	断熱材 [G]	防湿層	仕上塗料	高日射反射率防水の適用
				種類	使用量
・ AS ー T1				・製造所の指定による	指定による
・ AS ー T2					
・ AS ー T3					
・ AS ー T4					
・ AS ー J1					
・ AS I ー T1					
・ AS I ー J1		【材質】・ 【厚さ】・25mm	・設ける (改質アスファルト製造所の使用による)		

固定用金具の材質及び寸法形状

◎厚さ 0. 4mm 以上の防錆処理した鋼板、ステンレス鋼板及びそれらの片面又は両面に樹脂を積層加工した鋼板

種別	施工箇所	断熱材	絶縁用シート
・屋根保護防水密着工法 (トーチ工法)		◎公仕仕 9. 2. 2 (h)	◎公仕仕 9. 3. 2 (4)
・屋根保護防水密着断熱工法 (トーチ工法)		◎公仕仕 9. 2. 2 (h)	◎公仕仕 9. 3. 2 (4)

・9-3 合成高分子系ルーフィングシート防水 (9. 4. 2～4) (表 9. 4. 1～3)

種別	絶縁用シート	断熱材 [G]	厚さ (mm)	仕上塗料	使用分類	施工箇所
・ S ー F 1			◎1. 2・	・カー・シ ルパ ー	◎非歩行 ・軽歩行	
・ S ー F 2			◎2. 0・			
・ S ー M 1			◎1. 5・	・カー・シ ルパ ー		
・ S ー M 2			◎1. 5・			
・ S ー M 3			◎1. 2・			
・ S I ー F 1			◎1. 2・	・カー・シ ルパ ー		
・ S I ー F 2		【材質】 ◎標仕 9. 4. 2 (3) (i) (b) による ・ 【厚さ】 ・25mm ・	◎2. 0・			
・ S I ー M 1		【材質】 ◎標仕 9. 4. 2 (3) (i) (a) による ・ 【厚さ】 ・25mm ・	◎1. 5・	・カー・シ ルパ ー		
・ S I ー M 2		◎発砲ホ ーリスフレシート ・	◎1. 5・			

種別	施工箇所	保護層	立上り部の保護
		平場のモルタル塗り	モルタル塗り厚さ
		塗り厚さ ・床塗り工法	
・ S ー C 1		◎標仕 15. 3. 5 (2) (イ) 及び (ウ) に準ずる	◎標仕 15. 3. 5 (4) (ア) に準ずる

機械的固定工法の場合の一般部のルーフィングシートの張付け

建築基準法に基づき定まる風圧力の (・1・1. 15・1. 3) 倍の風圧力に対応した工法

・9-4 塗膜防水 (9. 5. 3) (表 9. 5. 1、2)

種別	施工箇所	仕上塗料	保護層	高日射反射率防水
・ X ー 1		・カー・シ ルパ ー		・

・ X ー 2		・カー・シ ルパ ー		・
・ Y ー 1				・
・ Y ー 2			・適用する・適用しない	・

・9-5 ケイ酸質系塗布防水 (9. 6. 1、3) (表 9. 6. 1、2)

種別	施工箇所	種別	施工箇所
◎C ー U I		・ C ー U P	

・9-6 脱気装置 (9. 6. 1、3) (表 9. 6. 1、2)

種別	種類	設置数量
D-1、D-2、D-3、D-4、D I ー 1、D I ー 2、AS-T3、AS-T4、AS-J1、AS I-T1、AS I-J1	◎7ｽﾌｧﾙﾄﾙｰﾌｨﾝｸﾞ 類製 造所の仕様による	◎7ｽﾌｧﾙﾄﾙｰﾌｨﾝｸﾞ 類製 造所の仕様による
X-1	・防水層の主材料の製造所の仕様による	・防水層の主材料の製造所の仕様による

○9-6 シーリング (9. 7. 2、3) (表 9. 7. 1)

下表以外は、標準仕様書表 9. 7. 1 による。

施工箇所	シーリング材の種類 (記号)
打継目地	PU-2
サッシ廻り・軒先	MS-2

接着試験

◎簡易接着性試験 ・引張接着性試験

・9-7 保証書

責任施工の保証書を完了後すみやかに提出する。(請負者、専門施工業者及び材料製造者の連名による)

保証年限は下記による。

種別	保証年限	種別	保証年限
・アスファルト防水	10 年	・塗膜防水	年
・改質アスファルト防水	10 年	・リン酸質系塗布防水	年
・合成高分子系ルーフィングシート防水	10 年		

1 0 章石工事

○10-1 花こう岩及び大理石張り (10. 2. 1、3) (表 10. 2. 1、2)

石の品質床用石材 ◎2 等品 ・ (10. 2. 1)

壁及びその他の石材 ◎1 等品 ・

石の種類・表面仕上げ (10. 2. 1) (表 10. 2. 1～3)

施工箇所	品質	種類・産地・名称	厚さ (mm)	仕上げの種類
図示	1 類	御影石	25	水磨き

○10-2 大谷石及び芦野石

石の種類・表面仕上げ				
施工箇所	品質	種類・産地・名称	厚さ (mm)	仕上げの種類
図示		芦野石		

・10-3 テラゾ張り

種石の種類 ◎大理石 ・ (10. 2. 1)

表面仕上げ ◎本磨き ・ (表 10. 2. 2)

形状・寸法 ◎図示

・10-4 壁の石張り工法 (10. 2. 2、3) (10. 3. 2、3)

外壁石張り	
工法	・外壁湿式工法 (◎流し筋工法 ・) ・乾式工法 (・建築基準法に基づき定まる風圧力の (・1・1. 15・1. 3) 倍の風圧力に対応した工法) ◎行わない・行う (小口共) ◎行わない・行う
石表面処理	◎ステンレス (SUS304) ・
裏打ち処理	・一般目地目地幅 (mm) ◎6 以上・ シーリング材・適用する ・適用しない
ドレンパイプ	・伸縮調整目地位置 ◎標仕表 11. 1. 1 による ・図示 目地寸法 ◎標仕 9. 7. 3 (1) (ウ) による・図示
目地	
内壁石張り	(10. 2. 2) (10. 4. 2. 3)
工法	・内壁空積工法 (◎あと施工アンカー横筋流し工法・あと施工アンカー工法) ・乾式工法 (・建築基準法に基づき定まる風圧力の (・1・1. 15・1. 3) 倍の風圧力に対応した工法) ・行わない・行う (小口共) ・行わない・行う
石表面処理	・一般目地目地幅 (mm) ◎6 以上・ シーリング材・適用する ・適用しない
裏打ち処理	・伸縮調整目地位置 ◎標仕表 11. 1. 1 による ・図示 目地寸法 ◎標仕 9. 7. 3 (1) (ウ) による・図示
目地	

・10-5 床及び階段の石張り (10. 6. 2、3)

石の厚さ (mm)	
床石張りの石表面処理	◎行わない ・行う
階段張りの石表面処理	◎行わない ・行う
屋内のワックス掛け	◎行う ・行わない
目地	一般目地
	シーリング材
	位置
	◎標仕 10. 6. 2 (5) (イ) による
	・図示
	目地寸法 ◎標仕 9. 7. 3 (1) (ウ) による
	・図示

・10-6 特殊部位

◎標仕第 10 章第 7 節による

1 1 章タイル工事

・11-1 伸縮調整目地及びひび割れ誘発目地 (11. 1. 3) (表 11. 1. 1)

◎位置 (◎図示 ・) ・寸法 ()

○11-2 セメントモルタルによるタイル張り (11. 2. 2、7)

タイルの形状・寸法等								
施工箇所	形状寸法 (mm)	吸水率による区分	うわ葉	役物	色	再生材の適用	耐凍害性	耐滑り性

		I 類	II 類	III 類	無釉	施釉	有釉	無釉	標準	特注	[G]	有	無		
図示	100	●	・	・	●	・	●	・	・	・	・	●	・	●	
		・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	

役物：標準的な曲がり (小口、標準、二丁、屏風) の役物は一体成形とする

タイルの見本焼き◎行わない ・行う (◎外壁タイル・)

タイルの試験張り ◎行わない・行う (◎外壁タイル・)

躯体表面の処理・行う (◎MCR 工法 ・目荒し工法)

壁タイル張りの工法

内装タイル ・マスク張り ・モザイクタイル張り

外装タイル ・密着張り・改良圧着張り・改良積上げ張り

・11-3 有機系接着剤によるタイル張り (11. 3. 2～4、7)

タイルの形状・寸法等												
施工箇所	形状寸法 (mm)	吸水率による区分	うわ葉	役物	色	再生材の適用	耐凍害性	耐滑り性	備考			
		I 類	II 類	III 類	無釉	施釉	有釉	無釉	標準	特注	[G]	有
		・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・
		・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・

役物：標準的な曲がり (小口、標準、二丁、屏風) の役物は一体成形とする

タイルの見本焼き◎行わない ・行う (◎外壁タイル・)

タイルの試験張り ◎行わない・行う (◎外壁タイル・)

躯体表面の処理・行う (◎M

○16-9 木製建具 (16. 7. 2～4)

・フラッシュ戸		
合板の種類	規格等	備考
・普通合板[G]	表面の樹種 生地、透明塗料塗り（◎ラワン合板程度・） 不透明塗料塗り（◎しな合板程度・） 板面の品質（）	
・天然木化粧合板[G]	樹種名（）	
・特殊加工化粧合板[G]	化粧加工の方法（・オーバーレイ・プリント・塗装） 表面性能（）タイプ	
防虫処理（・行う・行わない）接着の程度（・1類・2類） 表面板の厚さ◎表16. 7. 6による・ 建具材の含水率◎B種・ ・かまち戸 かまち樹種（） 鏡板樹種（） ・ふすま 張りの種別（・Ⅰ型・Ⅱ型） 上張り（押入等の裏側以外） ・鳥の子 ・新鳥の子又はビニル紙程度 建物内部の木製建具に使用する表面材及び接着剤のホルムアルデヒド放散量 ◎規制対象外 公共住宅の内装ドアの品質及び性能 ・品質・性能基準による 公共住宅の量産ふすまの品質及び性能 ・品質・性能基準による		

○16-10 建具用金物 (16. 8. 2、3) (表 16. 8. 1)

建具金物の種類	
種 別	品質・規格
本締まり付きモノロック	評価名簿による
シリンダ箱錠	
シリンダ本締まり錠	
ドアクローザ	
ヒンジクローザ	
フロアヒンジ	
ハンドル	◎レバーハンドル・
公共住宅の各住戸建具用金物（公住仕 16. 8. 2～4） 各住戸玄関扉用及び勝手口扉用錠前品の品質及び性能 ・品質・性能基準による・ 各住戸玄関扉用及び内装扉用ドアクローザの品質及び性能 ・品質・性能基準による・ コストパフォーマンスの使用・可 ・不可 玄関扉用ドアクローザ-◎A型・B型・C型・D型 色彩◎シルバー 内装扉用ドアクローザ-使用する（◎E型 色彩◎シルバー・ブロンズ） ◎使用しない 内装扉用戸当 材質 ◎ステンレス 金属製建具用丁番 材質 ◎ステンレス・ 形状、寸法 （ ） 木製建具用丁番 材質 ◎ステンレス・ 形状、寸法 ◎102×2. 0	

○16-11 鍵 (16. 8. 4)

マスターキー	◎製作する	・製作しない
その他の鍵	◎各室3本1組	・

○16-12 自動ドア開閉装置 (16. 9. 2～5)

引き戸用駆動装置（表 16.9.1、表 16.9.5）				
自動ドア	性能	引き戸用検出装置の種類	凍結防止	防錆
・SSLD-1 ・SSLD-2 ・DSL-1 ・DSL-2	◎耐電圧、温度上昇、耐久性（サイクル）は標準仕様書表 16.9.1 による ・	・マツスイッチ ・光線（反射）スイッチ ・熱線スイッチ ・音波スイッチ ・光電スイッチ ・電波スイッチ ・タッチスイッチ ・押しボタンスイッチ ・ペダルスイッチ ・多機能トイレスイッチ	・行う （適用箇所は 建具表による） ・行わない	・適用する ・適用しない

多機能トイレ出入り口引き戸用駆動装置（表 16.9.2）

開閉方法 ◎片開き ・

耐電圧、温度上昇、耐久性（サイクル）、防錆、電源

◎標準仕様書表 16.9.2 による

・耐電圧（）・温度上昇（）

・耐久性（サイクル）（）・防錆・電源（）

（）

引き戸用検出装置（表 16.9.3）

放射無線周波数電磁界耐性、耐電圧、防錆、防滴、電源

◎標準仕様書表 16.9.3 による

・放射無線周波数電磁界耐性（）・耐電圧（）

・防錆（）・防滴（）・電源（）

戸の開閉方式

・16-13 閉閉式上吊り引戸装置 (16. 10. 3)（表 16. 10. 1）

品質規格	◎標準仕様書表 16. 10. 1・製造所標準仕様による
製造所	◎評価名簿による

・16-14 重量シャッター (16. 11. 2、3)

シャッターの種類	耐風圧強度
・管理用シャッター	耐風圧強度（ ）N/m ²
・外壁用防火シャッター	耐風圧強度（ ）N/m ²
・屋内用防火シャッター	
・屋内用防煙シャッター	
開閉方式による種類 ◎上部電動式（手動併用） ・上部手動式	
危害防止機構 ◎障害物感知装置（自動閉鎖型）	
管理用シャッターのシャッターケース ◎設ける ・設けない	
鋼板の種類	・JISG3302（溶融亜鉛めっき鋼板） ・JISG3312（塗装溶融亜鉛めっき鋼板）
めっきの付着量	◎Z12 又はF12

・16-15 軽量シャッター (16. 12. 2～4)

開閉方式による種類	◎手動式 ・上部電動式（手動併用）
耐風圧強度	・（）N/m ²
スラットの材質	・JISG3312（塗装溶融亜鉛めっき鋼板）めっき付着量（◎Z06 又は F06・） ・JISG3322（塗装溶融 55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板）めっき付着量（◎AZ90・）
スラットの形状	◎インターロッキング形 ・オーバーラッピング形

・16-16 オーバーヘッドドア (16. 13. 2、3)

セクション材料による区分	耐風圧区分 (Pa)	開閉方式による区分	収納形式による区分	ガイドレール の材質
◎スチールタイプ ・アルミニウムタイプ ・ファイバーグラスタイプ	・125 (1250Pa) ・100 (1000Pa) ・75 (750Pa) ・50 (500Pa)	◎バランス式 ・チェーン式 ・電動式	・スタンダード形 ・ローヘッド形 ・ハイリフト形 ・パーテカル形	◎溶融亜鉛めっき鋼板 ・ステンレス鋼板

○16-17 ガラス (9. 7) (16. 14. 2～4) (表 16. 14. 1)

・フロート板ガラス	・	・
・型板ガラス	・	・
・網入板ガラス	・網入磨き板ガラス	・網入型板ガラス
・合わせガラス		

品 種	特 性	材 料 板 ガ ラ ス
◎フロート合わせガラス	・Ⅰ 類	・フロート板合わせガラス
・網入磨き合わせガラス	・Ⅱ-1類	・熱線吸収、フロート板合わせガラス
	・Ⅱ-2類	・網入磨き、フロート板合わせガラス
	・Ⅲ類	・網入磨き、熱線吸収板合わせガラス
・強化ガラス		
材料板ガラスによる種類	性 能	種 類（厚さ）
◎フロート強化ガラス	・Ⅰ 類	・フロート強化ガラス
	・Ⅱ 類	・熱線吸収強化ガラス
・型板強化ガラス		◎型板強化ガラス
・熱線吸収板ガラス		
材料板ガラスによる種類	性 能	種 類（厚さ）
◎熱線吸収フロート板ガラス	・1 種	・ブルー ・グレー
・熱線吸収網入磨き板ガラス	・2 種	・ブロンズ ・グリーン

・複層ガラス

品 種	断 熱 性	日 射 取 得 性、 日 射 遮 蔽 性	乾 燥 気 体 の 種 類
・断熱複層ガラス	・T 1 ・T 2 ・T 3	・G	・空気
・日射遮へい複層ガラス	・T 4 ・T 5 ・T 6	・S	・アルゴン

品 種	日 射 熱 遮 へい性	耐 久 性	ガ ラ ス の 種 類
◎熱線反射ガラス 色調（・ブルー・グレー） ・高性能熱線反射ガラス 色調（・ブロンズ・シルバー）	・1 種 ・2 種 ・3 種	A 種 ・A 種・B 種 B 種	
反射皮膜面	◎内面 ・外面		

映像調整 ◎行う ・行わない

・倍強度ガラス	
材料板ガラスによる種類	色 調
◎フロート倍強度ガラス	ー
・熱線吸収倍強度ガラス	・ブルー・グレー・ブロンズ
・ガラス留め材及び溝の大きさ	

建具の種類	材質	ガラス溝の大きさ (mm) ◎標仕表16.14.11による ・図示		
アルミニウム製	◎シーリング材 ・ガスケット (Fix 部はシーリング材)			
鋼製・鋼製軽量	◎シーリング材			
ステンレス製	◎シーリング材			
ただし、防火戸のガラス留め材は建築基準法に基づく防火性能を有するものとする。 ・ガラスブロック 品質 JISA5212 によるものまたは評価名簿によるもの				
表面形状	呼び寸法 (mm)	厚さ (mm)	色調	防火性能
・正方形			◎クリア	◎無し
・長方形			・	・有り
目地幅・平積み◎8～15mm ・曲面積み外側 (◎15mm 以下・) 内側 (◎6mm 以上・) 伸縮調整目地 ◎6mm 以下ごとに 10～25mm ・図示				
壁用金属枠及び補強材 ・設ける (図示) ・設けない カ骨材質◎ステンレス鋼 (SUS304) 寸法◎径 5.5mm 形状◎はこ形状複筋及び単筋				

工法	・建築基準法に基づき定まる風圧力の（・1・1. 15・1. 3）倍の風圧力及び積雪荷重に対応した工法
----	--

1 7 章カーテンウォール工事

・17-1 メタルカーテンウォール (17. 2. 2、3、5)

設計図書による規定の他、特記なき事項は（社）日本建築学会 JASS14 による。 カーテンウォール材料の種類 (17. 2. 2)	
種 類	規 格 等
◎アルミニウム製	◎標仕 16. 2. 3 のアルミニウム製建具の材料による
・	・
シーリング材及びガラス取付材料 (17. 2. 2) (9. 7. 2)	
被着体の組合 せ	シーリング材の種類
	記号 主成分による区分 耐久性による区分
金 属	
ガラス	
ガラス	
◎上記以外のシーリング材の種類は標仕様 9. 7. 1 による 構造用ガスケット ◎適用しない・適用する（施工箇所： ） 断熱材 ◎適用しない・適用する（種類： 厚さ (mm)： 施工箇所： ） 製品の寸法許容差 ◎標仕様 17. 2. 1 による ・製作所標準製作規定寸法許容差による アルミニウムの表面処理 (17. 2. 3) (表 14. 2. 1)	
種 別	色 彩 等
・A-1 種・B-1 種	無着色
・A-2 種・B-2 種	◎ブラウン系 ・ブラック・ステンカラー
・D 種	塗装材料（）焼付け方法（ ）コート（ ）ペーク
耐風圧性能値◎建築基準法施行令第 87 条及び建設省告示第 1454 号に定められた風圧力に対して安	

全であること。
・正圧 N/m²以上負圧 N/m²以上に対して安全であること。

支 点 間 距 離 (h)	た わ み 量	状 態
◎4m 以下	◎± (1/150) ×h かつ絶対量 20 mm 以下	◎各部の破損、残留変形、有害な変形が起こらないこと
・4m を超える		

耐震性能 設計用震度 水平方向 (Kh) ◎1. 0・
垂直方向 (Kv) ◎0. 5・

建 物 の 構 造 種 別	層 間 変 位 量 (h=支 点 間 距 離)	状 態
鉄骨造	◎± (1/100) ×h 以上・	◎部材の脱落、ガラスの破損及び主要部材に有害な歪みが起こらない。シーリングは補修程度
鉄筋コンクリート造 鉄骨鉄筋コンクリート造	◎± (1/200) ×h 以上・	
水密性 ・W-4 ・W-5 気密性 ・A-3 ・A-4		
耐火性能 ◎適用しない ・適用する（ 時間、施工箇所：図示） (17. 1. 3) 耐温度差性 (℃) ・60 ・70 ・80 遮音性 ・T3 ・T4 ・T5 断熱性 ・H-2 ・H-3 ・H-4 ・H-5 映像調整 ・行わない ◎行う（建具表による） (17. 1. 3) 製造所 ◎監督職員の承諾する製作所		

・17-2 P Cカーテンウォール (17. 3. 2～5) (表 17. 3. 1、2)

設計図書による規定の他、特記無き事項は（社）日本建築学会 JASS14 による。
コンクリートの種類及び品質 ◎標仕 17. 3. 2 による
・下表による。下表以外は標仕 17. 3. 2 による。

コンクリートの種類	設計基準強度 (F _c N/mm ²)	所要スランプ (cm)
鉄筋	種類記号 ◎SD295A（・・）	
補強鉄線	径 (mm) ・3. 2・4. 0・5. 0・6. 0 網目寸法	

取付け用金物の表面処理（鉄の亜鉛めっき）及び材質 (14. 2. 3) (表 14. 2. 2)

金物種類及び部位	内 部	外 部
P C 板打込み金物	◎E 種 ・	◎A 種 ・
P C 板打込み取付ボルト	◎E 種 ・	◎ステンレスボルト
2 次ファスナー	◎E 種 ・	◎A 種 ・
取付ボルト	◎E 種 ・	◎A 種 ・
レベル調整ボルト	◎E 種 ・	◎A 種 ・

◎上記以外はカーテンウォール製作所の仕様による

施工箇所	シーリング材の種類		
	記号	主成分による区分	耐久性による区分
カーテンウォール板間目地			

◎上記以外のシーリング材の種類は標仕様 9. 7. 1 による

耐火目地材・適用する（図示）

断熱材 ◎適用しない ・適用する（種類： 厚さ (mm)：施工箇所： ）
製品の寸法許容差 ◎標仕様 17. 3. 1 による ・製造所標準製作規定寸法許容差による
表面仕上げ（ ）

耐火材料		
施工部位	種別	規格等
ファスナー部		
取付ブラケット		
パネル目地部		
層間ふさぎ		

耐風圧性能値◎建築基準法施行令第 87 条及び建設省告示第 1454 号に定められた風圧力に対して安全であること。

・正圧 N/m²以上負圧 N/m²以上に対して安全であること。

耐震性能設計用震度 水平方向 (Kh) ◎1. 0・
垂直方向 (Kv) ◎0. 5・

建 物 の 構 造 種 別	層 間 変 位 量 (h=支 点 間 距 離)	状 態
鉄骨造	◎± (1/100) ×h 以上・	◎部材が損傷せず、破損脱落もしない。
鉄筋コンクリート造	◎± (1/200) ×h 以上・	ガラス等の破損もない
鉄骨鉄筋コンクリート造	・	シーリングは補修程度

ガラスの取付け材料	
・シーリング種類（） ・構造ガスケット形状、寸法等◎図示による	
先付けの材料	
・表面仕上材 ・セラミックタイル ・石材（・花こう岩 ・大理石 ・） ・ ・建具枠 ・ゴンドラ用ガイドレール	

1 8 章塗装工事

○18-1 材料 (18. 1. 3)

屋内の壁・天井仕上げ材は防火材料とする。
建物内部に使用する塗料のホルムアルデヒドの放散量 ◎規制対象外 ・第三種

○18-2 素地ごしらえ (18. 2. 2～7)

下地面等		種 別
木 部	不透明塗料塗りの場合	●A 種・B 種
	透明塗りの場合	・B 種・A 種
鉄鋼面		◎C 種・A 種・B 種
亜鉛めっき鋼面		・A 種・B 種
モルタル面及びプラスター面		◎B 種・A 種
コンクリート面 (DP 以外) 及び ALC パネル面		◎B 種・A 種
押出成形セメント板面		・A 種・B 種
せつこうボード面及びその他ボード面	目地：継目処理工法	・A 種●B 種
	目地：継目処理工法以外	・B 種・A 種

○18-3 錆止め塗料塗り (18. 3. 2、3)

下地面等		工 程 の 種 別	塗 料 の 種 別
鉄鋼面	見え掛り部分	◎A 種・B 種	◎A 種・B 種
	見え隠れ部分	◎B 種・A 種	
亜鉛めっき鋼面	鋼製建具等	◎A 種・B 種	・A 種・B 種

	鋼製建具等以外	◎B 種・A 種	・C 種 （EPG の場合 C 種）
--	---------	----------	-----------------------

○18-4 各種塗料塗り (18. 4. 1～18. 14. 2)

塗装	種 別	塗 料 の 種 類
●合成樹脂調合ペイント塗り (SOP)	木部屋外	◎A 種・B 種
	木部屋内	・A 種◎B 種
	鉄鋼面	・A 種◎B 種
	亜鉛めっき鋼面	ー
・クリヤラッカー塗り (CL)	・A 種◎B 種	ー
	・アクリル樹脂系非水分散形塗料塗り (NAD)	・A 種◎B 種
	・耐候性塗料塗り (DP)	鉄鋼面
	・亜鉛めっき鋼面	ー
●つや有合成樹脂エマルションペイント塗り (EP-G)	コンクリート面及び押出成形セメント板面	・A 種・B 種・C 種
	コンクリート面、モルタル面、プラスター面、せつこうボード面その他ボード面等	・A 種◎B 種
	屋内の鉄鋼面	・A 種・B 種
	●合成樹脂エマルションペイント塗り (EP)	・A 種◎B 種
●合成樹脂エマルション模様塗料塗り (EP-T)	・A 種◎B 種	ー
	・ウレタン樹脂ワニス塗り (UC)	・A 種◎B 種
	・オイルステイン塗り (OS)	塗料：・水性・油性
	●木材保護塗料塗り (WP)	・A 種◎B 種

高日射反射率塗料の適用 ◎適用する・適用しない
適用箇所 ◎屋上、屋根面 ・

1 9 章内装工事

○19-1 接着剤 (19. 2. 2)

接着剤のホルムアルデヒド放散量
◎規制対象外
接着剤は可塑剤（難揮発性の可塑剤を除く）が添付されていないものとする
施工箇所の下地がセメント系下地及び木質系下地以外の場合の接着剤の種類
・図示

○19-2 ビニル床シート[G] (19. 2. 2、3)

種 別	種 類 の 記 号	色 柄	厚 さ (mm)
・発泡層のないもの	◎FS（複層ビニル床シート） ・	◎無地 ・マーブル柄	◎2. 0 ・
・発泡層のあるもの	・	◎柄物 ・無地	

目地処理する場合の工法 ◎熱溶接工法 ・突付け（施工箇所）

種類の記号	色 柄	寸 法 (mm)	厚 さ (mm)	備 考
◎KT (コンポジションビニル床タイル) ・FT (複層ビニル床タイル) ・FOA (置敷きビニル床タイル)	◎無地 ・柄物	・300×300 ・450×450 ・500×500	◎2. 0	

・19-4 特殊機能床 (19. 2. 2)

シート種別	厚さ、寸法、形状	性能	種類
・帯電防止床シート	(mm)		
・帯電防止床タイル	× (mm)		
・視覚障害者用床タイル	(mm)		
・耐動荷重性床シート	(mm)		
・防滑性床シート	(mm)		
・防滑性床タイル	× (mm)		

○19-5 ビニル幅木 (19. 2. 2)

材質	・軟質	・硬質
高さ (mm)	◎60	・75 ・100
厚さ (mm)	◎1. 5 以上	・

・19-6 ゴム床タイル (19. 2. 2)

種類	・単層・複層
色柄	()
厚さ (mm)	・3. 0 ・4. 5 ・6. 0 ・9. 0
寸法 (mm)	()

工事名称	道の駅那須高原友愛の森 観光交流センター増築工事	
図面名称／縮尺	特記仕様書（その5）	図面番号
設計年月日	2020 年 10 月	A-05
設計者	一級建築士第 332111 号 神谷 太郎	
発注者	那須町建設課	

○19-7 カーベット敷きG(19.3.3、4) (表 19.3.1)

・織じゅうたん					
種別	パイル形状	色柄	帯電性	糸の種類	工法
・A類 ・B類 ・C類	・カットパイル ・ループパイル ・カット、ループ併用	◎無地 ・柄物	◎適用する ・適用しない	・	◎ヒートボンド工法

タフテッドカーペット		工法	帯電性	備考
パイル形状	パイル長 (mm)			
・ カットパイル	◎ 5 ～ 7	・ 全面接着工法 ・ グリッパー工法	・ 適用する () ・ 適用しない	
・ ループパイル	◎ 4 ～ 6			
・ カット、ループ併用	・			

ニードルパンチカーベット			備考		
厚さ (mm)	帯電性				
	・適用する・適用しない				

●タイルカーベット					
パイル形状	種別	寸法 (mm)	総厚さ (mm)	備考	
◎ループパイル ・カットパイル ・カット、ループ併用	◎第一種	◎500×500	◎6.5	平場◎市松敷き・模様流し 階段◎模様流し・市松敷き	
	◎第二種	・	・		

○19-8 合成樹脂塗床(19.4.2) (19.4.3) (表 19.4.4、5)

種別	施工箇所	工法	仕上げの種類
●厚膜型塗床材 (弾性ウレタン樹脂系塗床)			◎平滑仕上げ・防滑仕上げ ・つや消し仕上げ
・厚膜型塗床材 (エポキシ樹脂系塗床)		・薄膜流し展べ工法 ・厚膜流し展べ工法 ・樹脂モルタル工法	・平滑仕上げ ・防滑仕上げ
・薄膜型塗床材			

塗料のホルムアルデヒド放散量 ◎規制対象外・

・19-9 フローリング張りG(19.5.2～6) (表 19.5.1～5)

単層フローリング張り				
種別	樹種	厚さ (mm)	工法	備考
・フローリングボード1等	・ぶな ◎なら ・さくら ・いたや	15	・釘止め工法(根太張り)	
		・12以上	・釘止め工法(直張り)	
・フローリングボード1等 (体育館用)		・	・接着工法	
・フローリングボード1等		15	・接着工法	303×303

複合フローリング張り					
種別	樹種	厚さ (mm)	工法	種別	種別

						(住 宅)
・天然 木化粧 複合フ ローリ ング張 り	・一般用	◎なら ・		・釘留め工法(根太張り)	・A種	・A種
	・住宅用			・釘留め工法(直張り)	・B種	・B種
				・発砲プラスチック系床下地張り工法		・C種
				・乾式遮音二重床下地材張り工法		◎D種
		・8以上 ・12以上		・接着工法(合成樹脂発泡シート裏打ち)		
	・体育館用	・	・18・27	・普通張り		◎特殊張り

ホルムアルデヒドの発散量 ◎規制対象外・第三種

現場塗装仕上げ・行う (施工箇所)

◎ウレタン樹脂ワニス塗り

・オイルステインの上、ワックス塗り

・生地のままワックス塗り

・19-10 畳敷き(19.6.2) (表 19.6.1)

下地の種類	畳の種類
標仕表 12.6.1による床組	・A種 ・B種 ・C種 ・D種 ()
ポリスチレンフォーム床下地	・A種 ・B種 ・C種 ・D種 ()

畳表及び畳床はVOC含有量が少ないものとする

○19-11 せっこうボードその他ボード及び合板張り (19.7.2、3) (表 19.7.1)

種類	厚さ (mm)、規格等
・硬質毛セメント板	・15・20・25・
・普通毛セメント板	・15・20・25・
・普通木片セメント板	・30・
●けい酸カルシウム板	タイプ2(無石棉)
・ロックウール化粧吸音板	◎フラットタイプ(◎9・12) (不燃) ・凸凹タイプ(◎12・15・19) (不燃)
・ロックウール化粧吸音板(軒天井用)	◎フラットタイプ 9 (不燃) ・凸凹タイプ(・12・15) (不燃)
・せっこうボード	・9.5(不燃) ・12.5(不燃)
・不燃積層せっこうボード	9.5(・準不燃・不燃) ・化粧無(下地張り用)・化粧有(ﾄﾗﾊﾞｰｽﾞ模様)
●シージングせっこうボード	・12.5(不燃)
・強化せっこうボード	・12.5(不燃) ・15.0(不燃)
・せっこうラスボード	9.5
●化粧せっこうボード	9.5(・準不燃・不燃)
・化粧せっこうボード(木目)	12.5(不燃)幅 440 程度 模様(◎柎目・板目) 専用下地材付
・普通合板	表面の材種 生地、透明塗料塗り (◎ラワン程度 ・) 不透明塗料塗り (◎しな程度 ・) 板面の品質 () 厚さ (mm) () 接着の程度 (・1類・2類) ・防虫処理
・メラミン樹脂化粧板	JISK6903 による厚さ 1.2
・ミッドラングティファインボード	・3・7・9・12
・パーティクルボード	

- ・軽量鉄骨下地ボード遮音壁の遮音シール材 (19.7.2)
- ◎アクリル系シーリング材
・ジョイントコンパウンド
- 工法合板の張り付け
・A種
◎B種(19.7.3) (表 19.7.3) (表 19.7.3)
- せっこうボードの目地工法・目通し●突付け・継目処理
- 合板類、繊維板、及びパーティクルボードのホルムアルデヒドの放散量
- ◎規制対象外
・第三種

○19-12 吸音材(表 19.7.1)

種類	JIS の記号	厚さ (mm)
・ロックウール吸音ボード1号	RW-B	◎25 ・
◎グラスウール吸音ボード 32K	GW-B	◎25 ●50

○19-13 壁紙張り(19.8.2、3)

施工箇所	壁紙の種類					防火性能	備考
	紙	繊維 (織物)	ブラ (ビニル)	その他 (化学繊維)	無機質		
	・	・	●	・	・	●不燃・準不燃・難燃	
	・	・	・	・	・	・不燃・準不燃・難燃	

モルタル、プラスター面の素地ごしらえ ◎B種
・A種

せっこうボード面の素地ごしらえ ◎B種
・A種

壁紙のホルムアルデヒドの放散量◎規制対象外
・第三種

○19-14 断熱材G(19.9.2、3)

断熱材打込み工法				
種類	施工箇所	厚さ (mm)	品質等	
・ビーズ法ポリスチレンフォーム断熱材	・	・		
・押出法ポリスチレンフォーム断熱材(スकिन層なし)	・	・		
・硬質ウレタンフォーム断熱材	・	・		
・フェノールフォーム断熱材	・	・		

●断熱材現場発泡工法			
断熱材の種類	●A種 1	・A種 1H	
厚さ (mm)	●25	・30	・
施工箇所	・図示	・	

断熱材あと張り工法 (S1 工法等)			
種類	施工箇所	厚さ (mm)	品質等
・ビーズ法ポリスチレンフォーム保温材			
◎押出法ポリスチレンフォーム保温材 (2種 b)			
レソフォーム保温材 (2種 b)			
(スकिनなし)	・		
・A種硬質ウレタンフォーム保温材			
・フェノールフォーム保温材 (3種 2号を除く)			

ロックウール、グラスウール、ユリア樹脂又はメラミン樹脂を使用した断熱材のホルムアルデヒドの放散量

◎規制対象外
・第三種

・19-15 発泡プラスチック系床下地張り工法(公仕仕 19.10.1.2) (公仕仕表 19.10.1)

発泡プラスチック系床下地材(部位)	施工箇所	厚さ (mm)	下張り用合板厚さ (mm)
・発泡(基準階以下)(洗面所・脱衣室、和室、物入、押入等を除く。)	・	◎床仕上げ高 100 ～140	
・発泡(1階以下)(洗面所・脱衣室、和室、物入、押入等を除く。)	・	◎床仕上げ高 100 ～140	
・発泡(和室以下)	・	◎床仕上げ高 102 ～143	

・19-16 乾式遮音二重床下地張り工法(公仕仕 19.11.1) (公仕仕表 19.11.1.2)

二重床下地材(部位)	施工箇所	下張り用合板の有無	下張り用合板厚さ (mm)	下張り用合板厚さ (mm)
・乾式(基準階以下)(洗面所・脱衣室、物入、押入等を除く。)	・	・有 ・無	・25以上 ・20	・5.5以上 ・12以上
・乾式(1階以下)(洗面所・脱衣室、和室、物入、押入等を除く。)	・	・有 ・無	・25以上 ・20	・5.5以上 ・12以上
・乾式(1階以下)(洗面・脱衣室の床下地)	・	・有 ・無	・25以上 ・20	・5.5以上 ・12以上

・19-17 内装プレハブ工法(公仕仕 19.11.1) (公仕仕表 19.11.1.2)

内装プレハブの採用◎有・無
鋼板の表面処理◎JISH8610の2種3級に準ずる

2 0 章ユニット及びその他工事

○20-1 フリーアクセスフロア(20.2.2)

施工箇所	構法	設定高さ (mm)	適用地震時水平力	耐荷重性能 (N/㎡)	表面仕上げ材
	・パネル構法	・	・1.0G	・3,000	・帯電防止ビニル床タイル
	・溝工法	・	・0.6G	・5,000	・タイルカーベット
	・パネル構法	・	・1.0G	・3,000	・帯電防止ビニル床タイル
	・溝工法	・	・0.6G	・5,000	・タイルカーベット

表面仕上げ材の品質・規格等は、19章内装工事による

配線用取出しパネル 配線取出し開口：パネル1枚につき40mm×80mm程度の開口1カ所以上

フリーアクセスフロア全体面積に対する設置割合◎20～30%

空調用吹き出しパネル◎無し・有り (◎固定式・可変式：施工箇所は図示)

製造所：評価名簿による

・20-2 可動間仕切(20.2.3)

構造形式	パネル部の総厚さ (mm)	表面材種厚さ (mm)	表面仕上げ	遮音性能	防火性能
・スタッド式 ・スタッドパネル式 ◎パネル式	・	◎鋼板 (◎0.6・0.8) ・	◎メラミン樹脂又は アクリル樹脂 焼付け ・	・あり () ・なし	・あり ・なし

品質 JISA6512 によるもの又は評価名簿による

パネル材のホルムアルデヒド放散量◎規制対象外

・20-3 移動間仕切(20.2.4)

遮音性能による区分	厚さ (mm)	表面材	表面仕上げ	操作方法
・一般タイプ		・鋼板	・焼付塗装	・手動式・電動式

	・	・壁紙張り ・焼付塗装 ・壁紙張り	・部分電動式 ・手動式・電動式 ・部分電動式
・遮音タイプ (36db 以上)	・鋼板 ・		

表面仕上げの壁紙張りの品質は19章内装工事による

製造所評価名簿による

・20-4 トイレブース(20.2.5)

表面仕上げ材◎メラミン樹脂系化粧板 (標準色アルミ製コーナーエッジ付き)

・ポリエステル樹脂系化粧板
・

足形状 ◎幅木型
・足金物型

製造所監督職員の承諾する製造所による

パネル材のホルムアルデヒド放射量◎規制対象外

・20-5 階段滑り止め(20.2.6)

材質◎ステンレス (SUS304)

形状◎ビニルタイヤ入り両端フラットエンド◎有り(◎ビニル製・ステンレス製)・無し

幅 (mm) ◎約 35・

取付工法◎接着工法・埋込み工法

・20-6 階段手すり

種別		施工箇所
◎集成材クリアッカー仕上げ (市販口径：約 40mm)		
・ビニル製ハンドレール (幅：約 40mm)		

・20-7 黒板及びホワイトボードG(20.2.8)

種類	寸法	色彩	備考
・黒板	◎焼付け	◎緑・黒	◎平面・曲面・スクリーン付引分
		◎緑・黒	◎平面・曲面・スクリーン付引分
・ホワイトボード	◎ほうろう	◎白	◎平面・曲面・スクリーン付引分
		◎白	◎平面・曲面・スクリーン付引分

○20-8 鏡(20.2.9)

厚さ (mm) ◎5
・

○20-9 表示(20.2.10)

区分	材質	取付位置
●衝突防止表示	・ステンレス製・図示	●図示 ・
●室札	・アクリル板 ・	●図示 ・
・	・	・

誘導標識、非常用進入口表示等は市販品とする。

表示標識は図示による。ただし、案内用記号は JISZ8210 による。

製造所：監督職員の承諾する製造所

・20-10 煙突用成型ライニング材(20.2.11)

最高使用温度 650℃

製造所：評価名簿による

・20-11 キャスタブル耐火材(20.2.11)

工法 ◎こて押さえ

最高使用温度 ◎400℃

製造所：監督職員の承諾する製造所

○20-12 ブラインド(20.2.12)

形式	操作方法	種類	スラットの材質	スラット幅 (mm)	ボックス、レールの材種
◎横型	・手動	◎ギヤ式・コード式 ・操作様式	◎アルミニウム合金製G	◎25 ・35	・鋼製 ・
	・電動	－			
・縦型	・手動	・2本操作コード式 ・1本操作コード式	・アルミスラット ・クロススラット	・80 ・100	アルミニウム合金製
	・電動	－			

・20-13 ロールスクリーンG(20.2.13)

防火性能 ◎有り

操作方式
・スプリング式
・コード式
・電動式

スクリーンの材質
・ポリエステル
・綿

○20-14 カーテン(20.2.14)

施工箇所	形式	開閉装置				ひだの種類	品質等
シンガル	ダブル	片引	引分	電動	ひも	手引	
図示	●					●	

○20-15 カーテンレール(20.2.14)

材質
●ステンレス製
●片開き
●シングル

形式
◎C型

・アルミニウム製
・引き分け(暗幕用は300mm以上の召合わせの重掛けとする)
・ダブル
・D型

・20-15 耐震スリット

方向	タイプ	耐火性能	防水性能
・垂直方向	◎完全 (全貫通型) スリット	・耐火型	・有り
		・非耐火型	・無し
・水平方向			

目地	内壁 (幅×高さ)	外壁 (幅×高さ)
・垂直方向	シーリング材 (見え掛りのみ)	シーリング材 (内外とも)
・水平方向	◎20×10 ・	◎20×10 ・

目地材の材質は標仕 9.7.1 による

・20-16 止水板

形状
・据置式
・壁張り式
・差込式

寸法

製造所

・20-17 天井点検口

材質 アルミニウム製 (◎類縁タイプ・目地タイプ)

製造所：評価名簿による

○20-18 床点検口

材質 アルミニウム製 (受け枠◎アルミ製・ステンレス製)

製造所：評価名簿による

○20-19 かぎ箱

市販品 形式・30組用 ●60組用
・120組用
・200組用

・20-20 くつつきマット

市販品 材質・塩化ビニル製 (コイル状ステンレス製受枠)

・硬質アルミニウム製 (受枠とも)

・ビニル製 (ステンレス製受枠)

・ステンレス製 (受枠とも)

・20-21 誘導用及び注意喚起用床材

- ・21-2 排水枘及びふた (21. 2. 1)

鋼鉄製マンホールふた

種類	適用荷重
・水封形 ・簡易密閉形（パッキン式） ・密閉形（テーパ・パッキン式） ・中ふた付き密閉形（テーパ・パッキン式） ・RS-VU[G]	・T-2 用 ・T-6 用 ・T-20 用 ・

製造所：評価名簿による

グレーチングふた

材質	形式	用途	適用荷重	メインパ－ビッチ	上面形状
・鋼製 ・ステンレ ス製	◎受枠付き ・ ボルト固定 ◎無し ・図示	・溝ふた用 ・柵ふた用 ・かさ上げ用 ・U字溝用 ・	・歩行用 ・T-2 用 ・T-6 用 ・T-14 用 ・T-20 用	◎細目 ◎普通目 ・細目	◎凹凸形 ・平行 ・

製造所：評価名簿による

- ・21-3 埋戻し土 (21. 2. 1)

◎B種（表3. 2. 1）・

2 2 章舗装工事

- ・22-1 盛り土に用いる材料 (21. 2. 1)

・A種・B種・C種・D種

- ・22-2 凍上抑制層の材料 (21. 2. 1)

・再生クラッシュラン[G]・クラッシュラン・切込み砂利・砂

- ・22-3 路床安定処理材料 (21. 2. 1)

・添加材料による安定処理

種類	・普通ポルトランドセメント ・生石灰（ ・	・フライアッシュセメントB種 ・消石灰（ ・
添加量	・kg/m3（目標 CBR・5 以上、 ・）	

- ・22-4 試験 (21. 2. 1)

路床土の支持力比（CBR）試験	・行う（・乱した土・乱さない土）	・行わない
路床締固め度の試験	・行う	・行わない
砂の粒度試験	・行う	・行わない
現場CBR試験	・行う	・行わない
セメント及びセメント系固化剤を使用した路床安定処理を行った場合の六面クロム溶出試験 ◎行う セメント及びセメント系固化剤を使用した六面クロム溶出試験要領(案)」による。		

- ・22-5 路盤材料 (22. 3. 2、3、5) (表 22. 3. 1)

◎再生クラッシュラン(RC-40) [G]

・クラッシュラン鉄鋼スラグ(CS-40) [G]

・クラッシュラン(C-40)

透水性アスファルト舗装に用いる場合は透水性の高いもの

- ・22-6 路盤の締め固め度試験 (22. 3. 5)

◎行う

- ・22-7 アスファルト舗装 (22. 4. 2～6) (表 22. 4. 4)

車道部の基層◎無し

アスファルト◎再生アスファルト[G]・ストレートアスファルト

・加熱アスファルト混合物の種類

区分	一般地域	寒冷地域
表層	・密粒度アスファルト混合物（13） ・細粒度アスファルト混合物（13）	・密粒度アスファルト混合物（13F） ・細粒度アスファルト混合物（13F）
基層	・粗粒度アスファルト混合物（20）	

・シールコート・行わない

・アスファルト混合物の抽出試験・行わない

- ・22-8 コンクリート舗装 (22. 5. 2～4、6) (表 22. 5. 1、3)

コンクリート

◎普通コンクリート、標準仕様書表 22. 5. 1 による

・普通コンクリートではない場合は下記による

コンクリートの種類	・	
設計基準強度	・	
所定のスランプ	◎ 8	・
粗骨材の最大寸法	・	
早強ポルトランドセメント	・ 使用する	・ 使用しない
注入目地材料	◎ 低弾性タイプ	・ 高弾性タイプ
溶接金網	・ 有り	・ 無し
厚さ試験	・ 行わない	・ 行う

- ・22-9 カラー舗装 (22. 6. 2～4)

・加熱系カラー舗装

材料	区分	車道部の基層	厚さ (mm)
・有機骨材(焼成)・自然石・着色骨材(樹脂皮膜)	・車道・歩道	◎なし・あり	

・常温系カラー舗装

工法	・ニート工法	・塗布工法
着色部の下部	・アスファルト舗装	・コンクリート舗装

- ・22-10 透水性アスファルト舗装

アスファルト混合物等の抽出試験

- ・22-11 ブロック系舗装 (22. 8. 2、3)

・コンクリート平板舗装[G]

種類	寸法 (mm)	厚さ (mm)	目地材
◎普通平板 (N)・透水平板 (P)	◎300 角	◎60	◎砂
・保水性平板 (M)	・	・	・モルタル

クッション材 ◎砂

・空練りモルタル

製造所：監督職員の承諾する製造所

・インターロッキングブロック舗装[G]

種類	厚さ (mm)	色彩及び表面加工等
◎標準ブロック (N)	車道部◎80	◎標準品

・透水性ブロック (P)	歩道部◎60
・誘導、注意喚起用ブロック	
・植生ブロック (V)	◎80・100

製造所：監督職員の承諾する製造所

・舗石舗装（歩行者用通路）の構成及び厚さ ◎図示

種類	厚さ (mm)	施工方法	基層
◎小舗石（花こう岩）	◎80～100	◎うろこ張り	◎コンクリート版 ・アスファルト混合物

- ・22-12 路面標示用塗料

路面標示用塗料は JISK5665 による。

種類	施工	適用	色	幅 (mm)	塗布厚さ (mm)	揮発性有機溶剤の含有率
・3 種 1 号	熔融	粉体状	◎白	・150	・1. 0	塗料総質量に対して 5%以下
・1 種[G]	常温	液状	・	・100		
・2 種[G]	加熱					

2 3 章植栽及び屋上緑化工事

- ・23-1 樹木の植栽基盤整備 (23. 2. 2、4)

◎行う

樹木の樹高 (m)	有効土層の厚さ (cm)	工 法	整備範囲
・12m 以上	◎100	・	◎A 種 ・業張りの範囲
・7 超～12m 未満	◎80	・	・B 種 ただし、低木は植栽範囲
・3 超～7m 未満	◎60	・	・C 種 ・図示
・3m 未満	◎50	・	・D 種
・芝、地被類	◎20	◎B 種	◎植栽範囲

工法D種以外の工法で、現状地盤高と計画地盤高が同一でない場合は、計画地盤高から有効土層とする。ただし、計画地盤高が現状地盤高より高い場合は、計画地盤まで植込み用土で盛土を行う。

- ・23-2 植込み用土 (23. 2. 3)

◎現場発生土の良質土・客土（・畑土・黒土）

- ・23-3 土壌改良材 (23. 2. 3)

土壌改良材の適用

・適用する	・バーク堆肥[G] (50 リットル/㎡) 又は発酵汚泥コンポスト (10 リットル/㎡)
施工箇所	・植栽範囲

- ・23-4 支柱材 (23. 3. 2、3)

◎杉の丸太（間伐材）[G]

- ・23-5 幹巻き用材料 (23. 3. 2)

材料 ◎幹巻き用テープ

・わら及びこも

- ・23-6 芝張り (23. 4. 2、3)

種類	◎こうらい芝	・野芝
工法	・目地張り	・べた張り

- ・23-7 屋上緑化[G] (23. 5. 2～4)

植栽基盤及び材料

・屋上緑化システム

土壌層の厚さ ◎図示

排水層

・軽量骨材（層の厚さ：）・板状成型品

植込み用土 ◎改良土

・人工軽量土

透水層、保水層及び排水層・

・屋上緑化軽量システム

樹木、芝及び地被類の樹種並びに種類等 ◎図示

見切り材、舗装材、排水孔、マルチング材等 ◎図示

工法

支柱

・設置する（形式

・図示

かん水装置

・設置する（種類

・図示

- ・23-8 ウォール・擁壁 (公住仕 23. 6. 2)

調査支持力試験

・行う (方法：)

・行わない

石の種類

石の種類

施工箇所

品質

種類・産地・名称

厚さ (mm)

備考

種類

・現場打ち擁壁

・プレキャスト擁壁

・ブロック積(張)擁壁

・石積(張)擁壁

・その他擁壁（レナガウォール・タイルウォール・コンクリートブロックウォール）

- ・23-9 柵 (公住仕 23. 9. 2)

・パイプ柵

・ネットフェンス（種類・図示寸法・図示）

・焼丸太（材種◎杉◎桧・）

- ・23-10 自転車置き場ユニット (公住仕 23. 10. 2)

公共住宅の品質及び性能（・品質・性能基準による・）

収容台数（・台）

- ・23-11 物置ユニット (公住仕 23. 10. 3)

材質	寸法	形状	備考
	・図示	・図示	

- ・23-12 自転車置き場ユニット (公住仕 23. 10. 2)

公共住宅の品質及び性能（・品質・性能基準による・）

収容台数（・台）

2 4 章PC工法による工事

- ・24-1 セメントの種類 (公住仕 24. 2. 1)

・普通ポルトランドセメント

・早強ポルトランドセメント

・混合セメントのA種

- ・24-2 混和材料 (公住仕 24. 2. 1)

混和剤

・AE剤・減水剤・AE減水剤・高性能減水剤・高性能AE減水剤・流動化剤

混和材

・フライアッシュ・高炉スラグ微粉末・シリカフェム・膨張材

- ・24-3 鉄筋 (公住仕 24. 2. 5)

規格	種類の記号	使用箇所	呼び名 (mm)
鉄 筋 コ ン ク リ ー ト	・SD295A		◎D16 以下・
用棒 鋼 (異形 鉄 筋)	・SD345		◎D19 以上・

	・		
--	---	--	--

- ・24-4 鋼材 (公住仕 24. 2. 5)

種類の記号	使用箇所	規格 等
		◎JIS 規格による
		◎JIS 規格による

- ・24-5 接合金物 (公住仕 24. 2. 1)

仕上がり形状・図示・寸法・図示・

- ・24-6 コンクリートの種類 (公住仕 24. 2. 1)

・普通コンクリート・軽量コンクリート1種・軽量コンクリート2種

設計基準強度 Fc (N/mm 2)	水セメント比	スランプ
	◎55%以下・	◎12cm 以下・

かぶり厚さ

非耐力壁・床・屋根 (cm)

耐力壁・柱・梁 (cm)

◎20・

◎30・

- ・24-7 溶接接合 (公住仕 24. 2. 1)

添えプレートの材質・

フレアグループ溶接の余盛 (mm)・

超音波探傷試験・行う・行わない

- ・24-8 スリーブ接合 (公住仕 24. 2. 1)

材料・

施工方法・

検査・行う (方法：判定基準：)

・行わない

- ・24-9 狭小部充填コンクリート (公住仕 24. 2. 1)

コンクリートの設計基準強度

FC (N/mm 2) (PC 部材の設計基準強度以上とする)

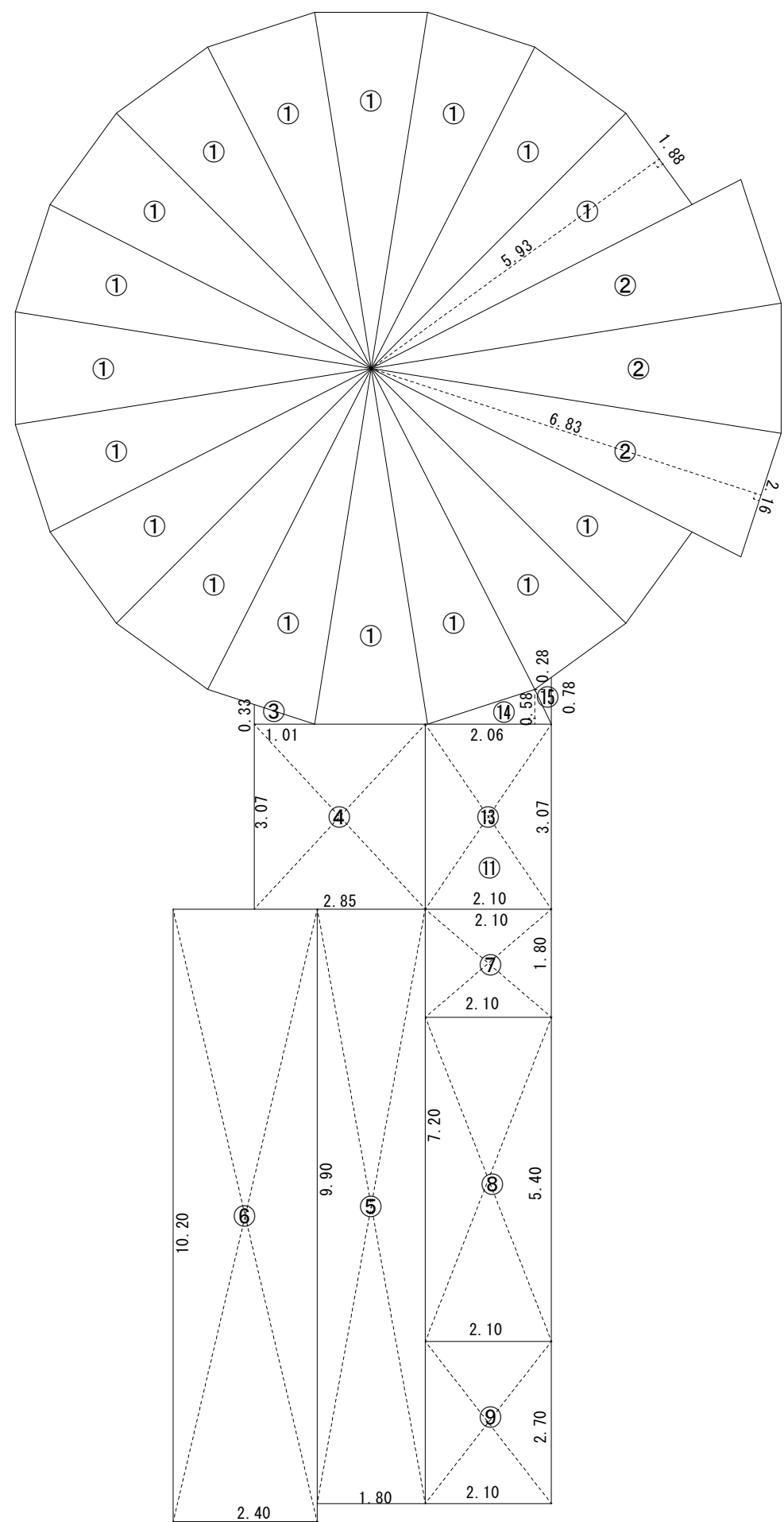
- ・24-10 敷きモルタルの圧縮強度 (公住仕 24. 2. 1)

敷きモルタルの圧縮強度

FC (N/mm 2) (PC 部材の設計基準強度以上とする)

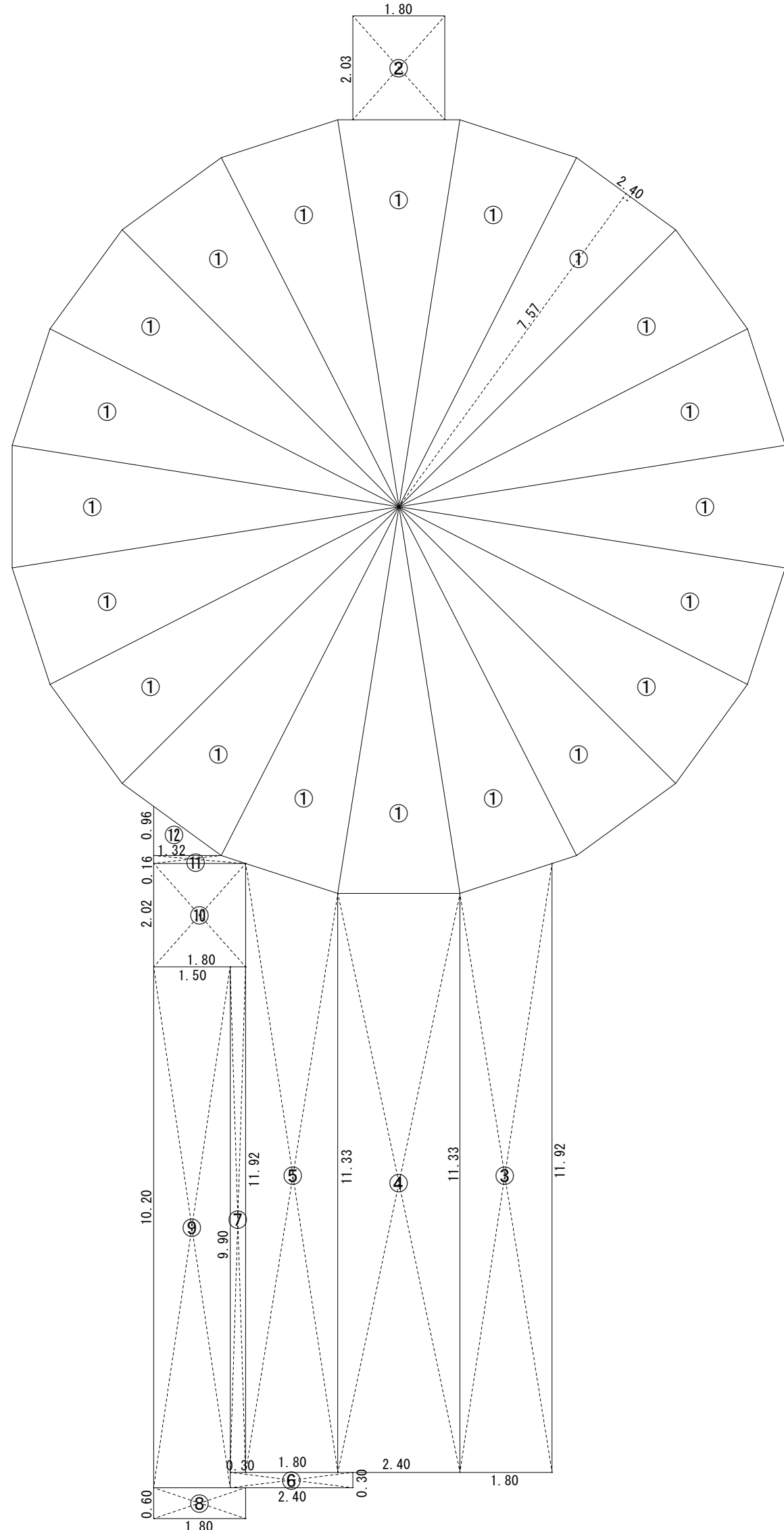
別表－1 他工事との取り合い

工事内容	●印を適用する					
	建築工事	電気設備工事	機械設備工事	塗装工事	昇降機設備工事	
仮設電力の引込み（分電盤・キュービクルまで）	●	○	○	○	○	○
〃（上記以降）	●	●	●	○	○	○
仮設電力の電気料	○	○	○	●	○	○
本受電後の電気基本料金	○	●	○	○	○	○
本受電後引渡しまでの電気使用料	●	○	●	●	●	○
仮設水道の引込み（メーターまで）	●	○	○	○	○	○
〃（上記以降）	●	●	●	○	○	○
仮設水道及び本設後引き渡しまでの使用料	●	●	●	●	●	○
梁・壁・床の開口、貫通、埋込部のスリーブ・型枠（電気、機械の配管等）	○	●	○	○	○	○
すべての開口、貫通、埋込部の補強	●	○	○	○	○	○
屋上に設置する機器の基礎（電気及び機械機器）	●	○	○	○	○	○
屋内及び屋外に設置する機器の基礎（電気及び機械機器）	○	○	○	○	○	○
天井・壁（軽量鉄骨下地）に付く機器の位置・墨出し	○	●	●	○	○	○
天井・壁（軽量鉄骨下地）に付く機器の開口部補強を要しない場合の切込み	○	○	○	○	○	○
天井・壁（軽量鉄骨下地）に付く機器の開口部補強を要する場合の切込み	○	○	○	○	○	○
天井・壁（軽量鉄骨下地）に付く機器の開口部補強	●	○	○	○	○	○
天井換気扇の取付	○	○	●	○	○	○
壁窓用換気扇の取付	○	○	○	○	○	○
同上取付枠	●	○	○	○	○	○
点検口の取付（床・壁・天井・PS等）	●	○	○	○	○	○
防煙ダンパー	○	○	○	●	○	○
同上煙感知器の配管・配線	○	○	○	○	○	○
床仕上げ材の穴あけ（フローリングブロック等）	●	○	○	○	○	○
ルーフドレイン及び縦どい（柵及び側溝までの配管）	●	○	○	○	○	○
配線ビット及び蓋	●	○	○	○	○	○
電極棒及びフロートスイッチ	○	○	○	○	○	○
自動扉、電動シャッター、電動スクリーン及び電動カーテン等2次側配線	●	●	○	○	○	○
機械設備の制御、操作盤への電源供給制御	○	○	○	○	○	○
同上の2次側配線	○	○	●	○	○	○
天井吊り形放熱器（FCU等）と操作スイッチとの配管・配線・接地工事	○	○	○	○	○	○
消火栓箱総合盤用穴あけ	○	○	○	●	○	○
設備機器のインターロックの配管・配線	○	○	○	○	○	○
電気設備のフェンス・金網	○	○	○	○	○	○
ガス漏れ警報器（単設型）	○	○	○	●	○	○
〃（集中監視型）	○	○	○	○	○	○
ガス漏れ警報器用器用コンセント	○	○	○	○	○	○
造り付け流し台	●	○	○	○	○	○
同上排水トラップ	●	○	○	○	○	○
既製流し台及び排水トラップ（ガス台・洗面化粧台等を含む）	○	○	○	○	○	○
既製吊戸棚	○	○	○	○	○	○
鏡（姿見は建築工事）	○	○	○	○	○	○
昇降機の出入口開口の型枠	○	○	○	○	○	○
〃 押釦、インジケーター配管用スリーブ及び型枠	○	○	○	○	○	○
〃 ビット内保守用コンセント	○	○	○	○	○	○
外壁取付ガラリ、排煙口	○	○	○	○	○	○
体育館などの器具、安定器など取付下地金物	○	○	○	○	○	○
昇降機インターホンの配管・配線	○	○	○	○	○	○

延床面積求積図 $S=1:100$ (既存改修部分)

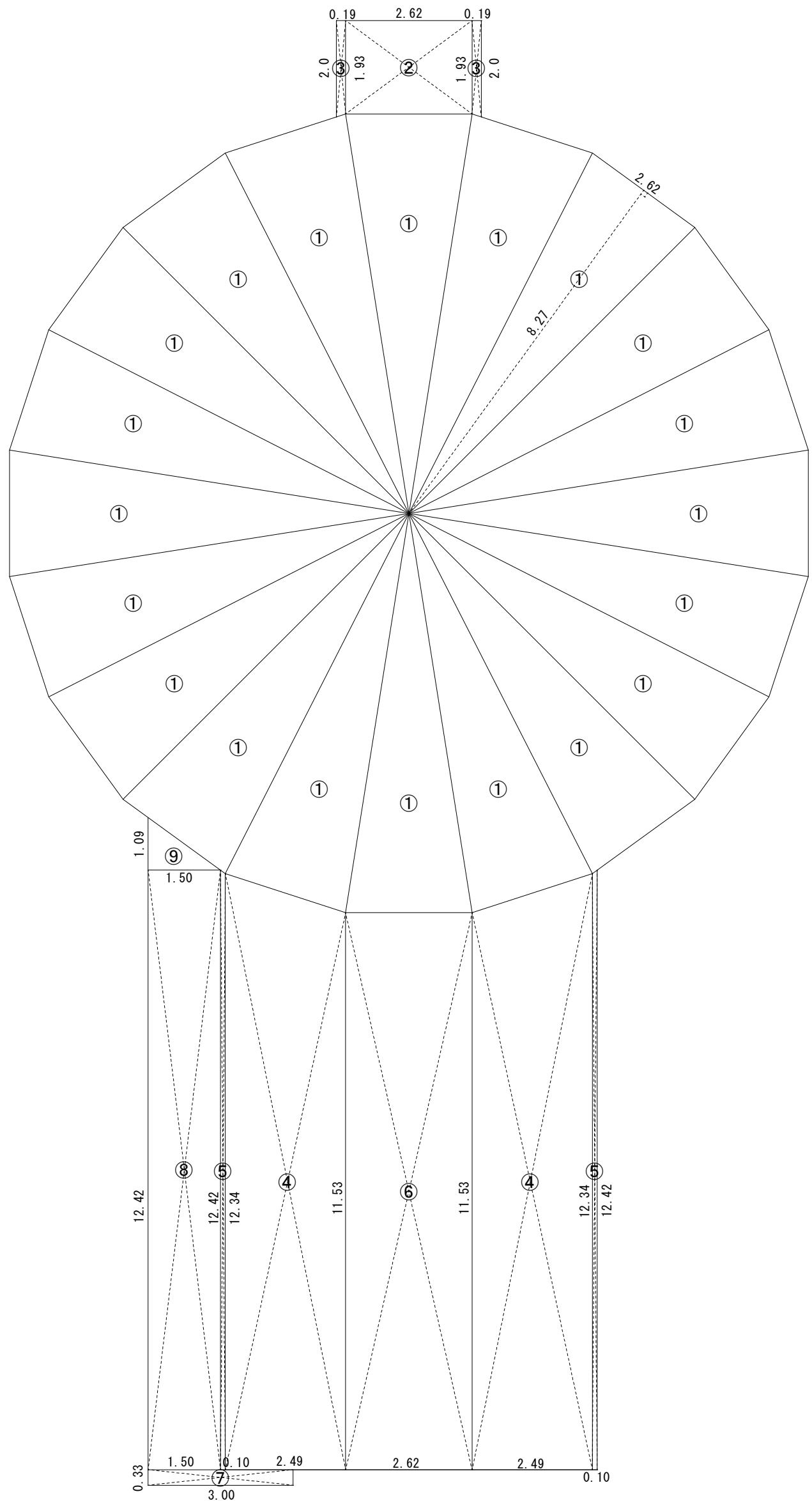
室 名	No.	計 算 式	小 計	計
展示・交流ホール	①	$1.88 \times 5.93 \times 0.5 \times 17$	94.7614	116.8906
	②	$2.16 \times 6.83 \times 0.5 \times 3$	22.1292	
エントランス 1	③	$0.33 \times 1.01 \times 0.5$	0.16665	8.91615
	④	3.07×2.85	8.7495	
観光情報 ・待合ホール	⑤	9.90×1.80	17.82	42.3
	⑥	10.20×2.40	24.48	
倉庫	⑦	2.10×1.80		3.780000
交通情報コーナ	⑧	2.10×5.40		11.340000
授乳室	⑨	2.10×2.70		5.670000
通路	⑩	3.07×2.10	6.447	7.8602
	⑪	2.06×0.58	1.1948	
	⑫	0.78×0.28	0.2184	
鉄骨部延床面積①～⑫				116.89
木造部延床面積⑬～⑮				80.36
延床面積合計				197.25

建築面積求積図 S=1:100 (既存改修部分)



室 名	No.	計 算 式	小 計	計
鉄骨部	①	$2.40 \times 7.57 \times 0.5 \times 20$	181.68	181.68
木造部	②	1.80×2.03	3.654	76.386
	③	$(11.33 + 11.92) \times 1.80 \times 0.5$	20.925	
	④	11.33×2.40	27.192	
	⑤	$(11.92 + 11.33) \times 1.80 \times 0.5$	20.925	
	⑥	2.40×0.30	0.72	
	⑦	9.90×0.30	2.97	
	ルーバー庇	⑧	1.80×0.60	
⑨		10.20×1.50	15.3	
⑩		1.80×2.02	3.636	
⑪		$(1.32 + 1.80) \times 0.16 \times 0.5$	0.2496	
⑫		$1.32 \times 0.96 \times 0.5$	0.6336	
鉄骨部建築面積①				181.68
木造部建築面積②～⑫				97.29
建築面積合計				279.97

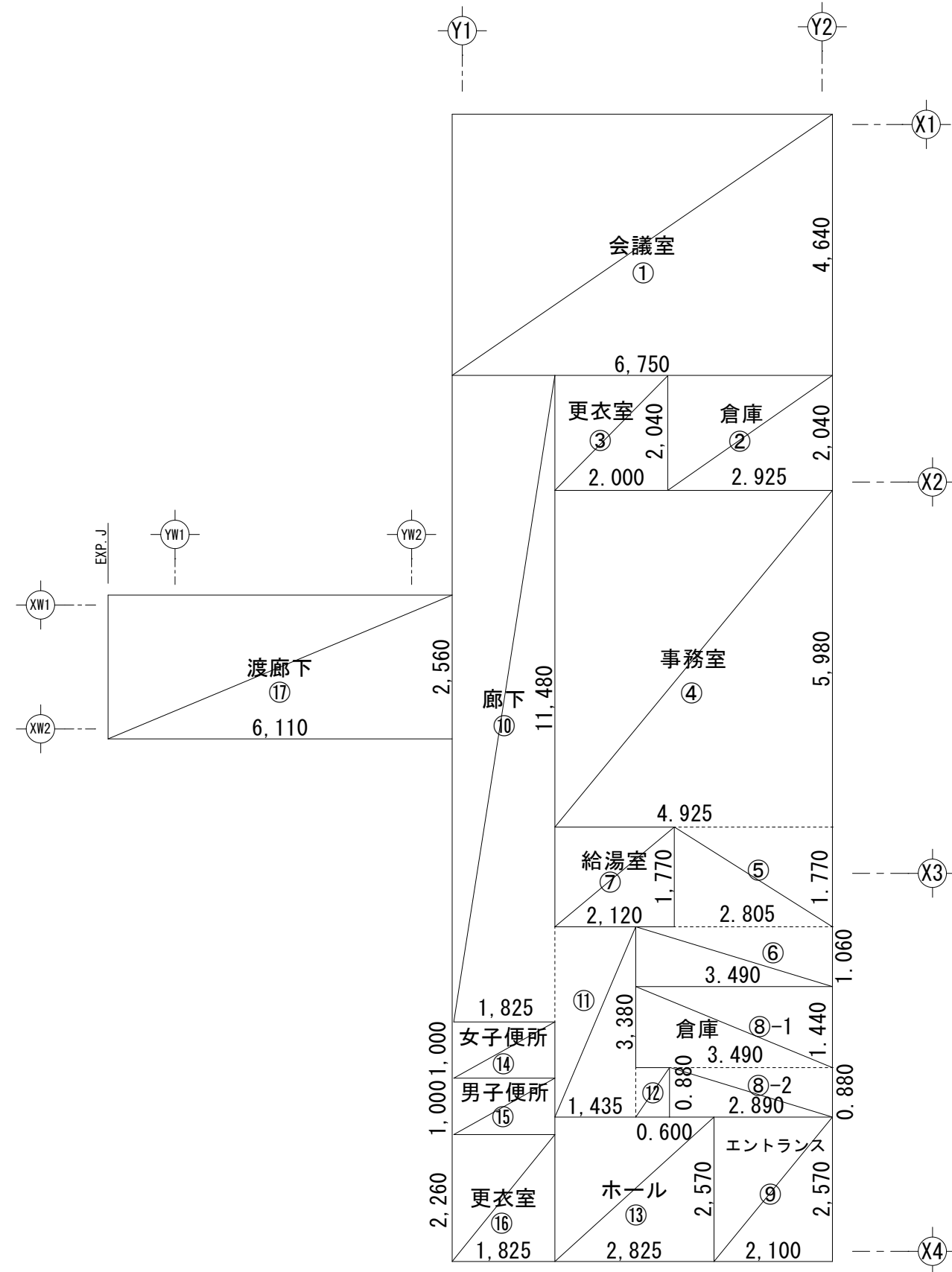
屋根水平投影面積求積図 S=1 : 100 (既存改修部分)



室 名	No.	計 算 式	小 計	計
鉄骨部	①	$2.62 \times 8.27 \times 0.5 \times 20$	216.674	216.674
木造部	②	2.62×1.93	5.0566	97.9242
	③	$(1.93 + 2.0) \times 0.19 \times 0.5 \times 2$	0.7467	
	④	$(11.53 + 12.34) \times 2.49 \times 0.5 \times 2$	59.4363	
	⑤	$(12.34 + 12.42) \times 0.1 \times 0.5 \times 2$	2.476	
	⑥	11.53×2.62	30.2086	
ルーバー庇	⑦	0.33×3.0	0.99	20.4375
	⑧	12.42×1.50	18.63	
	⑨	$1.50 \times 1.09 \times 0.5$	0.8175	
鉄骨部水平投影面積①				216.67
木造部水平投影面積②～⑨				118.36
屋根水平投影面積合計				335.04

工事名称 図面名称／縮尺 設計年月日 設計者 発注者	面積求積図・求積表（既存改修部分）		図面番号
	平成31年3月		A－O 8
	一級建築士（第332111号） 神谷 太郎		
	那須町建設課		

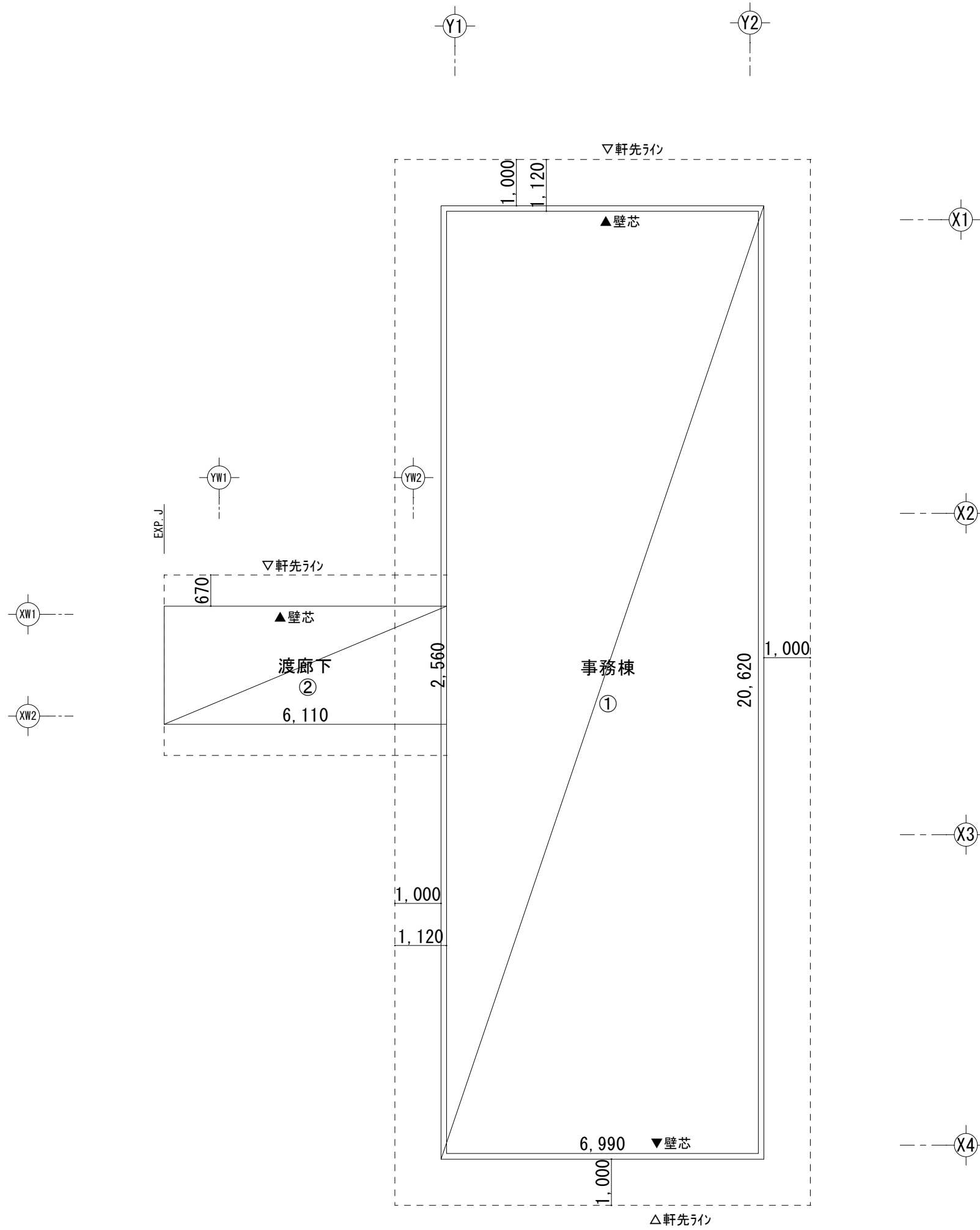
延床面積求積図 S=1:100 (増築部分)



室 名	No.	計 算 式	小 計	計
会議室	①	4.64 × 6.75		31.320000
倉庫	②	2.04 × 2.925		5.967000
更衣室	③	2.00 × 2.040		4.080000
事務室	④	5.98 × 4.925	29.451500	41.868150
	⑤	1.77 × 2.805	4.964850	
	⑥	1.06 × 3.490	3.699400	
給湯室	⑦	1.77 × 2.120	3.752400	
倉庫	⑧-1	1.44 × 3.490	5.025600	7.568800
	⑧-2	0.88 × 2.890	2.543200	
エントランス	⑨	2.57 × 2.10		5.397000
廊下	⑩	11.48 × 1.825	20.951000	26.329300
	⑪	3.38 × 1.435	4.850300	
	⑫	0.88 × 0.60	0.528000	
ホール	⑬	2.57 × 2.825		7.260250
女子便所	⑭	1.00 × 1.825		1.825000
男子便所	⑮	1.00 × 1.825		1.825000
更衣室	⑯	2.26 × 1.825		4.124500
渡廊下	⑰	2.56 × 6.11		15.641600

延床面積合計		153.20

建築面積求積図 S=1:100 (増築部分)

[illegible]

建築面積合計	159.77

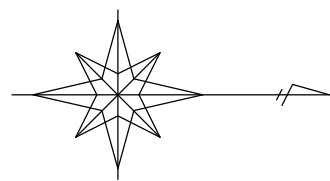
延面積集計表

名 称	延面積
既存改修部分	197. 25
増築部分	153. 20
合 計	350. 45

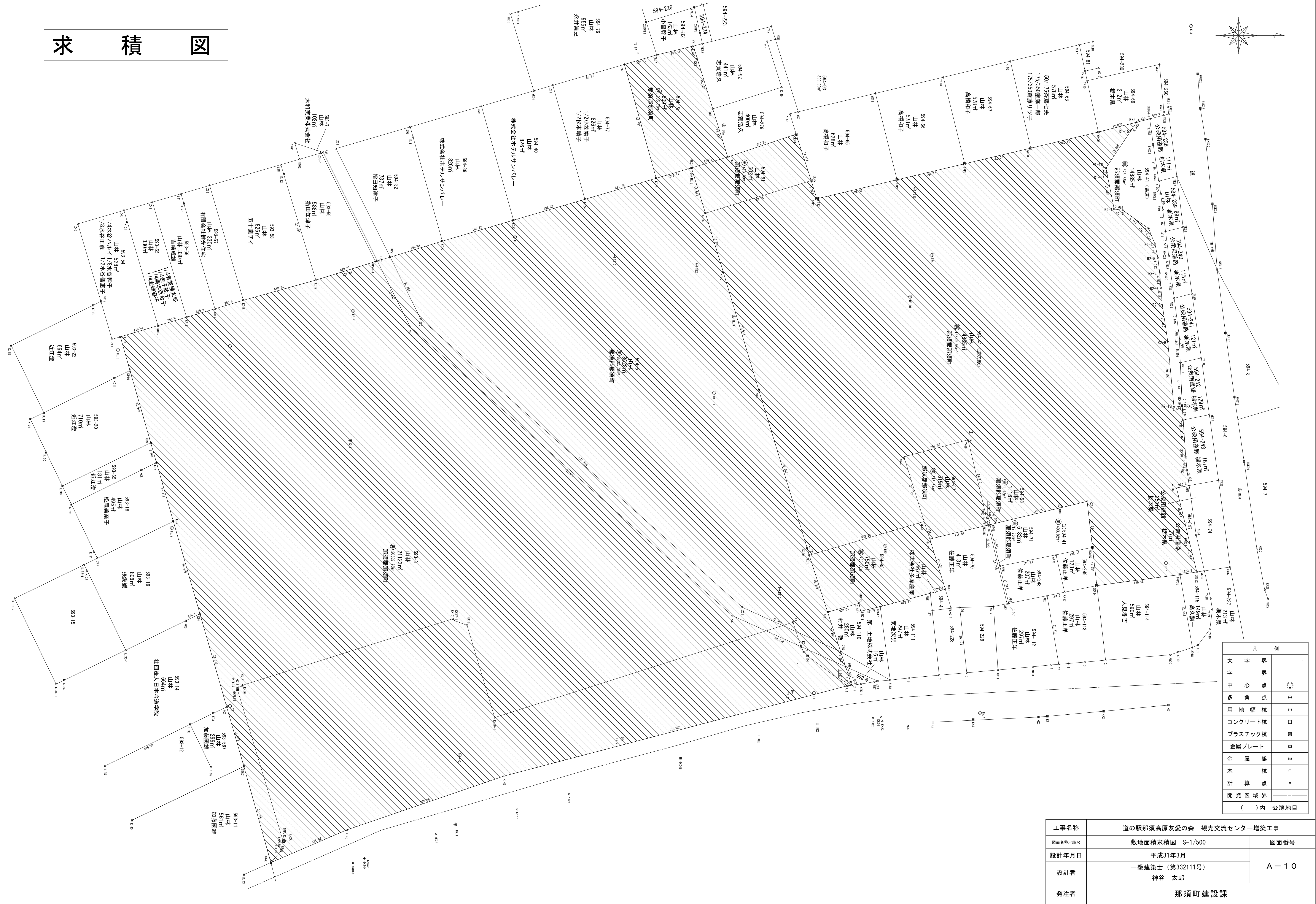
建築面積集計表

名 称	建 築 面 積
既存改修部分	279.97
増築部分	159.77
合 計	439.74

工事名称		
図面名称/縮尺	面積求積図・求積表（増築部分）	図面番号
設計年月日	平成31年3月	A-09
設計者	一級建築士（第33211号） 神谷 太郎	
発注者	那須町建設課	



求 積 図



凡 例	
大 字 界	
中 心 点	◎
多 角 点	⊙
用 地 幅 杭	○
コンクリート杭	⊕
プラスチック杭	⊞
金属プレート	⊠
金 属 鉄	⊙
木 杭	⊙
計 算 点	・
開 発 区 域 界	—
() 内	公 簿 地 目

工事名称	道の駅那須高原友愛の森 観光交流センター増築工事	
図面名称／図尺	敷地面積求積図 S-1/500	図面番号
設計年月日	平成31年3月	A - 1 0
設計者	一級建築士（第332111号） 神谷 太郎	
発注者	那須町建設課	

求積表

地番	594-41 (道の駅)				地目	現況	山林
N0	Xn	Yn	Yn+1-Yn-1	Xn・(Yn+1-Yn-1)	公簿面積	公簿	山林
6K132	115732.925	16047.455	11.846	1370972.229550			
6KP33	115727.784	16048.257	4.183	484089.320472			
6KP24	115702.220	16051.638	-8.224	-953106.111680			
6KC35	115700.982	16039.933	-25.787	-2983581.222834			
KXP1	115699.372	16025.851	-6.958	-805036.230376			
YK43	115669.632	16032.975	5.096	589452.444672			
YK44	115669.151	16030.947	-1.897	-219424.319447			
YK45	115669.607	16031.078	-23.985	-2774311.538895			
YK46	115662.911	16006.962	-18.906	-2186722.995366			
YK47	115643.281	16012.172	25.045	2898285.972645			
YK48	115649.472	16032.007	30.152	3487082.879744			
YK51	115614.295	16042.324	8.219	950232.890605			
KC29	115613.696	16040.226	-50.526	-5841497.604096			
KC30	115598.859	15991.788	-84.735	-9795269.317365			
KC27	115587.971	15955.491	-54.218	-6266948.611678			
KP26	115582.515	15937.580	-27.927	-3227872.896405			
6KP5	115614.878	15927.564	-4.415	-510420.686370			
6KP3	115616.610	15933.165	-0.222	-25666.887420			
6KP6	115641.174	15927.342	-10.729	-1240714.155846			
6KP7	115661.895	15922.436	-9.697	-1121573.395815			
6KP8	115682.106	15917.645	-9.731	-1125702.573486			
6KC9	115702.822	15912.705	-7.935	-918101.892570			
RK5	115714.515	15909.710	-0.551	-63758.697765			
R1-15	115712.871	15912.154	14.041	1624724.421711			
R1-16	115705.119	15923.761	13.003	1504815.682357			
R1-17	115705.402	15925.157	12.549	1451987.086696			
R2-1	115707.640	15936.300	11.499	1330522.152360			
R2-2	115710.235	15936.656	5.962	689864.421070			
R2-3	115718.172	15942.262	10.455	1209832.488260			
R2-4	115720.162	15947.111	8.956	1036389.770872			
R2-5	115721.026	15951.218	8.808	1019270.797008			
R2-6	115721.567	15955.919	9.217	1066605.683039			
R2-7	115721.947	15960.435	9.679	1120072.725013			
R2-8	115722.369	15965.598	16.480	1907104.641120			
R2-9	115724.041	15916.915	31.383	3631767.518703			
R2-10	115725.941	15996.981	19.709	2280842.571169			
RK6	115728.472	15996.624	3.907	452151.140104			
YK31	115728.765	16000.888	15.706	1817635.983090			
6KC30	115729.523	16012.330	15.259	1777490.204527			
AM3	115729.918	16016.247	8.661	1002336.819788			
AM2	115730.599	16020.991	5.479	634087.951921			
AC18	115726.740	16021.726	15.420	1784508.330800			
6KX31	115730.234	16036.411	25.729	2977623.196586			
			合 計	13849.5817400			
			地 積	13849.58			m ²

地番	594-57				地目	現況	山林
公簿面積	515 m ²				目	公簿	山林
所有者	那須郡那須町						
測点	X	Y	X-X	Y(X-X)			
6KC15	115669.117	16033.098	17.395	278895.739710			
YK45	115668.607	16031.078	-6.206	-99488.870068			
YK46	115662.911	16006.962	-25.326	-405392.319612			
YK47	115643.281	16012.172	-13.439	-215187.579508			
YK48	115649.472	16032.007	7.931	127149.847517			
6KC14	115651.212	16037.387	19.645	315054.467615			
倍面積				1031.285654			
面積				515.642827			
地積				515.64m ²			

地番	594-78				地目	現況	山林
公簿面積	809 m ²				目	公簿	山林
所有者	那須郡那須町						
測点	X	Y	X-X	Y(X-X)			
KP25	115567.435	15926.866	20.567	327567.853022			
6KC1	115578.253	15923.696	21.912	348920.026752			
6KC2	115589.347	15920.365	6.520	103800.779800			
380	115584.773	15905.620	-9.327	-148351.717740			
KK4	115580.020	15890.211	-5.937	-94340.182707			
YK1	115578.836	15886.374	-12.452	-197817.129048			
YK57	115567.568	15889.098	-21.150	-336654.422700			
Z63	115557.686	15892.012	-6.133	-2113.637596			
倍面積				1611.569783			
面積				805.784891			
地積				805.78m ²			

地番	594-85				地目	現況	山林
公簿面積	750 m ²				目	公簿	山林
所有者							
測点	X	Y	X-X	Y(X-X)			
YK51	115614.295	16042.324	-29.550	-474050.674200			
KC28	115619.922	16059.768	15.260	245072.059680			
6BK10	115629.555	16057.058	10.098	162144.171684			
6BK11	115630.020	16059.475	6.475	103985.100625			
6BK12	115630.030	16058.096	21.345	342780.059120			
AB5	115651.365	16053.970	19.925	319875.352250			
AK18	115655.955	16052.779	-0.153	-2456.075187			
6KC14	115651.212	16037.387	-6.483	-103970.739921			
YK48	115649.472	16032.007	-36.917	-591853.602419			
倍面積				1506.011632			
面積				753.005816			
地積				753.00m ²			

地番	594-91				地目	現況	山林
公簿面積	502 m ²				目	公簿	山林
所有者							
測点	X	Y	X-X	Y(X-X)			
6KP5	115614.878	15927.564	27.768	442276.597152			
6KP4	115610.283	15913.372	-25.531	-406284.300532			
6KC2	115589.347	15920.365	-32.030	-509929.290950			
6KC1	115578.253	15923.696	-6.832	-108790.891072			
KP26	115582.515	15937.580	36.625	583713.867500			
倍面積				986.182098			
面積				493.091049			
地積				493.09m ²			

地番	594-58				地目	現況	山林
公簿面積	1.16 m ²				目	公簿	山林
所有者	那須郡那須町						
測点	X	Y	X-X	Y(X-X)			
6KC15	115669.117	16033.098	1.025	16433.925450			
YK43	115669.632	16032.975	0.034	545.121150			
YK44	115669.151	16030.947	-1.025	-16431.720675			
YK45	115668.607	16031.078	-0.034	-545.056652			
倍面積				2.269273			
面積				1.134636			
地積				1.13m ²			

森林法に基づく開発許可面積

合計面積 16418.22m²

地番	594-5				地目	現況	公園
公簿面積	8628 m ²				目	公簿	山林
所有者	那須郡那須町						
測点	X	Y	X-X	Y(X-X)			
KC22	115501.962	15946.129	37.739	601790.962331			
KC23	115523.735	15939.703	43.644	695672.397732			
KP24	115545.606	15933.304	43.700	696285.384800			
KP25	115567.435	15926.866	32.647	519964.394302			
6KC1	115578.253	15923.696	15.080	240129.335600			
KP26	115582.515	15937.580	9.718	154881.402440			
KC27	115587.971	15955.491	16.344	260776.544904			
KC30	115598.859	15991.798	25.725	411389.003550			
KC29	115613.696	16040.226	15.436	247596.928536			
YK51	115614.295	16042.324	6.226	99879.509224			
KC28	115619.922	16059.768	9.625	154575.267000			
Z65	115623.920	16071.875	-26.036	-418447.337500			
Z31	115593.886	16058.313	-128.617	-2065372.043121			
Z30	115495.303	15969.832	-107.890	-1722985.174480			
KP21	115485.996	15951.021	6.659	106217.848839			
倍面積				-17645.575163			
面積				8222.787881			
地積				8822.78m ²			

地番	593-8			地目	現況	公園
公簿面積	21123 m ²			目	公簿	山林
所有者	那須郡那須町					
測点	X-Y			X-X-X		
KP14	115403.406	15975.416	8.572	136941.265952		
KC15	115414.927	15971.996	20.247	323385.003012		
KP16	115423.653	15969.419	17.430	278346.973170		
KC17	115432.357	15966.839	17.418	278110.401702		
KC18	115441.071	15964.232	30.889	493119.162248		
KC19	115463.246	15958.055	41.012	654471.751660		
KP20	115482.083	15952.190	28.617	459894.259230		
Z33	115492.063	15972.299	108.609	1734735.422091		
Z32	115590.692	16060.821	133.375	2142112.000875		
Z66	115625.438	16076.474	36.278	583222.323772		
K.2	115626.970	16081.119	1.877	30184.260363		
Z12	115627.315	16082.161	-1.033	-16612.872313		
K.1	115625.937	16082.327	-106.319	-1709856.924313		
K.47	115520.996	16109.931	-153.192	-2467912.549752		
K.46	115472.745	16126.433	-71.520	-1153362.488160		
6K40	115449.476	16136.474	-31.541	-508960.528434		
28KC1	115441.204	16107.009	-13.525	-217847.296725		
KC2	115435.951	16088.788	-13.454	-216458.553752		
KP4	115427.750	16060.267	-16.322	-262135.677974		
KP7	115419.629	16031.973	-13.299	-213209.208927		
KP16	115414.651	16013.984	-6.929	-119060.895136		
KP9	115410.700	16007.860	-8.996	-128594.634560		
KP10	115406.355	15985.754	-9.294	-146871.597676		
傾面植				-11165.404172		
面植				20582.700823		
地植				20582.702m ²		

外部仕上表（既存改修部）※円形鉄骨部

外壁（改修前）	外壁（改修後）	屋根（改修前）	屋根（改修後）	軒天（改修前）	軒天（改修後）
【外壁一般部】 ■杉板貼り 15 w70 塗装：浸透性木材保護塗材 ※一部撤去	【外壁一般部】 ※全面 塗装：浸透性木材保護塗材 高圧洗浄の上 ※一部貼直し ■杉板貼り 15 w70 塗装：浸透性木材保護塗材	■立ハゼ葺 フッ素ガルバリウム鋼板t=0.4	■高圧洗浄	■シナベニヤ合板 t=5.5 塗装：浸透性木材保護塗材	—

外部仕上表（既存改修部）※低層木造部

外壁（改修前）	外壁（改修後）	屋根（改修前）	屋根（改修後）	軒天（改修前）	軒天（改修後）	テラス（改修前）	テラス（改修後）
【外壁一般部】 ■杉板貼り 15 w70 塗装：浸透性木材保護塗材 ※一部撤去	【外壁一般部】 ■杉板貼り 15 w70 塗装：浸透性木材保護塗材 ※一部貼直し	■立ハゼ葺 フッ素ガルバリウム鋼板t=0.4	■高圧洗浄	■シナベニヤ合板 t=5.5 塗装：浸透性木材保護塗材	—	【床】 ■桧 W=90 t=30 塗装：浸透性木材保護塗材 ※撤去 【庇】 ■ポリカーボネート板 ■杉 W=90 t=30 塗装：浸透性木材保護塗材 ※一部撤去	【床】 ■人工無垢デッキ材 （アースデッキ ソリッドグレイン同等品） 【庇】 ■ポリカーボネート板 高圧洗浄 ■ポリカーボネート波板 ■杉 W=90 t=30 塗装：浸透性木材保護塗材 ※一部復旧

内部仕上表

室名	展示ホール（改修前）	CH=	観光案内所（改修後）	展示ホール（改修前）	CH=	案内カウンター（改修後）	観光案内・事務室（改修前）	CH=	バス待合（改修後）	授乳室
床	■芦野石 モルタル		—	■芦野石 ※撤去 モルタル ※撤去		■タイルカーペット フリーアクセスフロア下地 h=	■磁器タイル ※撤去 モルタル ※撤去		■磁器タイル モルタル ■リノリウム貼 （フォルボ同等品） モルタル	■磁器タイル モルタル ■リノリウム貼 （フォルボ同等品） モルタル
巾木／H	■芦野石			■芦野石			■磁器タイル ※撤去		■磁器タイル	■磁器タイル
腰壁	■シナベニア 5.5 CL塗装 LGS65下地 ※一部撤去 ■杉小幅板 構造用合板 12 LGS65下地 ※一部撤去		■シナベニア 5.5 CL塗装 LGS65下地 ※一部復旧 ■杉小幅板 構造用合板 12 LGS65下地 ※一部復旧	■シナベニア 5.5 CL塗装 LGS65下地 ■杉小幅板 構造用合板 12 LGS65下地		— — 【内部屋根】 ■シナ合板 9.0 CL塗装	■シナベニア 5.5 CL塗装 LGS65下地 ※一部撤去 ■石膏板 [*] t=12.5 EP塗装 LGS65下地 ※一部撤去 ■杉小幅板 構造用合板 12 LGS65下地		■石膏板 [*] t=12.5 EP塗装 LGS65下地 ■展示用コルクシート t=3 LGS65下地 ソフトベニヤ t=5.5 石膏板 [*] t=12.5 ■石膏板 [*] t=12.5 ダイノックシート貼 LGS65下地	■石膏板 [*] t=12.5 EP塗装 LGS65下地 ■展示用コルクシート t=3 LGS65下地 ソフトベニヤ t=5.5 石膏板 [*] t=12.5 ■石膏板 [*] t=12.5 ダイノックシート貼 LGS65下地
天井	■シナベニア 5.5 CL塗装 軽量天井鉄骨下地（19）		—	—		■ロックウール吸音板（フラット） t=9 石膏板 [*] t=9.5捨貼 軽量天井鉄骨下地（19）	—		■ロックウール吸音板（フラット） t=9 石膏板 [*] t=9.5捨貼 軽量天井鉄骨下地（19）	■ロックウール吸音板（フラット） t=9 石膏板 [*] t=9.5捨貼 軽量天井鉄骨下地（19）
廻縁	■		—	■		■	■		■	■
備考						■案内カウンター			■ピクチャーレール	■カーテンレール ■ベビーベット

室名	事務室（改修前）	CH=	倉庫（改修後）	CH=
床	■長尺シート ※撤去 フリーフロア下地 h=		■長尺シート貼り フリーフロア下地 h=	
巾木／H	■塩ビ	60	■塩ビ	60
腰壁	※腰壁なし 【一般】 ■石膏板 [*] t=12.5 EP-G塗装 ・LGS65下地 ※撤去		※腰壁なし 【一般】 ■石膏板 [*] t=12.5 EP-G塗装 ・LGS65下地	
壁				
天井	■化粧石膏板 [*] t=9.5 軽量天井鉄骨下地（19）		■化粧石膏板 [*] t=9.5 軽量天井鉄骨下地（19）	
廻縁	■塩ビ		■塩ビ	
備考				

特記事項

- ・化粧木材（木杢、木見切り、木建框等含む）は全てサンプルを提出し、監督員の承認を得ること。
 - ・仕上用木材については、製材所での製品検査を行う。検査を行う工程時期については、監督員と協議のこと。
 - ・木杢、木見切りのコーナーは基本的には全て留め加工とし、見隠れ面からビス固定すること。
 - ・仕上材料は「F☆☆☆☆」、天井裏・床裏の下地は「F☆☆☆」以上。
 - ・特記なき合板は構造用合板とする。
 - ・図面内に記載の色は、監督職員と再協議の上決定する。
 - ・塗装仕上の石膏ボードは全てテープエッジとする。
 - ・木杢・木見切りは、特記なき限り全て、見付けを10mm、チリを8mmとする。
 - ・塗装・仕上げボード下地については、@3600程度及び開口部上部両脇に誘発目地を設け、ノンクラックテープを施工する。
 - ・サッシュ周囲外壁側にすべて止水テープを施すこと。施工完了後に監督員の検査を受けること。
 - ・木製建具、引戸の敷居については、溝加工をエンドで止めて建具の止め錠枠を設けないこととする。
 - ・床面以外の塗装は、全て艶については監督員の指示による

- ・下記内容のものについては、モックアップを作成し、監督員の承諾をえてから施工を行うこと。
 - 芦野石 コブ出仕上
 - ドイツレンガタイル
 - 外壁杉板貼り
 - 外壁レッドシダー貼り
 - ・使用する仕上材のサンプルは、監督員の指示に従い提出し承諾を受けること。
 - ・目地があるものについては全て割付けを施工図に記入のこと。

工事名称	道の駅那須須高原友愛の森 観光交流センター増築工事		
図面名称／縮尺	仕上表（既存改修部） S＝ / 1：1		図面番号
設計年月日	平成31年3月		A－12
設計者	一級建築士（第332111号） 神谷 太郎		
発注者	那須町建設課		

外部仕上表（増築部本体）

外 壁	屋 根	軒 天 井	エントランス
【外壁一般部】 ■杉板貼り 浸透性木材保護塗料（リボス程度） 木胴縁 杉 耐水合板 ※内部より硬質ウレタン吹付 t 30 ■レッドシダー 板貼り ※下地は上記杉板貼りに同じ ※内部より硬質ウレタン吹付 t 30 【腰壁部】 ■芦野石 コブ出仕上 ■ドイツレンガ 【連絡通路】 ■コンクリート化粧打放 フッ素樹脂塗装	【大屋根】 ■横葺き（元旦ダンツキルーフ182同等品） ・フッ素ガルバリウム鋼板 t 0. 4 ・断熱材 t 25～40 ・木毛セメント板 t 25 ・アスファルトルーフィング 940 【連絡通路】 ■縦葺き （元旦スフィンクスルーフ6型同等品） ・フッ素ガルバリウム鋼板 t 0. 4 ・断熱材 t 25	【大屋根】 ■杉小幅板 W60 t=12 浸透性木材保護塗料（リボス程度） ・化粧垂木 杉45×30 ・耐水合板 t=12 ・軽量鉄骨下地（25） 【壁】 ■レッドシダー 板貼り	【床】 ■磁器タイル貼り ・モルタル 【壁】 ■レッドシダー 板貼り

外部仕上表（増築部 連絡通路）

外 壁	屋 根	軒 天 井
【外壁一般部】 ■杉板貼り 浸透性木材保護塗料（リボス程度） 木胴縁 杉 耐水合板 ※内部より硬質ウレタン吹付 t 30 ■レッドシダー 板貼り ※下地は上記杉板貼りに同じ ※内部より硬質ウレタン吹付 t 25 【腰壁部】 ■コンクリート化粧打放 フッ素樹脂塗装	■縦葺き （元旦スフィンクスルーフ6型同等品） ・フッ素ガルバリウム鋼板 t 0. 4 ・断熱材 t 25 ・木毛セメント板 t 25 ・アスファルトルーフィング 940	【大屋根】 ■杉小幅板 W60 t=12 浸透性木材保護塗料（リボス程度） ・耐水合板 t=12 ・軽量鉄骨下地（25）

内 部 仕 上 表

室名	事務室（1階）	CH=2, 500	給湯室	CH=2, 500	廊下	CH=2, 500	連絡通路	CH=2, 100	会議室	CH=2, 500	ホール	CH=2, 500	便所（共通）	CH= 2, 300
床	■タイルカーベット 高耐久性 t 7. 0 フリーアクセスフロア下地		■長尺シート 構造用合板 t=15 ﾊﾞｰﾃｨｸﾙｰﾄﾞ t=20 ﾌﾘｰﾌﾛｱ		■タイルカーベット 構造用合板 t=15 ﾊﾞｰﾃｨｸﾙｰﾄﾞ t=20 ﾌﾘｰﾌﾛｱ		■タイルカーベット 構造用合板 t=15 ﾊﾞｰﾃｨｸﾙｰﾄﾞ t=20 ﾌﾘｰﾌﾛｱ		■タイルカーベット 構造用合板 t=15 ﾊﾞｰﾃｨｸﾙｰﾄﾞ t=20 ﾌﾘｰﾌﾛｱ		■磁器タイル貼 モルタル		■超防汚性長尺シート t=2. 5 構造用合板 t=12 ﾊﾞｰﾃｨｸﾙｰﾄﾞ t=20 ﾌﾘｰﾌﾛｱ H	
巾木／H	■塩ビ 60		■塩ビ 60		■ｽﾌﾟﾙｰｽ集成材 水性UC塗装 20		■ｽﾌﾟﾙｰｽ集成材 水性UC塗装 20		■ｽﾌﾟﾙｰｽ集成材 水性UC塗装 20		■磁器タイル貼 50		長尺シート巻上（ﾌﾙﾐ見切） 100	
腰壁	■石膏ﾎﾞｰﾄﾞ t=12. 5 EP-G塗装 LGS65下地		※腰壁なし 【一般】 ■石膏ﾎﾞｰﾄﾞ t=12. 5 2重貼り EP-G塗装 ・ｸﾞﾗｽｸｰﾙ t=50 24kg品（遮音材） ・LGS65下地		■石膏ﾎﾞｰﾄﾞ t=12. 5 2重貼り EP塗装 LGS65下地		■石膏ﾎﾞｰﾄﾞ t=12. 5 2重貼り EP塗装 LGS65下地		■石膏ﾎﾞｰﾄﾞ t=12. 5 2重貼り EP塗装 LGS65下地 ・ｸﾞﾗｽｸｰﾙ t=50 24kg品（遮音材） ■展示用ｺﾛｼｰﾄ t=3 LGS65下地 ｿﾌﾄﾊﾞｰﾆｬ t=5. 5 石膏ﾎﾞｰﾄﾞ t=12. 5 ｸﾞﾗｽｸｰﾙ t=50 24kg品（遮音材）		■石膏ﾎﾞｰﾄﾞ t=12. 5 2重貼り ・ﾀｲﾉｯｸシート貼（ｳｯﾄﾞｸﾞﾚｲﾝ程度） LGS65下地 ・ｸﾞﾗｽｸｰﾙ t=50 24kg品（遮音材） ■石膏ﾎﾞｰﾄﾞ t=12. 5 EP塗装 LGS65下地		※腰壁なし ■石膏ﾎﾞｰﾄﾞ t=12. 5 2重貼り EP塗装 石膏ﾎﾞｰﾄﾞ t=12. 5 2重貼 ｸﾞﾗｽｸｰﾙ t=50 24kg品（遮音材） LGS65下地	
壁	■石膏ﾎﾞｰﾄﾞ t=12. 5 2重貼り EP塗装 LGS65下地 ■展示用ｸﾛｽ（ｻﾝﾌｵｰﾑｺﾙｸ 同等品） ｿﾌﾄﾊﾞｰﾆｬ t=6 石膏ﾎﾞｰﾄﾞ t=12. 5 LGS65下地		■ケイカル板 t=12 磁器タイル貼 ｵ100 ・ｸﾞﾗｽｸｰﾙ t=50 24kg品（遮音材） ・LGS65下地		■展示用ｺﾛｼｰﾄ t=3 LGS65下地 ｿﾌﾄﾊﾞｰﾆｬ t=5. 5 石膏ﾎﾞｰﾄﾞ t=12. 5									
天井	■ﾛｯｸｳｰﾙ吸音板（ﾌﾗｯﾄ） t=9 石膏ﾎﾞｰﾄﾞ t=9. 5捨貼 軽量天井鉄骨下地（19）		■ﾛｯｸｳｰﾙ吸音板（ﾌﾗｯﾄ） t=9 石膏ﾎﾞｰﾄﾞ t=9. 5捨貼 軽量天井鉄骨下地（19）		■ﾛｯｸｳｰﾙ吸音板（ﾌﾗｯﾄ） t=9 石膏ﾎﾞｰﾄﾞ t=9. 5捨貼 軽量天井鉄骨下地（19）		■ﾛｯｸｳｰﾙ吸音板（ﾌﾗｯﾄ） t=9 石膏ﾎﾞｰﾄﾞ t=9. 5捨貼 軽量天井鉄骨下地（19）		■ﾛｯｸｳｰﾙ吸音板（ﾌﾗｯﾄ） t=9 石膏ﾎﾞｰﾄﾞ t=9. 5捨貼 軽量天井鉄骨下地（19）		■ﾛｯｸｳｰﾙ吸音板（ﾌﾗｯﾄ） t=9 石膏ﾎﾞｰﾄﾞ t=9. 5捨貼 軽量天井鉄骨下地（19）			
廻縁	■塩ビ		■塩ビ		■塩ビ		■塩ビ		■塩ビ		■塩ビ		■塩ビ	
備考	■ビクチャーレール		■ミニキッチン		■ビクチャーレール		■家具		■ビクチャーレール		■家具		■天井点検口 ■ｶﾐ ■家具	

室名	更衣室（共通）	CH=2, 300	倉庫（共通）	CH=2, 500
床	■タイルカーベット フリーアクセスフロア下地		■長尺シート フリーフロア下地	
巾木／H	■塩ビ 60		■塩ビ 60	
腰壁	※腰壁なし 【一般】 ■石膏ﾎﾞｰﾄﾞ t=12. 5 EP-G塗装 ・ｸﾞﾗｽｸｰﾙ t=50 24kg品（遮音材） ・LGS65下地		※腰壁なし 【一般】 ■強化石膏ﾎﾞｰﾄﾞ t=12. 5 EP-G塗装 ・LGS65下地	
壁				
天井	■化粧石膏ﾎﾞｰﾄﾞ t=9. 5 軽量天井鉄骨下地（19）		■化粧石膏ﾎﾞｰﾄﾞ t=9. 5 軽量天井鉄骨下地（19）	
廻縁	■塩ビ		■塩ビ	
備考				

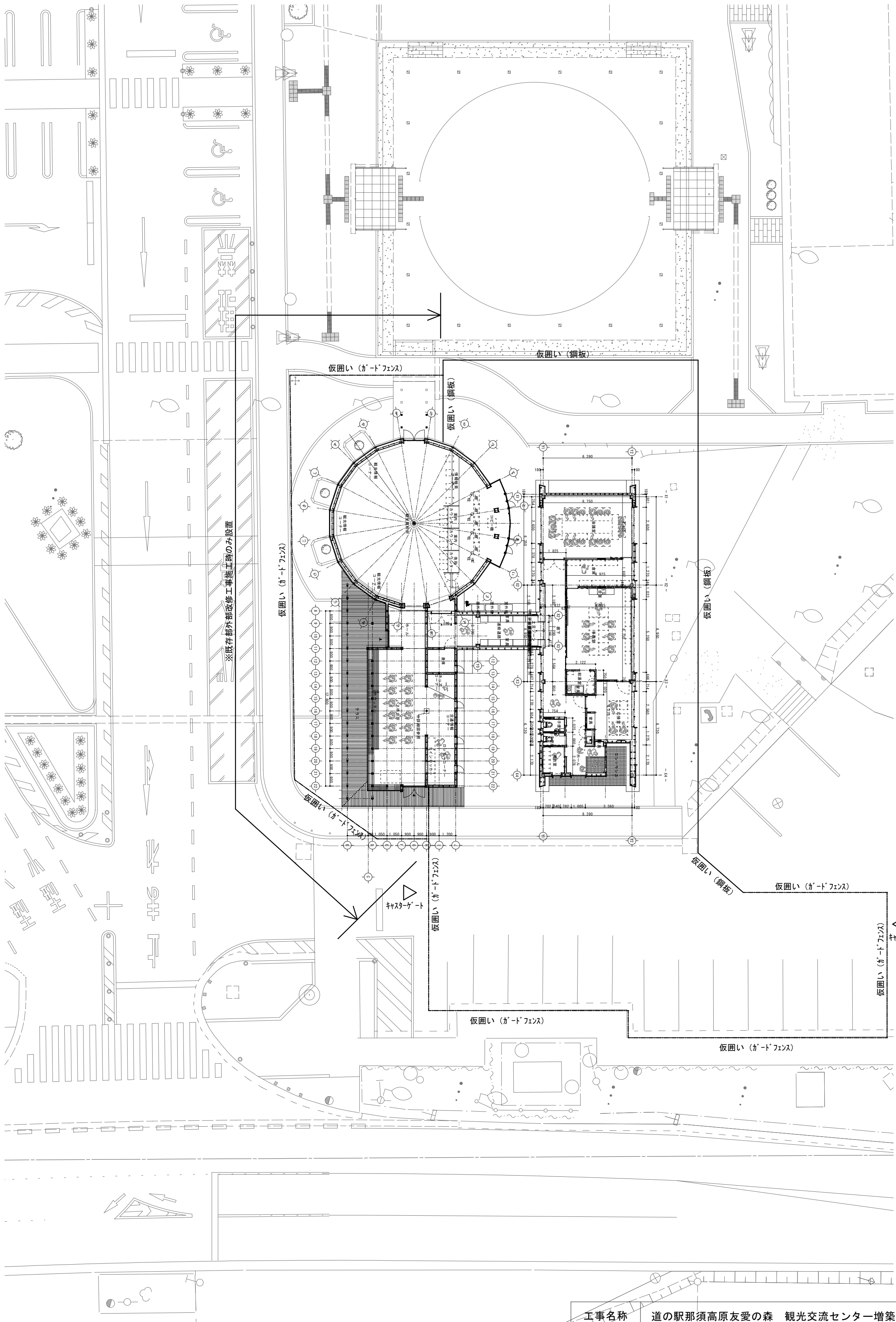
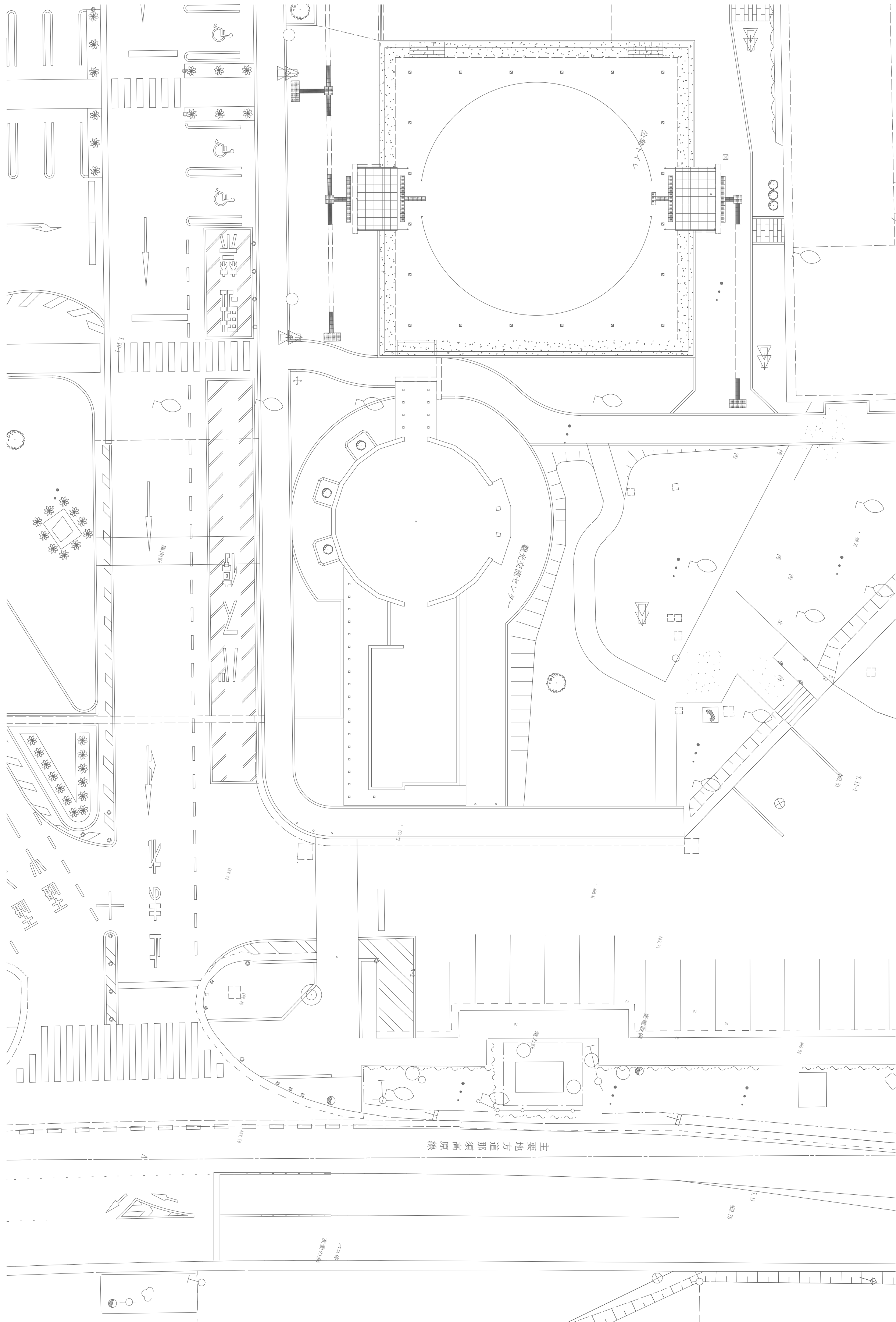
特 記 事 項

・化粧木材(木杢、木見切り、木建框等含む)は全てサンプルを提出し、監督員の承認を得ること。 ・仕上け用木材については、製材所での製品検査を行う。検査を行う工程時期については、監督員と協議のこと。 ・木杢、木見切りのコーナーは基本的には全て留め加工とし、見隠れ面からビス固定すること。 ・仕上材料は「F☆☆☆☆」、天井裏・床裏の下地は「F☆☆☆」以上。 ・特記なき合板は構造用合板とする。 ・図面内に記載の色は、監督職員と再協議の上決定する。 ・塗装仕上の石膏ボードは全てテーパーエッジとする。 ・木杢・木見切りは、特記なき限り全て、見付けを10mm、チリを8mmとする。 ・塗装・仕上げボード下地については、@3600程度及び開口部上部両脇に誘発目地を設け、ノンクラックテープを施工する。 ・サッシ周囲外壁側にすべて止水テープを施すこと。施工完了後に監督員の検査を受けること。 ・木製建具、引戸の敷居については、清加工をエンドで止めて建具の止め堅持を設けないこととする。 ・床面以外の塗装は、全て艶については監督員の指示による	・下記内容のものについては、ﾓﾆﾀﾞｯﾌﾟを作成し、監督員の承諾をえてから施工を行うこと。 ○芦野石 コブ出仕上 ○ドイツレンガタイル ○外壁杉板貼り ○外壁レッドシダー貼り ・使用する仕上材のサンプルは、監督員の指示に従い提出し承諾を受けること。 ・目地があるものについては全て割付けを施工図に記入のこと。
---	---

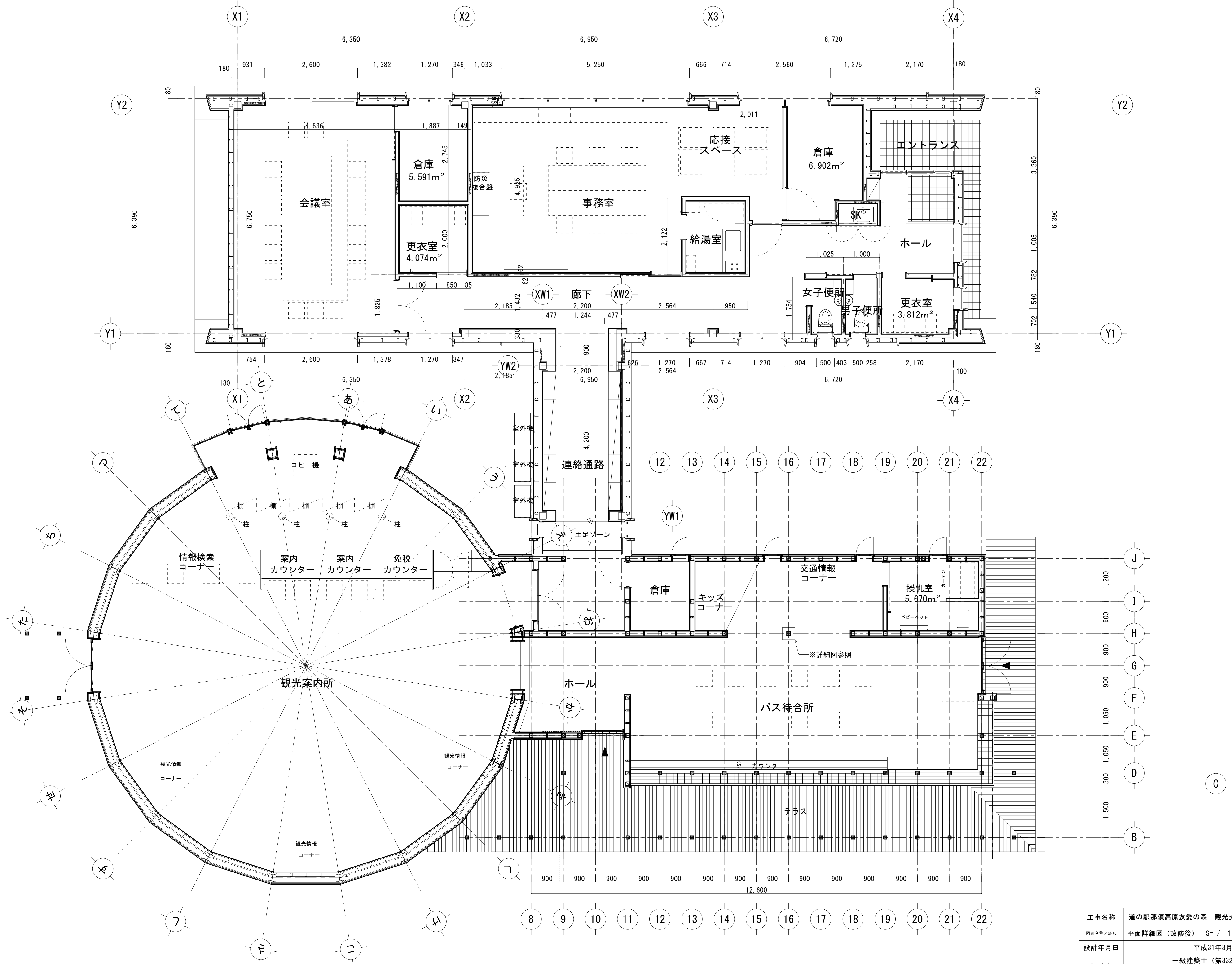
工事名称	道の駅那須須高原友愛の森 観光交流センター増築工事		
図面名称／縮尺	仕上表（増築部） S＝ / 1：1		図面番号
設計年月日	平成31年3月		A－1 3
設計者	一級建築士（第332111号） 神谷 太郎		
発注者	那須町建設課		

改修前

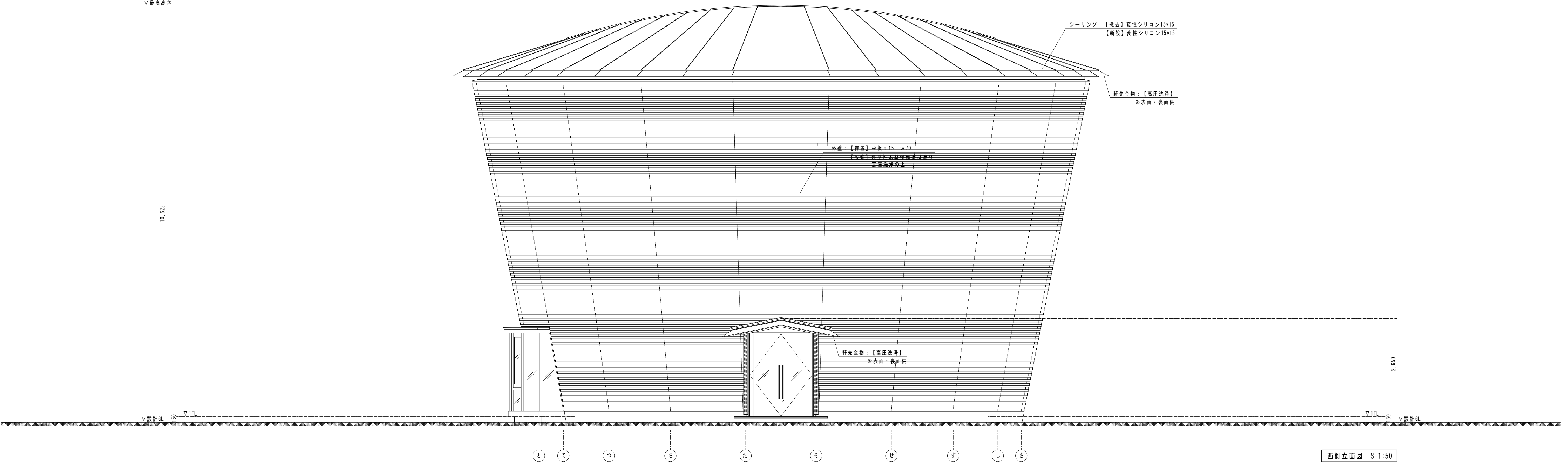
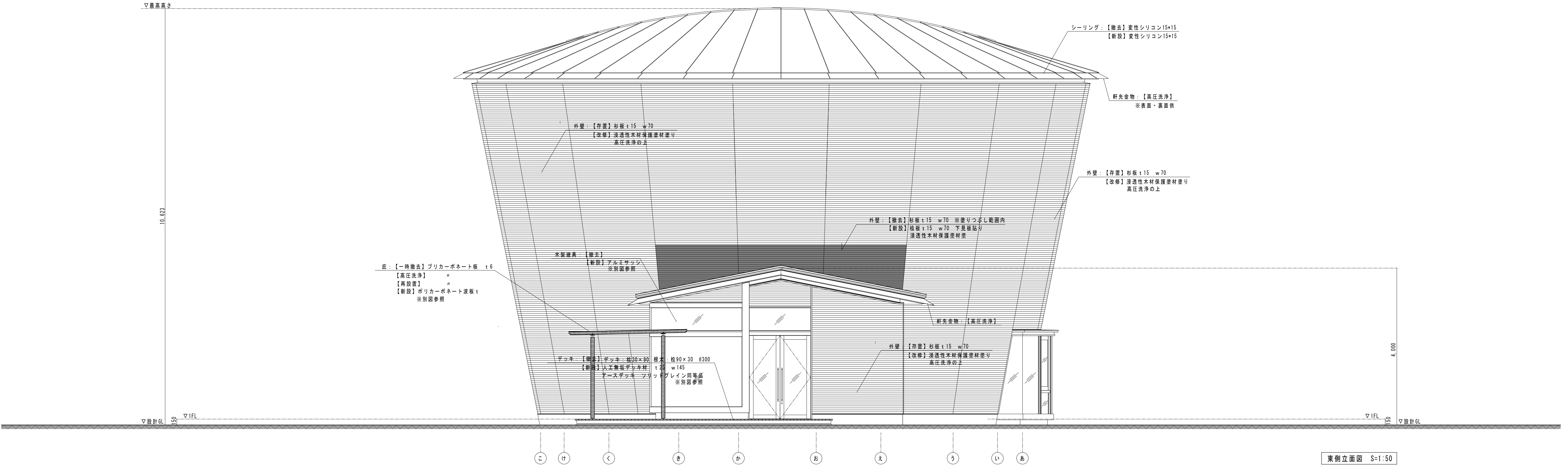
改修後



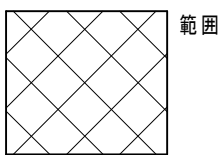
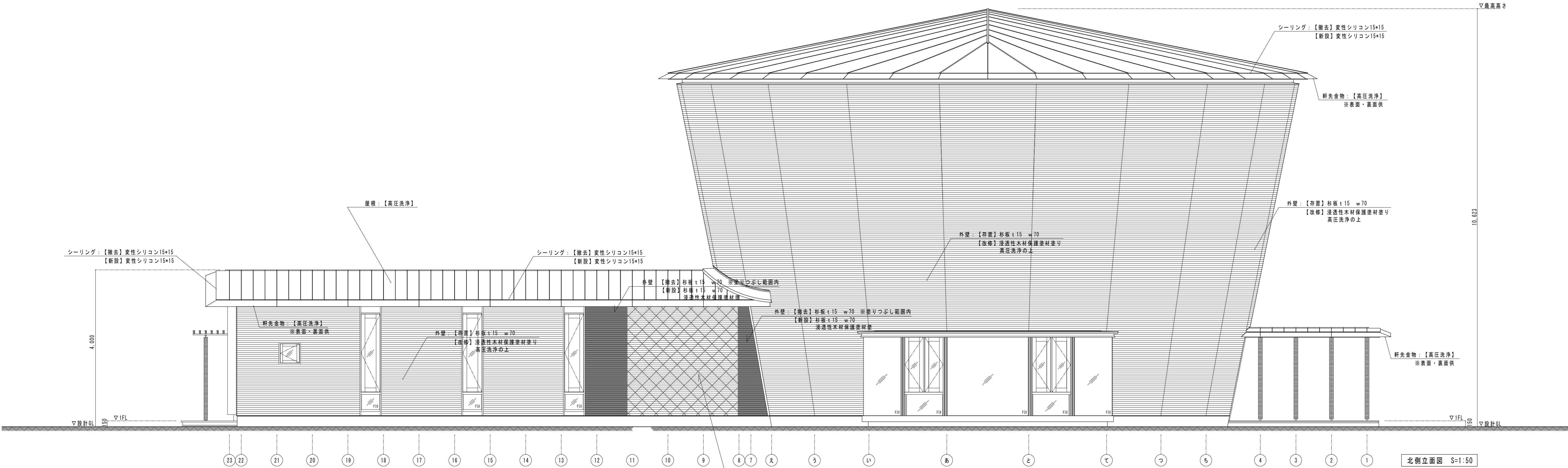
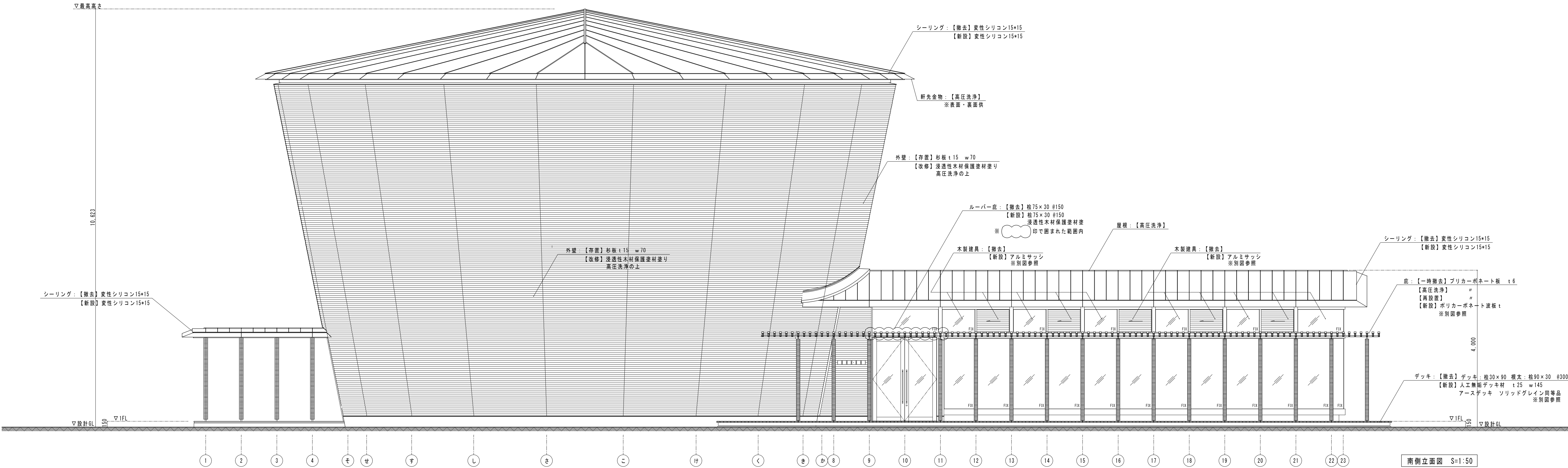
工事名称	道の駅那須高原友愛の森 観光交流センター増築工事	
図面名称/縮尺	平面詳細図（改修前） S= / 1:200	図面番号
設計年月日	平成31年3月	A－14
設計者	一級建築士（第332111号） 神谷 太郎	
発注者	那須町建設課	



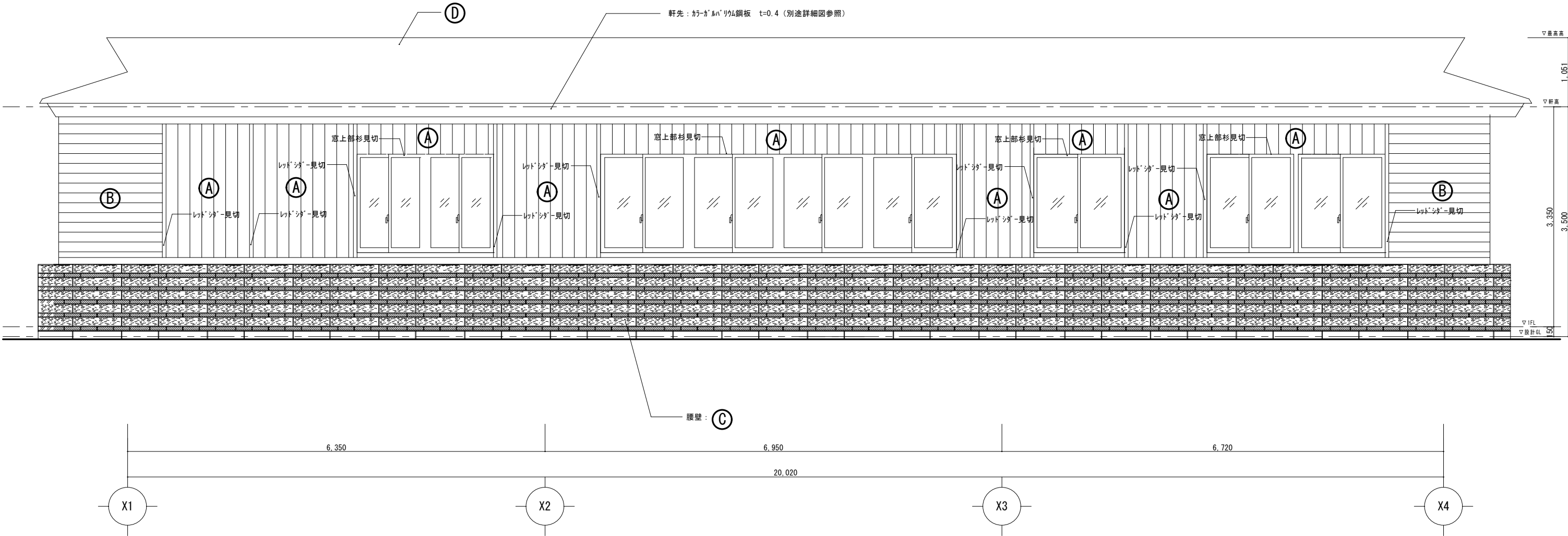
工事名称	道の駅那須高原友愛の森 観光交流センター増築工事		
図面名称／縮尺	平面詳細図（改修後） S＝ / 1:50	図面番号	
設計年月日	平成31年3月		A－16
設計者	一級建築士（第332111号） 神谷 太郎		
発注者	那須町建設課		



工事名称	道の駅那須高原文愛の森 観光交流センター増築工事		
図面名称／縮尺	既存部立面図（東面・西面） S= / 1:50		図面番号
設計年月日	平成31年3月		A－17
設計者	一級建築士（第332111号） 神谷 太郎		
発注者	那須町建設課		



工事名称	道の駅那須高原友愛の森 観光交流センター増築工事	
図面名称/縮尺	既存部立面図（南面・北面） S= / 1:50	図面番号
設計年月日	平成31年3月	A－18
設計者	一級建築士（第332111号） 神谷 太郎	
発注者	那須町建設課	

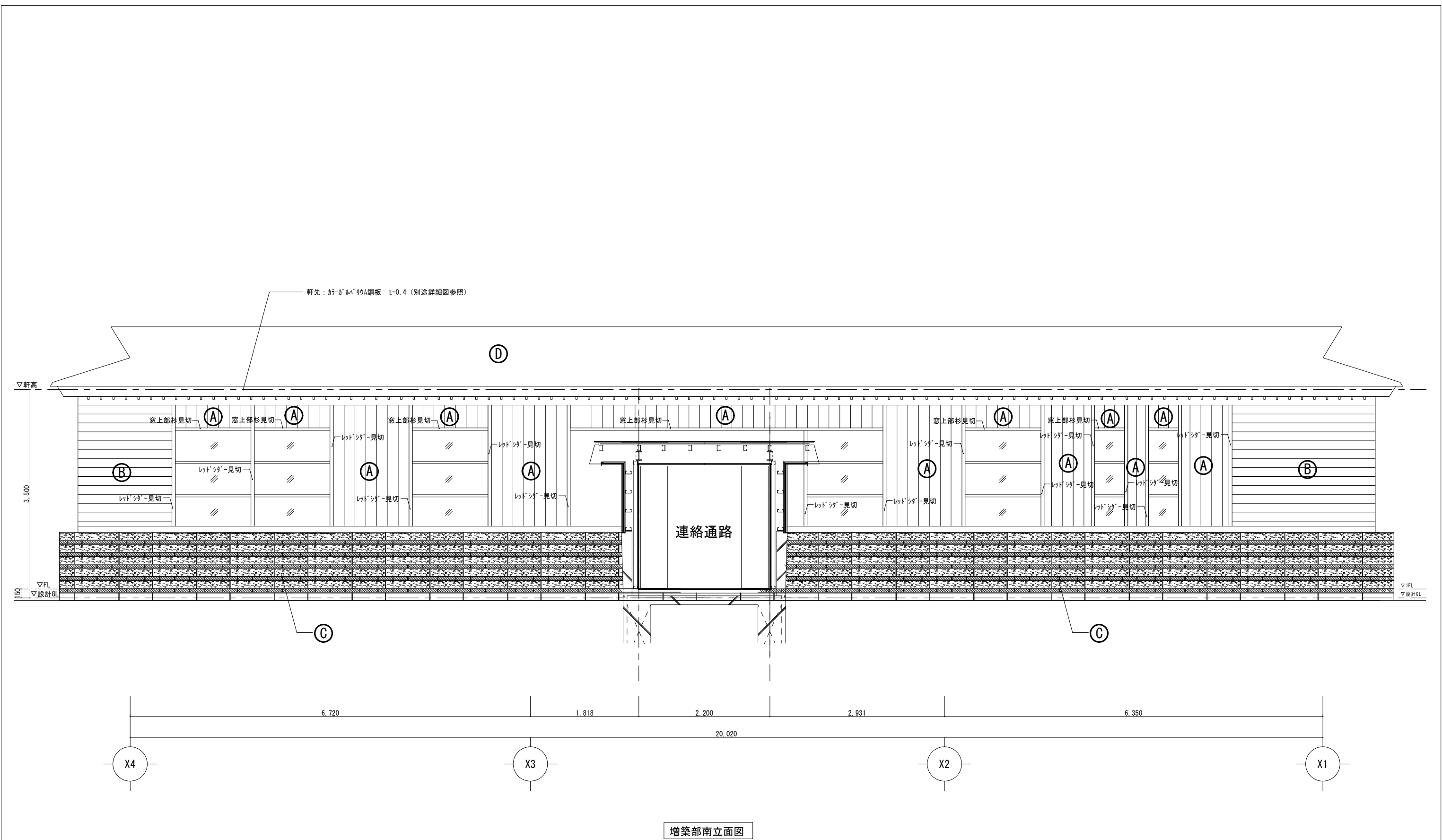


増築部北立面図

外部仕上表

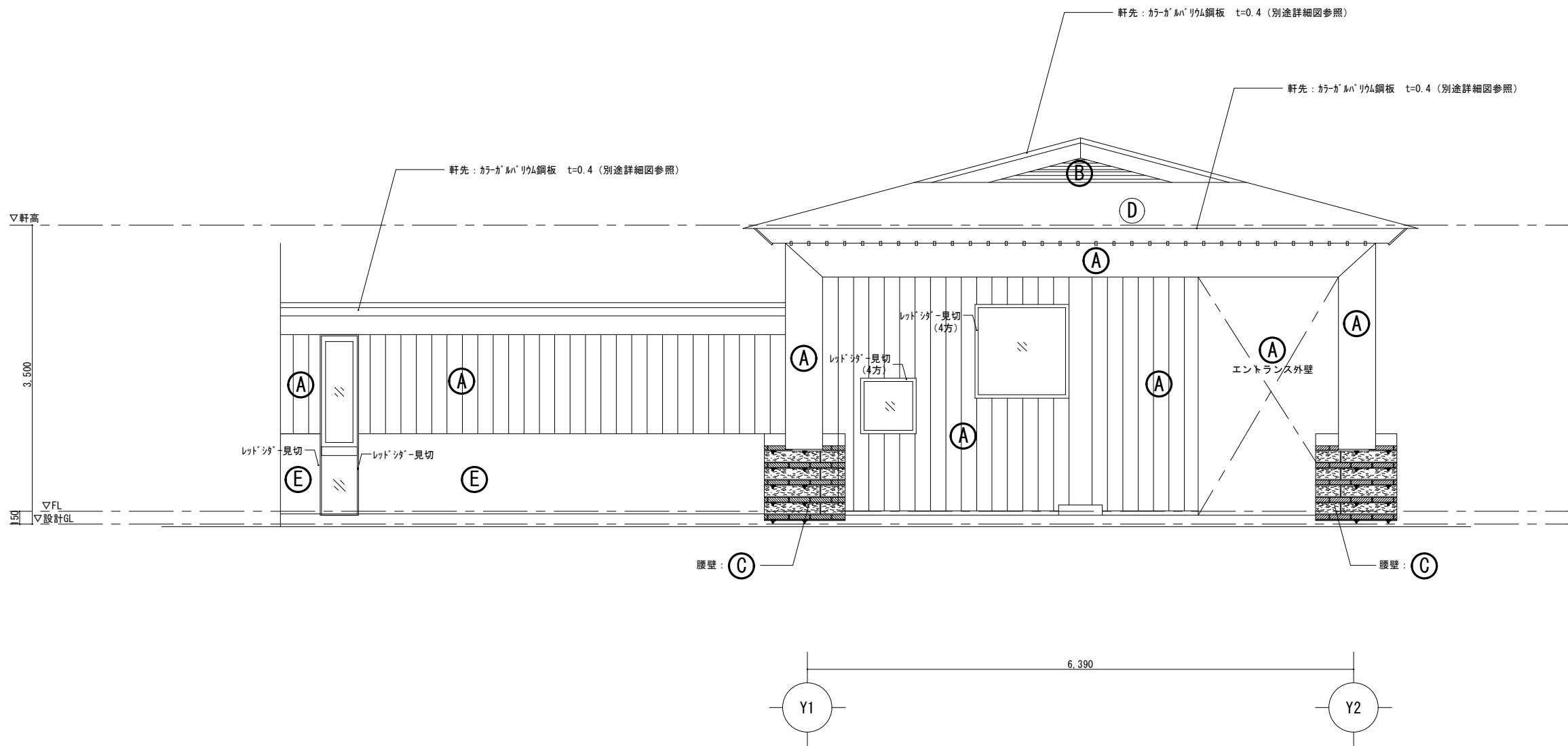
記号	下地	仕上	記号	下地	仕上
A	通気胴縁 25×40 @600 透湿防水シート 耐水合板 t=12	杉板張り t=12 浸透性木材保護塗料 (WP)	C	モルタル充填 引き金物 SUS 3.2φ CB100コンクリート充填	芦野石及びドイツレンガ (別途詳細図参照)
B	通気胴縁 25×40 @600 透湿防水シート 耐水合板 t=12	レッドシダー t=12 浸透性木材保護塗料 (WP)	D	【屋根】 断熱材 t=25 野地板 t=18	フッ素ガルパルウム鋼板 t=0.4 7スファルト-フィン

工事名称	道の駅那須高原友愛の森 観光交流センター増築工事		
図面名称/縮尺	増築部北立面図	S= / 1:30 (A1) 1:60 (A3)	図面番号
設計年月日	平成31年3月		A－19
設計者	一級建築士（第332111号） 神谷 太郎		
発注者	那須町建設課		



外部仕上表					
記号	下地	仕上	記号	下地	仕上
Ⓐ	通気胴縁 25×40 @600 透湿防水シート 耐水合板 t=12	杉板張り t=12 浸透性木材保護塗料 (WP)	Ⓒ	モルタル充填 引き金物 SUS 3.2φ CB100コンクリート充填	芦野石及びドイツレンガ (別途詳細図参照)
Ⓑ	通気胴縁 25×40 @600 透湿防水シート 耐水合板 t=12	レッドシダー t=12 浸透性木材保護塗料 (WP)	Ⓓ	【屋根】 断熱材 t=25 野地板 t=18	フッ素樹脂鋼板 t=0.4 7スファルトルーフィング

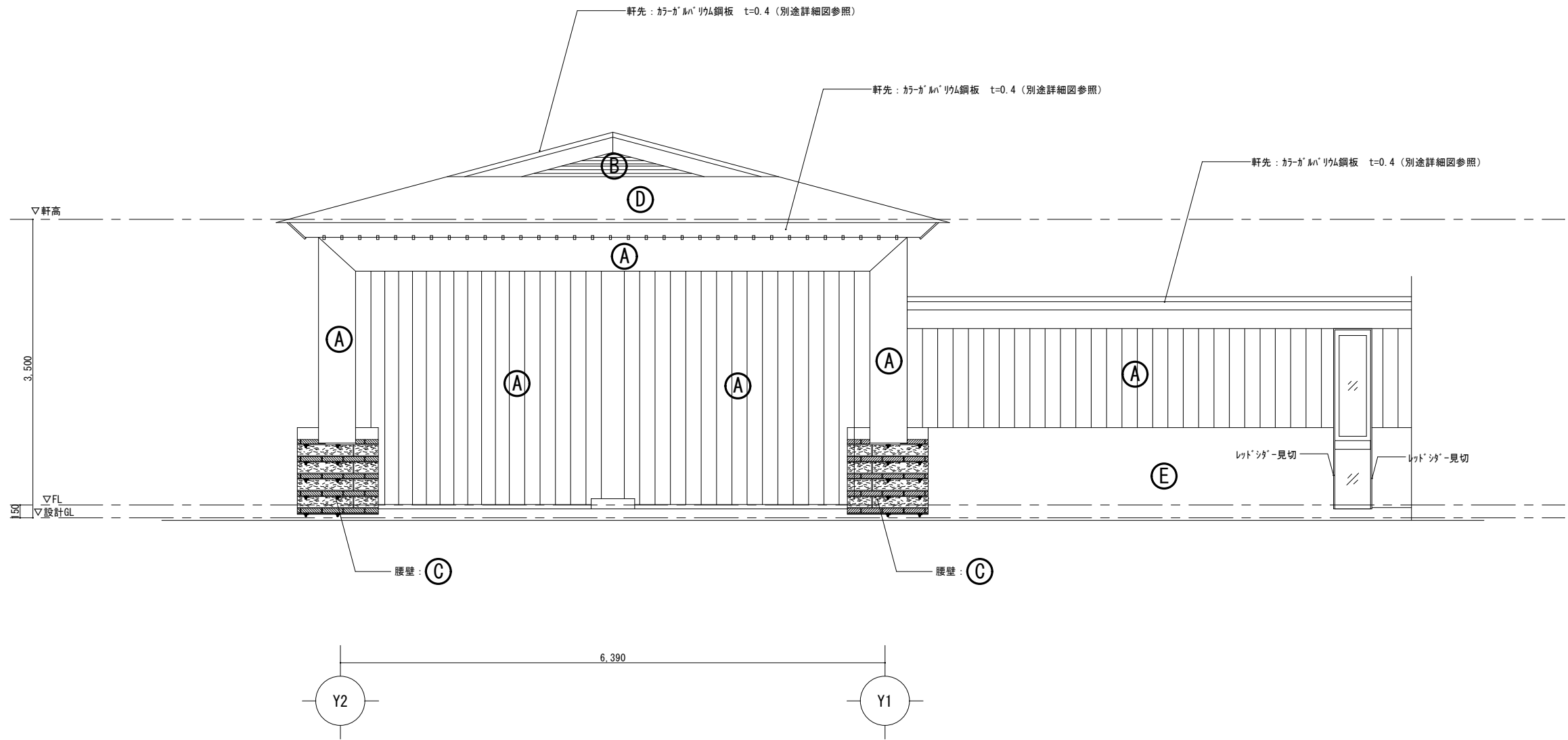
工事名称	道の駅那須高原友愛の森 観光交流センター増築工事		
図面名称／縮尺	増築部南立面図 S＝ / 1:30 (A1) 1:60 (A3)		図面番号
設計年月日	平成31年3月		A－20
設計者	一級建築士（第332111号） 神谷 太郎		
発注者	那須町建設課		



増築部東立面図

外部仕上表								
記号	下地		仕上	記号	下地		仕上	
A	通気胴縁	25×40 @600	杉板張り t=12	C	モルタル充填	引き金物 SUS 3.2φ	芦野石及びドイツレンガ (別途詳細図参照)	
	透湿防水シート	t=12	浸透性木材保護塗料 (WP)		GB100コンクリート充填			
B	通気胴縁	25×40 @600	レッドシダー t=12	D	【屋根】	断熱材 t=25	フッ素ガ'ルバ'リウム鋼板 t=0.4	
	透湿防水シート	t=12	浸透性木材保護塗料 (WP)		野地板	t=18	アスファルト-フィング'	
	耐水合板	t=12						

工事名称	道の駅那須高原友愛の森 観光交流センター増築工事		
図面名称/縮尺	増築部東立面図 S= / 1:30	1:60 (A3)	図面番号
設計年月日	平成31年3月		A-21
設計者	一級建築士 (第332111号) 神谷 太郎		
発注者	那須町建設課		

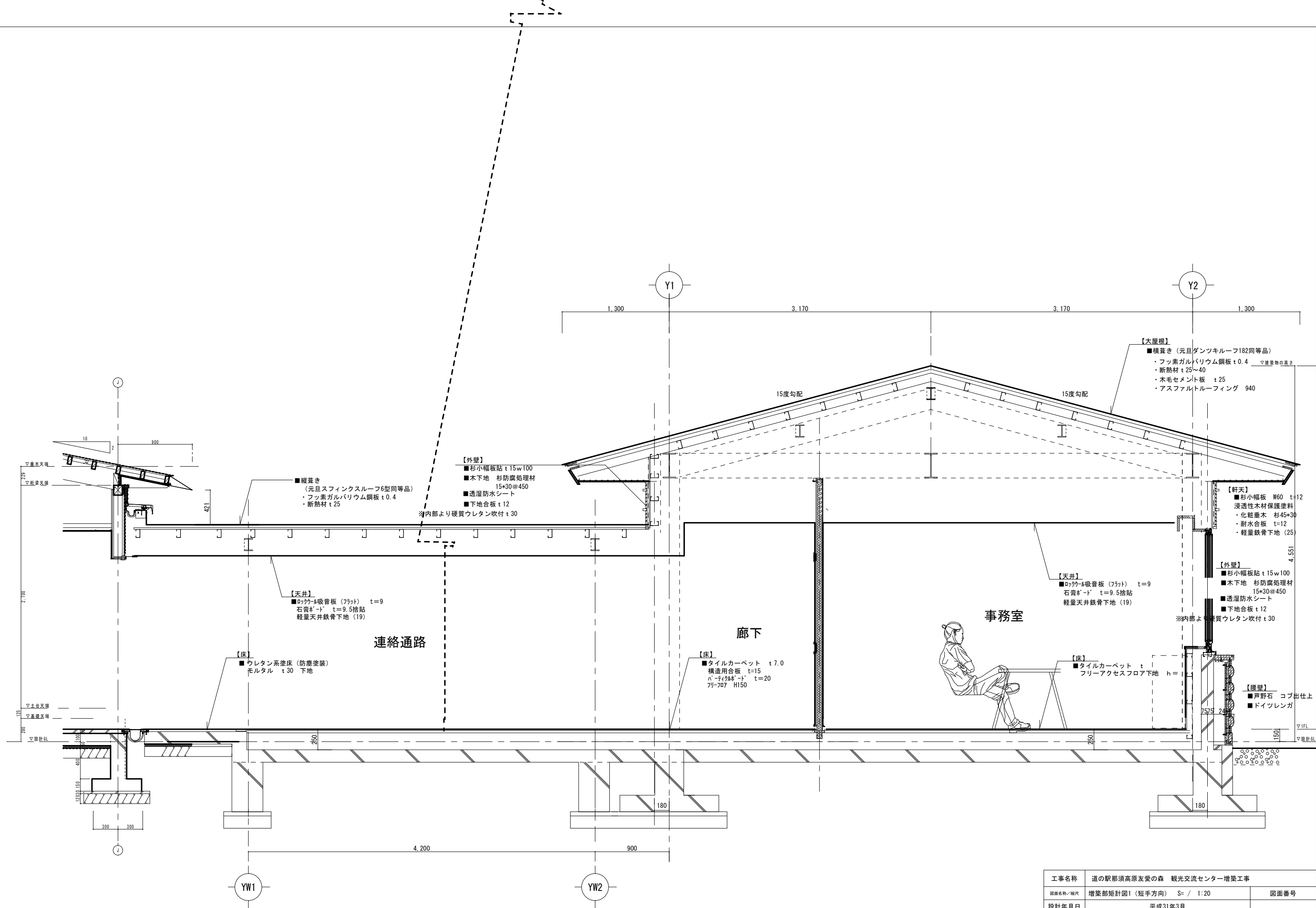


増築部西立面図

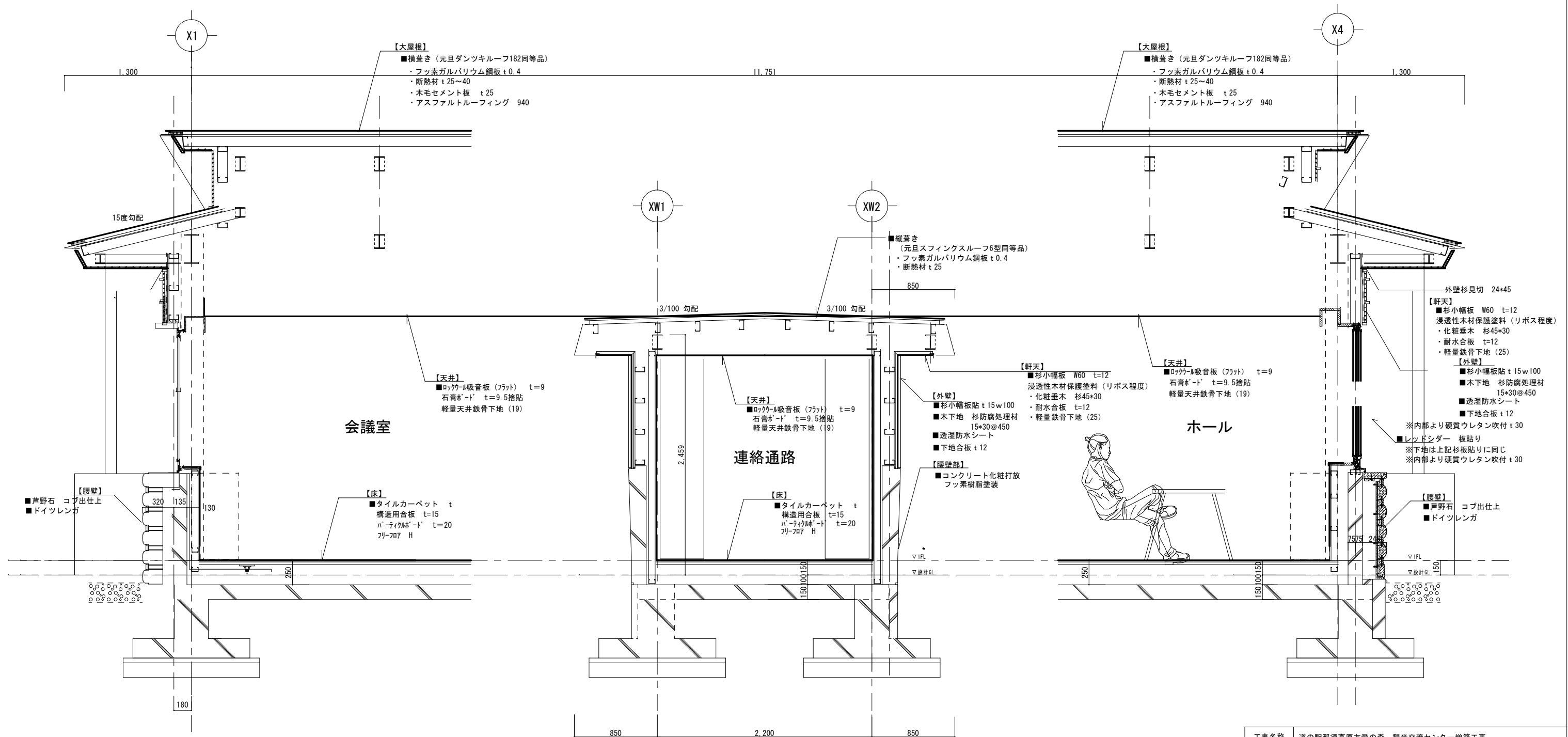
外部仕上表

記号	下地	仕上	記号	下地	仕上	記号	下地	仕上
A	通気胴縁 25×40 @600 透湿防水シート 耐水合板 t=12	杉板張り t=12 浸透性木材保護塗料 (WP)	C	モルタル充填 引き金物 SUS 3.2φ CB100コンクリート充填	芦野石及びドイツレンガ (別途詳細図参照)	E	コンクリート打放し	防汚塗装
B	通気胴縁 25×40 @600 透湿防水シート 耐水合板 t=12	レッドシダー t=12 浸透性木材保護塗料 (WP)	D	【屋根】 断熱材 t=25 野地板 t=18	フッ素galvalume鋼板 t=0.4 7スファルトルーフィング			

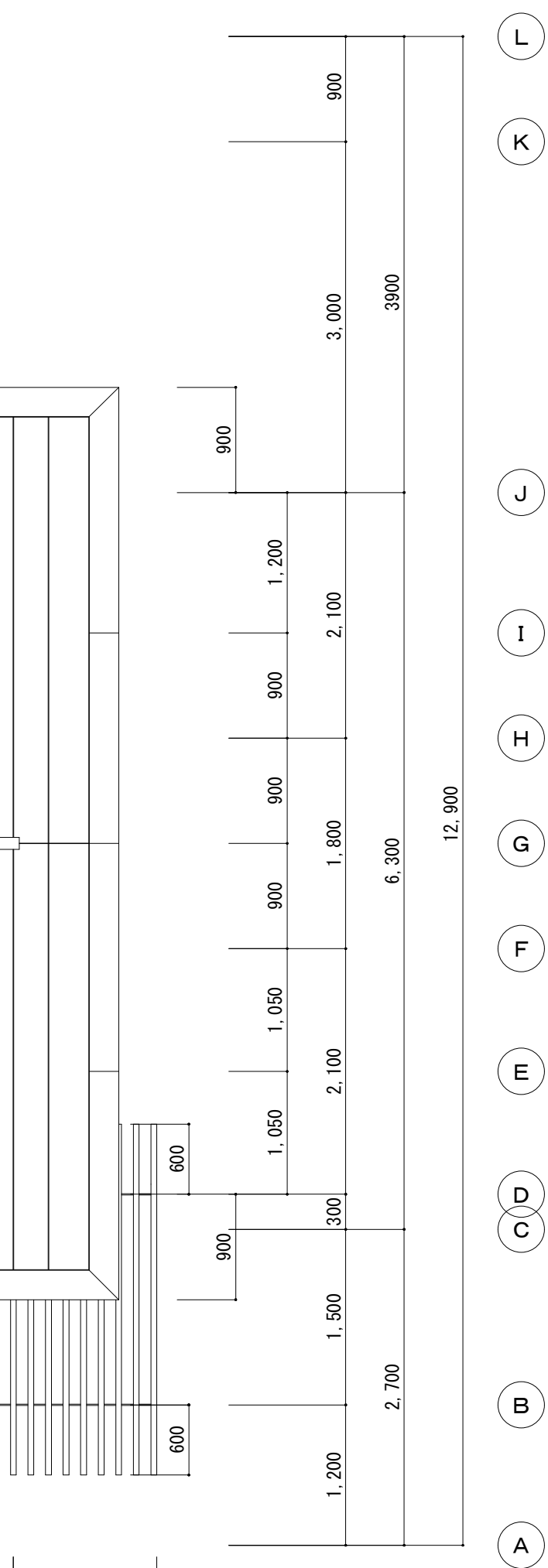
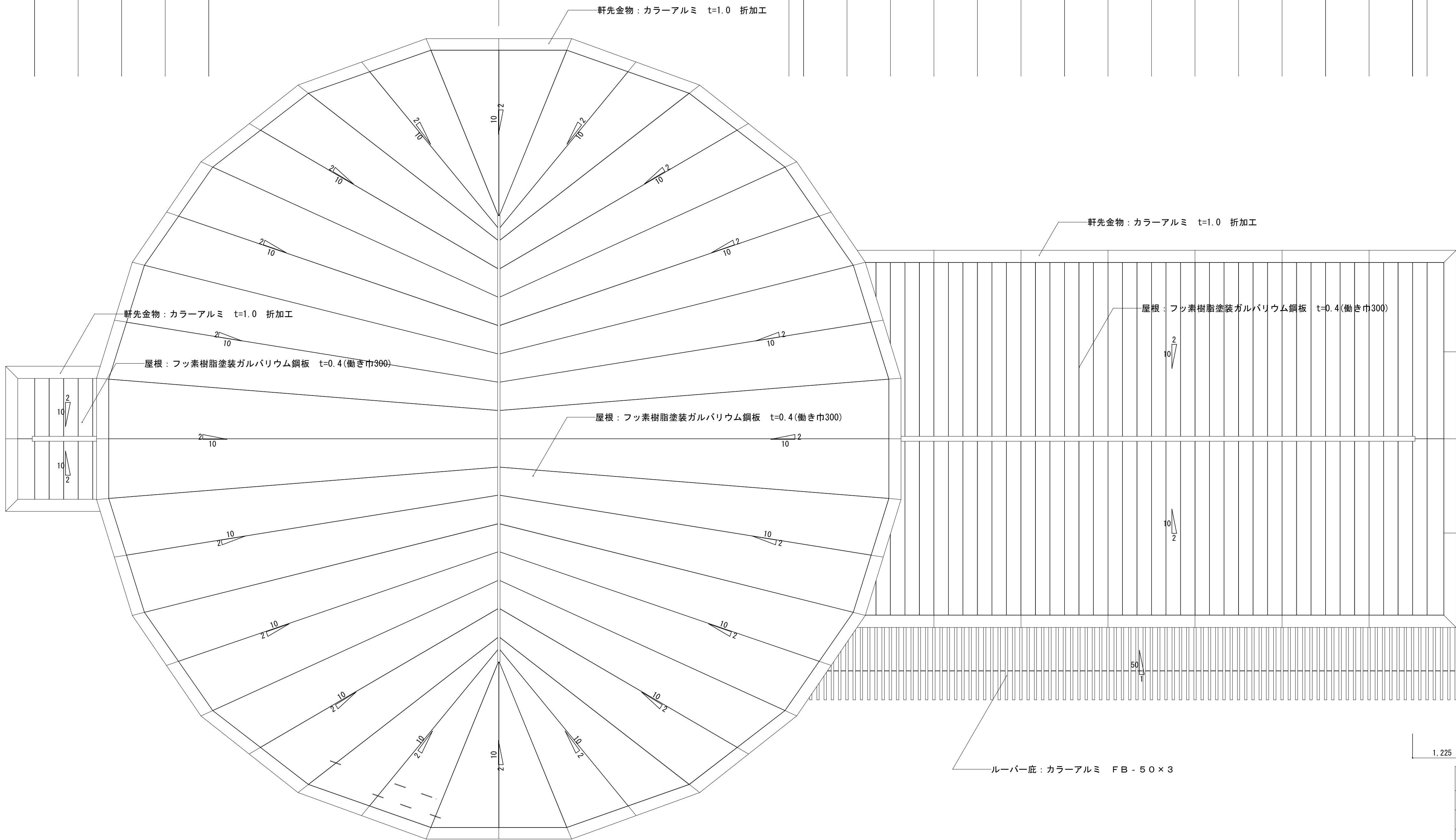
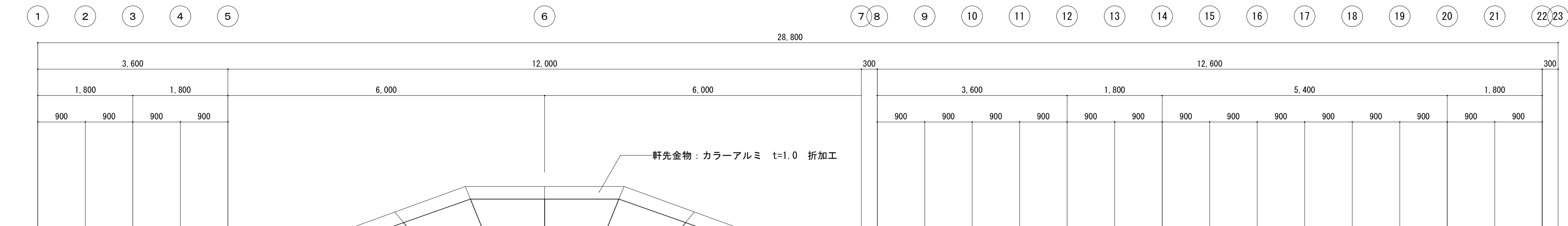
工事名称	道の駅那須高原友愛の森 観光交流センター増築工事		
図面名称/縮尺	増築部西立面図	S= / 1:30	図面番号
設計年月日	平成31年3月		A-22
設計者	一級建築士（第332111号） 神谷 太郎		
発注者	那須町建設課		



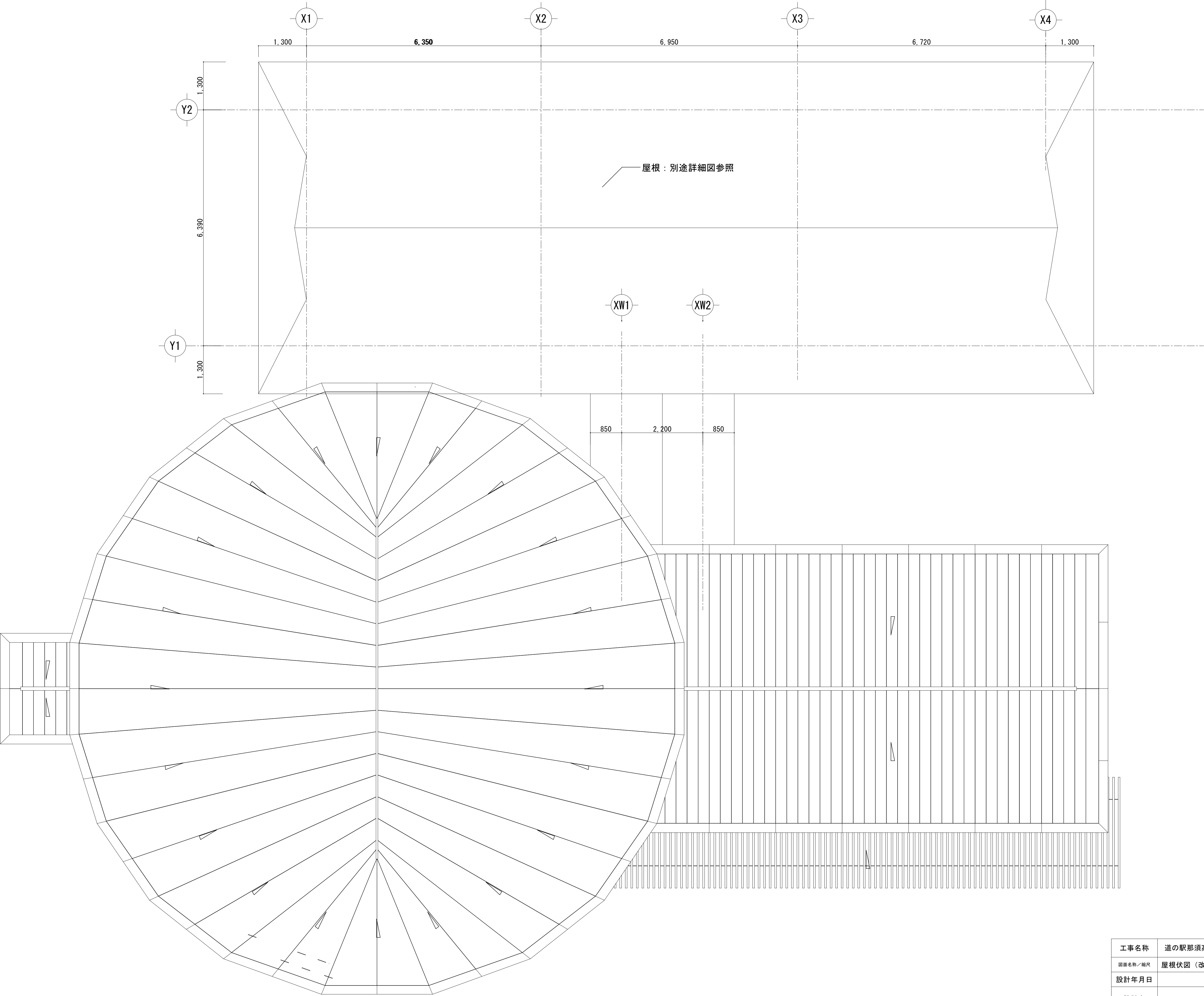
工事名称	道の駅那須高原友愛の森 観光交流センター増築工事	
図面名称/縮尺	増築部矩計図1 (短手方向) S= / 1:20	図面番号
設計年月日	平成31年3月	A-23
設計者	一級建築士 (第332111号) 神谷 太郎	
発注者	那須町建設課	



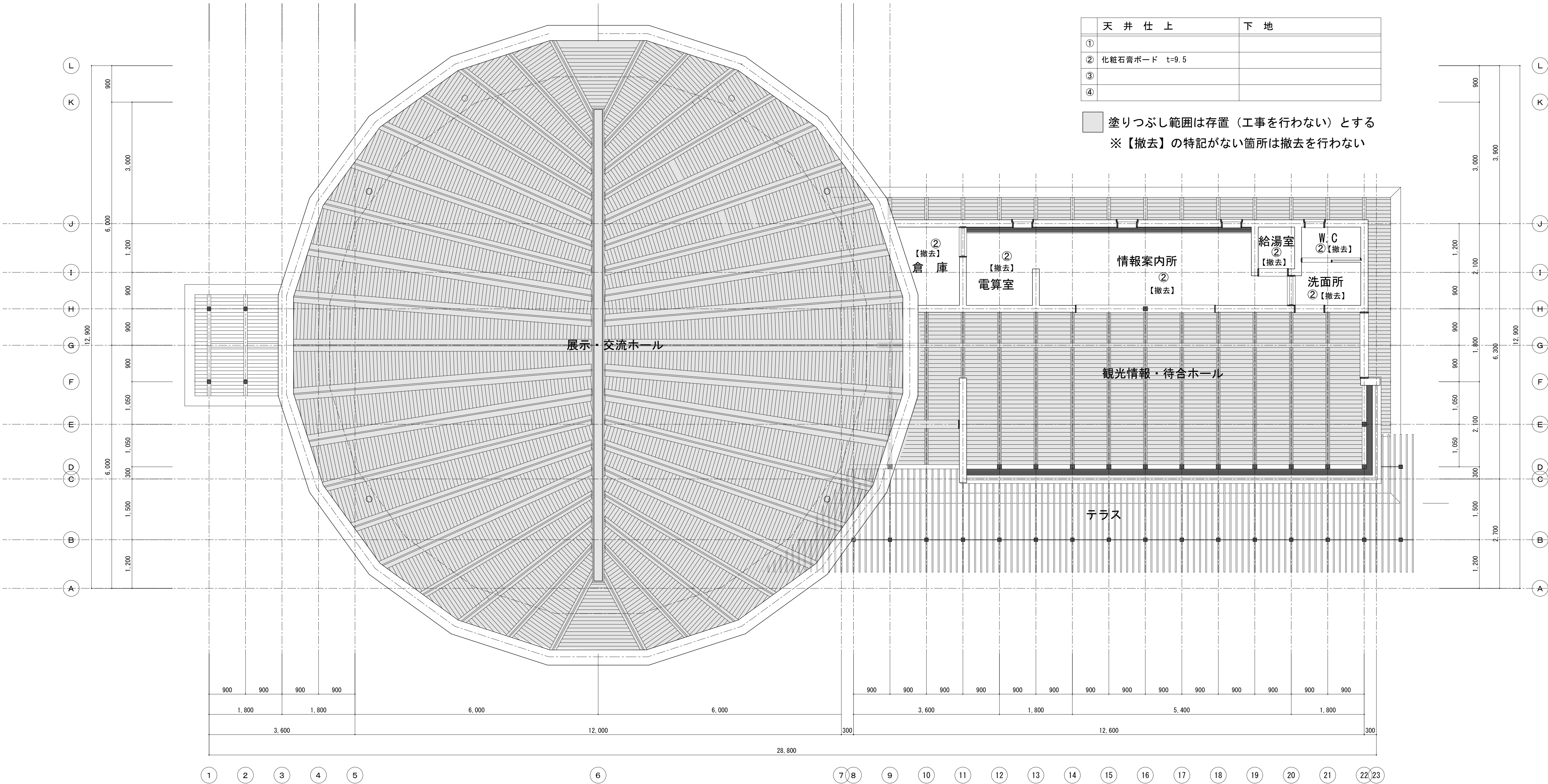
工事名称	道の駅那須高原友愛の森 観光交流センター増築工事		
図面名称／縮尺	増築部矩計図2（長手方向） S＝ / 1:20		図面番号
設計年月日	平成31年3月		A－24
設計者	一級建築士（第69151号） 神谷 太郎		
発注者	那須町建設課		



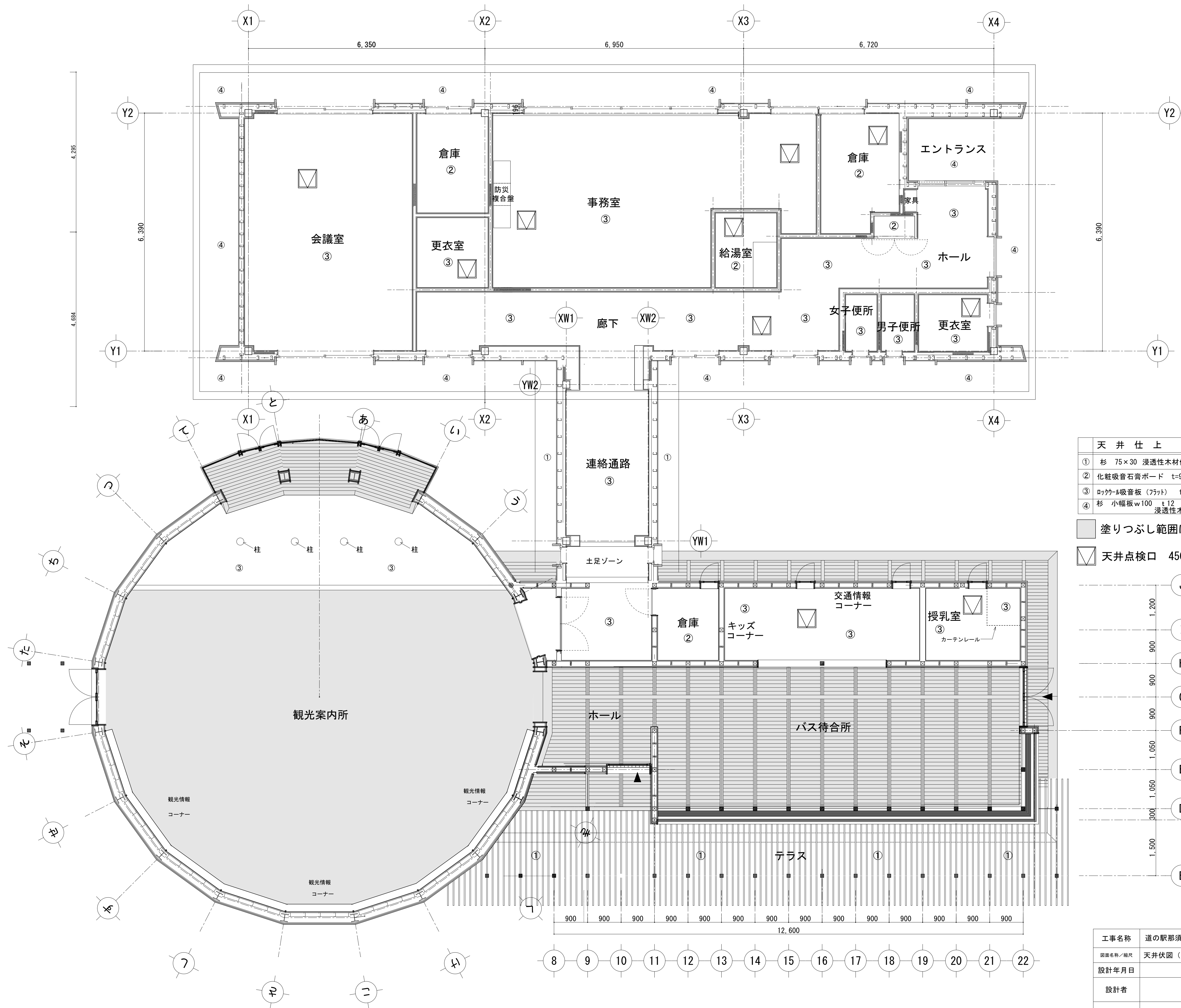
工事名称	道の駅那須高原友愛の森 観光交流センター増築工事	
図面名称／縮尺	屋根伏図（改修前） S＝ / 1:50	図面番号
設計年月日	平成31年3月	A－25
設計者	一級建築士（第332111号） 神谷 太郎	
発注者	那須町建設課	



工事名称	道の駅那須高原友愛の森 観光交流センター増築工事	
図面名称／縮尺	屋根伏図（改修後） S= / 1:50	図面番号
設計年月日	平成31年3月	A－2 6
設計者	一級建築士（第332111号） 神谷 太郎	
発注者	那須町建設課	



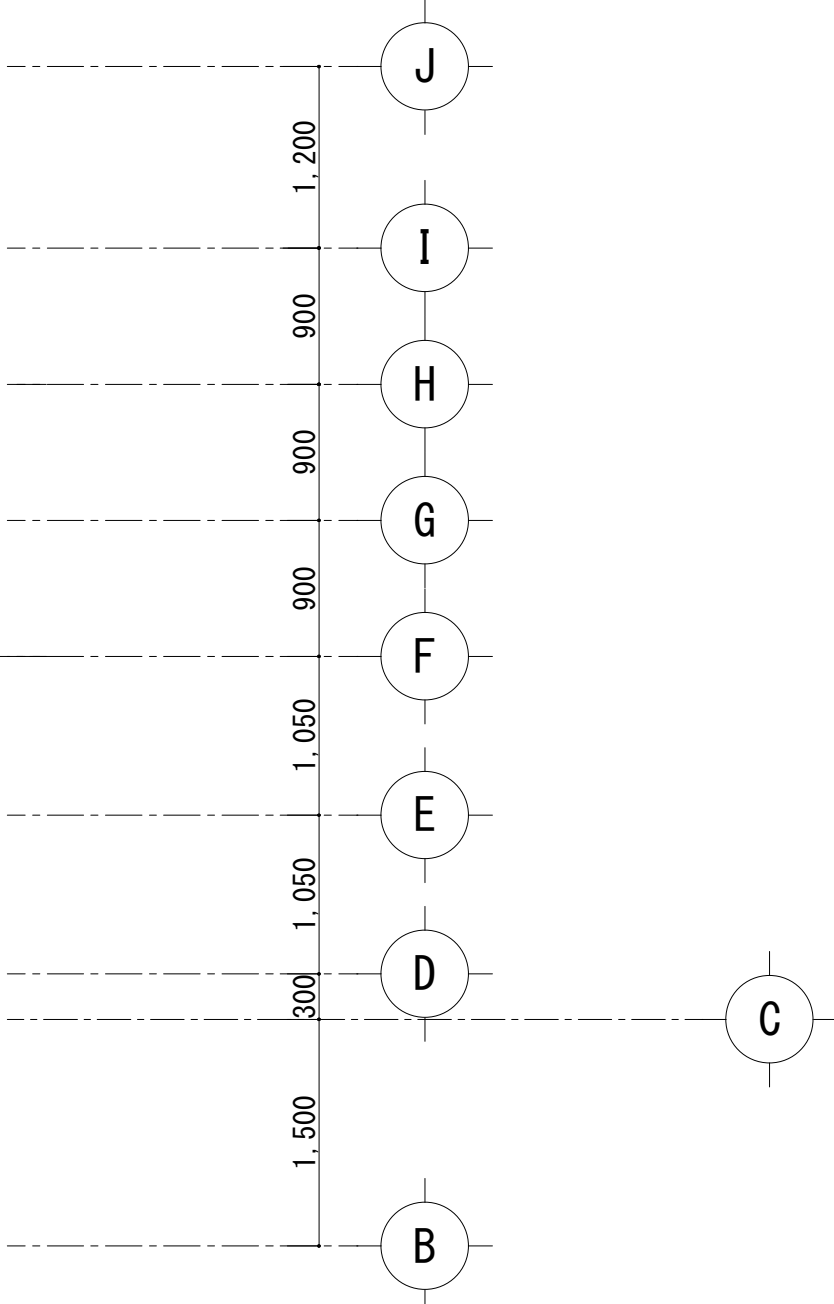
工事名称	道の駅那須高原友愛の森 観光交流センター増築工事	
図面名称／縮尺	天井伏図（改修前） S= / 1:50	図面番号
設計年月日	平成31年3月	A－27
設計者	一級建築士（第332111号） 神谷 太郎	
発注者	那須町建設課	



天井仕上	下地
① 杉 75×30 浸透性木材保護塗材	
② 化粧吸音石膏ボード t=9.5	LGS
③ ロックウール吸音板 (フラット) t=9	LGS+ PB12.5
④ 杉 小幅板w100 t12 浸透性木材保護塗材	LGS + 耐水合板 t9

塗りつぶし範囲は存置（工を行わない）とする

天井点検口 450×450額縁タイプ



工事名称	道の駅那須高原友愛の森 観光交流センター増築工事	
図面名称／縮尺	天井伏図（改修後） S＝ / 1:50	図面番号
設計年月日	平成31年3月	A－28
設計者	一級建築士（第332111号） 神谷 太郎	
発注者	那須町建設課	

改修前

室名	観光情報・待合ホール	CH	3.600
巾木	タイル巾木	H	100
壁 下地 ／ 塗装	①	PB t12.5 2重貼	EP塗装
備考	特記無き限り、全て存置とする		

展開方向 A

改修後

室名	バス待合所	CH	3.600
巾木	タイル	H	100
壁 下地 ／ 塗装	①	—	EP塗装
	②	既存木組 石膏板・t' t=12.5 2重貼 ダイノックシート貼	
備考			

展開方向 A

改修前				改修後				改修前				改修後			
室名	観光情報・待合ホール	CH	3,600	室名	バス待合所	CH	3,600	室名	観光情報・待合ホール	CH	3,600	室名	バス待合所	CH	3,600
巾木		H		巾木	タイル	H		巾木		H		巾木	壁に同じ	H	
壁	下地／塗装			壁	下地／塗装			壁	下地／塗装			壁	下地／塗装		
備考	特記無き限り、全て存置とする 塗りつぶし範囲は存置とする			備考	ブレースは止金物まで塗装 カウンターは表面のみ塗装			備考	特記無き限り、全て存置とする 塗りつぶし範囲は存置とする			備考			
	展開図方向 B				展開図方向 B				展開方向 D				展開方向 D		

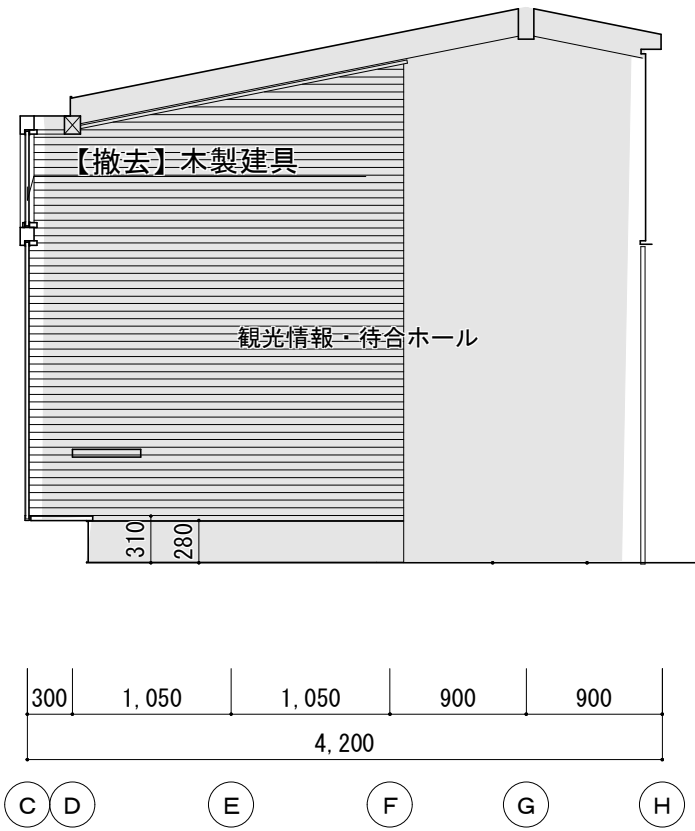
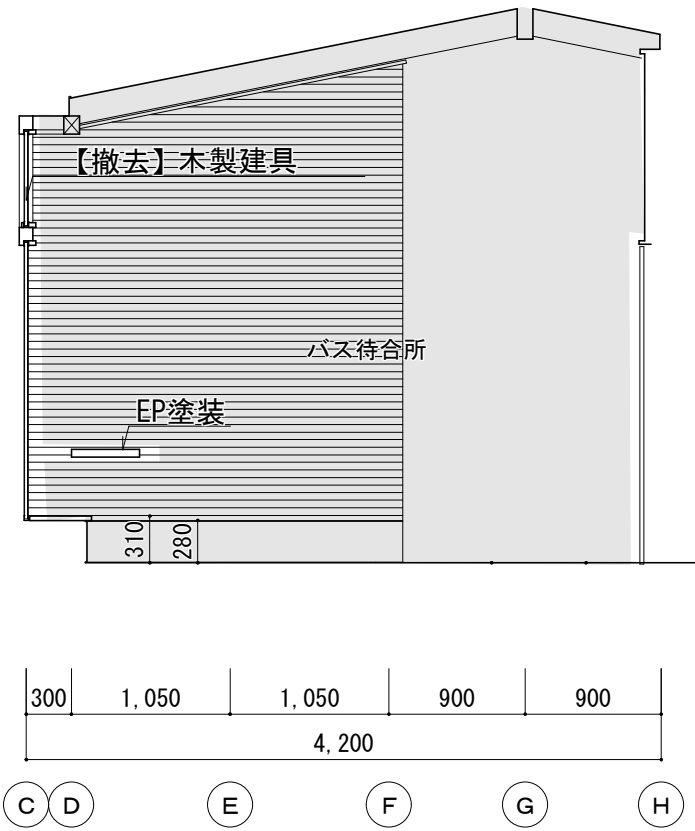
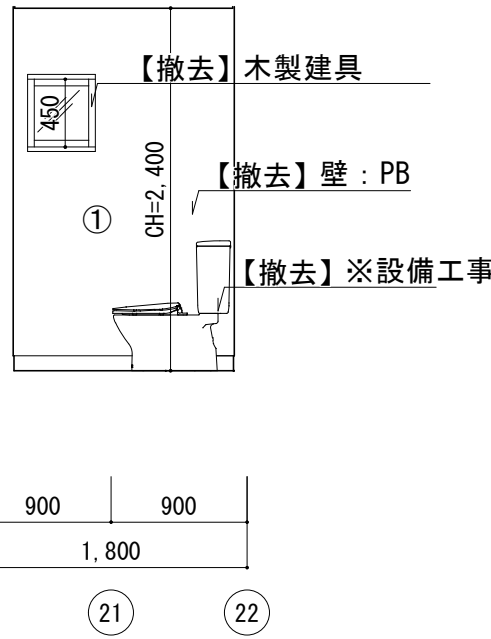
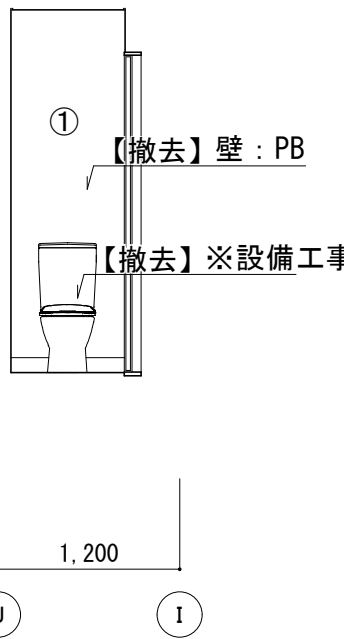
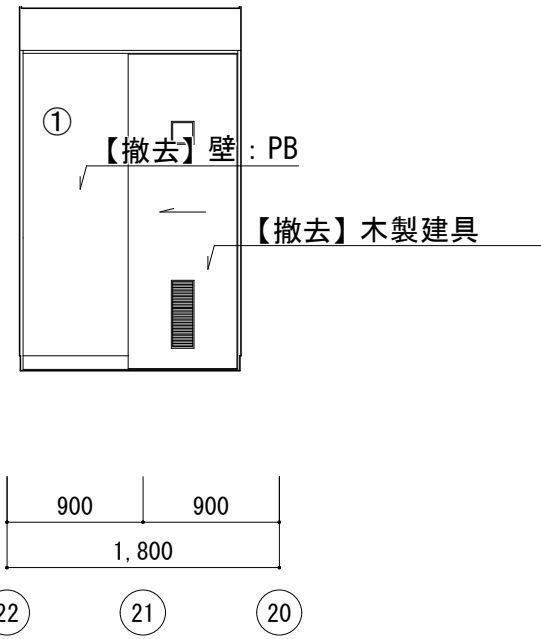
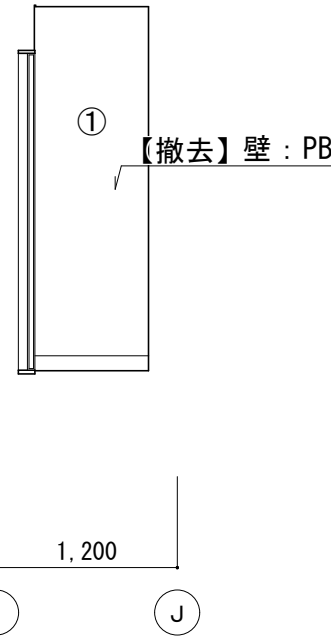
改修前				
室名	観光情報・待合ホール	CH	3.600	
巾木		H		
壁	仕上／塗装			
備考	特記無き限り、全て存置とする 塗りつぶし範囲は存置とする			

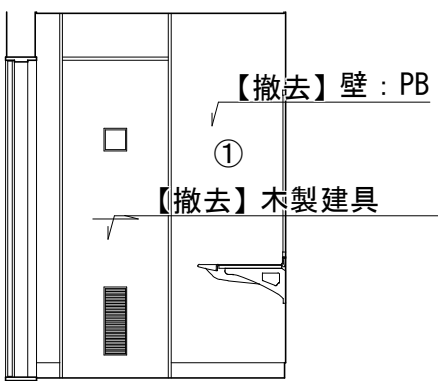
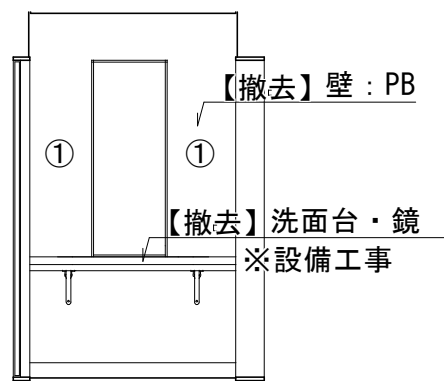
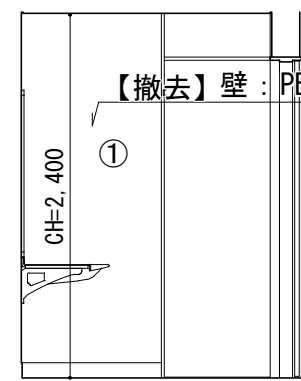
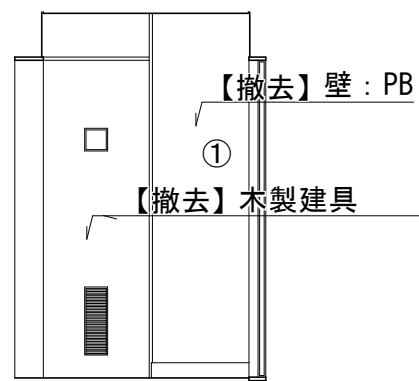
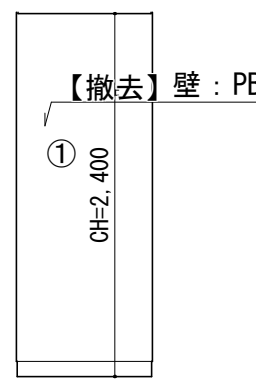
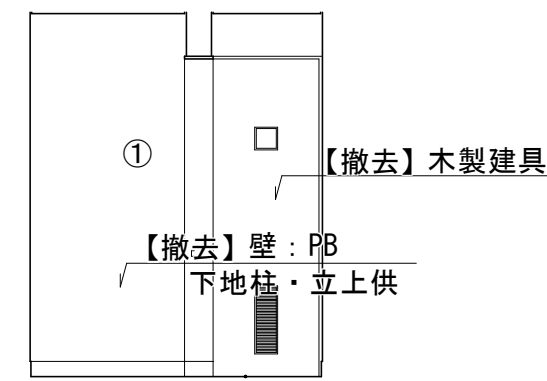
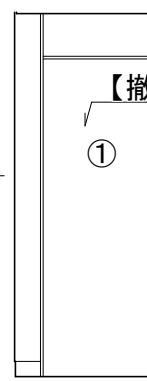
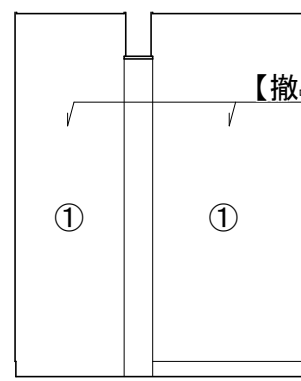
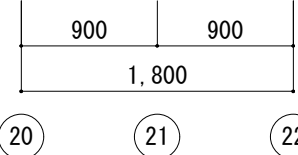
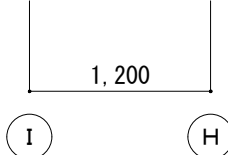
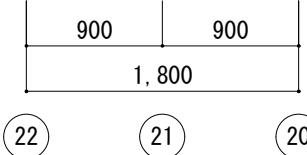
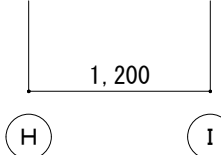
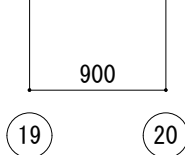
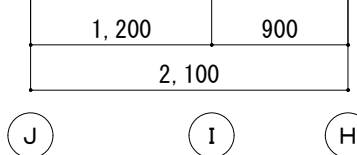
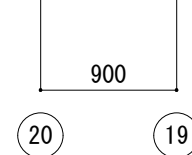
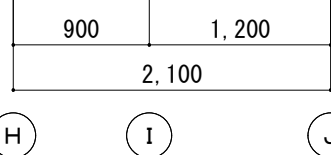
--	--

室名	バス待合所	CH	3.600	
巾木	タイル	H		
壁	仕上／塗装			
備考	ブレースは止金物まで塗装 カウンターは表面のみ塗装			

--	--

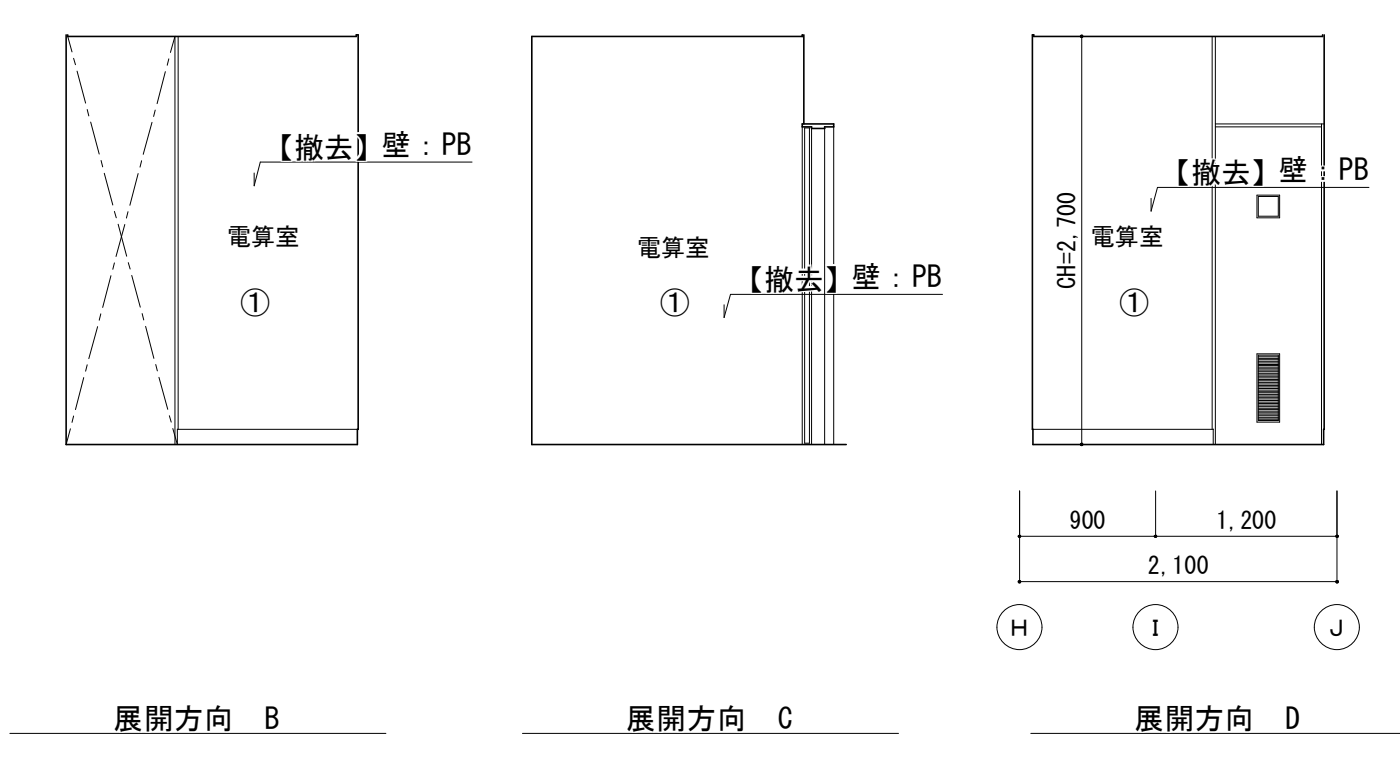
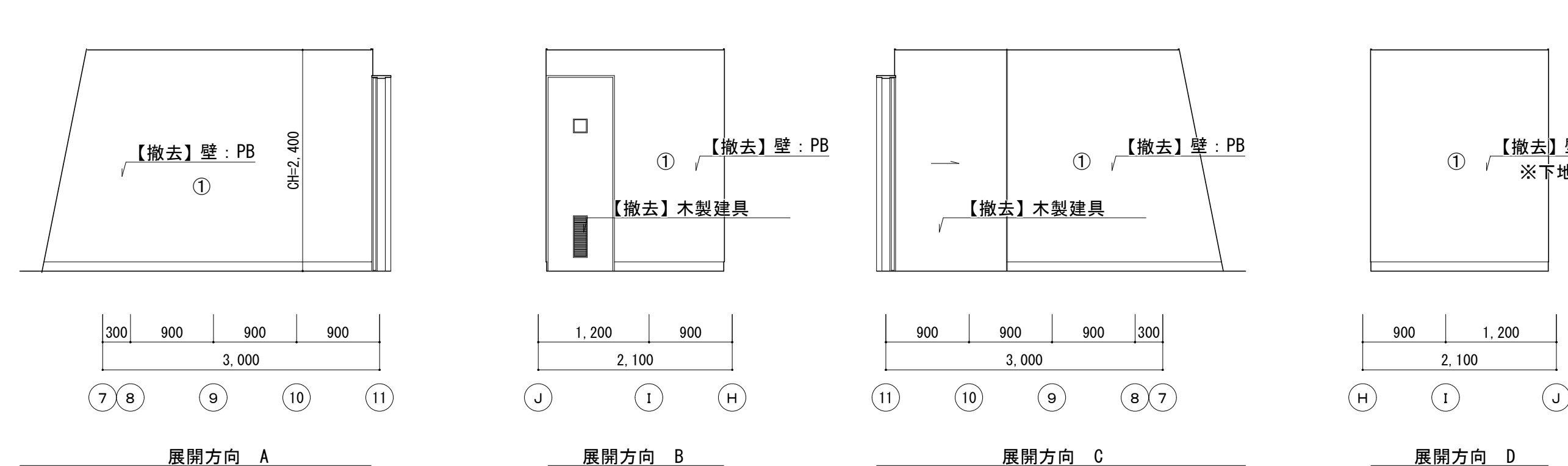
工事名称	道の駅那須須高原友愛の森 観光交流センター増築工事	
図面名称／縮尺	既存部展開図1（バス待合所） S= / 1:50	図面番号
設計年月日	平成31年3月	A－29
設計者	一級建築士（第332111号） 神谷 太郎	
発注者	那須町建設課	

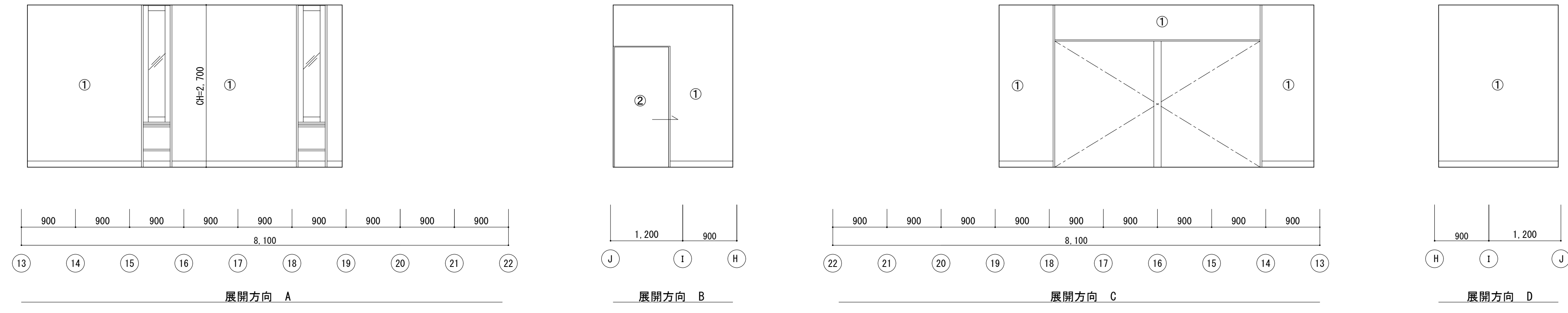
改修前										改修後										改修前									
室名	観光情報・待合ホール			CH	3,600		室名	バス待合			CH	3,600		室名	W・C			CH	2,400										
巾木				H			巾木	タイル			H			巾木				H	100										
壁	下地	仕上／塗装					壁	下地	仕上／塗装					壁	下地	仕上／塗装													
備考	特記無き限り、全て存置とする 塗りつぶし範囲は存置とする																												

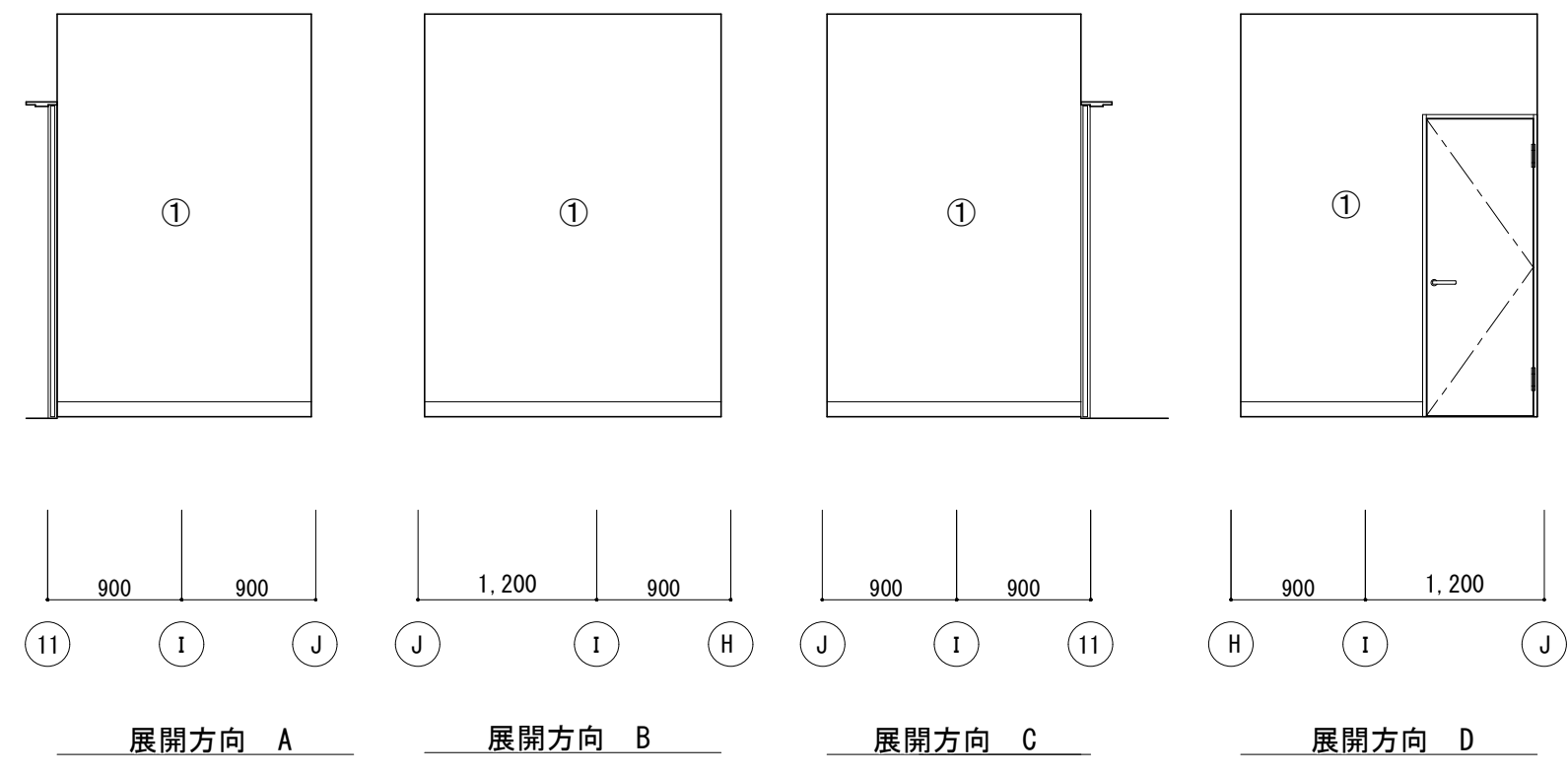
バス待合所 展開図										改修前										S=1/50									
改修前					改修前					改修前					改修前														
室名		洗面コーナー			CH		2,400			室名		給湯室			CH		2,400			室名		給湯室			CH		2,400		
巾木					H		100			巾木					H		100			巾木					H		100		
壁	下地	仕上／ 塗装	①	PB t 12.5 2重貼		EP塗装			①	PB t 12.5 2重貼	EP塗装	①	CH=2,400	【撤去】壁：PB	①	【撤去】壁：PB	①	【撤去】壁：PB	①	【撤去】壁：PB	①	【撤去】壁：PB	①	【撤去】壁：PB	①	【撤去】壁：PB	①	【撤去】壁：PB	①
備考		特記無き限り、全て存置とする 塗りつぶし範囲は存置とする																											
																													
展開方向 A			展開方向 B			展開方向 C			展開方向 D			展開方向 A			展開方向 B			展開方向 C			展開方向 D								

バス待合所 展開図										S=1/50
改修前										
室名	情報案内所				CH	2,700				
巾木	木製巾木				H	100				
壁 下 地 仕 上 ／ 塗 装	①	PB×12.5 2重貼		EP塗装						
備考	特記無き限り、全て存置とする									
	塗りつぶし範囲は存置とする									

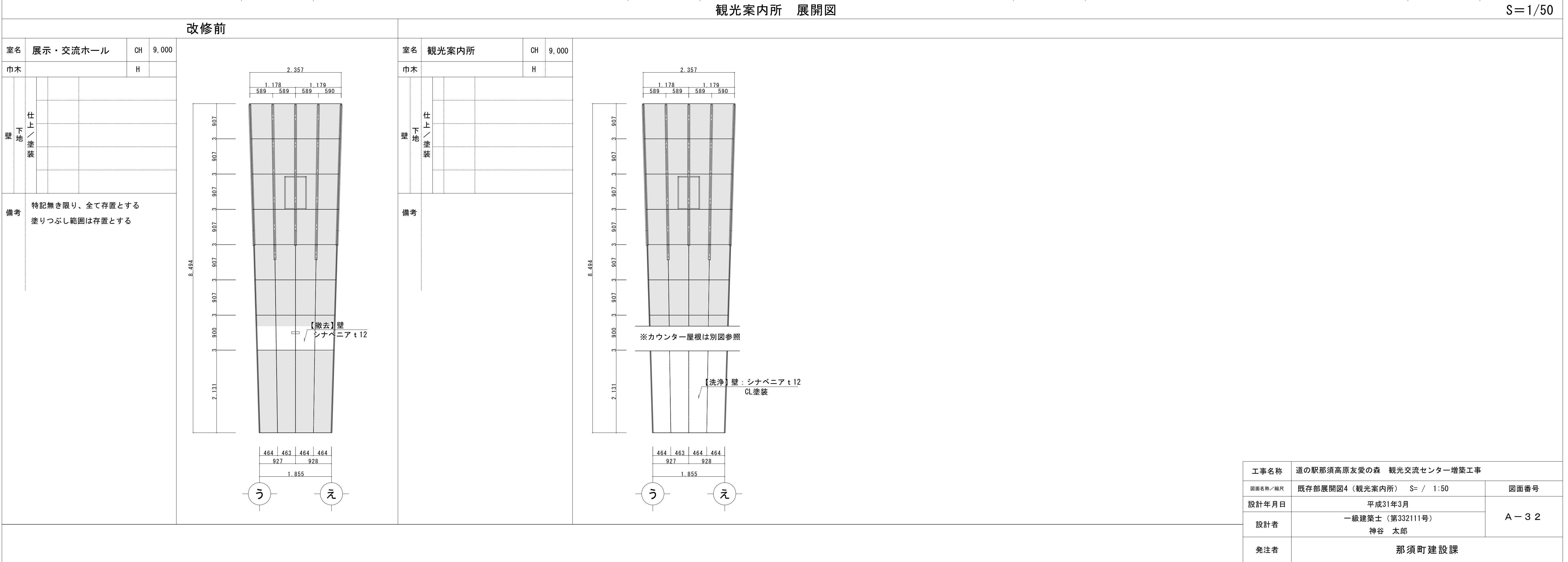
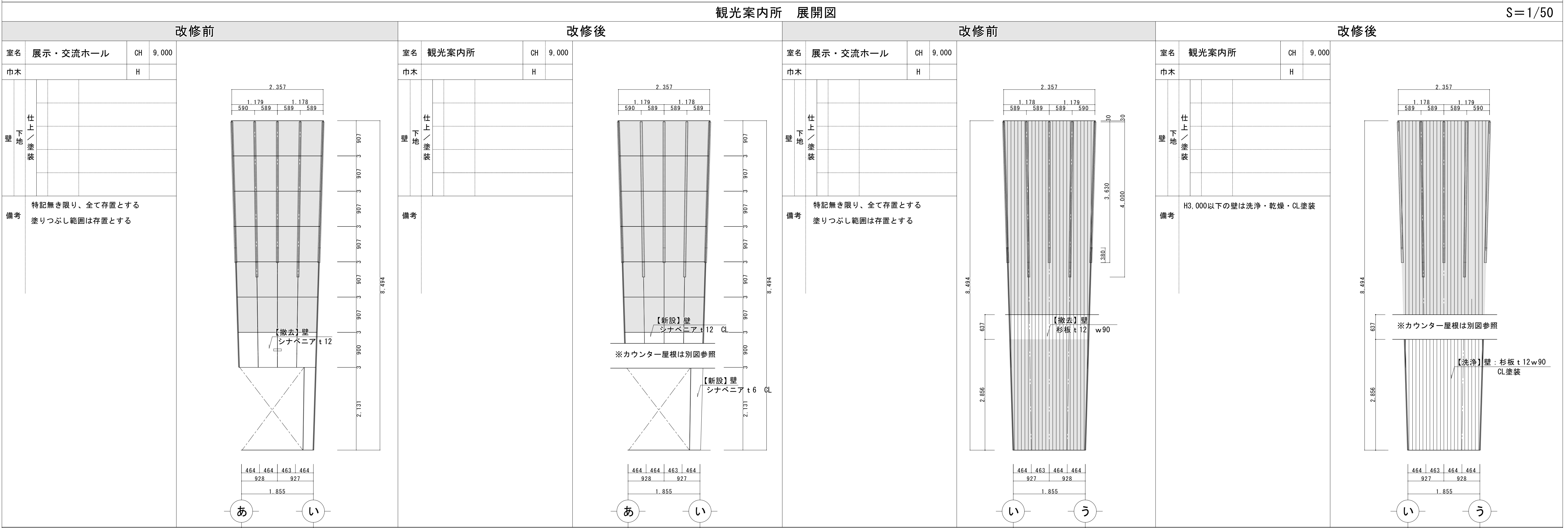
工事名称	道の駅那須高原友愛の森 観光交流センター増築工事	
図面名称／縮尺	既存部展開図2（バス待合所） S＝ / 1:50	図面番号
設計年月日	平成31年3月	A－3 O
設計者	一級建築士（第332111号） 神谷 太郎	
発注者	那須町建設課	

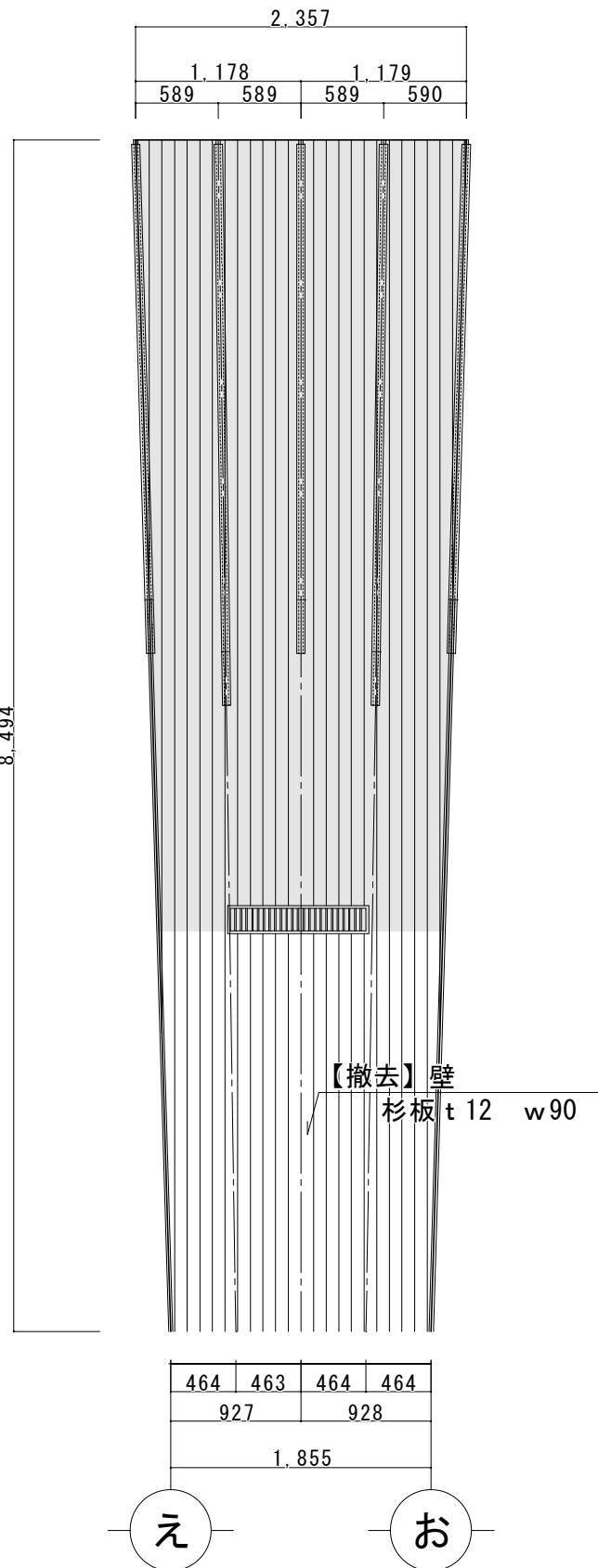
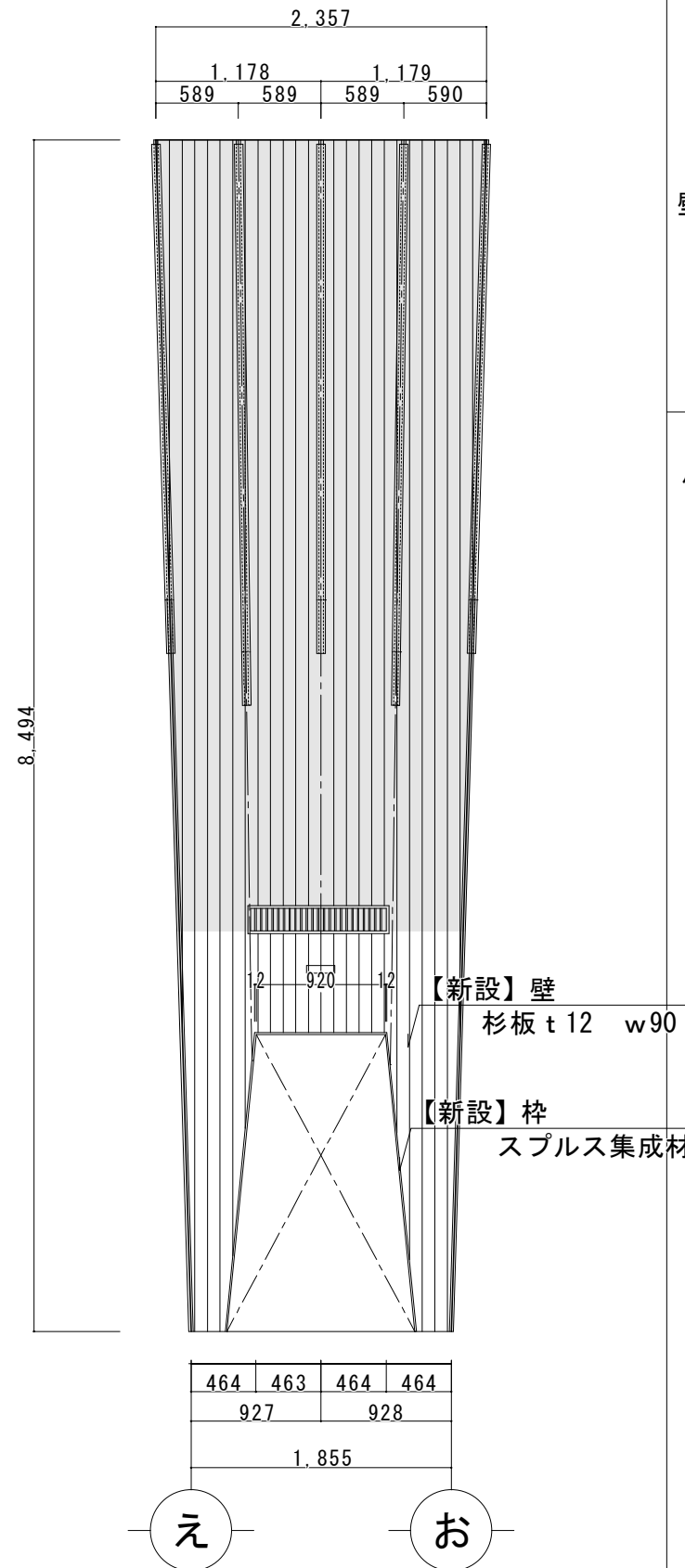
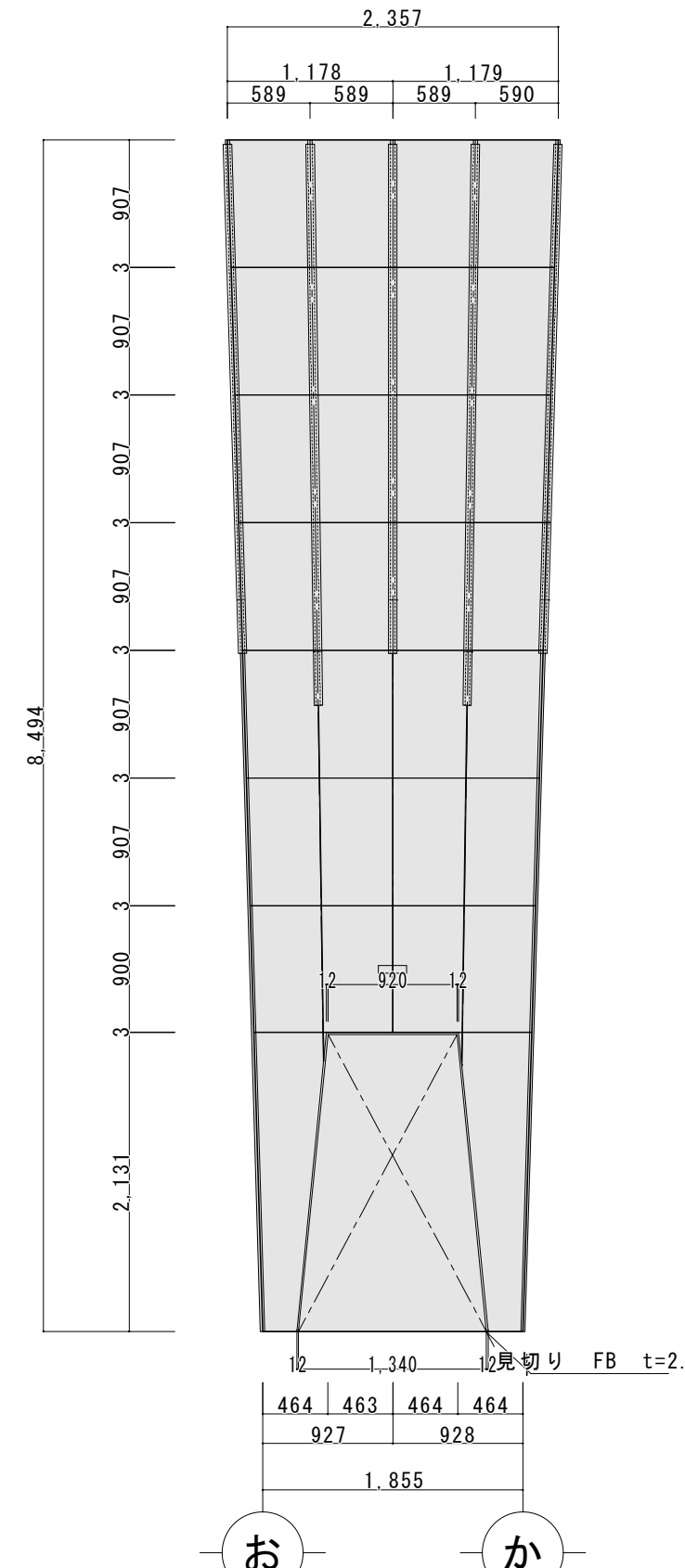
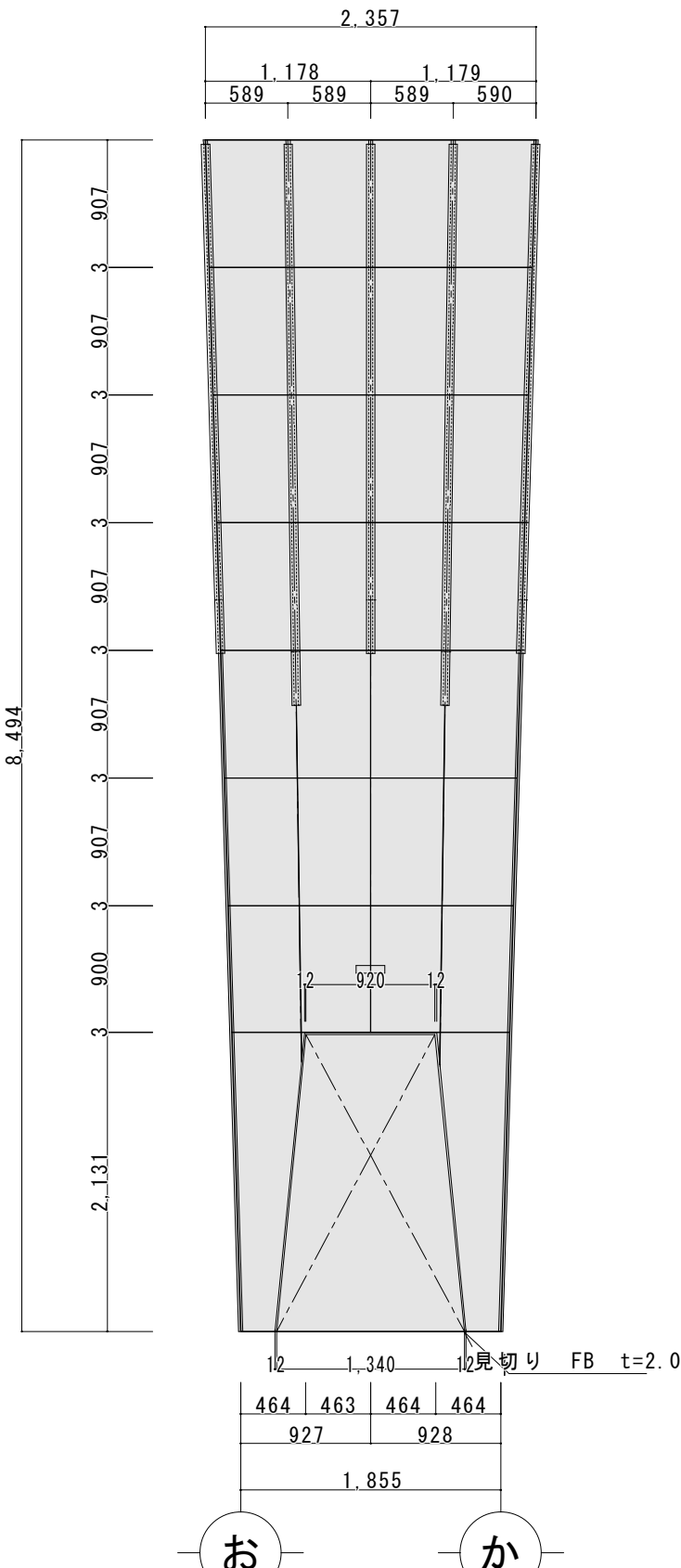
改修前				バス待合所 展開図				改修前				S=1/50					
室名	電算室		CH	2,700	室名	倉庫		CH	2,400								
巾木			H	100	巾木			H	100								
壁 仕上／ 塗装	①	PB t 12.5 2重貼	EP塗装		①	PB t 12.5 2重貼	EP塗装										
備考	特記無き限り、全て存置とする 塗りつぶし範囲は存置とする				特記無き限り、全て存置とする 塗りつぶし範囲は存置とする												
																	

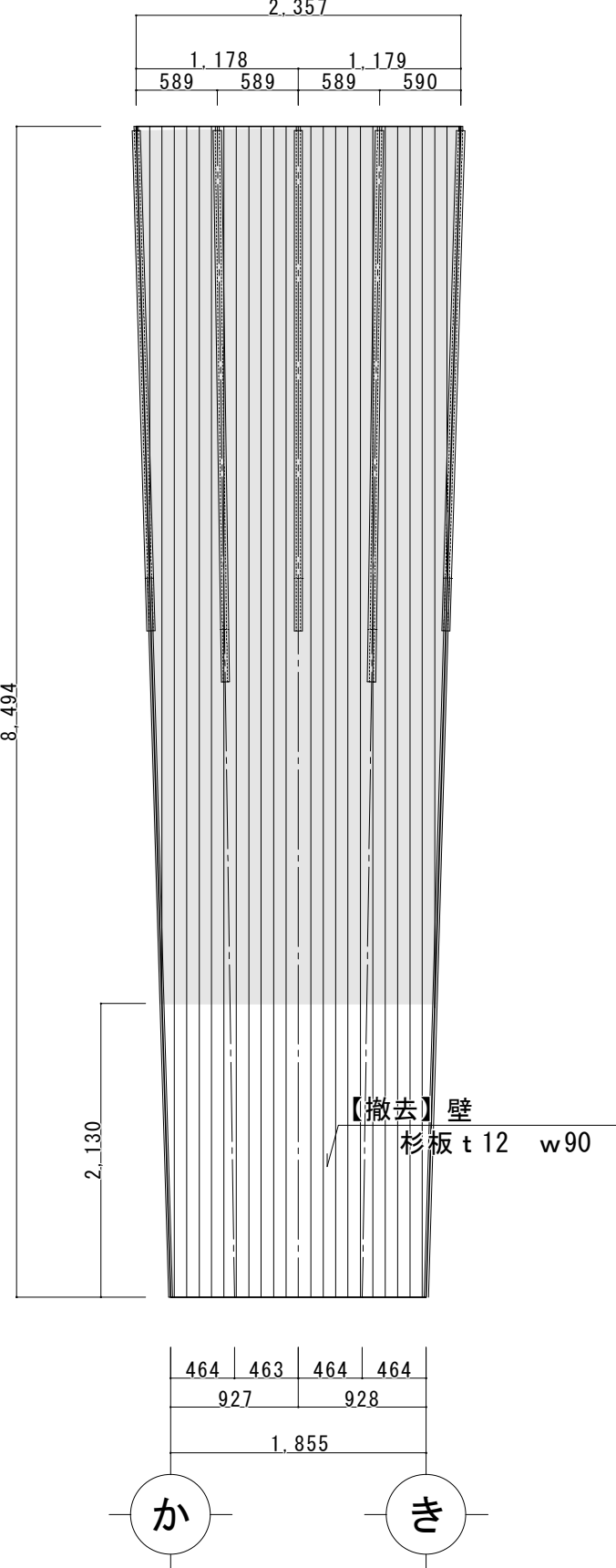
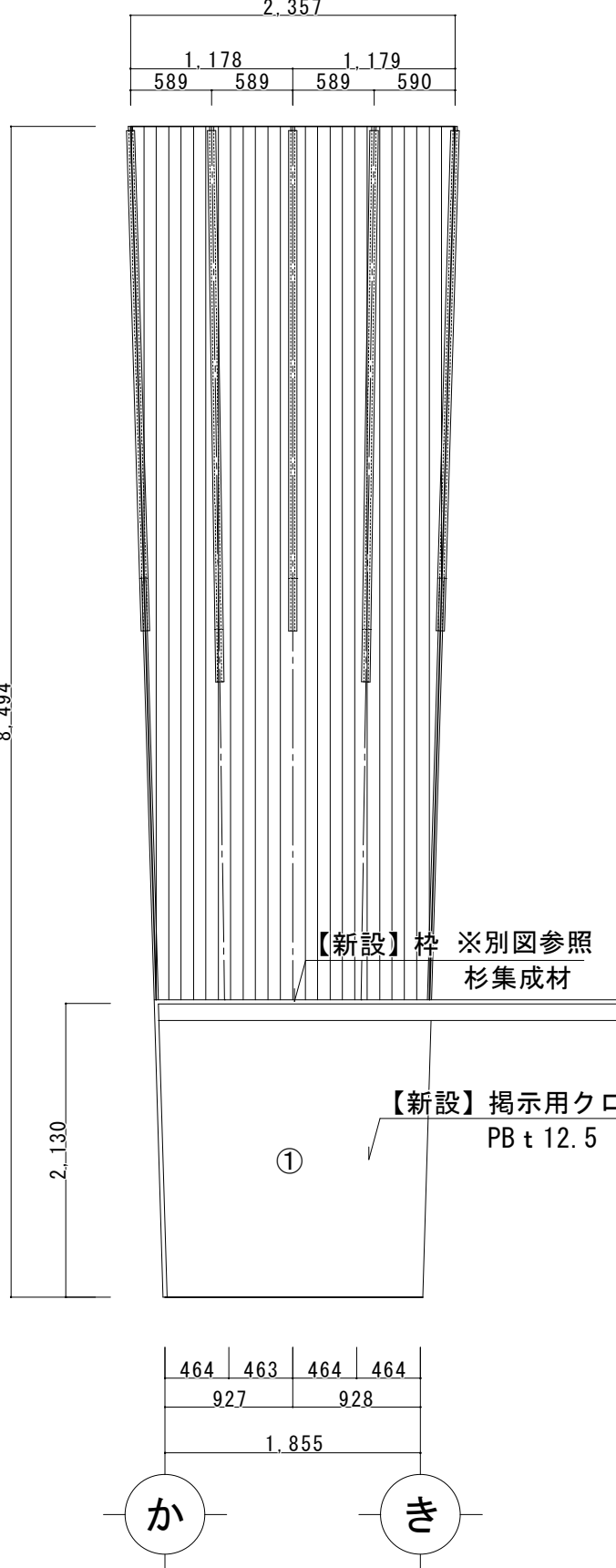
改修後				改修後			
室名	バス待合 (交通情報コーナー)	CH	2,560 4,120	室名	授乳室	CH	2500
巾木	木製幅木	H	100	巾木	塩ビ	H	100
壁	① 既存木組 ② 石膏ボード t=12.5 2重貼 ダイノックシート貼 木製建具			壁	① PB t 12.5 2重貼 仕上／塗装 ② 木製建具		
備考				備考	カーテンレール ベビーベット		

改修後				改修後			
室名	倉庫	CH	2500	室名	授乳室	CH	2500
巾木	塩ビ	H	100	巾木	塩ビ	H	100
壁	① PB t 12.5 2重貼 仕上／塗装	EP塗装		壁	① PB t 12.5 2重貼 仕上／塗装 ② 木製建具		
備考				備考	カーテンレール ベビーベット		

工事名称	道の駅那須高原友愛の森 観光交流センター増築工事	
図面名称／縮尺	既存部展開図3（バス待合所） S= / 1:50	図面番号
設計年月日	平成31年3月	A－3 1
設計者	一級建築士（第332111号） 神谷 太郎	
発注者	那須町建設課	



改修前				改修後			
室名	展示・交流ホール	CH	9,000	室名	観光案内所	CH	9,000
巾木		H		巾木		H	
壁	仕上／塗装 下地			壁	仕上／塗装 下地		
備考	特記無き限り、全て存置とする 塗りつぶし範囲は存置とする			備考	備考		
							
							

改修前				改修後			
室名	展示・交流ホール	CH	9,000	室名	観光案内所	CH	9,000
巾木		H		巾木		H	
壁 下地	仕上／塗装			壁 下地	仕上／塗装	①	PB t 12.5 ソフトベニア t 6 掲示用クロス (サンフォームコルク同等品)
備考	特記無き限り、全て存置とする 塗りつぶし範囲は存置とする			備考			
							

工事名称	道の駅那須高原友愛の森 観光交流センター増築工事		
図面名称／縮尺	既存部展開図5（観光案内所） S= / 1:50	図面番号	
設計年月日	平成31年3月		A－3 3
設計者	一級建築士（第332111号） 神谷 太郎		
発注者	那須町建設課		

工事名称	道の駅那須高原友愛の森 観光交流センター増築工事	
図面名称／縮尺	既存部展開図5（観光案内所） S= / 1:50	図面番号
設計年月日	平成31年3月	A-33
設計者	一級建築士（第332111号） 神谷 太郎	
発注者	那須町建設課	

改修前

室名	展示・交流ホール	CH	9,000
巾木		H	
壁	仕上／塗装 下地		
備考	特記無き限り、全て存置とする 塗りつぶし範囲は存置とする		

2,357

1,178

589

1,179

590

8,494

2,131

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

3,907

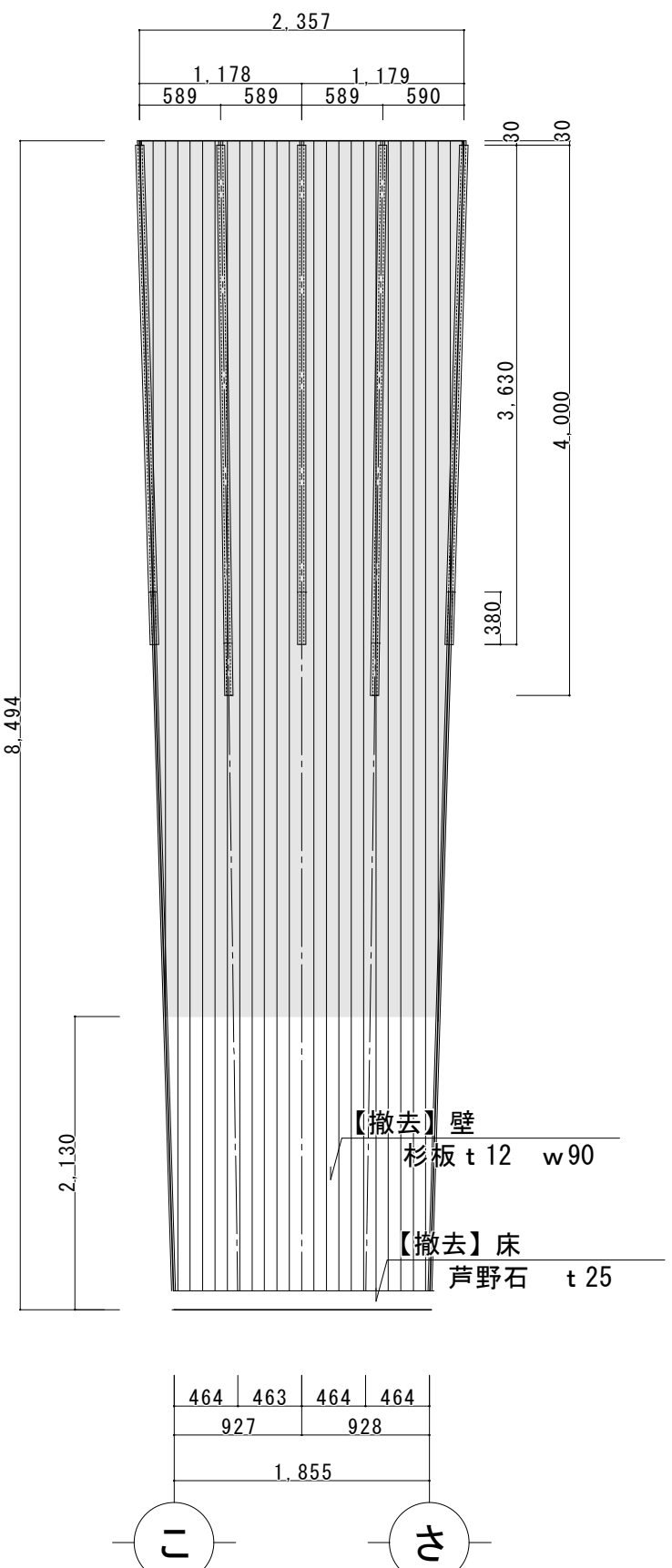
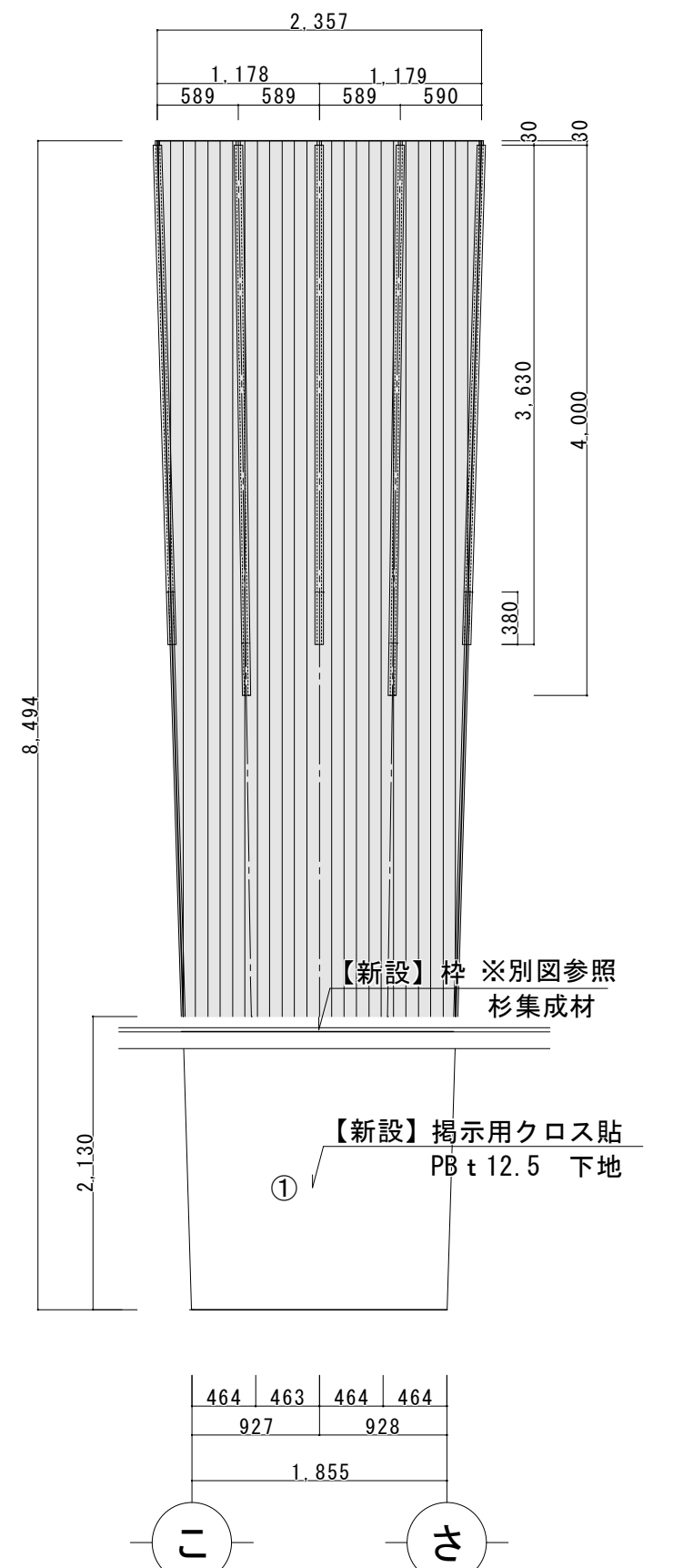
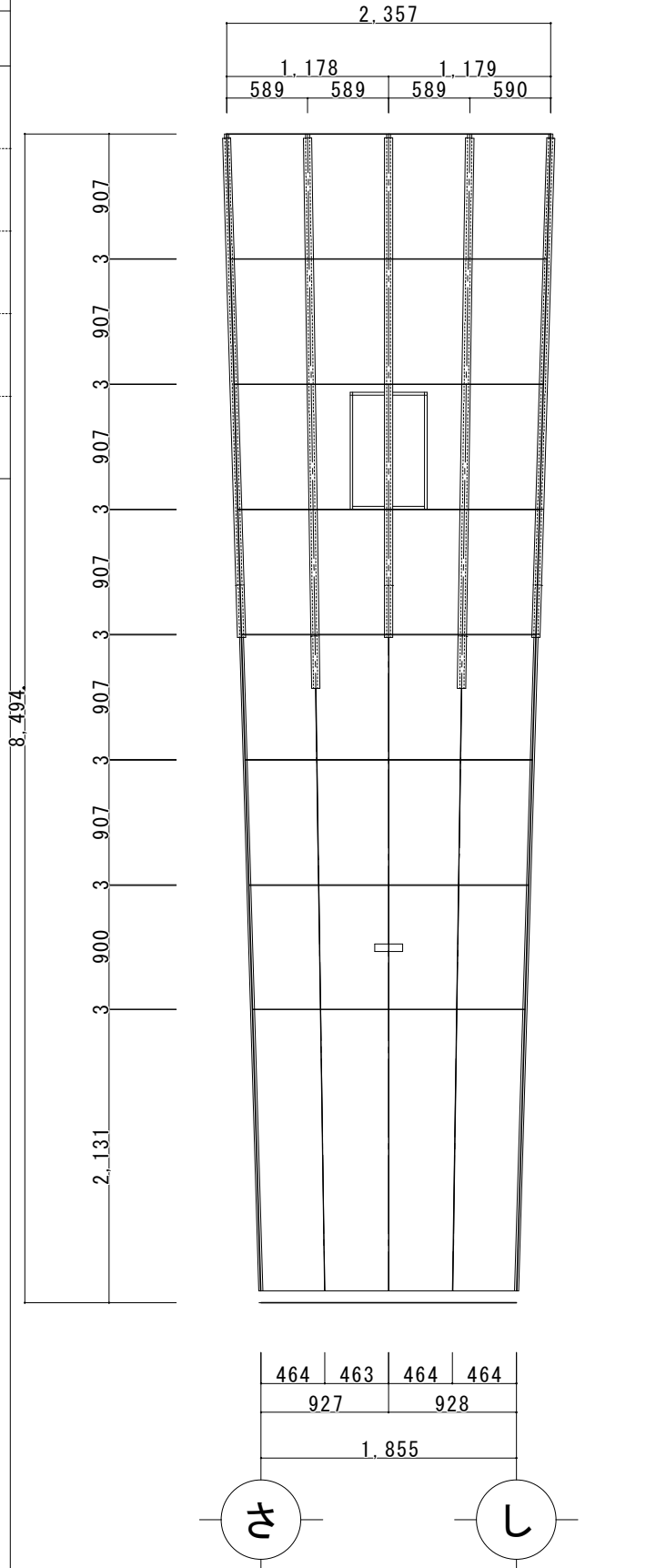
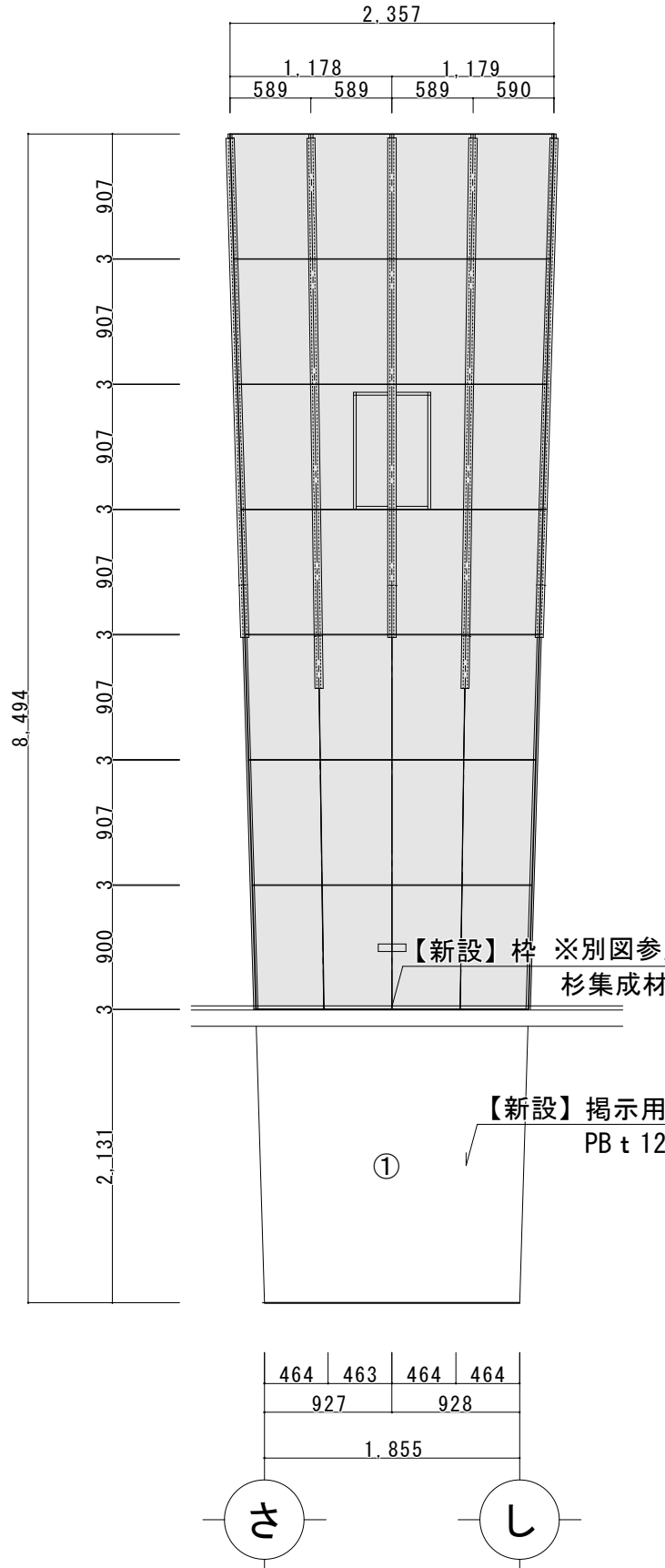
3,907

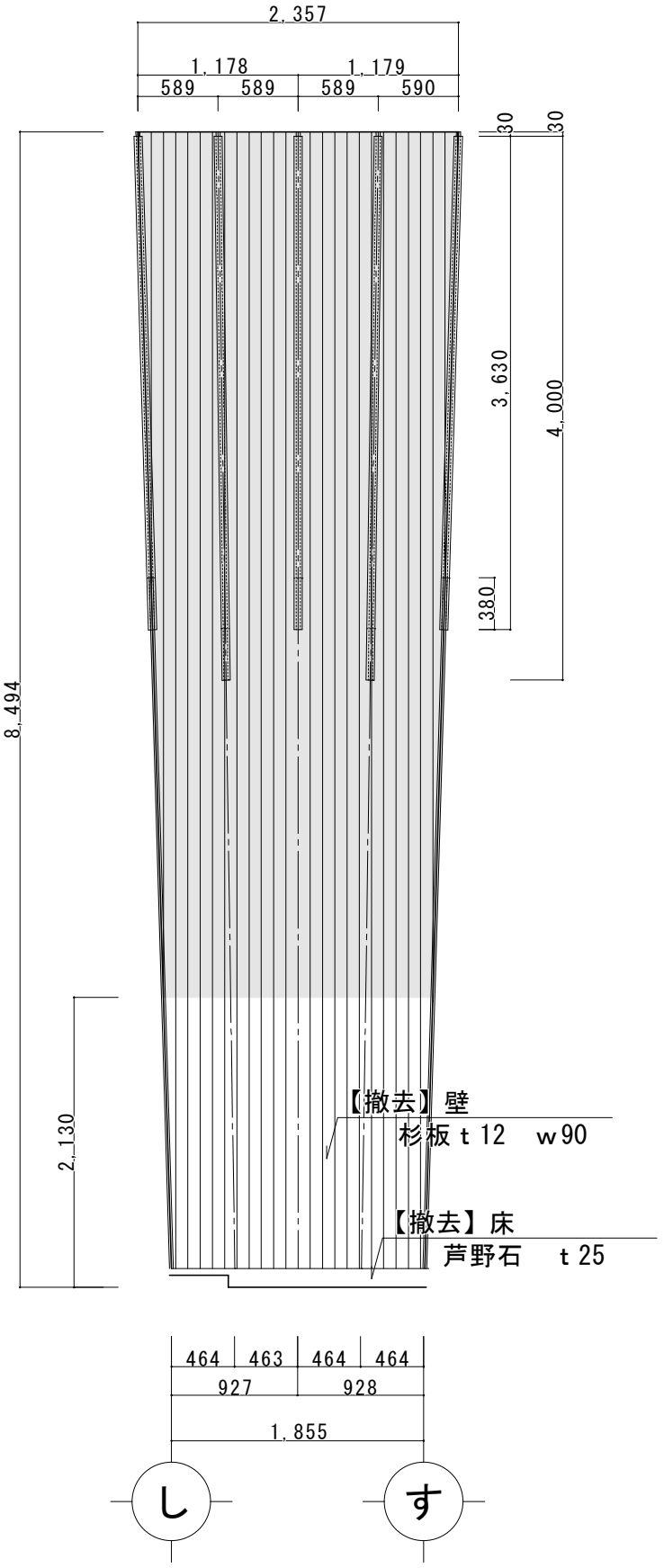
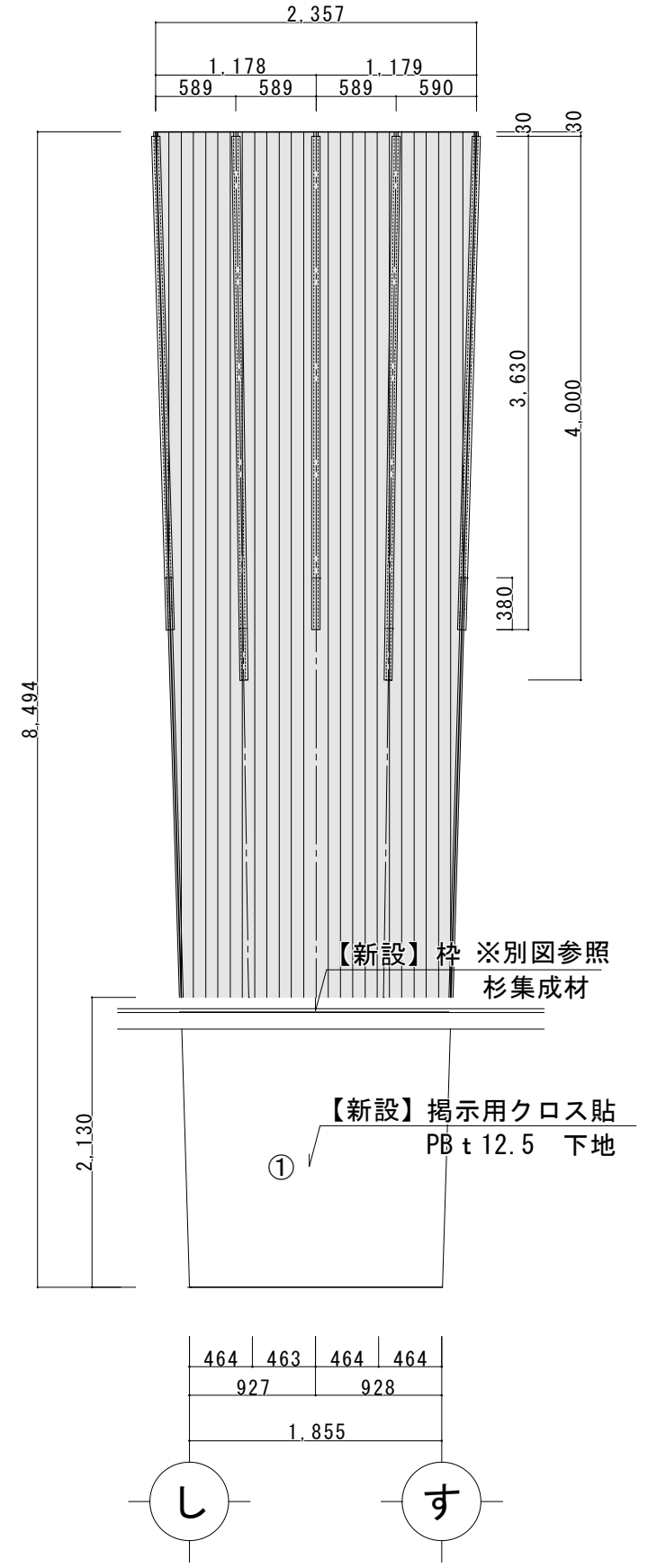
3,907

3

改修前				改修後			
室名	展示・交流ホール	CH	9,000	室名	観光案内所	CH	9,000
巾木		H		巾木		H	
壁	仕上／ 下地 塗装			壁	仕上／ 下地 塗装		
備考	特記無き限り、全て存置とする 塗りつぶし範囲は存置とする			備考			
</							

工事名称	道の駅那須高原友愛の森 観光交流センター増築工事	
図面名称／縮尺	既存部展開図6（観光案内所） S= / 1:50	図面番号
設計年月日	平成31年3月	A-34
設計者	一級建築士（第332111号） 神谷 太郎	
発注者	那須町建設課	

改修前				改修後				改修前				改修後			
室名	展示・交流ホール	CH	9,000	室名	観光案内所	CH	9,000	室名	展示・交流ホール	CH	9,000	室名	2階大会議室	CH	3,990
巾木		H		巾木		H		巾木		H		巾木	ｽﾌﾟﾙｽﾞ集成材 CL塗装	H	100
壁	仕上／塗装 下地			壁	仕上／塗装 下地			壁	仕上／塗装 下地			壁	仕上／塗装 下地		
備考 特記無き限り、全て存置とする 塗りつぶし範囲は存置とする				備考				備考 特記無き限り、全て存置とする 塗りつぶし範囲は存置とする				備考 特記無き限り、全て新設とする			
															

改修前					改修後							
室名	展示・交流ホール			CH	9.000		室名	観光案内所		CH	9.000	
巾木				H			巾木			H		
壁	仕上／ 下地／ 塗装				壁	仕上／ 下地／ 塗装	① PB t 12.5 ソフトベニア t 6 掲示用クロス (サンフォームコルク同等品)					
備考	特記無き限り、全て存置とする 塗りつぶし範囲は存置とする				備考							
												
464463464464 927928 1.855 しす					464463464464 927928 1.855 しす							

工事名称	道の駅那須高原友愛の森 観光交流センター増築工事	
図面名称／縮尺	既存部展開図7（観光案内所） S= / 1:50	図面番号
設計年月日	平成31年3月	A－3 5
設計者	一級建築士（第332111号） 神谷 太郎	
発注者	那須町建設課	

工事名称	道の駅那須高原友愛の森 観光交流センター増築工事	
図面名称／縮尺	既存部展開図7（観光案内所） S= / 1:50	図面番号
設計年月日	平成31年3月	A-35
設計者	一級建築士（第332111号） 神谷 太郎	
発注者	那須町建設課	

改修前					改修後					改修前					改修後				
室名	展示・交流ホール	CH	9.000	8.494 2.131	室名	観光案内所	CH	9.000	8.494 2.131	室名	展示・交流ホール	CH	9.000	8.494 2.130	室名	観光案内所	CH	9.000	8.494 2.130
巾木		H			巾木		H			巾木		H			巾木		H		
壁	仕上／塗装 下地				壁	仕上／塗装 下地				壁	仕上／塗装 下地				壁	仕上／塗装 下地			
備考	特記無き限り、全て存置とする 塗りつぶし範囲は存置とする				備考					備考	特記無き限り、全て存置とする 塗りつぶし範囲は存置とする				備考				

改修前						改修後					
室名	展示・交流ホール		CH	9,000		室名	観光案内所		CH	9,000	
巾木			H			巾木			H		
壁 下地 仕上／塗装						壁 下地 仕上／塗装					
備考	特記無き限り、全て存置とする 塗りつぶし範囲は存置とする					備考	H3,000以下の壁は洗浄・乾燥・CL塗装				
そ た						そ た					

工事名称	道の駅那須高原友愛の森 観光交流センター増築工事		
図面名称／縮尺	既存部展開図8（観光案内所） S= / 1：50	図面番号	
設計年月日	平成31年3月		A－36
設計者	一級建築士（第332111号） 神谷 太郎		
発注者	那須町建設課		

工事名称	道の駅那須高原友愛の森 観光交流センター増築工事		
図面名称／縮尺	既存部展開図⑧（観光案内所） S= / 1:50		図面番号
設計年月日	平成31年3月		A-36
設計者	一級建築士（第332111号） 神谷 太郎		
発注者	那須町建設課		

改修前

室名	展示・交流ホール	CH	9,000	
巾木		H		
壁	下地	仕上／塗装		
備考	特記無き限り、全て存置とする 塗りつぶし範囲は存置とする			

2.357

1.178

589

589

1.179

590

8.494

464

463

464

464

927

928

1.855

た

ち

改修後

室名	観光案内所	CH	9,000	
巾木		H		
壁	下地	仕上／塗装		
備考	H3,000以下の壁は洗浄・乾燥・CL塗装			

2.357

1.178

589

589

1.179

590

8.494

464

463

464

464

927

928

1.855

た

ち

展示・交流ホール

CH

9,000

巾木		H		
壁	下地	仕上／塗装		
備考	特記無き限り、全て存置とする 塗りつぶし範囲は存置とする			

2.357

1.178

589

589

1.179

590

8.494

464

463

464

464

927

928

1.855

ち

つ

観光案内所

CH

9,000

巾木		H		
壁	下地	仕上／塗装		
備考	① PB t 12.5 ソフトベニア t 6 掲示用クロス (サンフォームコルク同等品)			

2.357

1.178

589

589

1.179

590

8.494

464

463

464

464

927

928

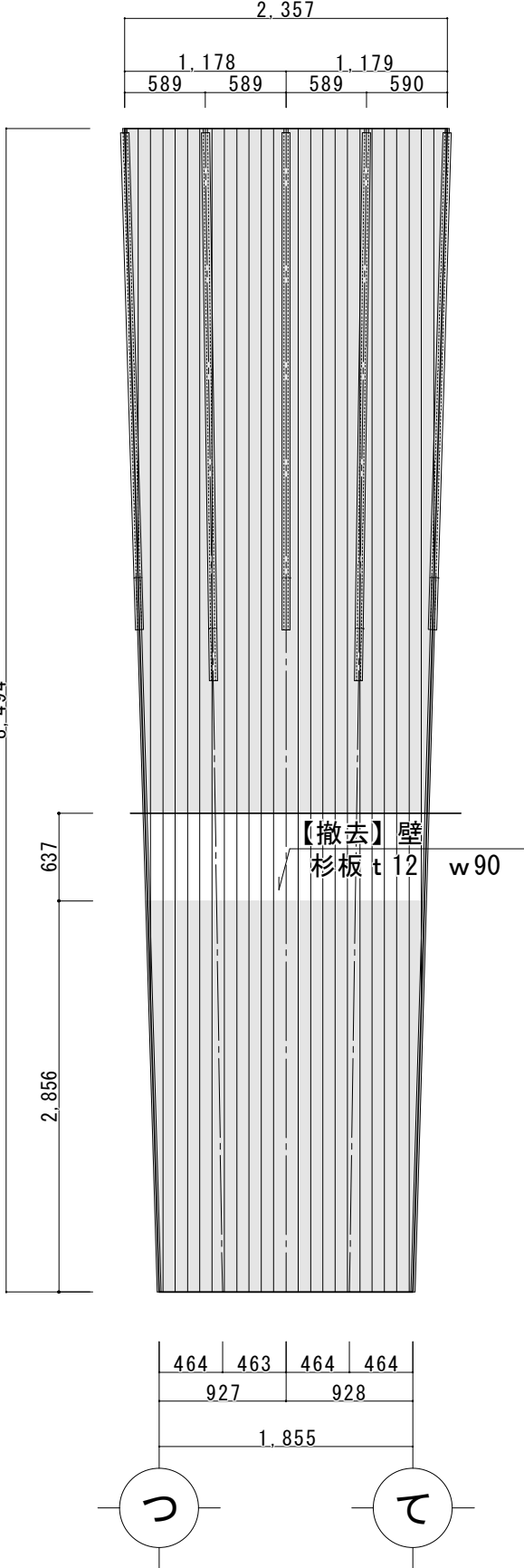
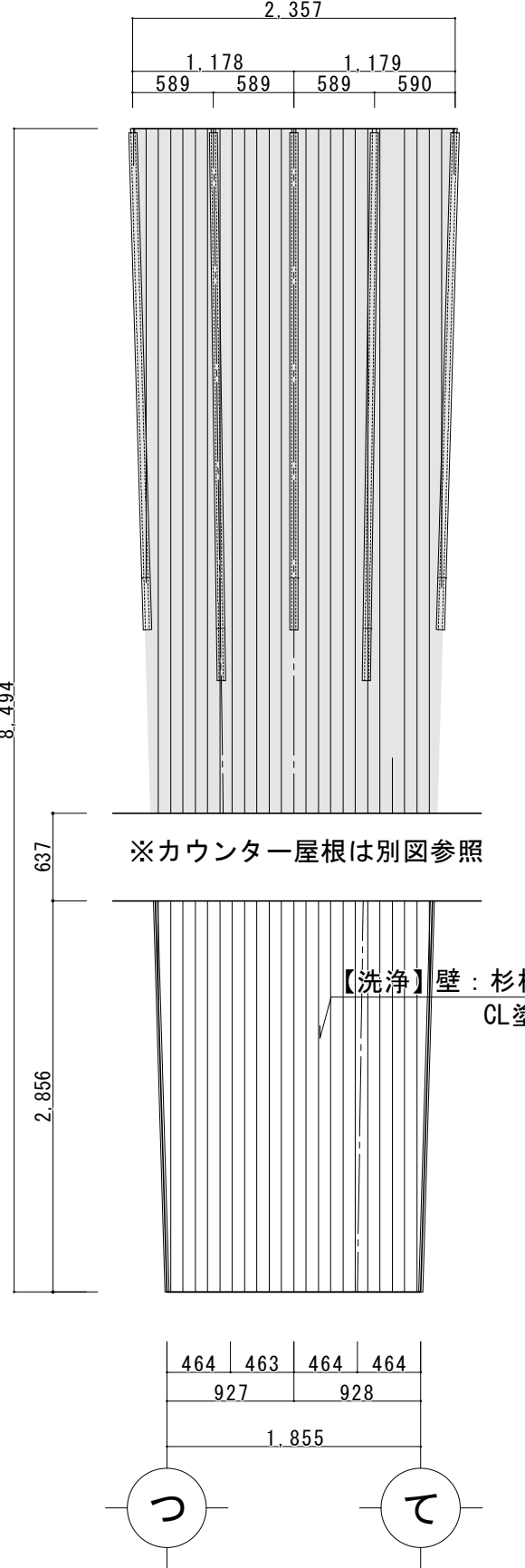
1.855

ち

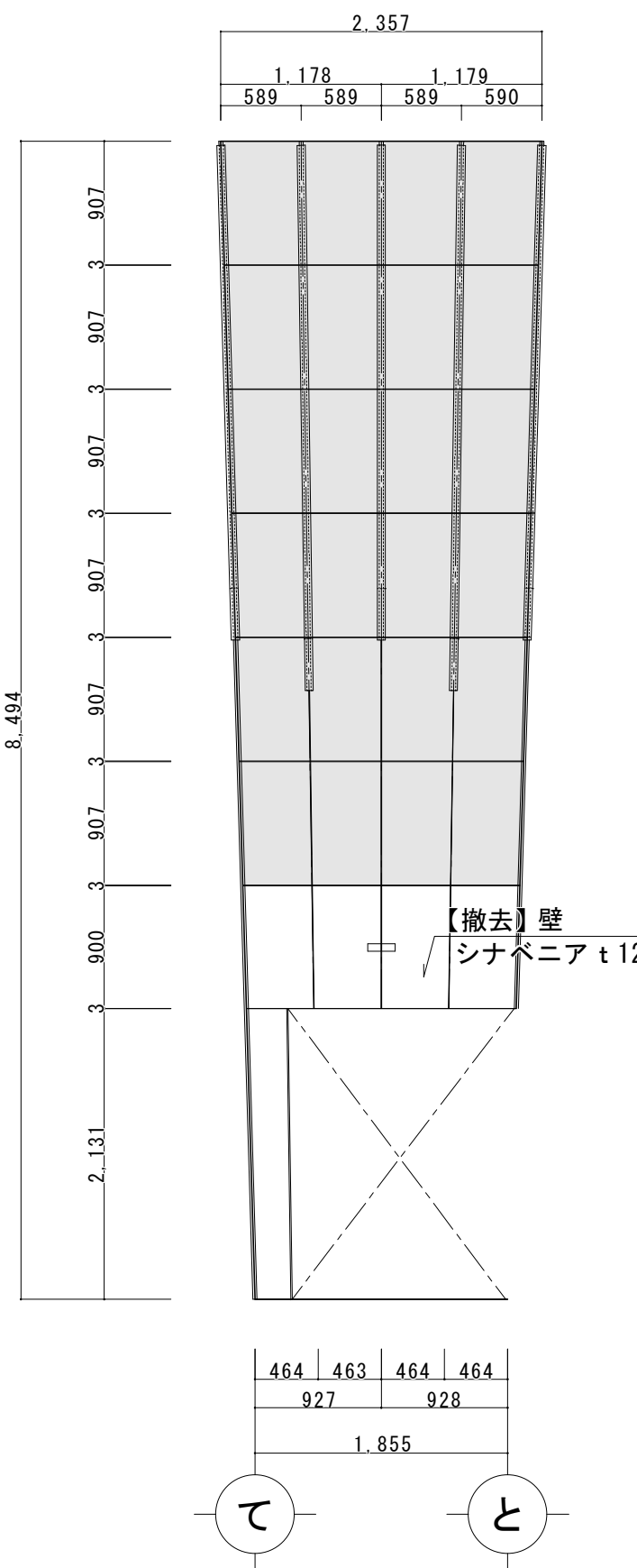
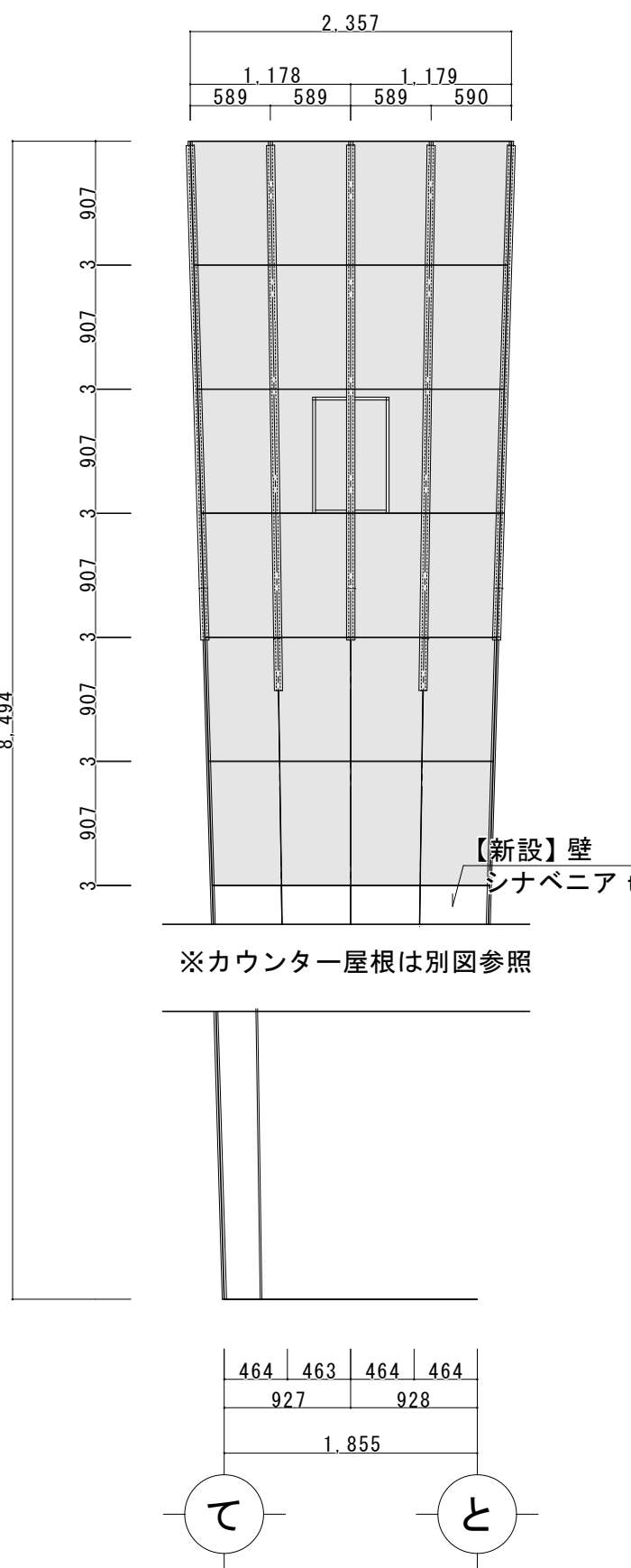
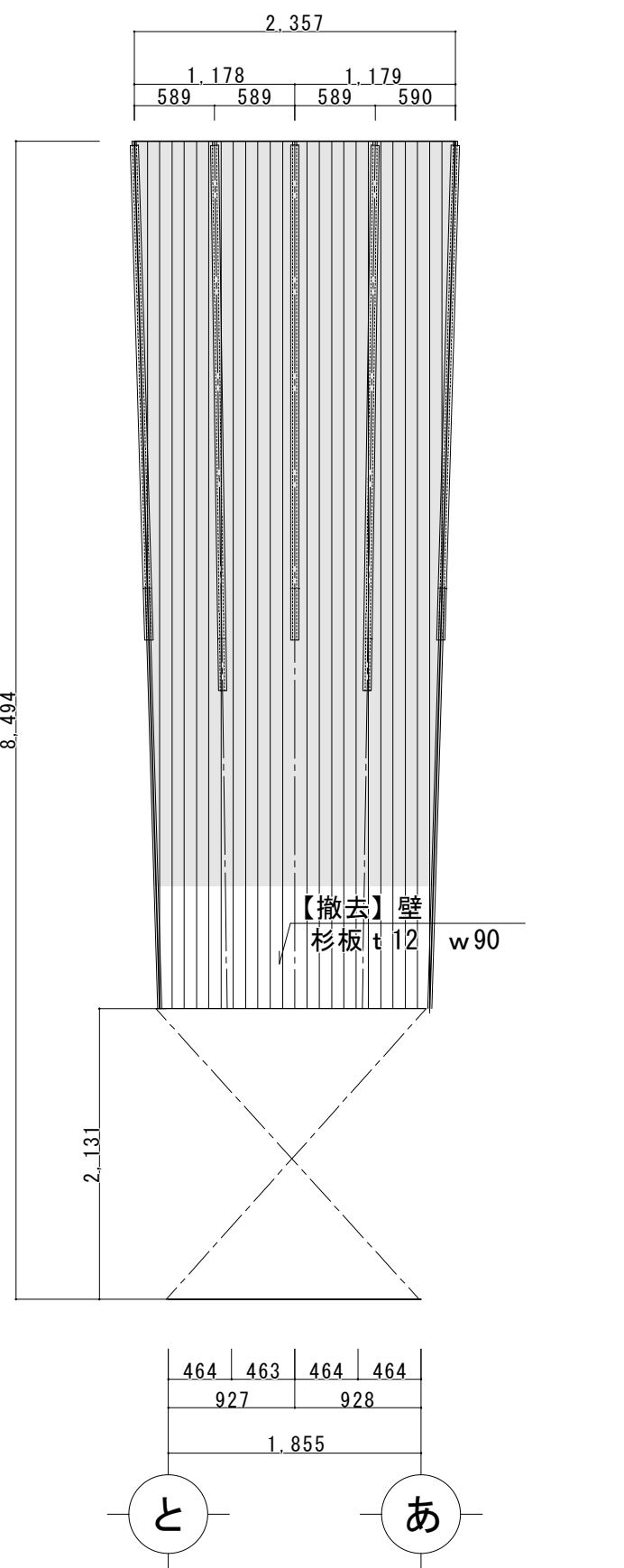
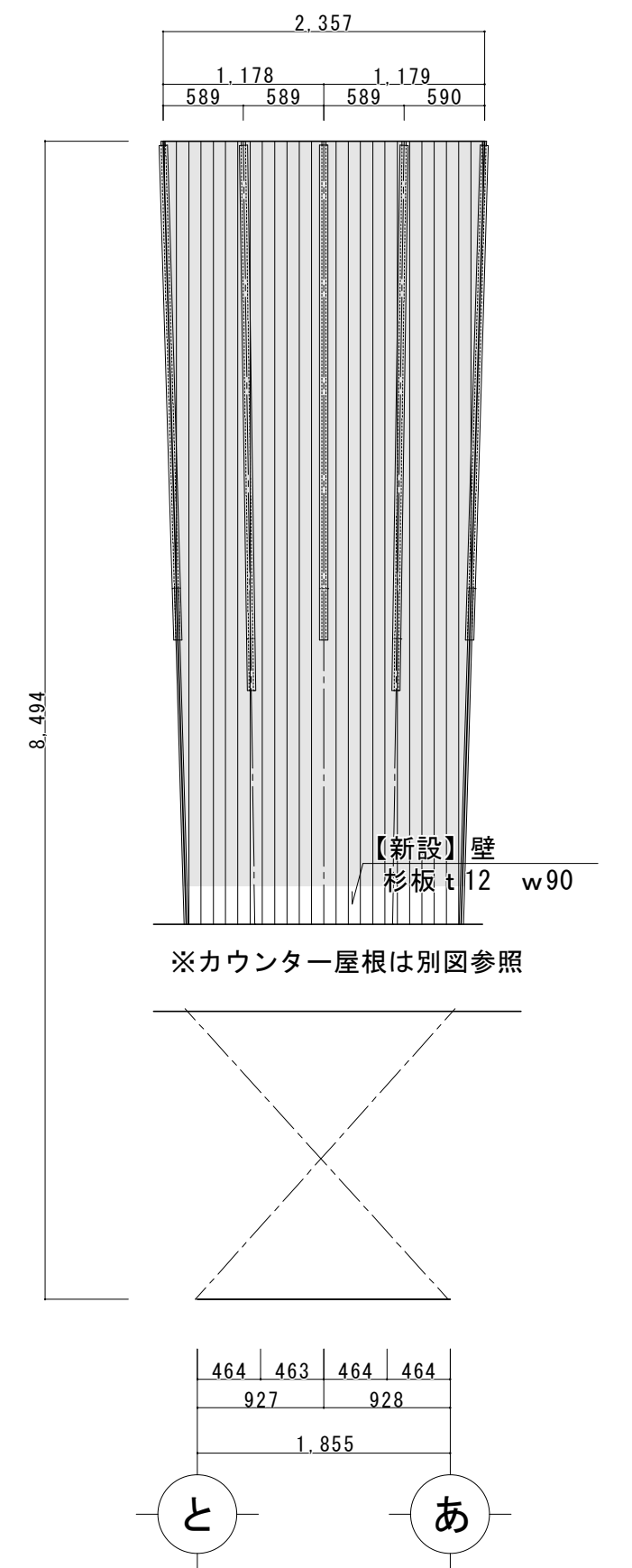
つ

※カウンター屋根は別図参照

【洗浄】壁：シナベニア t 12
CL塗装

改修前				改修後			
室名	展示・交流ホール	CH	9.000	室名	観光案内所	CH	9.000
巾木		H		巾木		H	
壁	仕上／塗装			壁	仕上／塗装		
備考	特記無き限り、全て存置とする 塗りつぶし範囲は存置とする			備考	H3.000以下の壁は洗浄・乾燥・CL塗装		
							
図面名称／縮尺				図面名称／縮尺			
設計年月日				設計年月日			
設計者				設計者			
発注者				発注者			

工事名称	道の駅那須高原友愛の森 観光交流センター増築工事		
図面名称／縮尺	既存部展開図9（観光案内所）	S= / 1:50	図面番号
設計年月日	平成31年3月		A－37
設計者	一級建築士（第332111号） 神谷 太郎		
発注者	那須町建設課		

改修前					改修後					改修前					改修後														
室名	展示・交流ホール			CH	9,000	室名	観光案内所			CH	9,000	室名	展示・交流ホール			CH	9,000	室名	観光案内所			CH	9,000						
巾木				H		巾木				H		巾木				H		巾木				H							
壁	下地	仕上／塗装				壁	下地	仕上／塗装				壁	下地	仕上／塗装				壁	下地	仕上／塗装									
備考	特記無き限り、全て存置とする 塗りつぶし範囲は存置とする					備考	H3,000以下の壁は洗浄・乾燥・CL塗装					備考	特記無き限り、全て存置とする 塗りつぶし範囲は存置とする					備考	H3,000以下の壁は洗浄・乾燥・CL塗装										
																													

工事名称	道の駅那須高原友愛の森 観光交流センター増築工事	
図面名称／縮尺	既存部展開図10（観光案内所） S= / 1:50	図面番号
設計年月日	平成31年3月	A－3 8
設計者	一級建築士（第332111号） 神谷 太郎	
発注者	那須町建設課	

事務室 展開図										S=1/50	
室名 事務室				CH 2,500							
巾木 塩ビ				H 60							
壁	下地	塗装	①	PB t 12.5 2重貼		EP-G塗装					
			②	PB t 12.5 SB t 6		掲示用クロス (サンフォームコルク 同等品)					
備考				※SB：ソフトベニア							
						展開方向 A					
						展開方向 B					
						展開方向 C					
						展開方向 D					

給湯室 展開図										S=1/50		更衣室 展開図										S=1/50			
室名 給湯室				CH 2,500								室名 更衣室				CH 2,300									
巾木 塩ビ				H 60								巾木 塩ビ				H 60									
壁	下地	塗装	①	PB t 12.5 2重貼		EP-G塗装						壁	下地	塗装	①	PB t 12.5 2重貼		EP-G塗装							
			②	ケイカル t 12		磁器タイル貼 □100									②										
備考										備考															
						展開図方向 A												展開図方向 A							
						展開図方向 B												展開図方向 B							
						展開図方向 C												展開図方向 C							
						展開図方向 D												展開図方向 D							

会議室 展開図										S=1/50	
室名 会議室				CH 2,500							
巾木 塩ビ				H 60							
壁	下地	塗装	①	PB t 12.5 2重貼		EP-G塗装					
			②	PB t 12.5 SB t 6		掲示用クロス (サンフォームコルク 同等品)					
備考											
						展開方向 A					
						展開方向 B					
						展開方向 C					
						展開方向 D					

倉庫 展開図										S=1/50		更衣室 展開図										S=1/50			
室名 倉庫				CH 2,500								室名 更衣室				CH 2,500									
巾木 塩ビ				H 60								巾木 塩ビ				H 60									
壁	下地	塗装	①	PB t 12.5 2重貼		EP-G塗装						壁	下地	塗装	①	PB t 12.5 2重貼		EP-G塗装							
			②	PB t 12.5 SB t 6		掲示用クロス (サンフォームコルク 同等品)									②										
備考										備考															
						展開方向 A												展開方向 A							
						展開方向 B												展開方向 B							
						展開方向 C												展開方向 C							
						展開方向 D												展開方向 D							

工事名称										道の駅那須須高平原友愛の森 観光交流センター増築工事											
図面名称/縮尺										増築部展開図1 S= / 1:50										図面番号	
設計年月日										平成31年3月										A-39	
設計者										一級建築士 (第332111号) 神谷 太郎											
発注者										那須町建設課											

室名

廊下

CH

2,500

巾木

塩ビ

H

60

壁

下地

仕上／塗装

①

PB t 12.5
2重貼

ダイノックシート貼

②

PB t 12.5
SB t 6

掲示用クロス
(サンフォームコルク
同等品)

備考

※SB：ソフトベニア

室名

倉庫

CH

2,500

巾木

スプルス集成材

H

20

壁

下地

仕上／塗装

①

PB t 12.5
2重貼

EP-G塗装

備考

室名

廊下

CH

2,500

巾木

スプルス集成材

H

20

壁

下地

仕上／塗装

①

PB t 12.5
2重貼

ダイノックシート貼

備考

室名

女子便所

CH

2,300

巾木

塩ビ

H

60

壁

下地

仕上／塗装

①

PB t 12.5
2重貼

EP-G塗装

備考

室名

男子便所

CH

2,300

巾木

塩ビ

H

60

壁

下地

仕上／塗装

①

PB t 12.5
2重貼

EP-G塗装

備考

室名

連絡通路

CH

2,100

巾木

木製巾木

H

100

壁

下地

仕上／塗装

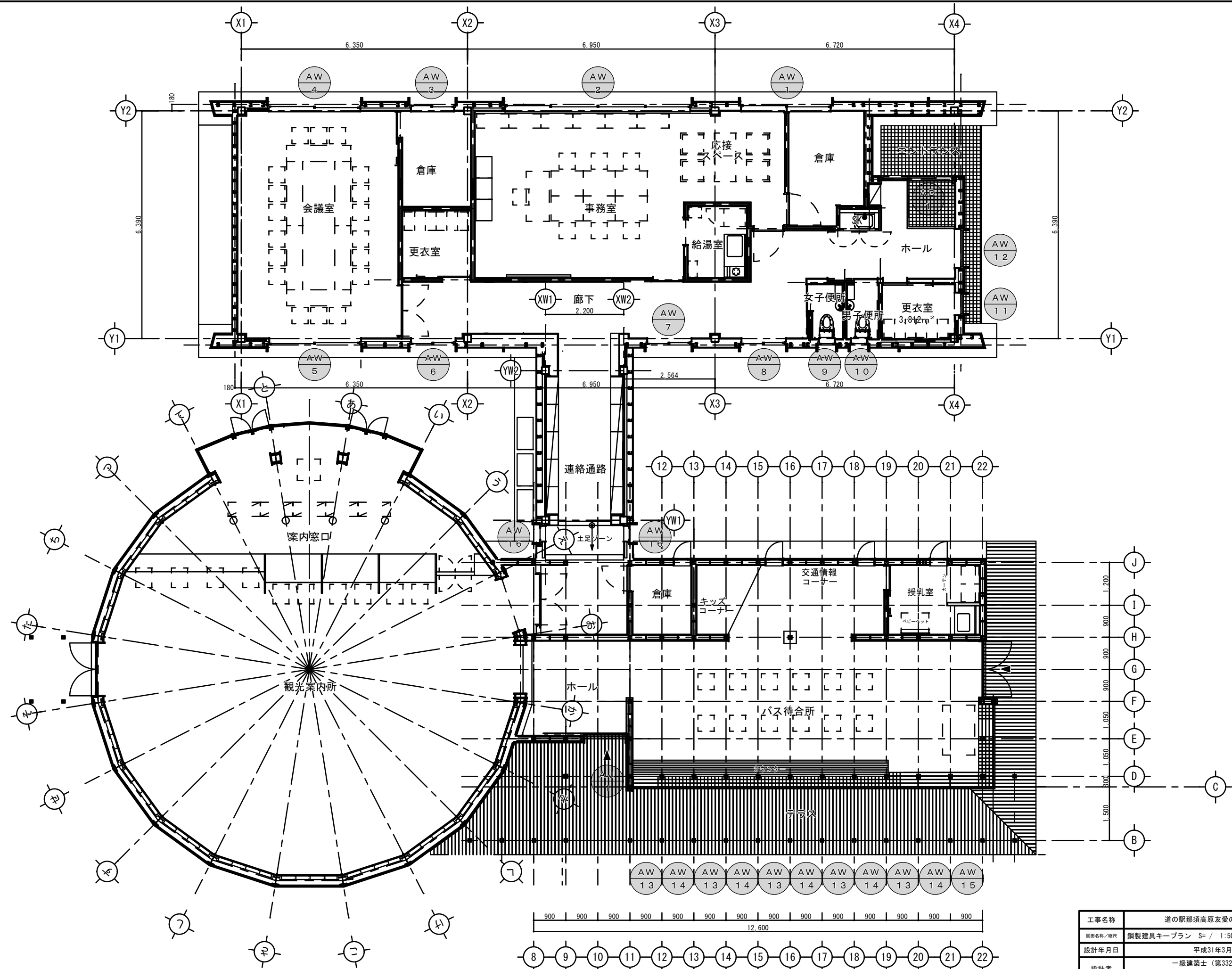
①

PB t 12.5
2重貼

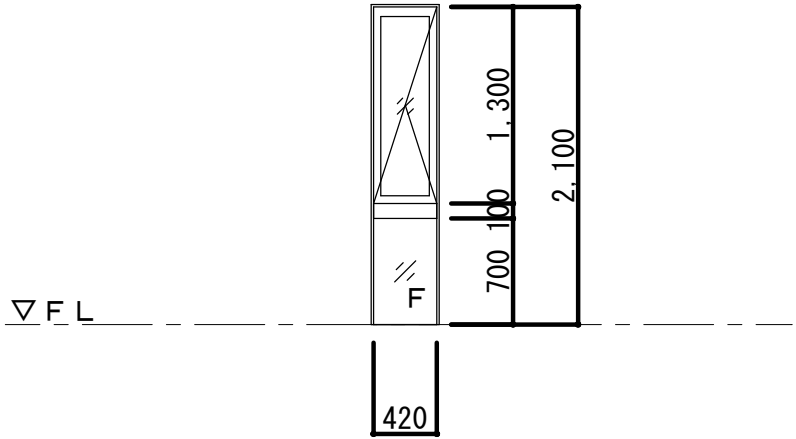
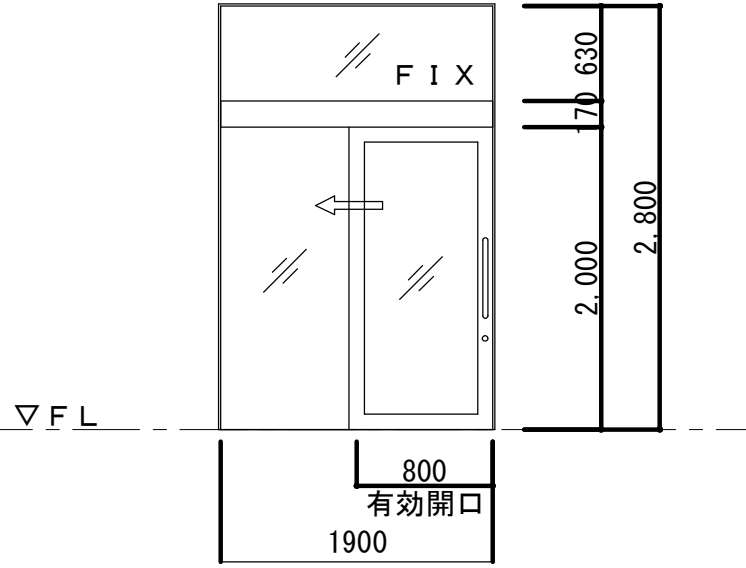
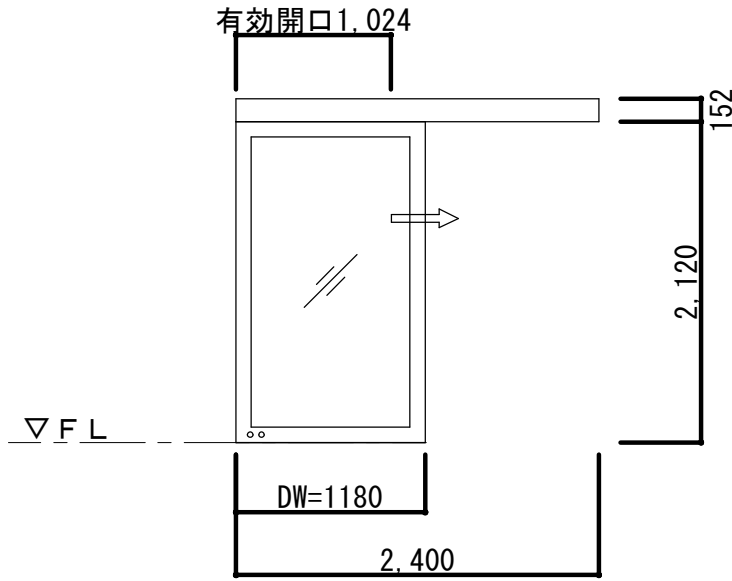
EP-G塗装

備考

工事名称	道の駅那須高平原友愛の森 観光交流センター増築工事	
図面名称／縮尺	増築部展開図2 S= / 1:50	図面番号
設計年月日	平成31年3月	A-40
設計者	一級建築士（第332111号） 神谷 太郎	
発注者	那須町建設課	



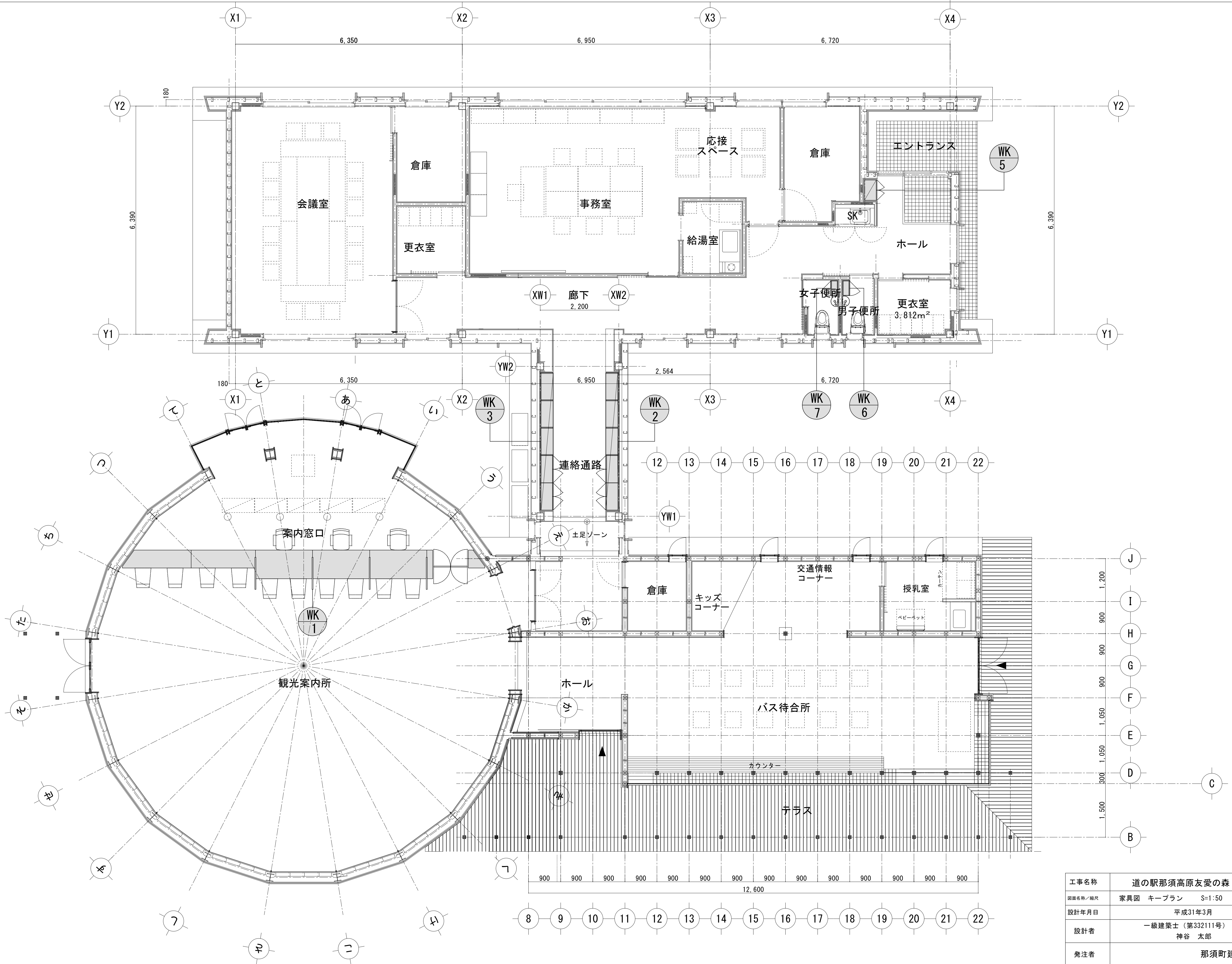
工事名称	道の駅那須高原友愛の森 観光交流センター増築工事		
図面名称/縮尺	鋼製建具キープラン S= / 1:50		図面番号
設計年月日	平成31年3月		A-41
設計者	一級建築士（第332111号） 神谷 太郎		
発注者	那須町建設課		

符号・型式	AW-16		AD-1	AJ-1		
箇所数	2ヶ所		1ヶ所	1ヶ所		
形状・寸法						
使用箇所	連絡通路		ホール	ホール		
見込	70		140	100		
網子	型板6+A12+FL5		FL6+A6+FL5	FL6+A6+FL5		
材質・仕上	アルミ・サンシルバー		アルミ・サンシルバー	アルミ・サンシルバー		
建具金物	オペレーターハンドル、固定網戸(体リペア)、アングル、付属金物一式		ドアクローザー、押棒、本締め、アングル、付属金物一式	エンジン装置(寺岡製・タッチスイッチ)、本締め、付属金物一式		
備考	MTG-70R(スリムたてすべり出し窓)		STフロントSSタイプ	STフロント100		

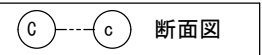
形状・寸法						
使用箇所						
見込						
網子						
材質・仕上						
建具金物						
備考						

形状・寸法				
使用箇所				
見込				
網子				
材質・仕上				
建具金物				
備考				

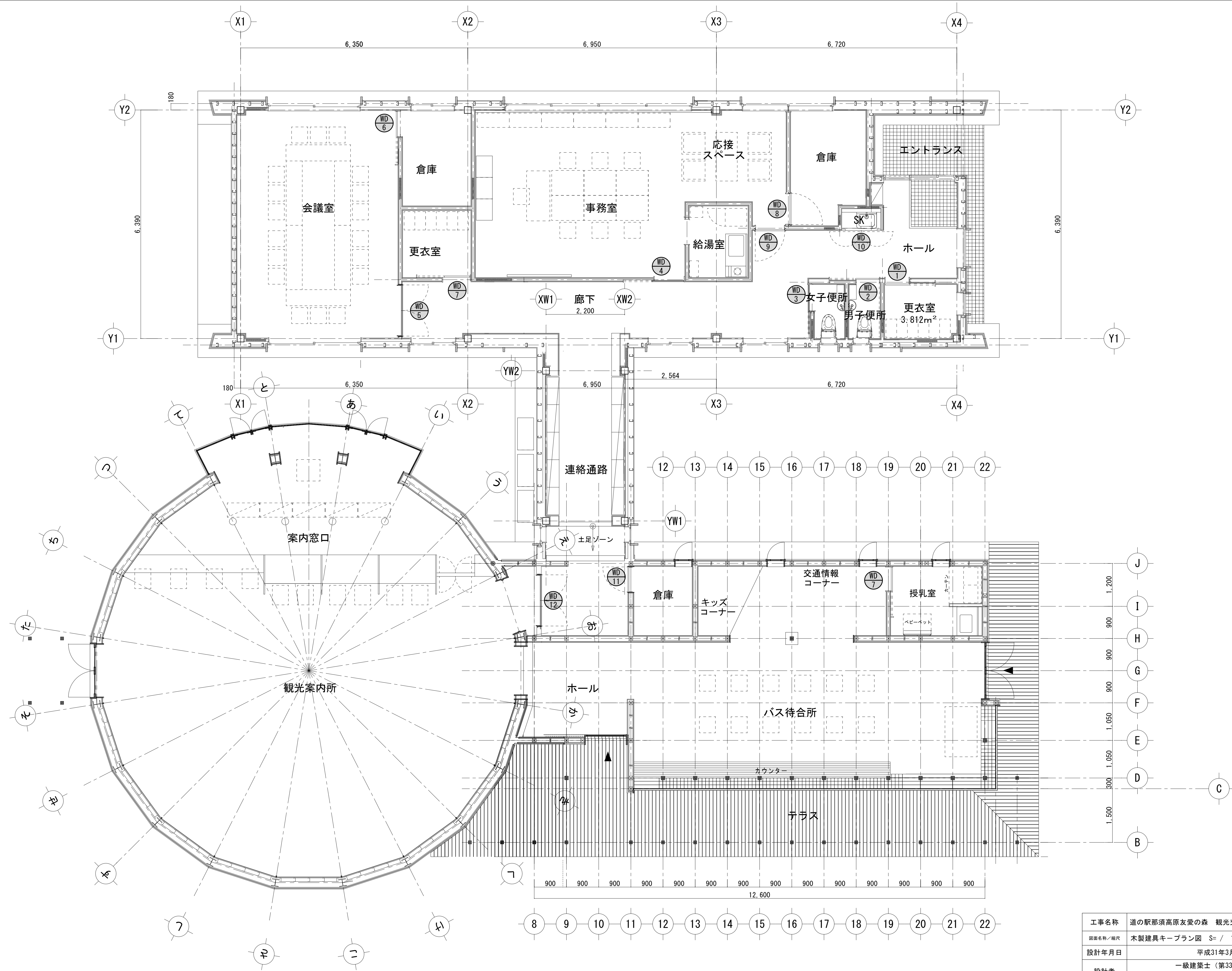
工事名称	道の駅那須高原友愛の森 観光交流センター増築工事		
図面名称／縮尺	鋼製建具 建具表 2 S= / 1:50		図面番号
設計年月日	平成31年3月		A－4 3
設計者	一級建築士（第332111号） 神谷 太郎		
発注者	那須町建設課		



工事名称	道の駅那須高原友愛の森 観光交流センター増築工事		
図面名称/縮尺	家具図 キープラン S=1:50	図面番号	
設計年月日	平成31年3月		A-44
設計者	一級建築士（第332111号） 神谷 太郎		
発注者	那須町建設課		



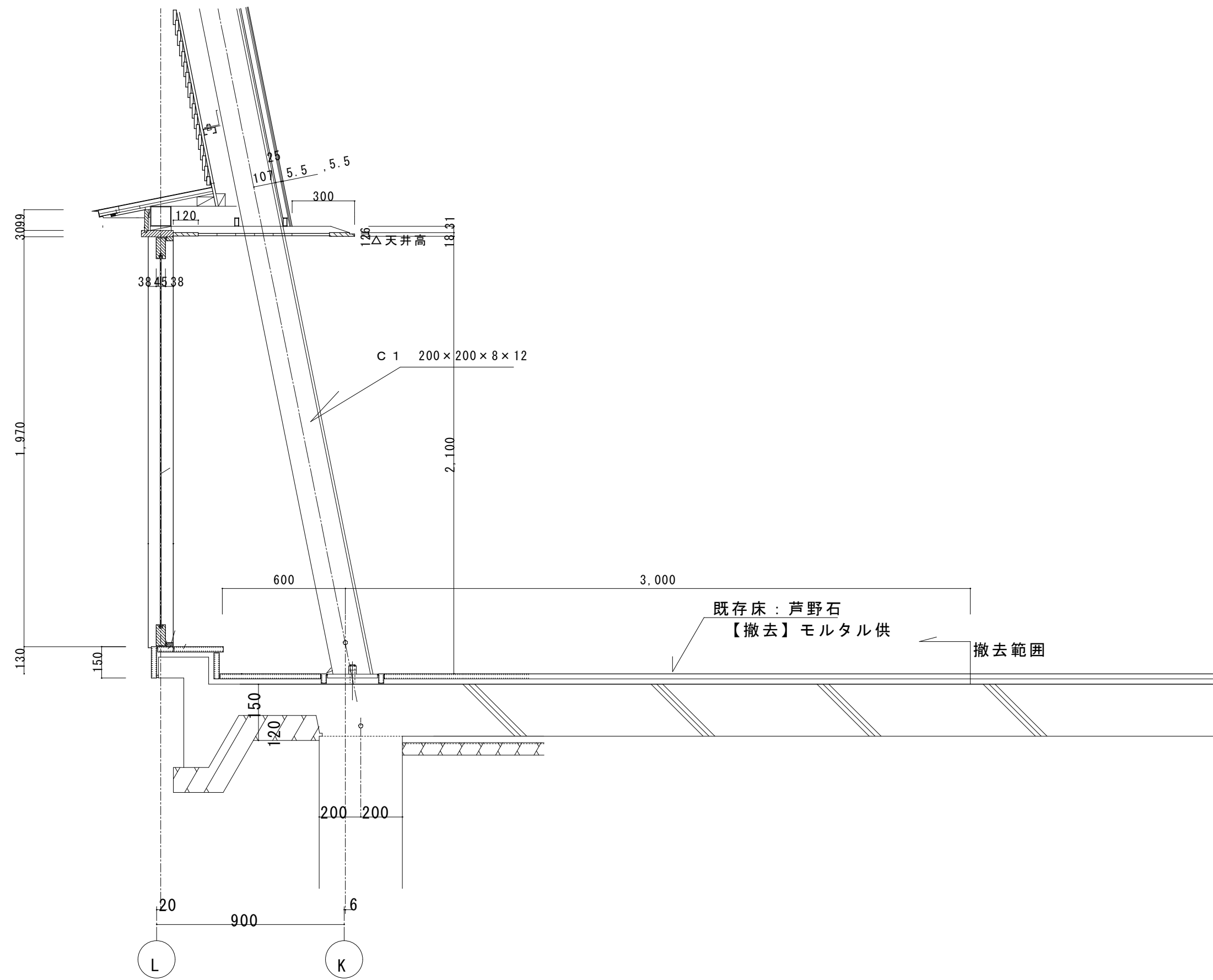
工事名称	道の駅那須須高原友愛の森 観光交流センター増築工事	
図面名称／縮尺	家具図 1 S=1:20	図面番号
設計年月日	平成31年3月	A-45
設計者	一級建築士（第332111号） 神谷 太郎	
発注者	那須町建設課	



工事名称	道の駅那須高原友愛の森 観光交流センター増築工事	
図面名称／縮尺	木製建具キープラン図 S＝ / 1:50	図面番号
設計年月日	平成31年3月	A－47
設計者	一級建築士（第332111号） 神谷 太郎	
発注者	那須町建設課	

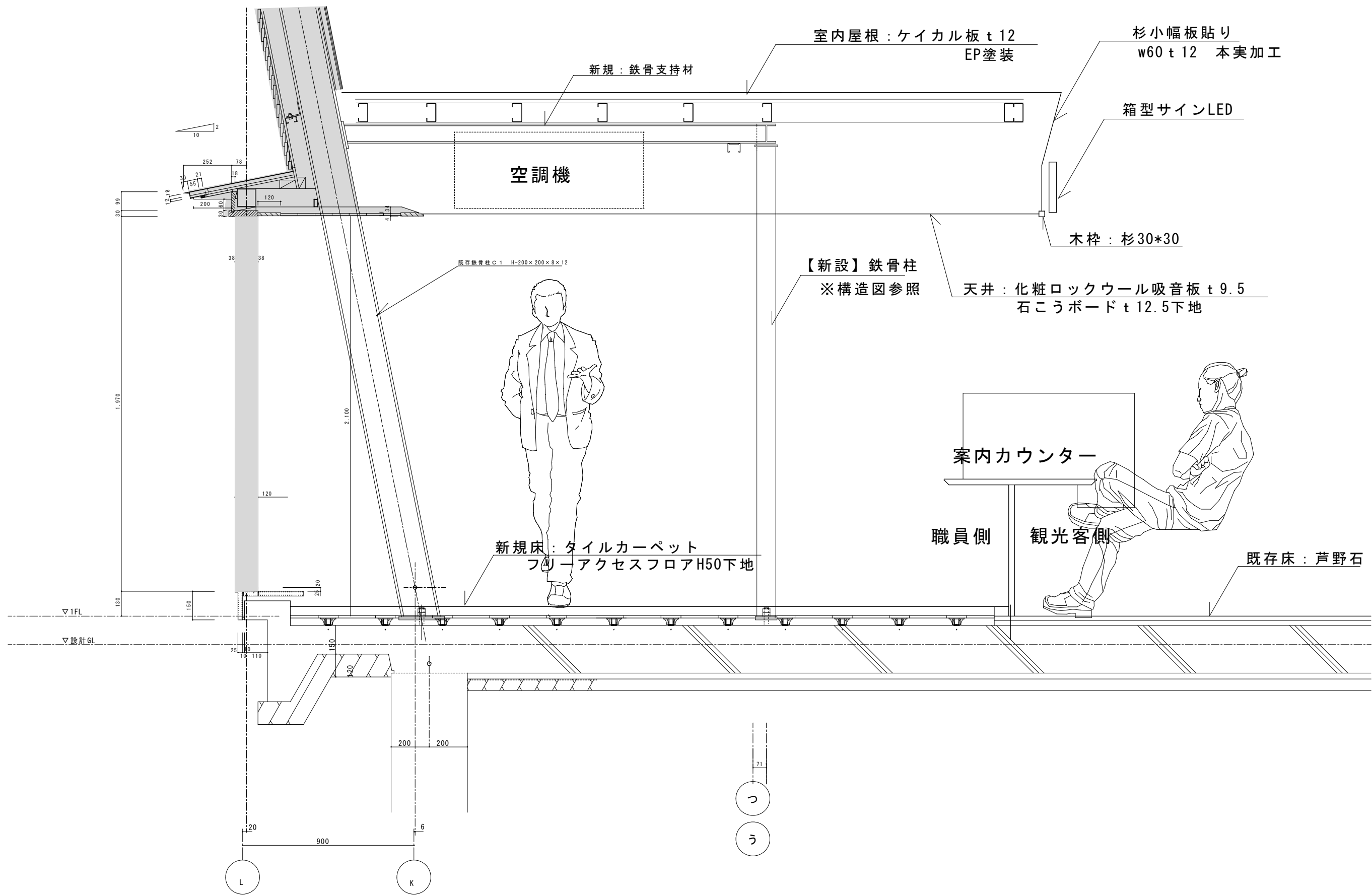
記 号 ・ 数 量		WD 1	1ヶ所	WD 2	1ヶ所	WD 3	2ヶ所	WD 4	1ヶ所	WD 5	1ヶ所	WD 6	1ヶ所	
形 状														
	場 所	更衣室		男子便所		女子便所		事務室		会議室		会議室ー倉庫		
	形 式	片引きフラッシュ戸		片引きフラッシュ戸		片引きフラッシュ戸		片引きフラッシュ戸		両開きフラッシュ戸		片引きフラッシュ戸		
	見 込	36		36		36		36		36		36		
	材質・仕上	両面:ガラス貼り(ウツドグレイン程度 シ合板下張 t 4)、額・ガラス:スプ 材		両面:ガラス貼り(ウツドグレイン程度 シ合板下張 t 4)、額・ガラス:スプ 材		両面:ガラス貼り(ウツドグレイン程度 シ合板下張 t 4)、額・ガラス:スプ 材		両面:ガラス貼り(ウツドグレイン程度 シ合板下張 t 4)、額・ガラス:スプ 材		両面:ガラス貼り(ウツドグレイン程度 シ合板下張 t 4) グラス: t 50 充填(遮音)、防音バ ッケン		片面:ガラス貼り(ウツドグレイン程度 シ合板下張 t 4) 片面:片面:シ合板貼り、大手:スプ 材 UC塗装		
硝 子	型板化ガラス t 4		型板化ガラス t 4		型板化ガラス t 4		透明強化ガラス t 5							
金 物	彫込引手、引戸鍵錠 (サムターン/リング錠) ハンガー金物(フドム:AFDシステム ソフトクロス)、戸当りゴム、附属金物金物一式		彫込引手、引戸鍵錠 (サムターン/表示錠) ハンガー金物(フドム:AFDシステム ソフトクロス)、戸当りゴム、附属金物金物一式		彫込引手、引戸鍵錠 (サムターン/表示錠) ハンガー金物(フドム:AFDシステム ソフトクロス)、戸当りゴム、附属金物金物一式		彫込引手、引戸鍵錠 (サムターン/リング錠) ハンガー金物(フドム:AFDシステム ソフトクロス)、戸当りゴム、附属金物金物一式		レバーハンドル、本締錠(サムターン/リング錠)、ステンレス丁番、ドアチェック フランス落し、戸当りゴム、附属金物一式		彫込引手、ステンレスレール、戸車、戸当りゴム、附属金物一式 引戸鍵錠(サムターン/リング錠)			
備 考	木製枠、ガラス・塗装別途工事		木製枠、ガラス・塗装別途工事		木製枠、ガラス・塗装別途工事		木製枠、ガラス・塗装別途工事		木製枠、ガラス・塗装別途工事		木製枠、ガラス・塗装別途工事			
記 号 ・ 数 量		WD 7	2ヶ所	WD 8	1ヶ所	WD 9	1ヶ所	WD 10	1ヶ所	WD 11	4ヶ所	WD 12	1ヶ所	
形 状														
	場 所	事務室ー倉庫		応接室ー事務室		廊下一応接室		清掃用具入れ		倉庫		連絡通路ー観光案内所		
	形 式	片引きフラッシュ戸		片開きフラッシュ戸		片開きフラッシュ戸		片開きフラッシュ戸		片開きフラッシュ戸		片開きフラッシュ戸		
	見 込	36		36		36		36		36		36		
	材質・仕上	片面:ガラス貼り(ウツドグレイン程度 シ合板下張 t 4) 片面:片面:シ合板貼り、大手・額:スプ 材 UC塗装		両面:ガラス貼り(ウツドグレイン程度 シ合板下張 t 4) グラス: t 50 充填(遮音)、防音バ ッケン		両面:ガラス貼り(ウツドグレイン程度 シ合板下張 t 4) グラス: t 50 充填(遮音)、防音バ ッケン		片面:ガラス貼り(ウツドグレイン程度 シ合板下張 t 4) 片面:片面:シ合板貼り、大手:スプ 材 UC塗装		片面:ガラス貼り(ウツドグレイン程度 シ合板下張 t 4) 片面:片面:シ合板貼り、大手:スプ 材 UC塗装		両面:ガラス貼り(ウツドグレイン程度 シ合板下張 t 4) グラス: t 50 充填(遮音)、防音バ ッケン		
硝 子														
金 物	彫込引手、ステンレスレール、戸車、戸当りゴム、附属金物一式 引戸鍵錠(サムターン/リング錠)		レバーハンドル、本締錠(サムターン/リング錠)、ステンレス丁番、ドアチェック 戸当りゴム、附属金物一式		レバーハンドル、本締錠(サムターン/リング錠)、ステンレス丁番、ドアチェック 戸当りゴム、附属金物一式		取手、ステンレス丁番(180°開)、戸当り、ローラキャッチ、附属金物一式		レバーハンドル、本締錠(サムターン/リング錠)、ステンレス丁番、ドアチェック 戸当りゴム、附属金物一式		レバーハンドル、本締錠(サムターン/リング錠)、ステンレス丁番、ドアチェック フランス落し、戸当りゴム、附属金物一式			
備 考	木製枠、ガラス・塗装別途工事		木製枠、ガラス・塗装別途工事		木製枠、ガラス・塗装別途工事		木製枠、ガラス・塗装別途工事		木製枠、ガラス・塗装別途工事		木製枠、ガラス・塗装別途工事			
記 号 ・ 数 量														
形 状														
	場 所													
	形 式													
	見 込													
	材質・仕上													
硝 子														
金 物														
備 考														
												工事名称	道の駅那須高原友愛の森 観光交流センター増築工事	
												図面名称/縮尺	木製建具表 S=1/50	図面番号
												設計年月日	平成31年3月	A-48
												設計者	一級建築士(第332111号) 神谷 太郎	
												発注者	那須町建設課	

改修前



案内カウンター 断面詳細図 S=1/20

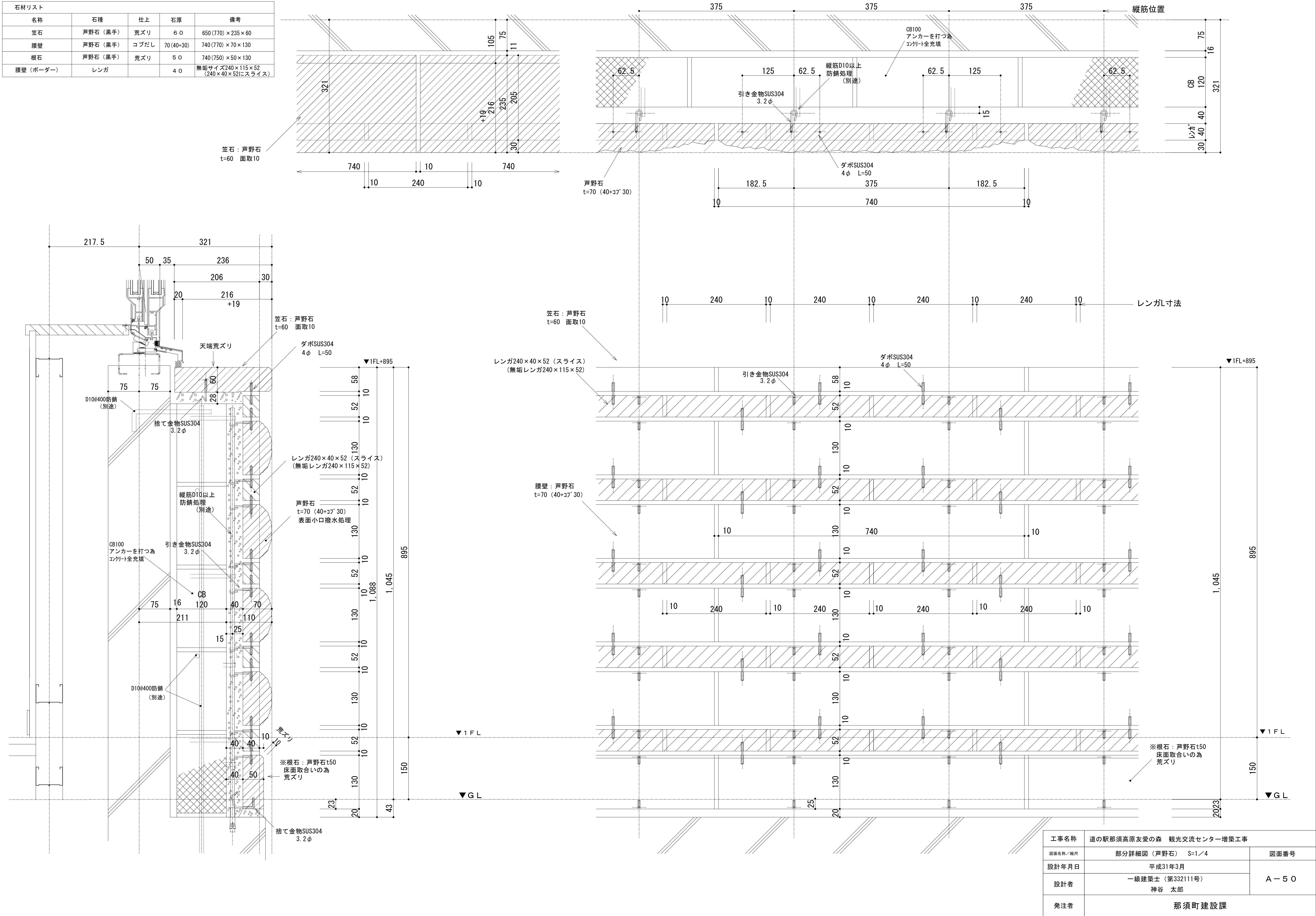
改修後



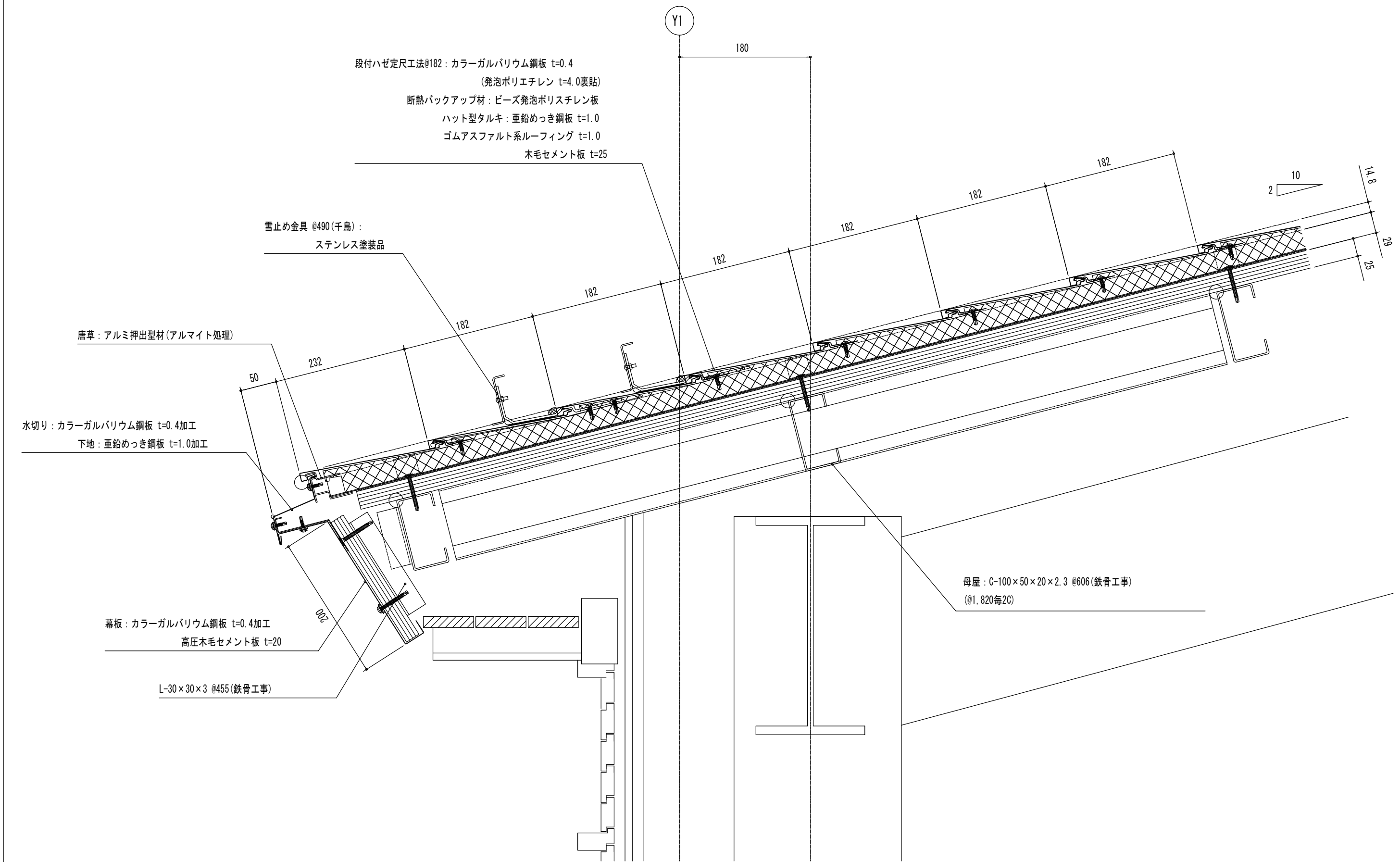
案内カウンター 断面詳細図 S=1/20

工事名称	道の駅那須高原友愛の森 観光交流センター増築工事	
図面名称/縮尺	案内カウンター詳細図（改修後） S= / 1:50	図面番号
設計年月日	平成31年3月	A－49
設計者	一級建築士（第332111号） 神谷 太郎	
発注者	那須町建設課	

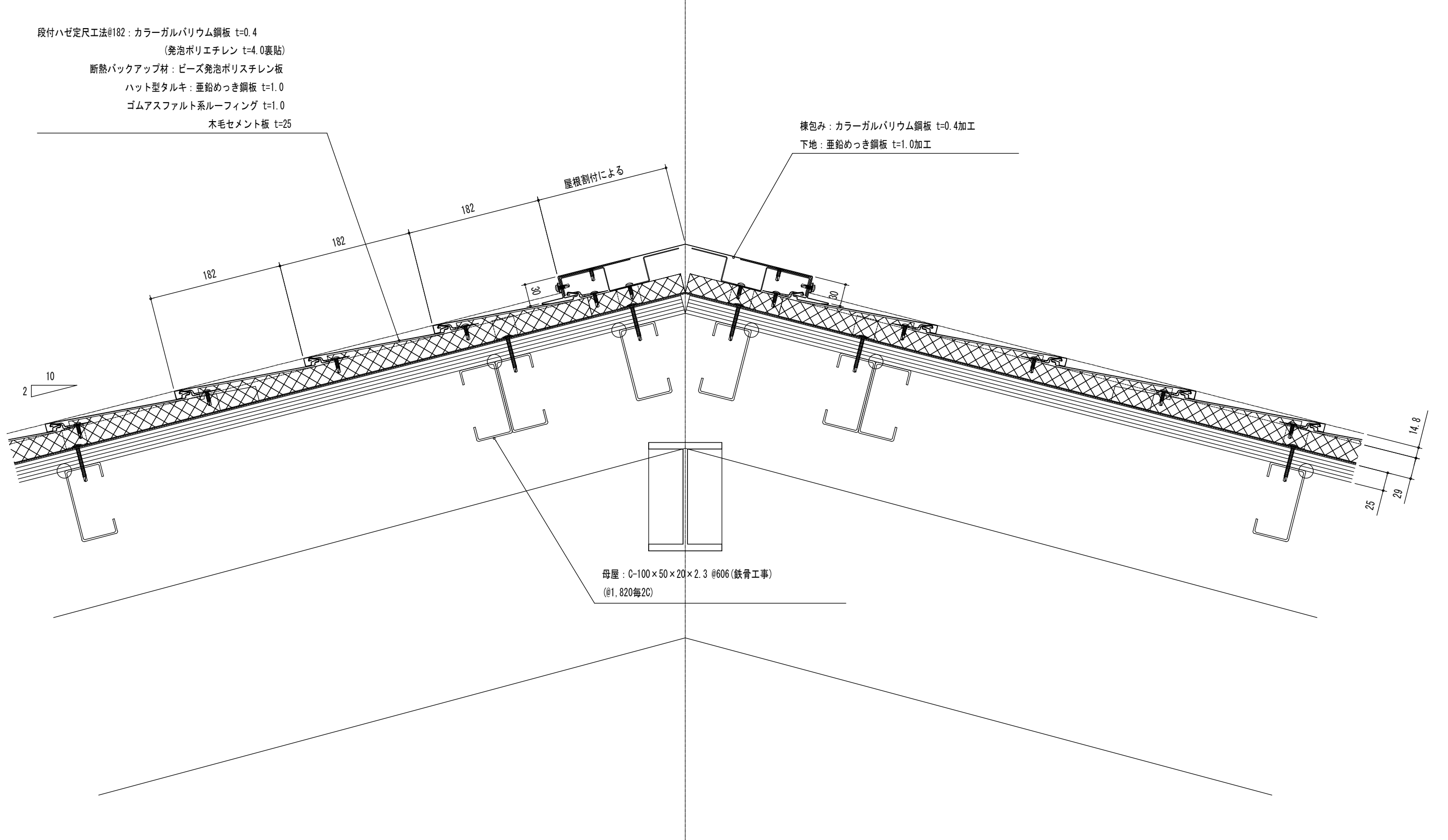
石材リスト				
名称	石種	仕上	石厚	備考
笠石	芦野石（黒手）	荒ズリ	6 0	650 (770) × 235 × 60
腰壁	芦野石（黒手）	コブだし	70 (40+30)	740 (770) × 70 × 130
根石	芦野石（黒手）	荒ズリ	5 0	740 (750) × 50 × 130
腰壁（ボーダー）	レンガ		4 0	無垢サイズ240 × 115 × 52 (240 × 40 × 52にスライス)



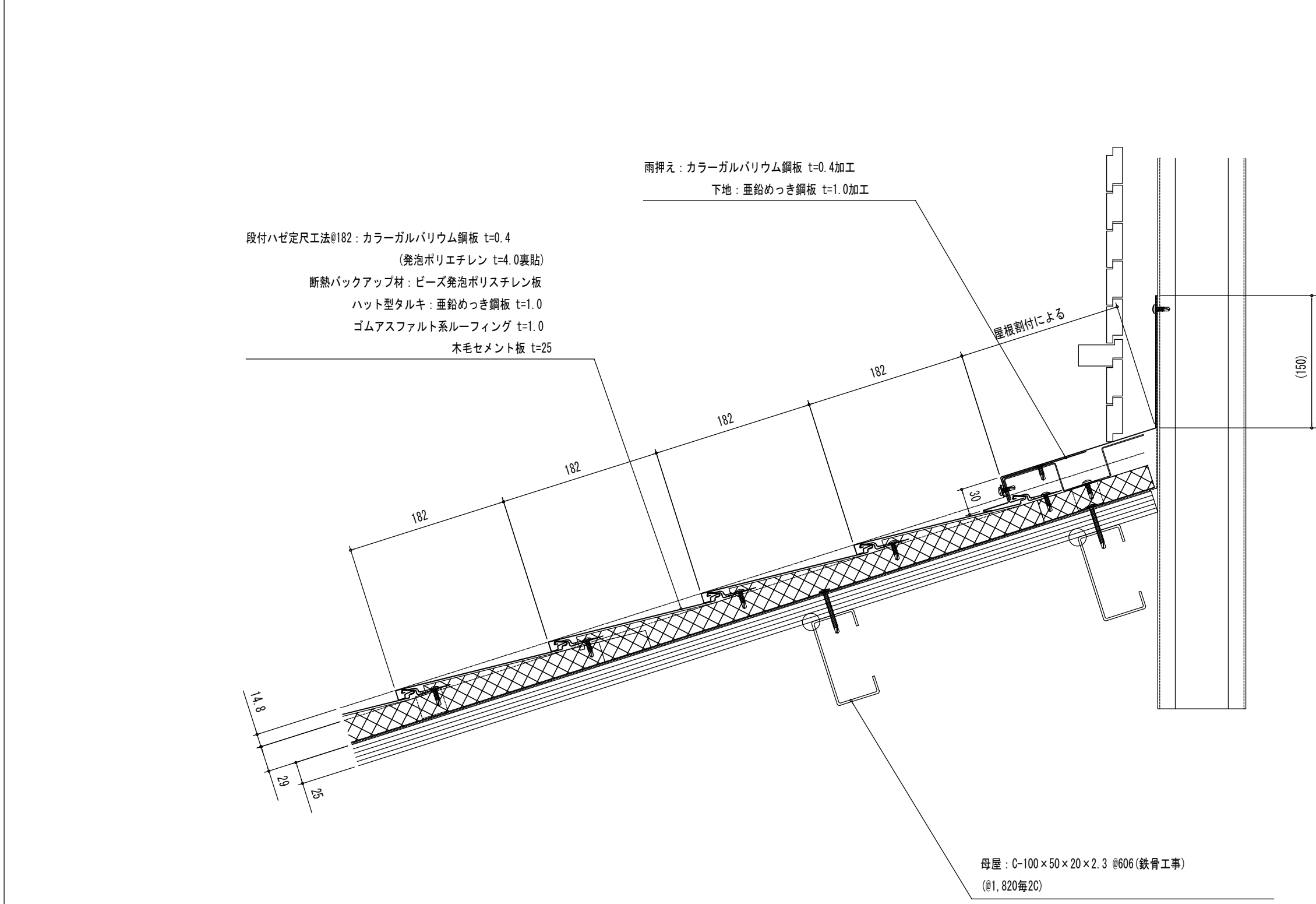
軒先断面詳細図



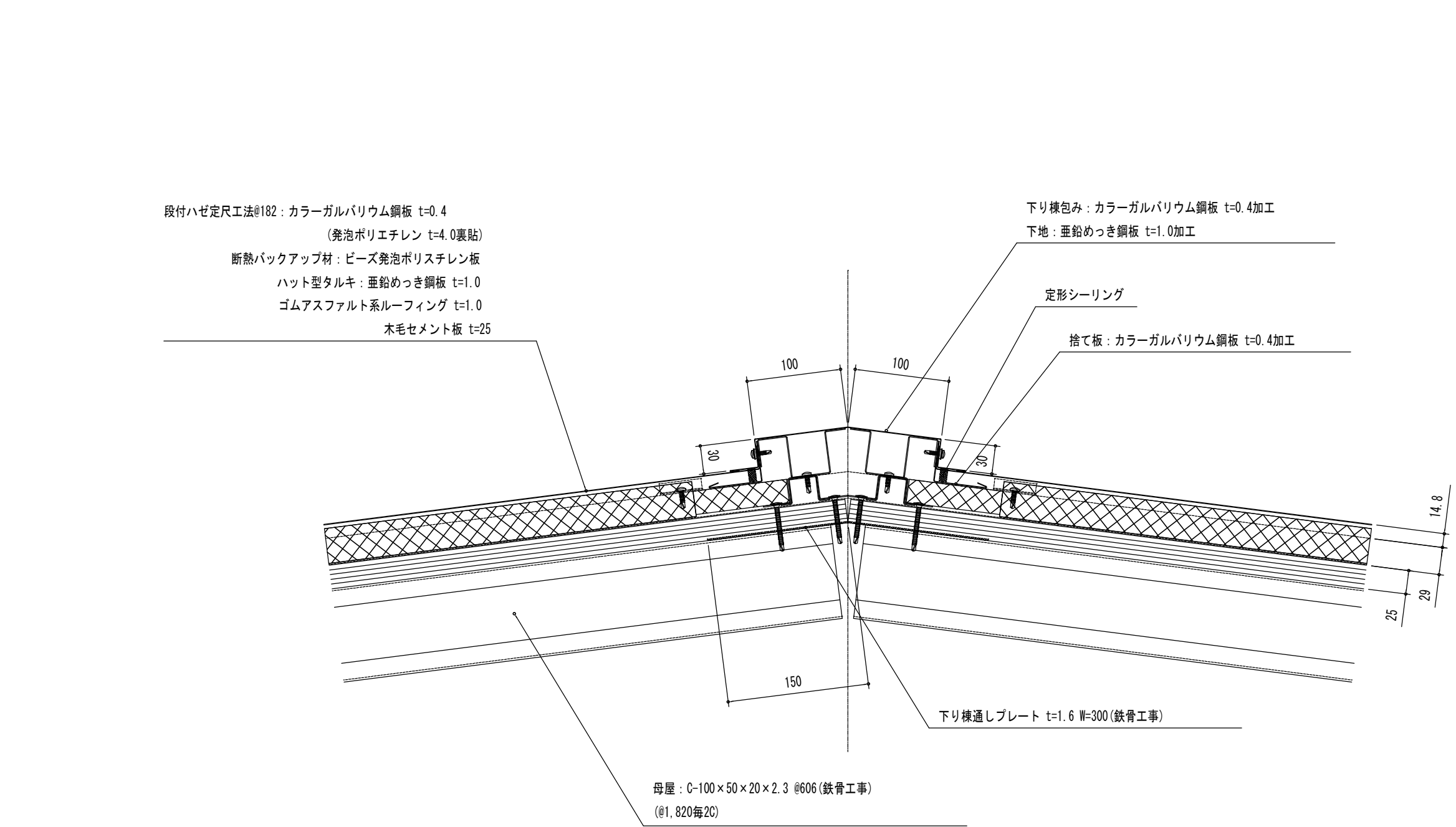
棟断面詳細図



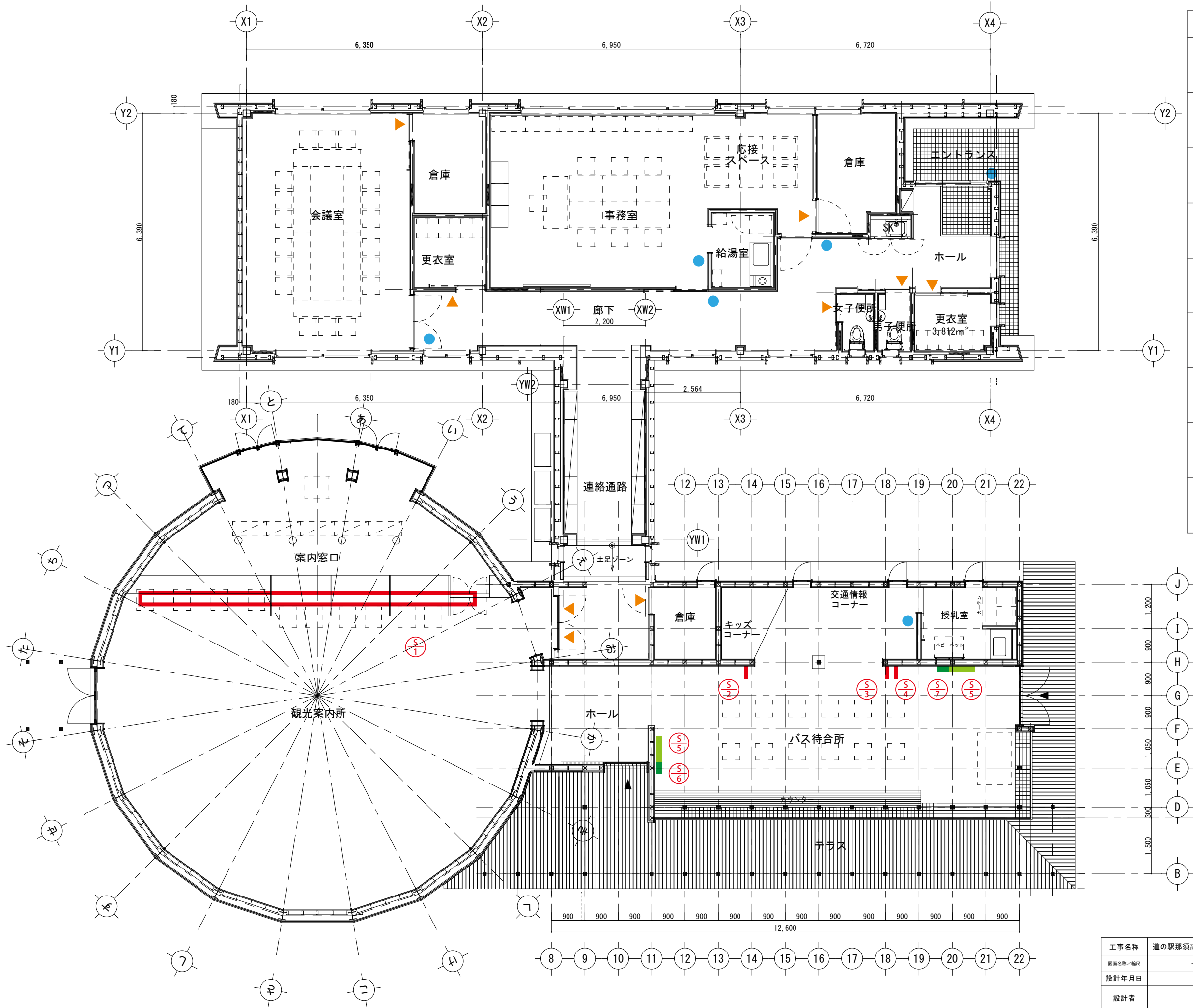
壁立上り断面詳細図



下り棟断面詳細図

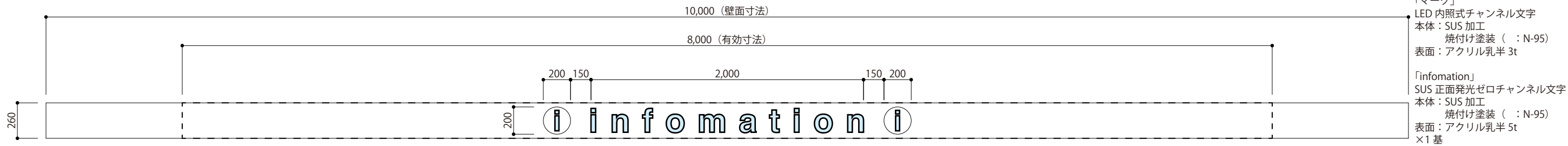


工事名称	道の駅那須高原友愛の森 観光交流センター増築工事		
図面名称/縮尺	部分詳細図（屋根） S= / 1:5		図面番号
設計年月日	平成31年3月		A－5 1
設計者	一級建築士（第332111号） 神谷 太郎		
発注者	那須町建設課		



サイン凡例	数量
●：室名札（平付型） 100×300 壁付けタイプ 文字：カッティングシート	6
①：案内カウンターサイン看板 別図参照	1
②：ビクトサイン（突出型） 200×200 突出しタイプ 文字：カッティングシート	1
③：ビクトサイン（突出型） 200×200 突出しタイプ 文字：カッティングシート	1
④：ビクトサイン（突出型） 200×200 突出しタイプ 文字：カッティングシート	1
⑤：掲示板 780×1100 壁付けタイプ ホスターバネ	2
⑥：アクリル掲示板（時刻表） 600×300 壁付けタイプ ホスターバネ	1
⑦：アクリル掲示板（路線図） 600×300 壁付けタイプ ホスターバネ	1
▲：フィルムシート切り文字	9

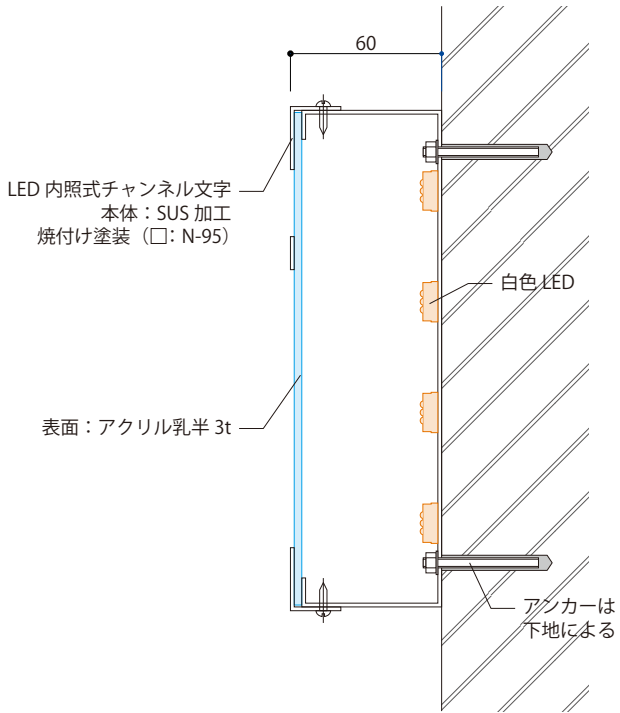
工事名称	道の駅那須高原友愛の森 観光交流センター増築工事	
図面名称/縮尺	サインキープラン S= / 1:50	図面番号
設計年月日	平成31年3月	A- 52
設計者	一級建築士（第332111号） 神谷 太郎	
発注者	那須町建設課	



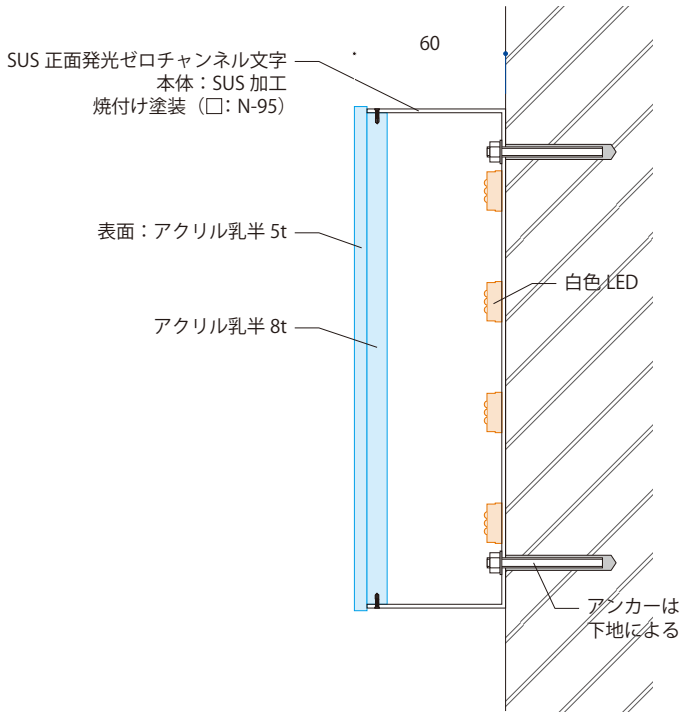
正面図：1/30



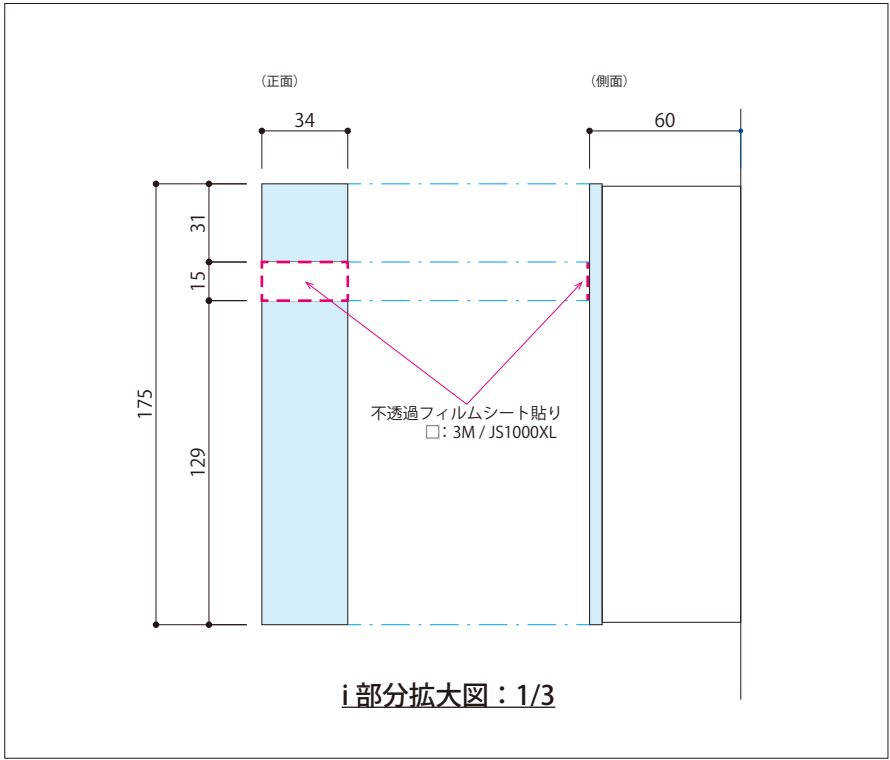
正面図：1/10



マーク部分側断面図：1/3



infomation 部分側断面図：1/3



i 部分拡大図：1/3

工事名称	道の駅那須高原友愛の森 観光交流センター増築工事	
図面名称／縮尺	S-1 サイン看板 S= / 1:30	図面番号
設計年月日	平成31年3月	A-53
設計者	一級建築士（第332111号） 神谷 太郎	
発注者	那須町建設課	

構造特記仕様書 その1

適用は ☒ 印を記入する。

1. 本仕様の適用範囲

(1) 本仕様の適用範囲

本特記仕様および配筋標準図は、設計基準強度が 18 N/mm²以上 60 N/mm²以下のコンクリートと、JIS G 3112に規定するSD295A、SD345、SD390およびSD490の鉄筋コンクリート用棒鋼を用いる高さが60m以下の鉄筋コンクリート造、鉄骨造等建物の設計及び工事に適用する。

(2) 仕様書等の優先順位

- 設計図書および仕様書の優先順位は以下による。
- 1 構造特記仕様書
 - 2 設計図（伏図、軸組図、部材リスト、詳細図など）
 - 3 構造関係共通事項（鉄筋コンクリート構造配筋標準図など）
 - 4 公共建築工事標準仕様書（一社公共建築協会 最新版）、以降「標準仕様書」という。

2. 建築物の構造内容

(1) 建築場所

栃木県那須町大字高久乙 広谷地内

(2) 工事種別

☐ 新築 ☒ 増築 ☐ 改築 ☐ ☐

(3) 構造設計一級建築士の関与

☐ 必要 ☒ 必要としない
☐ 法第20条第二号（☐ RC造高さ20 m超 ☐ S造 4階建以上 ☐ 木造高さ13 m超 ☐ その他）

(4) 階数

地下	階	地上	1 階	塔屋	階
地下	階	地上	階	塔屋	階
地下	階	地上	階	塔屋	階

(5) 構造種別

鉄骨造	構 造 種 別	該 当 階 等	架 構 特 徴 等
☐	鉄筋コンクリート造 (RC)	階～ 階	☐ 免震建物
☐	鉄骨鉄筋コンクリート造 (SRC)	階～ 階	☐ 制震建物
☒	鉄骨造 (S)	1階～ 1階	☐ 塔状建物
☐	壁式鉄筋コンクリート造 (WRC)	階～ 階	

(6) 主要用途

☐ 事務所 ☐ 共同住宅 ☐ 病院 ☐ 店舗 ☒ 事務室

(7) 屋上付属物

☐ キュービクル kN ☐ 高架水槽 kN ☐ 広告塔 kN ☐ 煙突 m
☐ 太陽光発電設備 ☐ 室外機 ☐ アンテナ ☐ 避雷針

(8) 設計荷重

(a) 主な積載荷重 (N/m ²)			
室 名	床 用	架 構 用	地 震 用

(b) 1次設計用地震力
Co=0.30 Z=1.00 Rt=1.00 K(地下)=0.10 地盤種別 1種 (2種) 3種

(c) 風荷重
地表面粗度区分 I II (III) 基準風速 Vo = (30) 32 34 m/sec

(d) 雪荷重
☒ 垂直積雪量 40 cm ☒ 設計用雪荷重 0.80 kN/m² ☐

(e) 特殊荷重及び特殊仕上材
☐ エレベーター kN 基 ☐ 受水槽 kN ☐ エスカレーター kN
☐ 発電機 ☐

(9) 構造計算ルート

X方向ルート () Y方向ルート ()

(10) 一次設計用層間変形角

X方向 1/367 rad Y方向 1/292 rad

(11) 付帯工事

☐ 門扉 ☐ 擁壁 ☐ 駐輪場 ☐ 機械式駐車場 ☐

(12) 特定天井

☐ 有 ☒ 無

(13) 屋根、床、壁

材 種	型式 厚 その他	使用箇所	仕様・構法
ALC (JIS A 5416)	厚	☐ 壁 ☐ 床版	☐ スライド ☐ ボルト止め
押出し成形セメント版	厚	☐ 壁 ☐ 床版	☐ ロッキング ☐
☐ ハーフPca版 ☐ Pca版	厚	☐ 壁 ☐ 床版	☐
折 版	H= 厚	☐ 屋根 ☐	☐
デッキプレート	型式 厚	☐ 屋根 ☐ 床版	☐ 1時間耐火 ☐ 2時間耐火

3. 使用建築材料表・使用構造材料一覧表

(1) コンクリート (レディーミクストコンクリート JIS Q 1001, JIS Q 1011, JIS A 5308)

適 用 範 囲		設計基準強度 Fc=N/mm ²	品質基準強度 Fq=N/mm ²	スランプ cm (スランプフロー)	比 重 γ=kN/m ³	備 考
階	部 位					
	☐ 柱 ☐ 梁 ☐ 壁 ☐ 床板 ☐					
	☐ 柱 ☐ 梁 ☐ 壁 ☐ 床板 ☐					
	☐ 柱 ☐ 梁 ☐ 壁 ☐ 床板 ☐					
	☐ 柱 ☐ 梁 ☐ 壁 ☐ 床板 ☐					
	☐ 柱 ☐ 梁 ☐ 壁 ☐ 床板 ☐					
1	☐ 床板 ☒ 基礎 ☒ 基礎梁	24	27	18以下	24	
	外構	☐				
	土間コンクリート	☒ 21	24	18以下	24	
	捨てコンクリート	☒ 18	18	18以下	24	
セメントの種類		☒ 普通ポルトランドセメント ☐ 中熱ポルトランドセメント ☐ 低熱ポルトランドセメント				
細骨材の種類		☒ 砂 ☐ 山砂 ☐ 砕砂 ☐				
粗骨材の種類		☒ 砂利 ☒ 砕石 ☐				
水の区分		☐ 水道水 ☒ 地下水 ☐ 工業用水 ☐				
構造体コンクリート強度を保証する材齢		材齢 (☒ 28日 ☐ 56日 ☐ 91日 ☐) 養生 (☒ 標準 ☒ 現場水中 ☐ 現場封かん ☐)				
単位水量		☒ 185 kg/m ³ 以下 ☐ 175 kg/m ³ 以下				
単位セメント量		☒ 270 kg/m ³ 以上 ☐				
混和剤		☒ AE減水剤 ☒ 高性能減水剤				
空気量		☒ 4.5±1.5%以内 ☒ 3.0%以下				
塩化物量		☒ 0.3 kg/m ³ 以下 ☐				
水セメント比		☒ 65 %以下 ☒ 60 %以下(寒中コンクリート)				

(2) コンクリートブロック (☐ JIS A 5406)

☐ A種 ☐ B種 ☐ C種 厚 ☐ 100 ☐ 120 ☐ 150 ☐ 190 使用箇所 (☐ ☐)

(3) 鉄 筋

鉄 筋	種 類	使用径 mm	使用 箇 所	備 考
異 形 鉄 筋 (JIS G 3112)	☒ SD295 A	D10～D16	基礎・地中梁	☒ 重ね継手
	☐ SD295 B			☒ ガス圧接継手
	☒ SD345	D19～D22	基礎・地中梁	☐ 溶接継手
	☐ SD390			☐ 機械式継手
	☐ SD490			☐ 機械式定着工法
高強度せん断補強筋	☐ 685			☐ 大臣認定番号
	☐ 785			MSRB—
	☐ 1275			
	☐			
溶 接 金 網 (JIS G 3551)	☐			
	☐			

注1) SD490をガス圧接する場合は施工前に試験を行うこと。
注2) 各継手の使用詳細については本仕様書の2の9. (2)鉄筋の項の鉄筋継手の項に ☒ にて表示すること。

(4) 鉄 骨

種 類	使用箇所	現場溶接	JIS規格・認定番号等
☐ SN400 A ☒ SN400 B ☐ SN400 C	大梁	☐ 有 ☒ 無	JIS G 3136
☐ SN490 B ☒ SN490 C	ダイヤフラム	☐ 有 ☒ 無	JIS G 3136
☒ SS400 ☐ SS490 ☐	小梁・間柱	☐ 有 ☒ 無	JIS G 3101
☐ SM400 A ☐ SM490 A		☐ 有 ☐ 無	JIS G 3105
☒ BCR295 ☐ BCP235 ☐ BCP325	柱	☐ 有 ☒ 無	大臣認定品 認定番号 MSTL—0142
☐ STKR400 ☐ STKR490		☐ 有 ☐ 無	JIS G 3466
☒ SSC400 ☐	胴縁・母屋	☐ 有 ☒ 無	JIS G 3350
☐			
溶接材料 ☒			JIS Z

(5) ボルト等

☒ 高力ボルト
☐ F10T(JIS B1186) ☒ S10T 大臣認定番号 () (☒ M16、☒ M20、☐ M22、☐ M24、☐)
☐ 溶融亜鉛めっき高力ボルト F8T 大臣認定番号 () (☐ M16、☐ M20、☐ M22、☐ M24、☐)
☐
☒ ボルト(JIS B1180) (M12) M16 ☒ 4.8(4T) ☐ ☐
☒ アンカーボルト
☐ SS400 ☐ SNR400 ☒ SNR490 (径及び長さは別紙に示す)
☐ 頭付スタッド(JIS B1198)
φ= L= mm 使用箇所 (☐ 柱 ☐ 大梁 ☐ 小梁)
φ= L= mm 使用箇所 (☐ 柱 ☐ 大梁 ☐ 小梁)

4. 地 盤

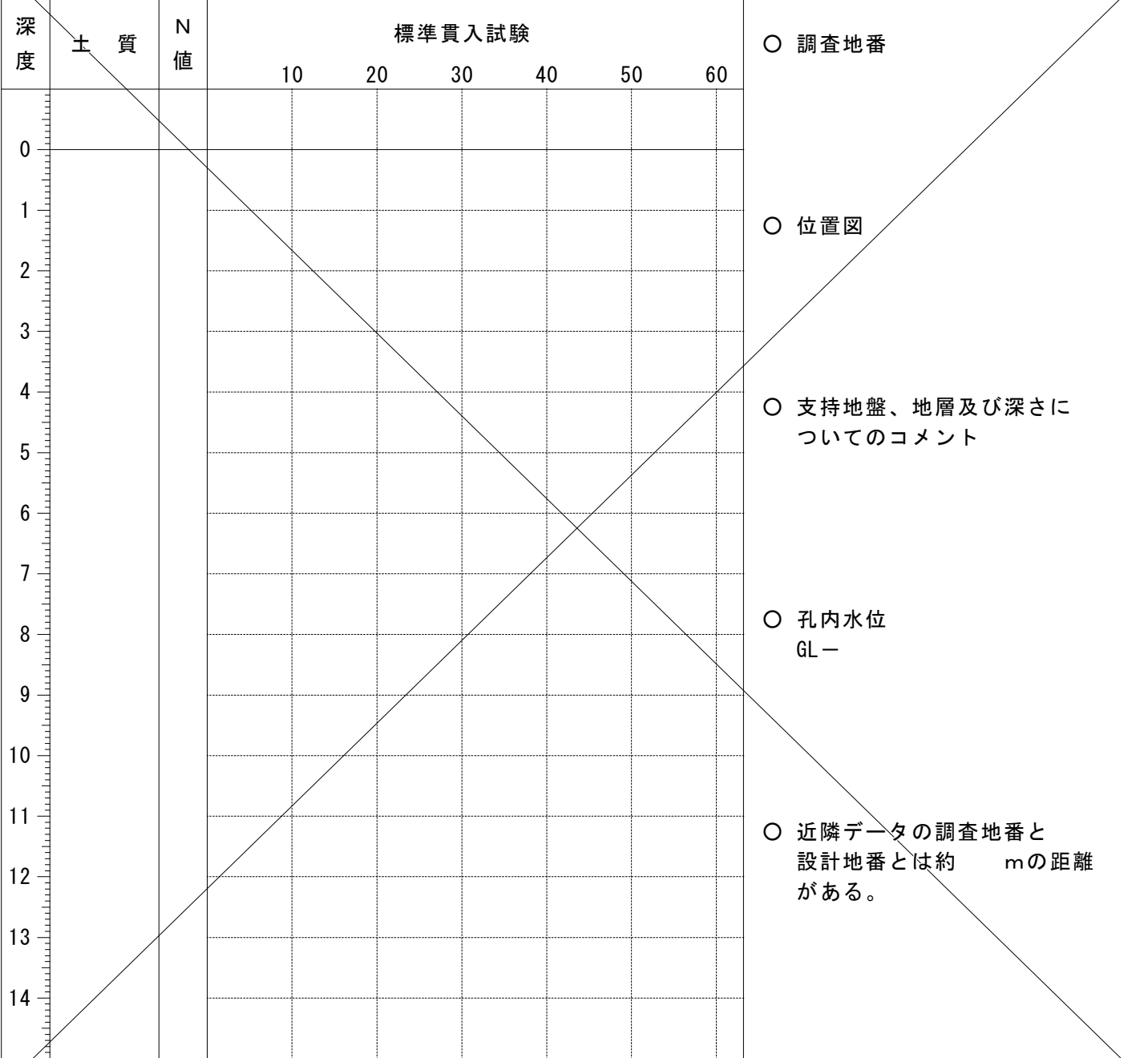
(1) 地盤調査資料と調査計画

☒ 有 (☒ 敷地内 ☐ 近隣) ☐ 無 (調査計画 ☐ 有 ☐ 無)

調 査 項 目	資料有り	調査計画	調査項目	資料有り	調査計画	調査項目	資料有り	調査計画
ボーリング調査			静的貫入試験			標準貫入試験		
水平地盤反力係数の測定			土質試験			物理探査		
試験堀（支持層の確認）			平板載荷試験			液状化判定		
スウェーデン式サウンディング	☒		現場透水試験			P S 検層		

注) 上記表中の資料が有るもの、調査計画が有るものに ☒ を記入する。

(2) ボーリング標準貫入値、土質構成 (基礎・杭の位置を明記すること)



5. 地業工事

(1) 直接基礎

☐ ベタ基礎 ☒ 布基礎 ☐ 独立基礎 試験堀 ☐ 有 ☒ 無
深さ GL—0.85m 支持層—礫混リシルト 長期許容支持力度 30 kN/m² 載荷試験 ☐ 有 ☒ 無

(2) 地盤改良

☐ 浅層混合処理工法 ☐ 深層混合処理工法 ☐
第三者審査機関による技術審査証明書を取得した工法と七、特記した工法または同一工法とする。
深さ GL— m、長期許容支持力度 kN/m² 載荷試験 ☐ 有 ☐ 無
注) 「建築物のための改良地盤の設計及び品質管理指針：日本建築センター2002」を参考とする。

(3) 杭基礎

支持層— 別図参照
杭工法 ☐ アースドリル工法
☐ アースドリル式底部杭工法
☐ 先端根固め底部工法
杭 種 ☐ 場所打ち杭 (☐ 鋼管巻・ ☐ 孤 頭・ ☐ 拡 底)
☐ 既製杭 (☐ SC・ ☐ PRC・ ☐ PHC・ ☐ 羽付鋼管)
承認図書 ☐ 施工計画書 ☐ 杭施工結果報告書
試験杭 ☐ 有・ ☐ 無 (☐ 打ち込み・ ☐ 載荷・ ☐ 孔壁測定) 本

6. 鉄骨工事 (施工方法等計画書)

(1) 鉄骨工事は指示のない限り下記による

- 日本建築学会「J A S S 6 2 0 1 5 年版」「鉄骨精度検査基準」「鉄骨工事技術指針」
- 一社) 日本鋼構造協会「建築鉄骨工事施工指針」
- 鉄骨製作管理技術者登録機構「突合せ継手の食い違い仕口のずれの検査・補強マニュアル」

(2) 工事監理者の承認を必要とするもの

- 製作工場 ☒ 製作要領書 ☒ 工作図 ☒ 施工計画書
- 認定または登録工場 (大臣認定 S H M (R) J グレード 都登録 T1 T2 T3 ランク)
- 材料規格証明書※、または試験成績書
- 鋼材 ☒ 高力ボルト ☐ 特殊ボルト ☐ 頭付スタッド
- ※一社) 日本鋼構造協会「建築構造用鋼材の品質証明ガイドライン」の規格証明方法、またはミルシート。
- 社内検査表 ☐

(3) 工事監理者が行う検査項目

検査項目は工事監理者と協議の上決定すること
(☒ 印以外の項目の検査結果については、工事監理者に報告すること)
☐ 現寸検査 ☒ 組立・開先検査 ☒ 製品検査 ☒ 建方検査 ☐

(4) 接合部の溶接は下記によること

- 平成12年建設省告示第1464号第二号 イ、ロ
- 鉄骨造等の建築物の工事に関する東京都取扱い要綱
- 日本建築学会「溶接工作標準、同解説 I、II、III、IV、V、VI、VII、IX」
- 日本建築学会「鉄骨工事技術指針 工事現場施工編」

(5) 接合部の検査

☒ 溶接部の検査 (検査結果は工事監理者に報告すること)

検 査 箇 所	検 査 方 法	検査率又は検査数			備 考
		工場自主検査	第三者受入検査	工事監理者	
☒ 完全溶込み溶接部 (突合せ溶接)	外観検査 (※1) 超音波探傷検査 内質検査 (注) ☐ 硬さ試験 ☐ 示温塗料塗布マクロ試験・その他	100 % 個	(※4) % 個	(※2) % 個	(※1) 平成12年建設省告示第1464号第二号による (目視及び計測) (※2) 報告書を確認 (※4) 標準仕様書7.6.11による (注) 東京都の要綱に基づき必要となる建築物の場合に実施する
☒ 突合せ溶接以外	外観検査 (※1)	100 % 個	(※4) % 個	(※2) % 個	
第三者検査機関名 (※3)		(都知事登録 号)			第三者検査機関とは、建築士、工事監理者又は工事施工者が、受入れ検査を代行させるために自ら契約した検査会社をいう。 (※3) C I W認定を取得していること

注1) 現場溶接部については原則として第三者検査機関による全数検査とし、外観検査、超音波探傷検査を100%行うこと
注2) 知事が定めた重大な不具合が発生した場合は、是正前に対応策を建築主事等に報告すること

- 高力ボルトの検査 (検査結果は後日工事監理者に報告すること)
軸力導入試験 ☐ 要 ☒ 否 高力ボルトすべり係数試験 ☐ 要 ☒ 否
- 一次締め後にマーキングを行い、二次締め後のずれを見て、共回り等の異常が無いことを確認する。
- トルシア形高力ボルトは二次締め後、マーキングのずれとピンテールの破断を確認する。

(6) 防錆塗装

- 防錆塗装の範囲は、高力ボルト接合の摩擦面及びコンクリートで被覆される以外の部分とする。
錆止めのペイントは、☐ JIS K 5621、☐ JIS K 5625、☒ JIS K 5674、
(フオースター F☆☆☆☆) を使用し、2 回塗りを標準とするが、実状に応じて決定すること。
- 現場における高力ボルト接合部及び接合部の素地調査は急入に行い、塗装は工場塗装と同じ錆止めペイントを使用し、2 回塗りとする。

(7) 耐火被覆の材料

☐

7. 設備関係

- 設備機器の架台及び基礎については、風圧・地震力等に対して構造耐力上安全であること。
- ☐ エレベーター・エスカレーターの駆動装置等は、構造体に安全に緊結されていること。また、地震時の層間変形に追従できること。
- 特記以外の梁貫通孔は原則として設けない。
- 床スラブ内に設備配管等を埋込む場合はスラブ厚さの1／3以下とし管の間隔を管径の3倍以上かつ5 cm以上を原則とする。
第129条の2の4の事項
・建築物に設ける建築設備にあつては、構造耐力上安全なものとして、以下の構造方法による。
- 建築設備 (昇降機を除く。)、建築設備の支持構造部及び緊結金物は、腐食又は腐朽のおそれがあるものには、有効なさび止め又は防腐のための措置を講じること。
- 屋上から突出する水槽、煙突、冷却塔その他これらに類するものは、支持構造部又は建築物の構造耐力上主要な部分に、支持構造部は、建築物の構造耐力上主要な部分に緊結すること。
- ☐ 煙突の屋上突出部の高さは、れんが造、石造、コンクリートブロック造又は無筋コンクリート造の場合は鉄製の支枠を設けたものを除き、90cm以下とすること。
- ☐ 煙突で屋内にある部分は、鉄筋に対するコンクリートのかぶり厚さを5cm以上とした鉄筋コンクリート造又は厚さが25cm以上の無筋コンクリート造、れんが造、石造若しくはコンクリートブロック造とすること。
- 建築物に設ける給水、排水その他の配管設備 (給湯設備^(※)を除く。) は、
 - 風圧、土圧及び水圧並びに地震その他の震動及び衝撃に対して安全上支障のない構造とすること。
 - 建築物の部分貫通して配管する場合においては、当該貫通部分に配管スリーブを設ける等有効な管の損傷防止のための措置を講ずること。
 - 管の伸縮その他の変形により当該管に損傷が生ずるおそれがある場合において、伸縮継手又は可換継手を設ける等有効な損傷防止の措置を講ずること。
 - 管を支持し、又は固定する場合においては、釣り金物又は防振ゴムを用いる等有効な地震その他震動及び衝撃の緩和のための措置を講ずること。
- 法第20条第一号から第三号までの建築物に設ける屋上水槽等にあつては、平成12建設省告示第1389号により、風圧並びに地震その他の振動及び衝撃に対して構造耐力上安全なものとすること。
- 給湯設備^(※)は、風圧、土圧及び水圧並びに地震その他の震動及び衝撃に対して安全上支障のない構造とすること。満水時の質量が15kgを超える給湯設備については、地震に対して安全上支障のない構造として、平成12年建設省告示1388号第5に規定する構造方法によること。
- (※)「給湯設備」 建築物に設ける電気給湯器その他の給湯設備で、屋上水槽等のうち給湯設備に該当したものを除いたもの。

8. その他

- 諸官庁への届出書類は遅滞なく提出すること。
- 各試験の供試体は公的試験機関にて試験を行い工事監理者に報告すること。
- 必要に応じて記録写真を撮り保管すること。

	工事名称	道の駅那須高原友愛の森 観光交流センター増築工事	
図面名称／縮尺	構造特記仕様書その 1	図面番号	
設計年月日	平成31年3月	S－01	
設計者	一級建築士（第332111号） 神谷 太郎		
発注者	那須町建設課		

構造特記仕様書

その2

適用は ☒ 印を記入する。

9. 鉄筋コンクリート工事

(1) コンクリート

鉄筋コンクリート工事の施工に関しては記載無きは、標準仕様書 による。

(a) コンクリートの仕様

本仕様書では標準仕様書に規定する普通骨材を用いた一般仕様のコンクリートを「普通コンクリート」と定義し表9.1に示す様に設計基準強度が36N/mm²以下のコンクリートについては標準仕様書の1節～15節を適用し、36N/mm²を超えるコンクリートについてはJASS5の17節（高強度コンクリート）を適用する。 また、設計基準強度と構造体強度補正値から定める調合管理強度以上とし発注するレディーミクストコンクリートの呼び強度が表9.2に示すJIS規格品外となる場合は、法第37条の大径認定を受けた製品を用いる必要がある。
軽量コンクリートについては 標準仕様書 の10節によること。

表9.1 コンクリート圧縮強度 (N/mm²) に応じた仕様書の使い分け

設計基準強度 Fc	18	21	24	27	30	33	36	39	42	45	48	51	54	57	60
JASS5での区分	普通コンクリート							高強度コンクリート							

表9.2 レディーミクストコンクリートのJIS規格品

調合管理強度 (N/mm ²)	21	24	27	30	33	36	39	42	45	48	51	54	57	60	60超
JASS5での区分	普通コンクリート							高強度コンクリート							

呼び強度 (JIS規格品)	21	24	27	30	33	36	40	42	45	50	55	55	60	60	※
※印は規格外															

(b) 品質と施工

- ☒ 構造体の計画供用期間の級は特記による。特記が無い場合は標準とする。
 - ☒ 標準 ☐ 長期 ☐ 超長期
- ☒ コンクリートは JIS A 5308（レディーミクストコンクリート）に適合するJIS認証工場の製品とする。
- ☒ 設計基準強度が 36 N/mm²を超えるコンクリートを扱うレディーミクストコンクリート工場は、「高強度コンクリート」の製品認証を受けているか、建築基準法第37条第二号によって国土交通大臣が指定建築材料として認定した高強度コンクリートの製造工場とする。
- ☒ レディーミクストコンクリート工場および高強度コンクリートを打設する施工現場には、コンクリート主任技士またはコンクリート技士、あるいはこれらと同等以上の知識経験を有すると認められる技術者が常駐していなければならない。
- ☒ 施工者は、工事に先立ち、コンクリートの調合・製造計画、施工計画、品質管理計画書を作成し、工事監理者の承認を得ること。
- ☒ フレッシュコンクリートの流動性は、スランプまたはスランプローで表し、設計基準強度が 36 N/mm²以下 33 N/mm²以上の場合スランプ21cm以下、33 N/mm²未満の場合スランプ18cm以下とし設計基準強度が36 N/mm²超 45 N/mm²未満の場合はスランプ 21 cm以下またはスランプロー 50 cm以下、設計基準強度が 45 N/mm²以上の場合はスランプ 23 cm以下またはスランプロー 60 cm以下とし、特記による。
- ☒ コンクリートに含まれる塩化物量は、塩化物イオン量として 0.3 kg/m³以下とする。
- ☒ コンクリートの練混ぜから打込み終了までの時間は、原則として120分を限度とする。
- ☒ コンクリート打込み時の自由落下高さは、コンクリートが分離しない範囲とする。
- ☒ 打継ぎ部は構造的に影響の少ない位置を選び打継ぎ処理を行い、打込み前に十分な水湿しを行う。
- ☒ 打込み後の湿潤養生の期間は、セメントの種類および設計基準強度に応じて3日以上とする。

(c) 調合および構造体コンクリート強度

i) 高強度コンクリート

- ☐ 調合強度を定めるための基準とする材齢は、特記による。特記のない場合は 28日とする。
- ☐ 構造体コンクリート強度を保証する材齢は、特記による。特記のない場合は-91日とする。
- ☐ 構造体コンクリート強度は、次の①または②を満足するものとする。
 - ① 標準養生した供試体による場合、調合強度を定めるための基準とする材齢において調合管理強度以上とする。
 - ② 構造体温度養生した供試体による場合、構造体コンクリート強度を保証する材齢において設計基準強度に 3 N/mm²加えた値以上とする。
- ☐ 調合管理強度は、以下による。
$$mFm = Fc + mSn \text{ (N/mm}^2\text{)}$$
$$mFm$$
 : 高強度コンクリートの調合管理強度 (N/mm²)
$$Fc$$
 : コンクリートの設計基準強度 (N/mm²)
$$mSn$$
 : 高強度コンクリートの構造体強度補正値で JASS5 による。
- ☐ 調合強度は標準養生供試体の圧縮強度で表すものとし、下記の両式を満足するように定める。
$$mF \geq mFm + 1.73\sigma_H \text{ (N/mm}^2\text{)}$$
$$mF \geq 0.85mFm + 3\sigma_H \text{ (N/mm}^2\text{)}$$
$$mF$$
 : 高強度コンクリートの調合強度 (N/mm²)
$$\sigma_H$$
 : 高強度コンクリートの圧縮強度の標準偏差 (N/mm²)で、レディーミクストコンクリート工場の実績による。実績がない場合は、0.1(Fc+mSn)とする。

ii) 普通コンクリート

- ☒ 調合を定めるための基準とする材齢は、原則として 28日とする。
- ☒ 構造体コンクリート強度は表9.3を満足すれば合格とする。

表9.3 構造体コンクリートの圧縮強度の判定基準

供試体の養生方法	試験材齢 ⁽¹⁾	判定基準
標準養生 ⁽²⁾	28 日	X ≥ Fm
コア	91 日	X ≥ Fc

ただし、X : 1回の試験における3個の供試体の圧縮強度の平均値 (N/mm²)

Fm: コンクリートの調合管理強度 (N/mm²)

Fq: コンクリートの品質基準強度 (N/mm²)

【注】(1) 早い材齢において試験を行い、合否判定基準を満たした場合は、合格とする。

(2) 工事監理者の承認を得て、供試体成型後、翌日までは20±10℃の日光および風が直接当たらない箇所、乾燥しないように養生して保管することができる。

* 標準養生供試体の代わりにあらかじめ準備した現場水中養生供試体によることができる。その場合の判定基準は材齢28日までの平均気温が20℃以上の場合は、3個の供試体の圧縮強度の平均値が調合管理強度以上であり、平均気温が20℃未満の場合は、3個の供試体の圧縮強度の平均値から 3 N/mm²を減じた値が設計基準強度以上であれば合格とする。
* コア供試体の代わりにあらかじめ準備した現場封かん養生供試体によることができる。その場合の判定基準は材齢28日を超え91日以内の n 日において3個の供試体の圧縮強度の平均値から 3 N/mm²を減じた値が設計基準強度以上であれば合格とする。

- ☒ 調合管理強度は、以下による。
$$Fm = Fc + mSn \text{ (N/mm}^2\text{)}$$
$$Fm$$
 : コンクリートの調合管理強度 (N/mm²)
$$Fc$$
 : コンクリートの設計基準強度 (N/mm²)
$$mSn$$
 : 標準養生した供試体の材齢 m 日における圧縮強度と構造体コンクリートの n 日における圧縮強度の差による構造体強度補正値 (N/mm²)

- ☒ 調合強度は標準養生した供試体の材齢 m 日における圧縮強度で表すものとし、下記の両式を満足するように定める。調合強度を定める材齢 m 日は、原則として 28 日とする。
$$F \geq Fm + 1.73\sigma \text{ (N/mm}^2\text{)}$$
$$F \geq 0.85Fm + 3\sigma \text{ (N/mm}^2\text{)}$$
$$F$$
 : コンクリートの調合管理強度 (N/mm²)

σ : 使用するコンクリートの圧縮強度の標準偏差 (N/mm²)で、レディーミクストコンクリート工場の実績による。実績のない場合は 2.5N/mm、または 0.1Fm の大きい方の値とする。

(d) 検査

- ☒ フレッシュコンクリートの塩化物測定は、原則として工事現場で（一財）国土開発技術センターの技術評価を受けた測定器を用いて行い、試験結果の記録および測定器の表示部を一回の測定ごとに撮影した写真（カラー）を保管し、工事監理者の承認を得る。測定検査の回数は、通常の場合 1 日 1 回以上とし、1 回の検査における測定試験は、同一試料から取り分けて 3 回行い、その平均値を試験値とする。
- ☒ スランプの許容差は、普通コンクリートの場合、スランプが 18cm以下の場合±2.5cm、21cmの場合±1.5cm（呼び強度27以上で高性能AE減水剤を使用する場合は±2cm）とする。高強度コンクリートの場合は、スランプが 18cm以下の場合±2.5cm、21cm以上の場合±2cmとし、スランプローの許容差は、目標スランプローが 50cm以下の時は±7.5cm、50cmを超える時は±10cmとする。
- ☒ 使用するコンクリートの圧縮強度試験は、普通コンクリートでは標準養生を行った供試体を用いて材齢 28日で行い、1回の試験は、打込み区ごと、打込み日ごと、かつ150m³またはその端数ごとに 3 個の供試体を用いて行う。3回の試験で 1検査ロットを構成する。高強度コンクリートでは、打込み日かつ300m³ごとに検査ロットを構成して行う。1検査ロットにおける試験回数は 3回とする。検査は適当な間隔をあげた任意の 3台のトラックアジテータから採取した合計 9個の供試体による試験結果を用いて行う。検査に用いる供試体の養生方法は標準養生とする。
- ☒ 構造体コンクリートの圧縮強度の検査は普通コンクリートでは、打込み区ごと、打込み日ごと、かつ 150m³またはその端数ごとに 1回行う。1回の試験には適当な間隔をおいた 3台の運搬車から 1個ずつ採取した合計 3個の供試体を用いる。高強度コンクリートでは打込み日、打込み区ごと、300m³ごとに行う。検査には適当な間隔をあげた任意の 3台のトラックアジテータから採取した合計 9個の供試体を用いる。検査に用いる供試体の養生方法は標準養生または構造体温度養生とする。
- ☒ 使用するコンクリートの圧縮強度の判定は、JASS5又は標準仕様書による。構造体コンクリートの圧縮強度の判定は、(c)調合および構造体コンクリート強度による。
- ☐ コンクリートの試験は、「建築物の工事における試験および検査に関する東京都取扱要綱」第4条の試験機関で行うこと。

試験・検査機関名	未定	(都知事登録 号)
代行業者名	未定	(登録番号 号)
代行業者とは、試験・検査に伴う業務を代行するものを言う。		

(2) 鉄 筋

(a) 施工

- ☒ 鉄筋はJIS G 3112（鉄筋コンクリート用棒鋼）に適合するものを用いる。溶接金網および鉄筋格子は、JIS G 3551（溶接金網および鉄筋格子）に適合するものを用いる。
 - ☐ 高強度せん断補強筋は、技術評価を取得し、建築基準法第37条の材料認定を受けたものを用いる。
- ☒ 鉄筋の加工寸法、形状、鉄筋の継手位置、継手の重ね長さ、定着長さは構造関係共通図（1）～（5）」による。
- ☒ 鉄筋の継手は重ね継手、ガス圧接継手、機械式継手または溶接継手によることとし、鉄筋径と使用箇所を定め特記による。

表9.4 鉄筋の継手

鉄筋継手工法	継手の位置等の設計条件による仕様・等級 (1) 引張力最小部位	(2) (1)以外の部位 ^(注)			鉄筋の径	使用箇所
		A 級	B 級	SA級		
☒ 重ね継手	標準図による				☒ D (16) 以下	躯体
☒ 圧接継手	☒ 告示1463号第2項各号	☒			☒ D (19) 以上	躯体
☐ 溶接継手	☐ 告示1463号第3項各号	☐	☐		☐ D () 以上	
☐ 機械式継手	☐ 告示1463号第4項各号	☐	☐	☐	☐ D () 以上	

注) (1) 以外の部位に設ける継手は、平成12年告示第1463号ただし書きに基づき、日本鉄筋継手協会、日本建築センター等の認定・評定等を取得した継手工法の等級で、構造計算にあたって『鉄筋継手使用基準（建築物の構造関係技術解説書 2015）』によって検討した部材の条件・仕様によること。

- ☒ 機械式継手および圧接継手および溶接継手は（公社）日本鉄筋継手協会「鉄筋継手工事標準仕様書」による他、所要の品質が得られるように工事計画および工事管理計画を定めて、工事監理者の承認を受ける。
- ☒ ガス圧接の施工は、（公社）日本鉄筋継手協会「鉄筋のガス圧接工事標準仕様書」による。強風時または降雨時には、原則として作業を行わない。ただし、風除け・覆いなどの設備をした場合には、工事監理者の承認を得て作業を行うことができる。
- ☒ 圧接技量資格者は、（公社）日本鉄筋継手協会によって認証された技量適格性証明書を工事監理者に提出し、承認を受ける。
- ☐ 機械式鉄筋定着工法に用いる定着板には信頼できる機関による性能証明書等を取得した定着金物を用いる。

(b) 検査

継手部の検査方法

各継手工法ごとの検査は平12建告1463号による他、具体的な検査方法は、（公社）日本鉄筋継手協会の仕様書を参照のこと。

表9.5 継手の検査

	継手方法	外観検査	引 張 試 験			超音波探傷試験		
			☐ 有 ☐ 無	%	個	☒ 有 ☐ 無	※1 %	個
1	ガス圧接	☒	☐ 有 ☐ 無	%	個	☒ 有 ☐ 無	%	個
2	溶 接	☐ 有 ☐ 無	☐ 有 ☐ 無	%	個	☐ 有 ☐ 無	%	個
3	機 械 式	☐ 有 ☐ 無				☐ 有 ☐ 無	%	個

※1 ガス圧接部分の検査は超音波探傷試験によって行う場合、試験の箇所数は1ロットに対して30箇所とする。（1ロットは同一作業班が同一日中に作業した圧接面所で200箇所程度とする。

- ☐ 鉄筋の継手の試験・検査は、「建築物の工事における試験および検査に関する東京都取扱要綱」第 4 条の試験機関、又は第 8 条の検査機関で行うこと。

試験・検査機関名	未定	(都知事登録 号)
----------	----	-----------

(3) 型 枠

- ☒ 型枠および支保工の存置期間は、昭63年建告第1655号に基づき下表による。

表9.7 型枠存置日数		昭和46年建設省告示第110号（昭和63年改正建設省告示第1655号）						
種類 部 位	セメントの種類	せ き 板				支 柱		
		基礎、梁側、柱、壁				スラブ下		
		早強ポルトランドセメント	普通ポルトランドセメント			早強ポルトランドセメント	普通ポルトランドセメント	早強ポルトランドセメント
			混合セメントA種				混合セメントA種	混合セメントA種
コンクリートの材令(日)	15℃以上	2	3			8	17	28
	5℃～15℃	3	5			12	25	28
	5℃未満	5	8			15	28	28
コンクリートの圧縮強度		5.0 N/mm ²				設計基準強度の		
						85%		100%

注) 1 片持ち梁、底、スパン 9.0m 以上の梁下は、工事監理者の承認による。
注) 2 大梁の支柱の盛替えは行わない。また、その他の梁の場合も原則として行わない。
注) 3 支柱の盛替えは、行わない。
注) 4 支柱の最小存置期間を上記材齢より短くする場合、圧縮強度確認の他に施工中の荷重及び外力について、構造計算により安全であることを確認する。

工事名称	道の駅那須高原文愛の森 観光交流センター増築工事	
図面名称/縮尺	構造特記仕様書その2	図面番号
設計年月日	平成31年3月	S-02
設計者	一級建築士（第332111号） 神谷 太郎	
発注者	那須町建設課	

L=本構造配筋標準図(1)の2-(3)による。

(1) 定着

② 大梁

柱幅が大きい場合

※柱幅が大きくて、直継部だけでL2とれる場合は、でも柱中心線を越えて中間折曲げサール長150以上又は180°フック付とする。

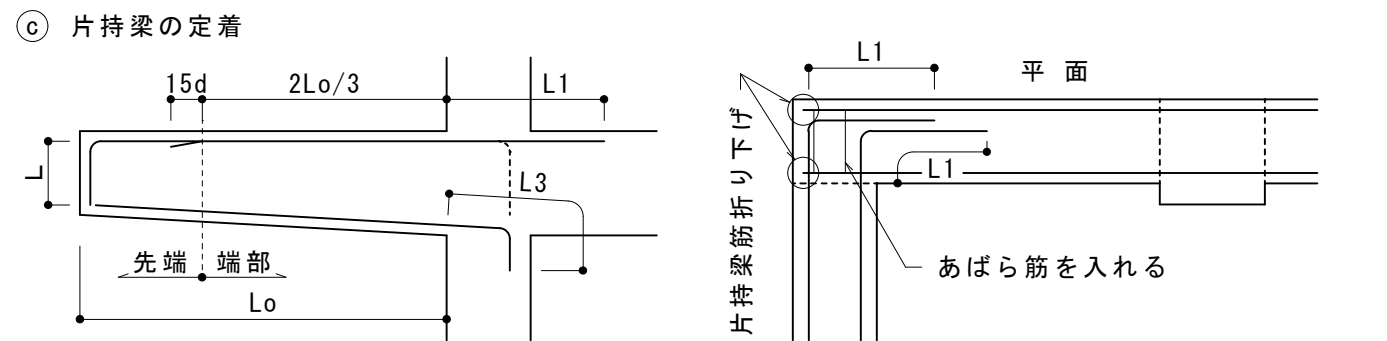
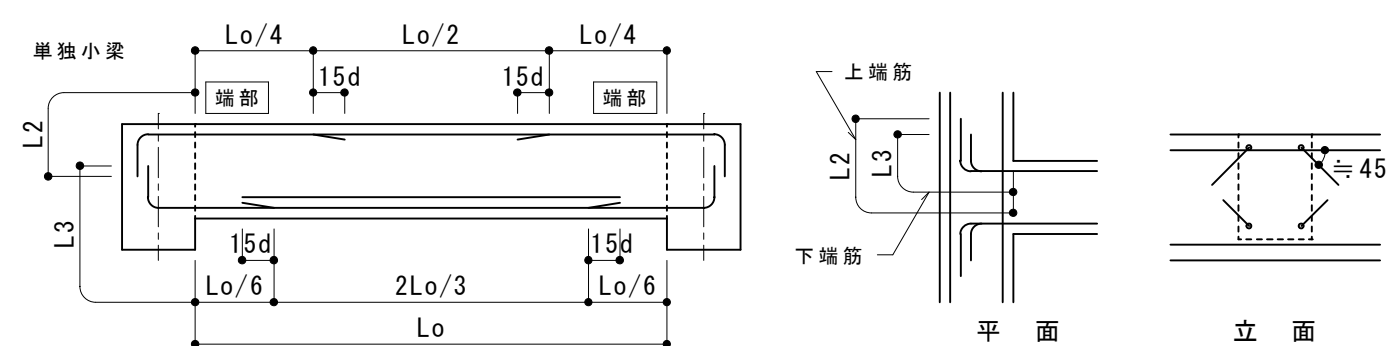
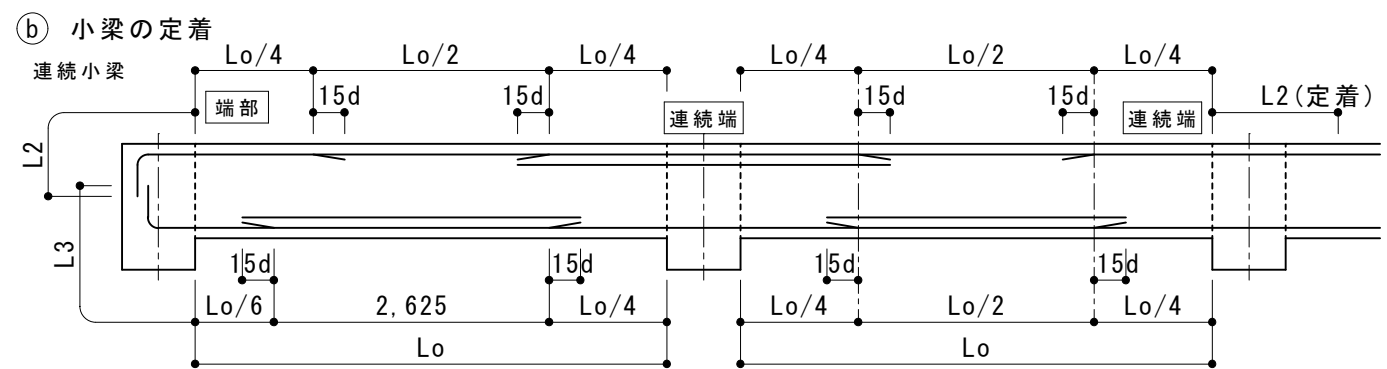


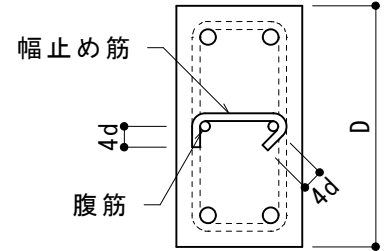
図1は、右腕の好ましい位置を示す模式図である。図には、右腕の好ましい位置を示す模式図が示されている。図には、右腕の好ましい位置を示す模式図が示されている。図には、右腕の好ましい位置を示す模式図が示されている。

×印は巾止め筋

つりあげ筋は、一般のあばら筋より1サイズ太い鉄筋か、又は、同サイズを2本巻きとする

- (5) 腹筋及び幅止め筋の本数、加工

腹 筋	D < 600 不要
	600 ≤ D < 900 2-D10 1段
	900 ≤ D < 1,200 4-D10 2段
	1,200 ≤ D < 1,500 6-D10 3段
	1,500 ≤ D ≤ 1,800 8-D10 4段
幅止め筋	D10(9φ)@1,000以内で割り付ける



(1) 定着および継手

① 片持床スラブ

② 一般床スラブ

継手位置は原則として下表による		標準継手位置
上端筋	短 辺 方 向	B
	長 辺 方 向	B
下端筋	短辺・長辺方向	A , C

5-D10 (L=1,500)

5-D10 (L=1,500)

5-D10 (L=1,500)

・屋根スラブの出隅及び入隅部分には、補強筋を上端筋の下側に配置する。

Figure 1 illustrates the reinforcement details for a rectangular opening in a slab. The diagram shows a central square opening of side length n_1 surrounded by a slab of width L_1 . Reinforcement includes top and bottom longitudinal bars (D13), and diagonal cross-hatching bars (D13) with a spacing of $n_2/2$. The distance from the opening edge to the center of the diagonal bars is $n_1/2$. The total width of the slab is L_1 . The distance from the opening edge to the center of the longitudinal bars is $L_1/2$. The distance from the opening edge to the center of the diagonal bars is $n_1/2$. The distance from the opening edge to the center of the diagonal bars is $n_1/2$.

(a) $H \leq 70$ の場合

(b) $70 < H \leq 150$ の場合

(注) $a \leq 300\text{mm}$ の場合

(1) 定着

(a) 梁に

縦筋の配置は上下端とも梁、又は床面に一段目を設置する。

(b) 柱に(平面図)

縦筋は、柱面に一本目を設置する。



完全スリット

部分スリット

シーリング材

柱

250

250

100

t は階高の1/100程度

t は階高の1/100程度

$D10@400$ 程度

$D10@400$ 程度

$W \leq D/6, 2 \times 7 \text{cm}$

スリット部の鉄筋の振り厚さは
2~4かぶり厚さの表、最少か
ぶり厚さ以上とする。

(但し、 $H > 800$ 以上の場合は設計図による)

注) $h_0 \leq 25t$ かつ3,500以下とする。但し直交方向25t以内に壁、又は柱がある場合は除く
注) h はコンクリートブロック段数調節寸法とする。但し、 $200 \leq h \leq 400$
注) 継手部は必ずモルタルを充填すること

(1) 柱

70mm ≦ a, a1, a2 ≦ 200mm の場合

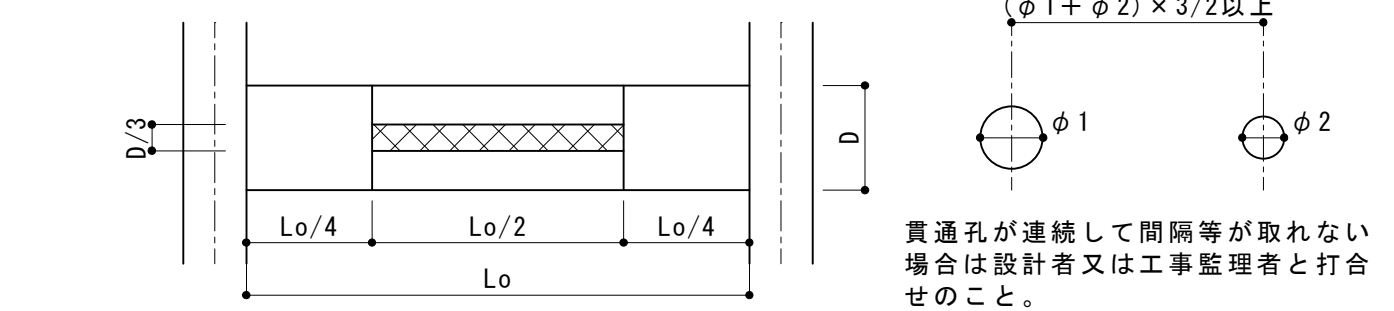
L2
a
D16
300mm 以下
300mm 以下
増打部分
1 方向の増打

帯筋と同径、同材質、
間隔隔

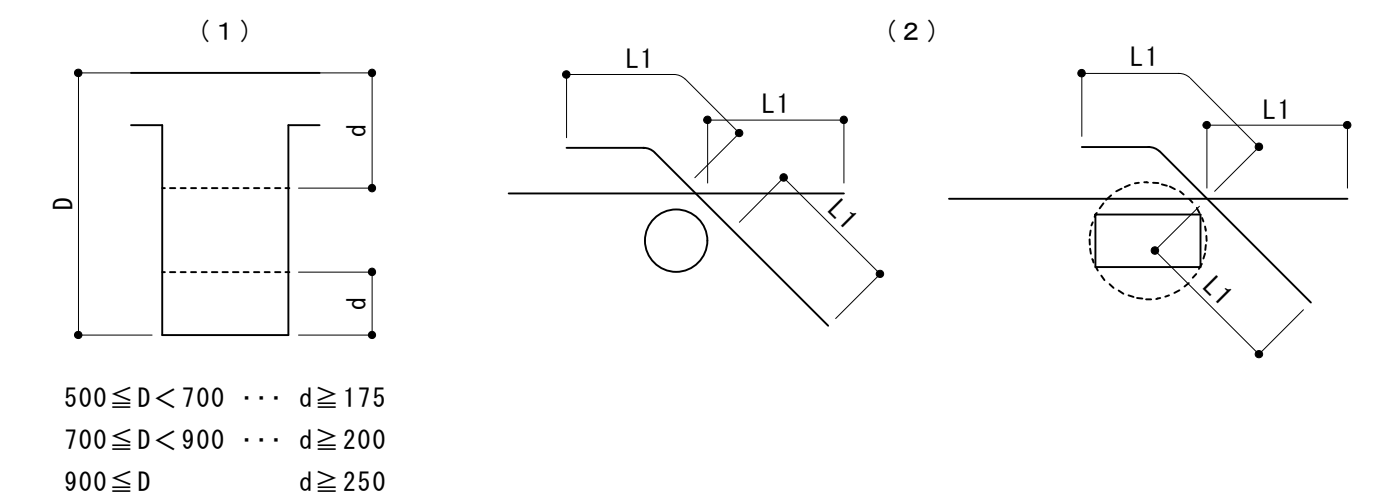
L2
a2
D16
300mm 以下
300mm 以下
300mm 以下
増打部分
2 方向の増打

- ・補強筋は $b \leq 350\text{mm}$ の場合は2-D16とし
 $b > 350\text{mm}$ の場合は3-D16とする。
- ・あばら補強筋は、梁と同径、同材質、
同ピッチとする。
- ・腹筋D10ピッチは、梁の腹筋と合せる。
- ・a, a1, a2は70～200mm程度とする。
- ・ハッチ部分は打増しコンクリートを示す。

梁端部（スパン $L/10$ 以内かつ $2D$ 以内）は原則として避ける



1. 孔の径は、梁せいりの1/3以下とし、孔が円形でない場合はこれの外接円とする。
2. 孔の上下方向の位置は、下図(1)による。
3. 孔の中心位置の限度は、柱及び直交する梁(小梁)の面から原則として1.2D(Dは梁せいり)以上離す。
4. 孔が並列する場合は、その中心間隔は、孔の径の平均値の3倍以上とする。(上図)
5. 縦筋及び上下縦筋は、あばら筋の形に配筋する。
6. 補強筋は、主筋の内側とする。むねを得ない場合は、監督職員の承諾を受けて外側とすることができる。また、鉄筋の定着長さは、下図(2)による。
7. 孔の径が梁せいりの1/10以下、かつ、150mm未満のものは、補強を省略することができる。
8. 溶接金網の余長は1格子以上とし、突出しは10mm以上とする。
9. 溶接金網の貫通孔部分には、鉄筋1ー13φのリング筋を取り付ける。なお、リング筋は、溶接金網に4割以上溶接する。
10. 溶接金網の割付け始点は、横筋ではあばら筋の下側とし、縦筋では貫通孔の中心とする。



- ・使用するときには、設計者又は工事監理者と打合わせのこと。
- ・評定品とする。

メーカー

- ・MAXウェブレン(テイエム技研(株))
- ・ダイヤレンNS(コーリョー建販(株))
- ・MAXリンブレンK型(丸井産業(株))

(1) 柱、梁

(2) 地中梁

(3) 床版、壁

工事名称	道の駅那須高原友愛の森 観光交流センター増築工事	
図面名称/縮尺	鉄筋コンクリート構造配筋標準図(2)	図面番号
設計年月日	平成31年3月	S-04
設計者	一級建築士(第332111号) 神谷 太郎	
発注者	那須町建設課	

鉄骨構造標準図（１）

１．一般事項

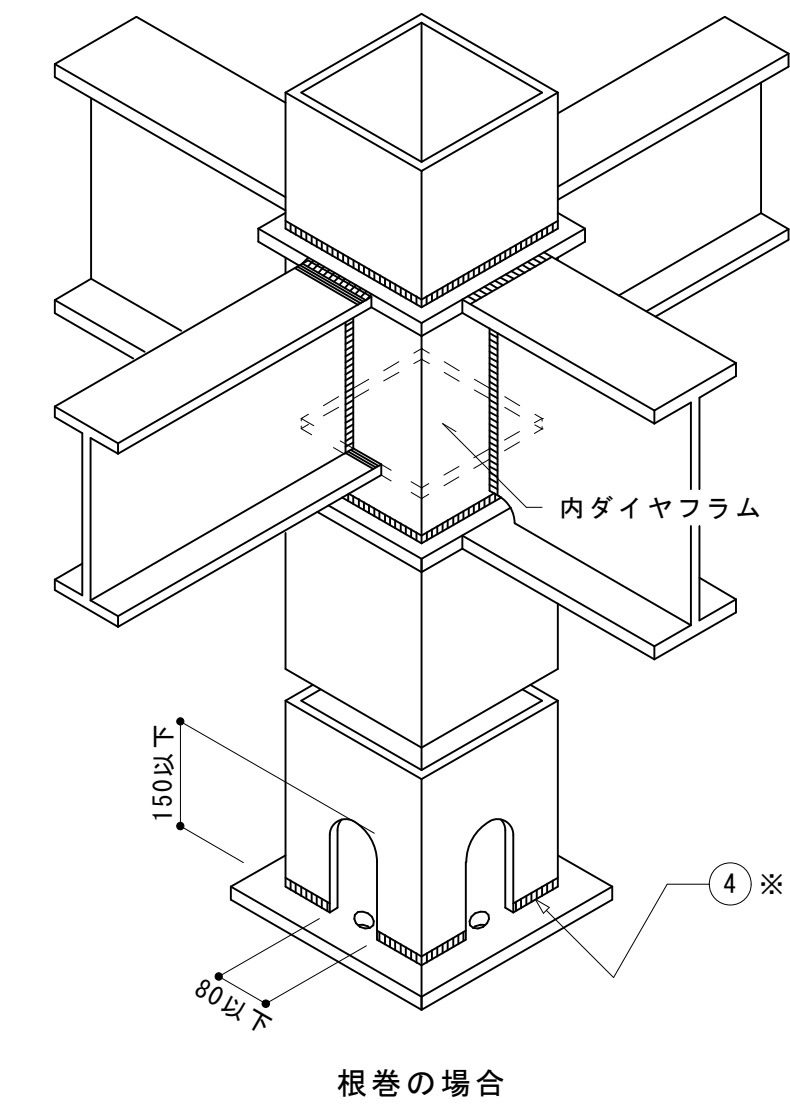
- (1) 材料及び検査
- (a) 構造設計仕様による
- (b) 適用範囲は、鋼材を用いる工事に適用し、かつ鋼材の厚さが40mm以下のものとする
- (c) 社内検査結果の検査報告書には、鉄骨の寸法、精度及びその他の結果を添付する
- (2) 工作一般
- (a) 鉄骨製作及び施工に先立って「鉄骨工事施工要領書」を提出し工事監理者の承認を得る
- (b) 鋼管部材の分岐継手部の相貫切断は、鋼管自動切断機による
- (c) 高張力鋼の歪み矯正は、冷間矯正とする
- (3) 高力ボルト接合
- (a) 本締めに使用するボルトと、仮締めボルトの併用はしてはならない
- (4) 溶接接合
- (a) 溶接技能者
- 溶接技能者は施工する溶接に適應するJIS Z3801(手溶接)又はJIS Z3841(半自動溶接)の溶接技術検定試験に合格し引き続き、半年以上溶接に従事している者とする
- (b) 溶接機器
- (イ) 交流アーク溶接機 300A～500A (ニ) 炭酸ガスアーク半自動溶接機
- (ロ) アークエアーガウジング機(直流) (ホ) 溶接電流を測定する電流計
- (ハ) サブマージアーク溶接機一式 (ヘ) 溶接棒乾燥器
- (c) 溶接方法
- アーク手溶接(MC) ガスシールドアーク半自動溶接(GC)
- セルフ(ノンガス)シールドアーク半自動溶接(NGC) アークエアーガウジング(AAG)
- (d) 溶接姿勢
- 下向 F 立向 V 横向 H 上向 O
- (e) 組立溶接技能者は、原則として本工事に従事する者が行う
- (イ) 仮付位置
- 組立溶接は溶接の始、終端、隅角部など強度上、工作上、問題となり易い箇所は避ける
- 仮付不良 良 仮付不良 良
- (ロ) 完全溶込み溶接部の仮付溶接は必ず裏はつり側に施工する
- 仮付溶接 裏はつり側にする 開先面
- (f) 溶接施工
- (イ) エンドタブ
- Ⅰ 完全溶込み溶接、部分溶込み溶接の両端部に母材と同厚で同開先形状のエンドタブを取り付ける
- Ⅱ エンドタブの材質は、母材と同質とする
- Ⅲ エンドタブの長さは、MC:35mm以上
- NGC、GC:40mm以上とし特記のない場合は、溶接完了後、母材より10mm程度残し切断して、グラインダー仕上げとする
- Ⅳ プレス鋼板タブ、固形タブ使用については、資料を提出して設計者又は工事監理者の承認を得る
- (ロ) 裏あて金
- 材質は母材と同質材料とし厚さは手溶接で6mm、半自動溶接で9mm以上とする
- (ハ) スカラップ半径は30～35mmと10mmのダブルアールとする
- 但し梁成が0=150mm未満の場合のスカラップはr=20mmとする
- (ニ) ノンスカラップ工法
- r スカラップ r=30～50mm
- 裏当て金
- G:ルート間隔 θ:開先角度
- (ホ) 裏はつり
- 標準図の溶接においてAAGと記載のある部分は全て、溶接監理者の確認を励行し、部材に確認マークをつける
- (ヘ) 現場溶接の開先面には、溶接に支障のない防錆材を塗布する。又、開先部をいためない様に、養生を行う
- (5) 塗 装
- コンクリートに埋め込まれる部分及びコンクリートとの接触面で、コンクリートと一体とする設計仕様になっている部分は、塗装をしない

２．溶接標準図 (注) f:余盛 G:ルート間隔 R:フェース S:脚長 (単位mm)

- (1) 隅肉溶接
- ①
- $t \leq 16\text{mm}$
- | t | 7以下 | 8～10 | 11～13 | 14～16 |
|---|-----|------|-------|-------|
| S | 6 | 7 | 10 | 12 |
- ・但し片面溶接の場合は $S=t$ とする
- ・ t は t_1 、 t_2 の小さな方とする
- ・余盛りは(1+0.15)mm以下とする
- ・軸力がかかる場合のSは母材と同厚とすることが望ましい
- (2) 部分溶け込み溶接 (使用箇所注意)
- ②
- $R \leq 2$
- $t/4 \leq S \leq 10\text{mm}$
- $t \leq t_1$
- | t | t > 16mm |
|------|----------|
| 溶接姿勢 | F.V |
- ・両側に補強隅肉溶接を付加する
- (3) 完全溶込み溶接 (平継手 T形継手)
- ③
- $\theta = 45^\circ$
- $f = t/4$
- $G = 0 \sim 2$ (裏はつり後裏溶接)
- $R \leq 2$
- t
- | t | $6 < t < 19\text{mm}$ |
|------|-----------------------|
| 溶接姿勢 | F.V |
- ・両側に補強隅肉溶接を付加する AAG
- ④
- $f = t/4$
- | MC NGC | | GC | |
|------------------|----------|----|-------------|
| t mm | θ | G | t1 L |
| $6 \leq t < 12$ | 45° | 6 | 5 45° 6 5 |
| $12 \leq t < 16$ | 35° | 9 | 8 45° 6 9 8 |
| $16 \leq t$ | 35° | 9 | 8 35° 9 9 8 |
- 溶接姿勢 F.V
- ・補強隅肉溶接を付加する
- ⑤
- $\theta = 45^\circ (55^\circ)$ T形突合せ継手余盛
- | のど厚 tmm | 余盛の高さ mm |
|------------------|----------|
| $t \leq 4$ | 1 |
| $4 < t \leq 12$ | 2 |
| $12 < t \leq 19$ | 3 |
| $19 < t$ | 4 |
- t $t \geq 19\text{mm}$
- 溶接姿勢 F.V
- ・AAG()内はGCでF.Hの場合
- ・両側に補強隅肉溶接を付加する
- ⑥
- $f \geq 0.5\text{mm}$ (但し、 $t \geq 15\text{mm}$ の時4mmとする)
- $a > 4\text{mm}$ の場合 (平継手で板厚が異なる時)
- $\theta = 45^\circ$
- $R \leq 2$
- $G = 0 \sim 2$
- t_1
- 削り面
- 5
- a
- t_2
- $G = 0 \sim 2$
- (裏はつり後裏溶接)
- (裏はつり後裏溶接)
- ・両側に補強隅肉溶接を付加する
- t $6 < t < 19\text{mm}$
- 溶接姿勢 F.V
- ⑦
- $\theta = 45^\circ$
- $f = t/4$
- | MC NGC | | | | GC | | | |
|---------------------|----------|---|---------------|----------|---|------|--|
| t mm | θ | G | t1 L | θ | G | t1 L | |
| $6 < t < 12$ | 45° | 6 | 6 5 45° 6 5 | 45° | 6 | 6 5 | |
| $12 \leq t \leq 19$ | 35° | 9 | 9 8 45° 6 9 5 | 35° | 9 | 9 5 | |
| $19 < t$ | 35° | 9 | 9 8 35° 9 9 8 | 35° | 9 | 9 8 | |
- 溶接姿勢 F.V
- (4) フレーア溶接
- K形の場合
- ⑧
- 寸法(mm)
- | ϕ | B | S |
|--------|----|-----|
| 9 | 7 | 4 |
| 13 | 8 | 4.5 |
| 16 | 9 | 5 |
| 19 | 10 | 6 |
| 22 | 11 | 7 |
| 25 | 12 | 8 |
- ・フレーア溶接長は、鋼板に接する全長とする
- ・9mm～16mmは1パス以上、19mm以上は2パス以上とする
- 溶接棒角度 θ は30°～40°とする

・溶接記号番号を○中に記入のこと

● B O X 型 (通しダイヤフラムの場合)

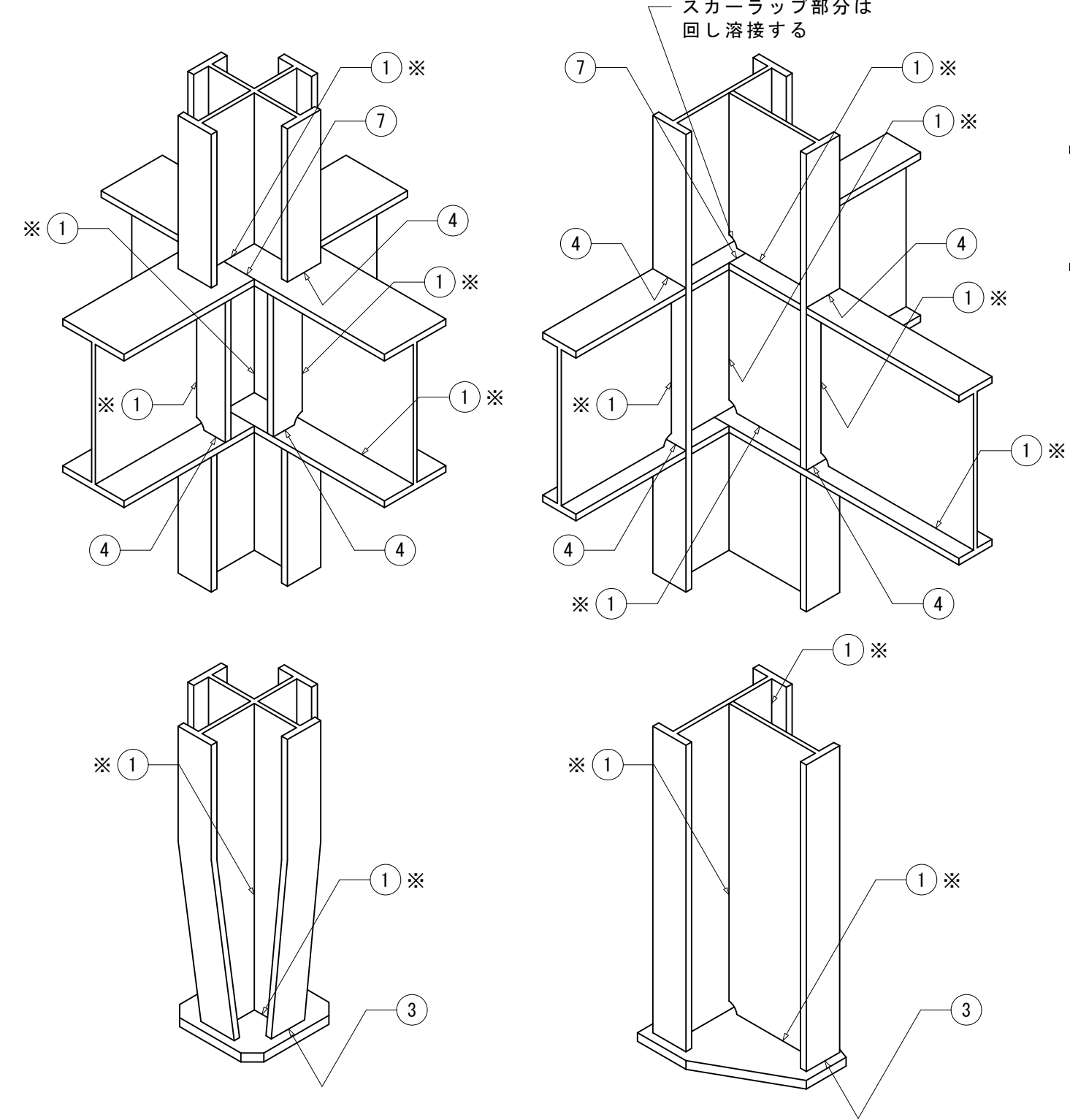


● 柱が途中で折れる場合及び梁成が異なる場合

● 鋼材種別による溶接条件

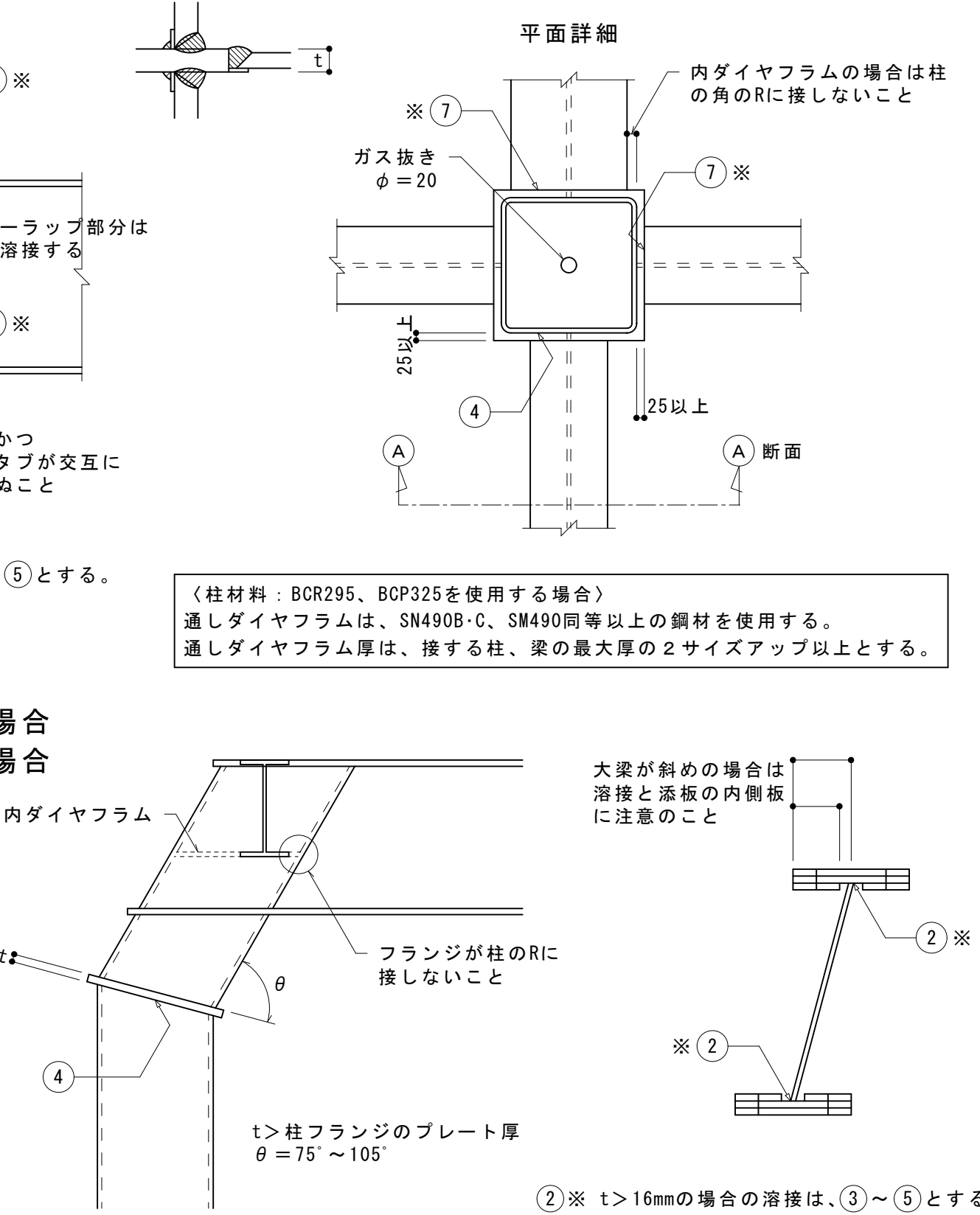
鋼材の種類	溶接材料	入熱 (KJ/cm)	パス間温度 (℃)
400N級鋼	JIS Z 3211, 3212, 3214	40以下	350以下
	YGW-11, 15		
	YGW-18, 19		
	YGA-50W, 50P		
490N級鋼	JIS Z 3212, 3214	40以下	350以下
	YGW-11, 15	30以下	250以下
	YGW-18, 19	40以下	350以下
	YGA-50W, 50P	40以下	350以下

● ㄱ、ㄴ、ㄷ型

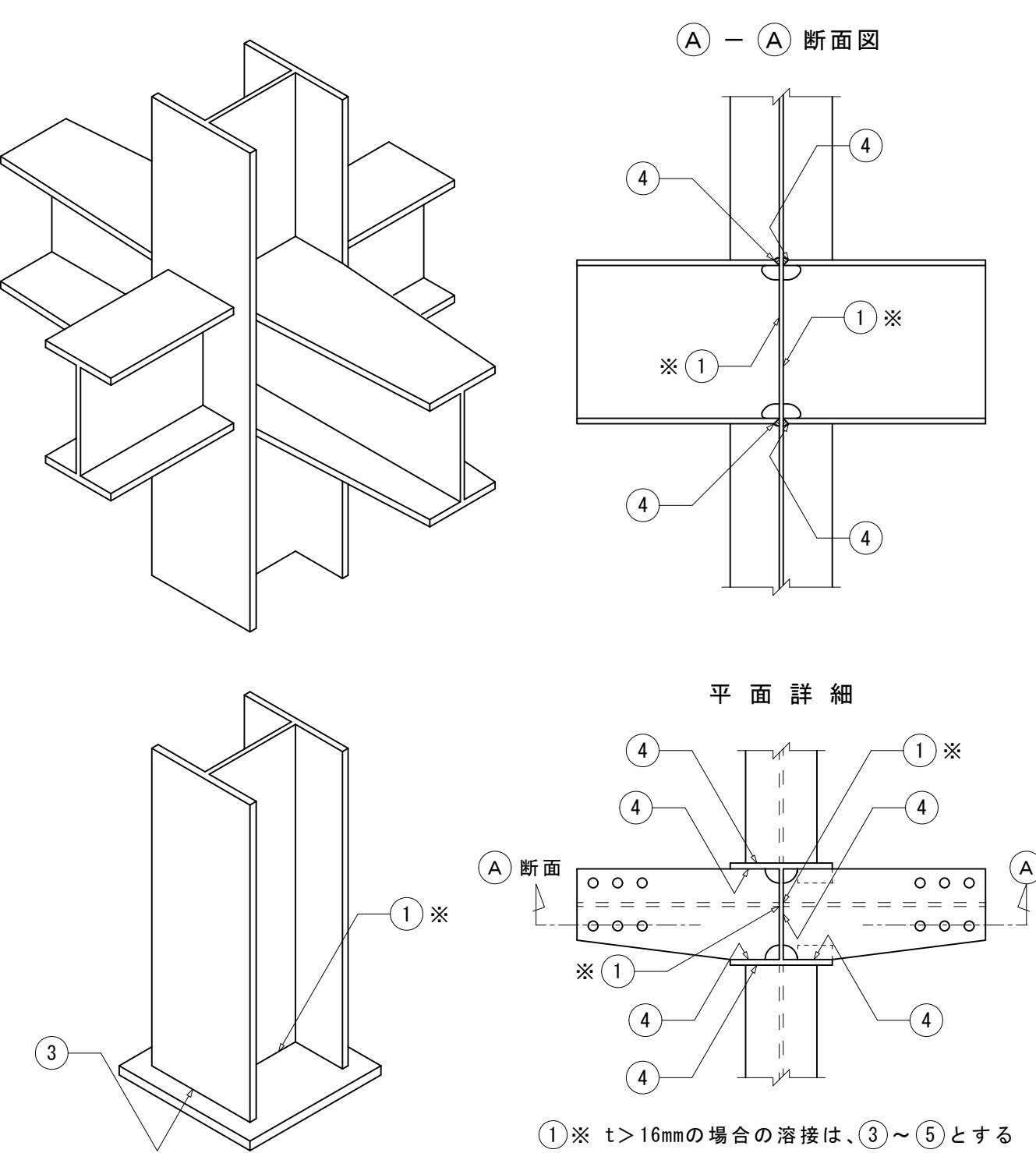


① ※ t > 16mmの場合の溶接は、②又は③～⑤とする。

⑦ ※ 梁フランジは、通しダイヤフラムの厚み(t)の内部で溶接する事。



● B . H 方式



① ※ t > 16mmの場合の溶接は、③～⑤とする

工事名称	道の駅那須高原友愛の森 観光交流センター増築工事	
図面名称/縮尺	鉄骨構造標準図(1)	図面番号
設計年月日	平成31年3月	S-05
設計者	一級建築士(第332111号) 神谷 太郎	
発注者	那須町建設課	

鉄骨構造標準図(2)

3. 継手標準図、その他

(1) ボルトピッチ (P) ボルト穴径・最小縁端距離 (mm)							
呼 び	ボルト穴径 (中ボルト)	最小縁端距離 (e)				ピッチ (P)	
		(1)	(2)	(3)	(2) (3) の標準	最小	標準
ボルト等	M12	14 (13)	30	22	18	35	30
	M16	18 (17)	40	28	22	40	40
	M20	22 (21)	50	34	26	40	50
	M22	24 (23)	55	38	28	40	55
アンカーボルト	M24	26 (25)	60	44	32	45	60
	M12	17		22	18		
	M16	21		28	22		
	M20	25		34	26		
	M22	27		38	28		
	M24	29		44	32		
	M27	32		49	36		
	M30以上	呼び+5		9d/5	4d/3		

〔注〕 (1) 引張材の接合部で応力方向にボルトが3本以上並ばない場合の応力方向の縁端距離
(2) せん断縁・手動ガス切断縁の場合の縁端距離
(3) 圧延縁・自動ガス切断縁のご引き縁・機械仕上縁の場合の縁端距離

(2) ピン接合梁継手リスト					
<TYPE-1> <TYPE-2> <TYPE-3>					
H-100x50及びH-150x75の場合					
符 号	タイプ	部 材	PL-(1)	PL-(2)	N-径

(3) 剛接合継手リスト (SCSS-H97による)							
符 号	部 材	PL-(1)	PL-(2)	N1-径	PL-(3)	N2-径	ウェブ

(4) ハンチ部の継手 フランジ及びウェブ厚の差のある場合							
符 号	部 材	PL-(1)	PL-(2)	N1-径	PL-(3)	N2-径	ウェブ

(5) 柱継手リスト (SCSS-H97による)							
B1	B2	PL-(1)	PL-(2)	N1-径	PL-(3)	N2-径	ウェブ
150	60						
175	70						
200	80						
250	100						
300	110						
350	140						
400	170						
Aタイプ Aタイプ使用は 柱D=250mm以下とする							
Bタイプ							
Cタイプ							

〔注〕現場溶接は原則として超音波探傷試験を100%を行う							
符 号	部 材	PL-(1)	PL-(2)	N1-径	PL-(3)	N2-径	ウェブ

(5) 鉄筋ブレース (a) 羽子板ボルト							
ねじの呼び (d)		M12	M14	M16	M18	M20	M22
軸径d1	最 大	10.81	12.65	14.65	16.33	18.33	20.33
	最 小	10.64	12.46	14.46	16.11	18.11	20.11
調整ねじの長さ S		100	115	125	140	150	165
取付ボルト穴径 R		13.0	17.0	17.0	21.5	21.5	23.5
許容差+0, -0.5mm							
は し あ き (最小) (2) e1		35	40	45	50	50	55
切板製	へりあき (最小) (1) e2	22	28	28	34	34	38
	板 厚 t	4.5	6	6	9	9	9
平鋼製	へりあき (最小) (1) e2	19.0	25.0	25.0	32.5	32.5	37.5
	板 厚 t	4.5	6	6	9	9	9
ボルト端から取付ボルト穴芯のあき (最小) e3		47	52	59	66	66	73
溶接長さ (最小) L		40	50	55	60	75	85
(2) 取付ボルト	種 類	JIS B 1186 2種高力ボルト (F10T) 又は JIS B 1180 中 8g 10.9					
	ねじの呼び	M12	M16	M16	M20	M20	M22
	本 数	1	1	1	1	1	2

〔注〕 (1) e1, e2が確保できれば形状は自由でよい
(2) 羽子板とガセットプレートの場合は表に示す取付ボルトを使用し、一面せん断 (支圧) 接合とする

(b) 形鋼ブレース				
符 号	部 材	PL-(1)	N-径	L

羽子板ボルト

長さ

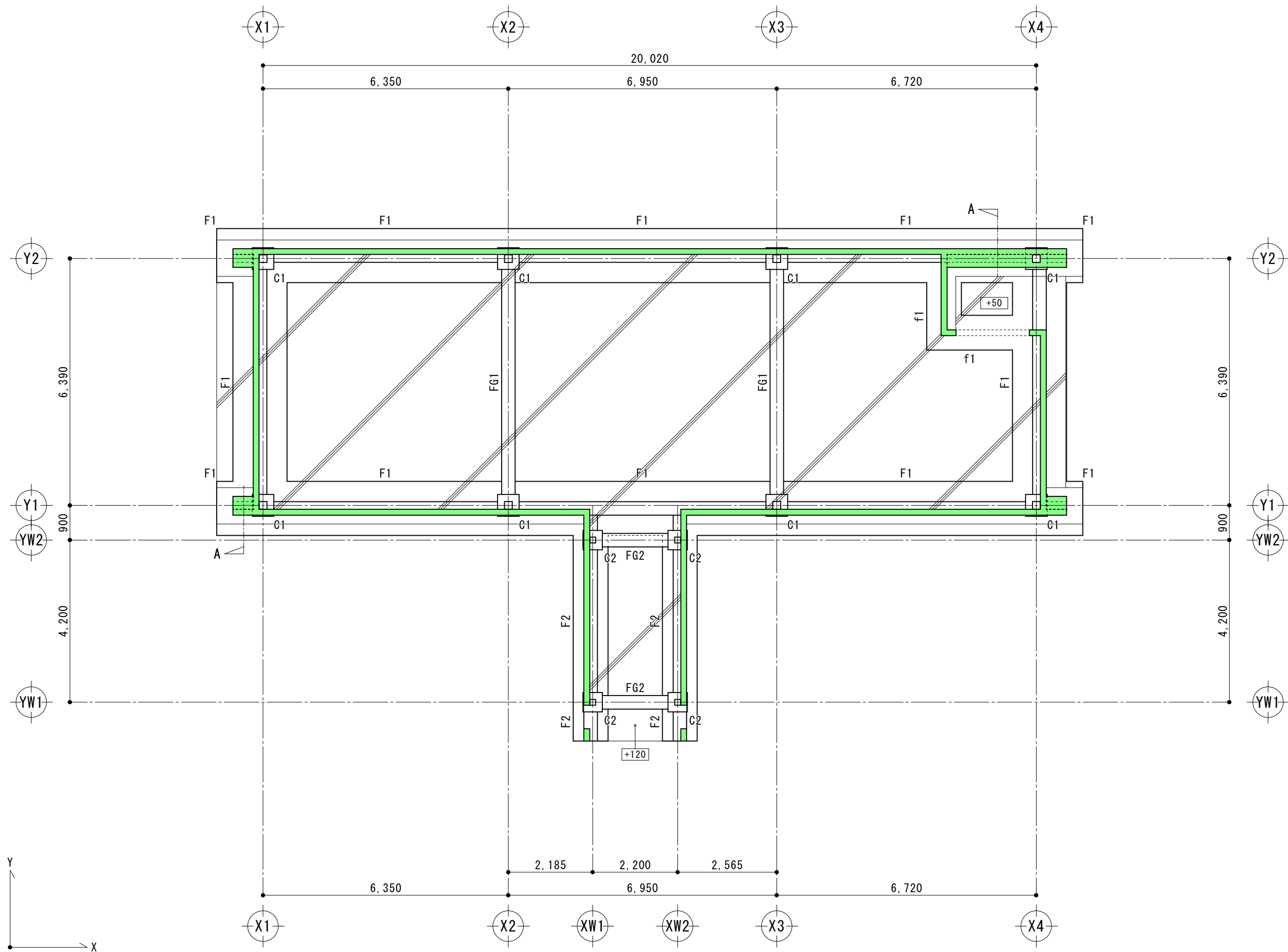
⑧ L e3 e7

長さ

⑧ L e3 P

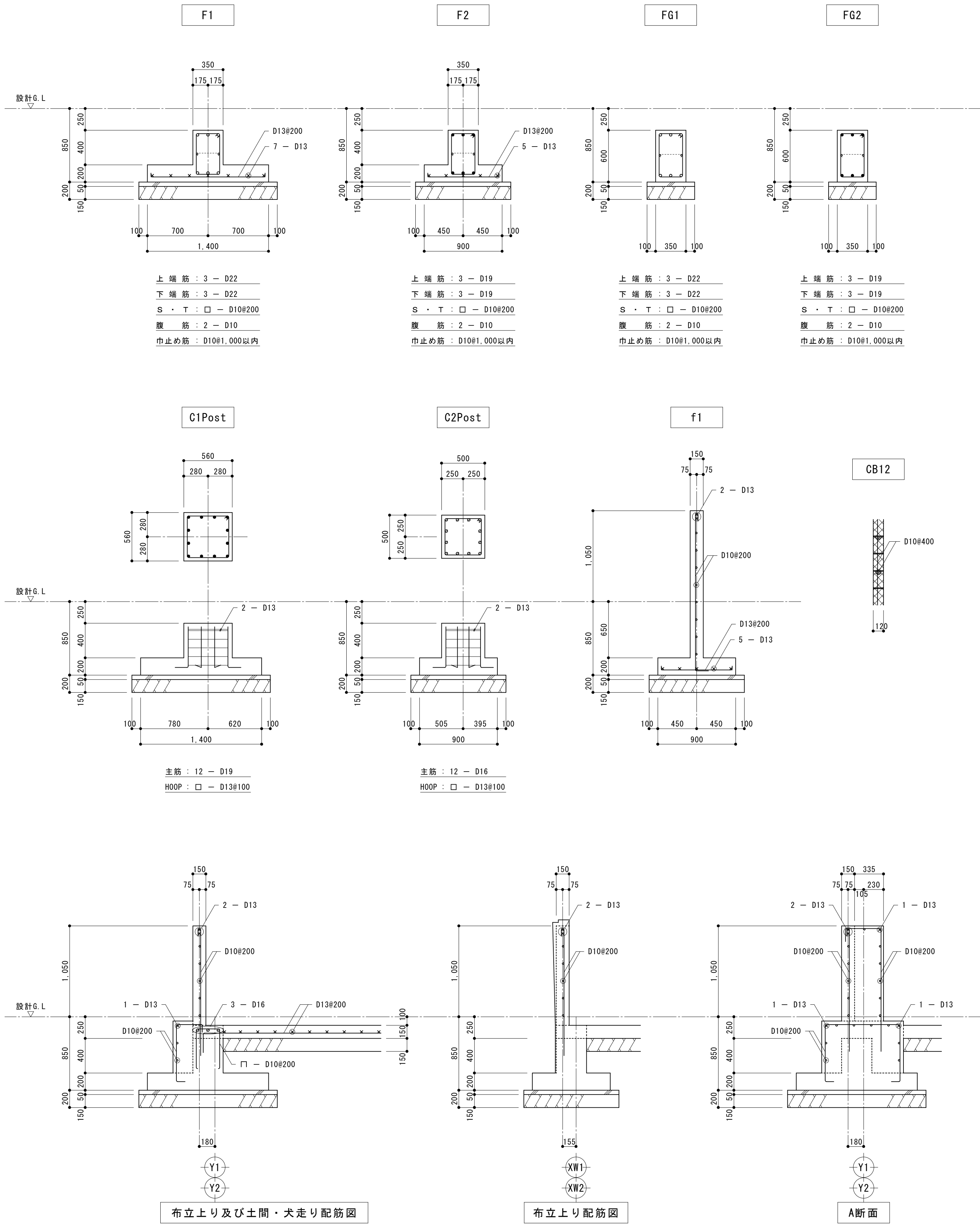
形鋼ブレース

L



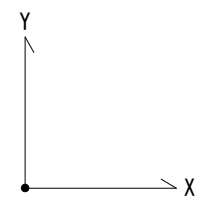
基礎伏図 1/100

凡 例
土間コンクリート (7)150、砕石 (7)150 とする。
布立上り GL+1,050、W=150 とする。
特記なき限り Post天端レベルは GL-250 とする。
特記なき限り 地中梁天端レベルは GL-250 とする。
特記なき限り 土間天端レベルは GL-100 とする。
主 GLからの土間天端レベルを示す。



基礎詳細図 1/30

工事名称	道の駅那須高原友愛の森 観光交流センター増築工事		
図面名称/縮尺	基礎伏図・基礎詳細図	S=1/100, 1/30 (A1) S=1/200, 1/60 (A3)	図面番号
設計年月日	平成31年3月		S-08
設計者	一級建築士 (第332111号) 神谷 太郎		
発注者	那須町建設課		



凡 例

----- 屋根ブレース 1 - M16(ターンバックル付)とする。

:::::::::::: 頭ツナギ材 □-100 × 100 × 3.2 とする。

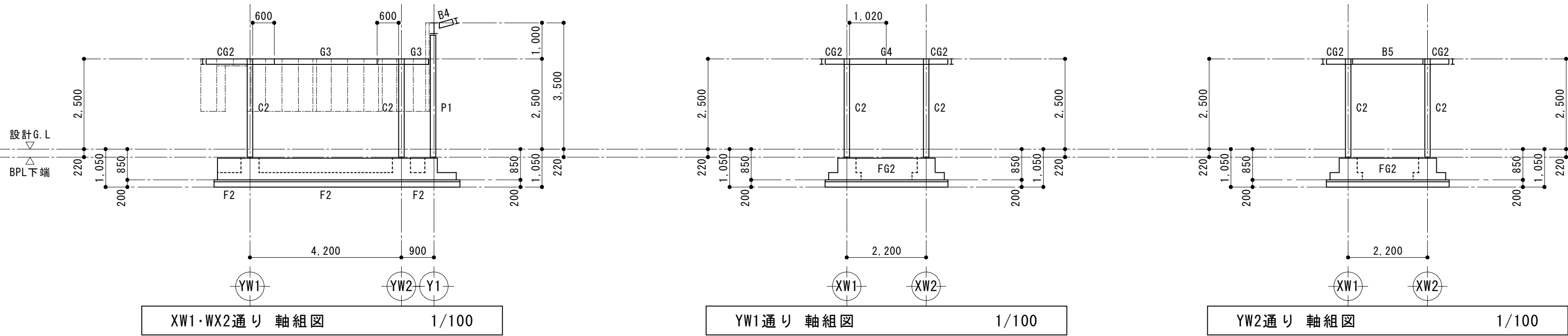
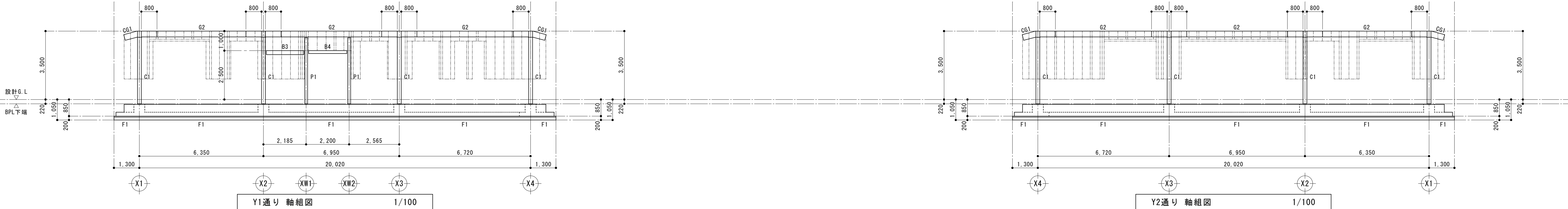
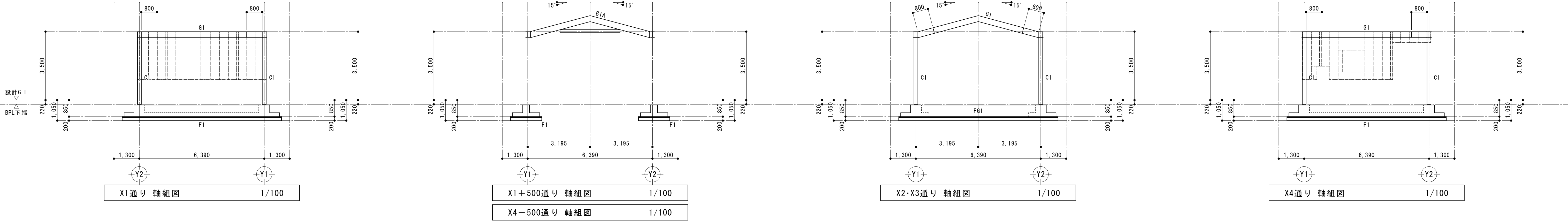
----- 母屋 C-100× 50 × 20 × 2.3 @455 とする。

:::::::::::: 母屋 2C-100× 50 × 20 × 2.3 @1,820 とする。

※通しダイヤフラムは SN490C とする。
 ※内ダイヤフラムは SN400B とする。
 ※ダイヤフラム厚は仕口部に集まる梁の最大フランジ厚の2サイズアップ以上とする。

仕 口 部 リ ス ト		1/20							
符 号	部 材	B1, B1A	H-300 × 150 × 6.5 × 9	B2	H-250 × 125 × 6 × 9	B3	H-200 × 100 × 5.5 × 8	B4	H-148 × 100 × 6 × 9
形 状									
G・P L H・T・B		PL - 9 , 3 - M20		PL - 9 , 2 - M20		PL - 6 , 2 - M16		PL - 6 , 2 - M16	
符 号	部 材	B5	H-148 × 100 × 6 × 9	G3	H-150 × 150 × 7 × 10				
形 状									
G・P L H・T・B		PL - 12 , 2 - M20		PL - 12 , 2 - M20					
位 置		屋根 プレス							
部 材		1 - M16 (ターンバックル付)							
形 状									
		必ずすみ肉溶接 (両面) 72mm以上							
羽子板		PL - 6 × 52 × 170							
G・P L H・T・B		PL - 9 , 1 - M16							

工事名称	道の駅那須高原友愛の森 観光交流センター増築工事		
図面名称/縮尺	梁伏図・部材リスト 縦手部リスト・仕口部リスト	S=1/100, 1/20 (A1) S=1/200, 1/40 (A3)	図面番号
設計年月日	平成31年3月		S-09
設計者	一級建築士（第33211号） 神谷 太郎		
発注者	那須町建設課		



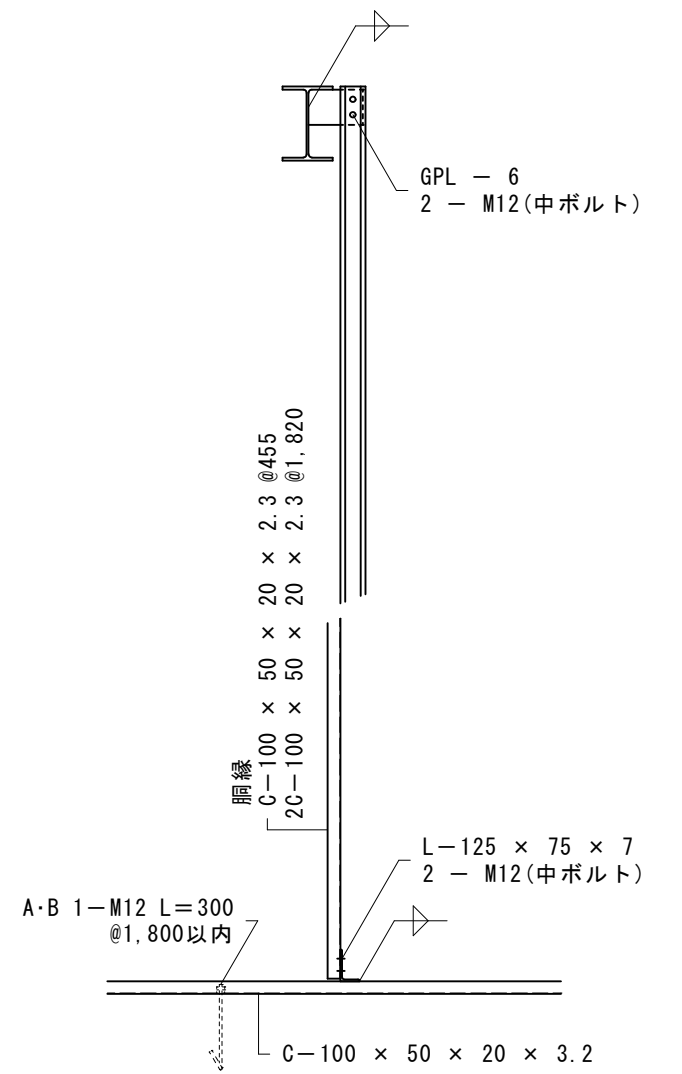
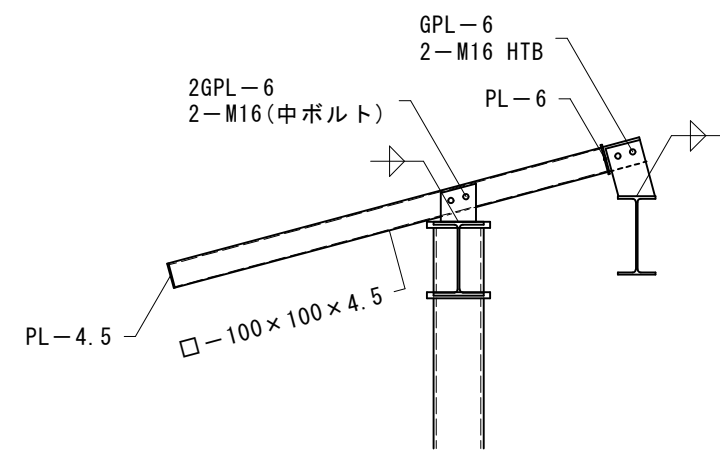
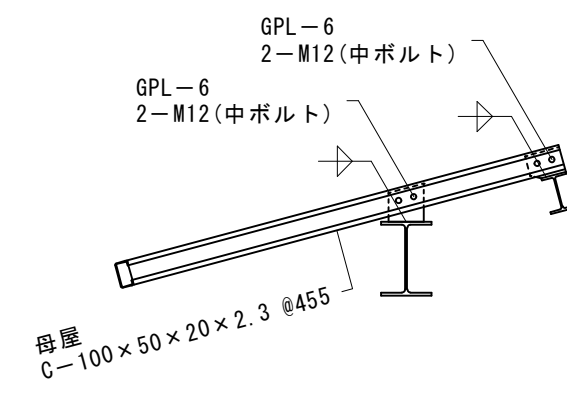
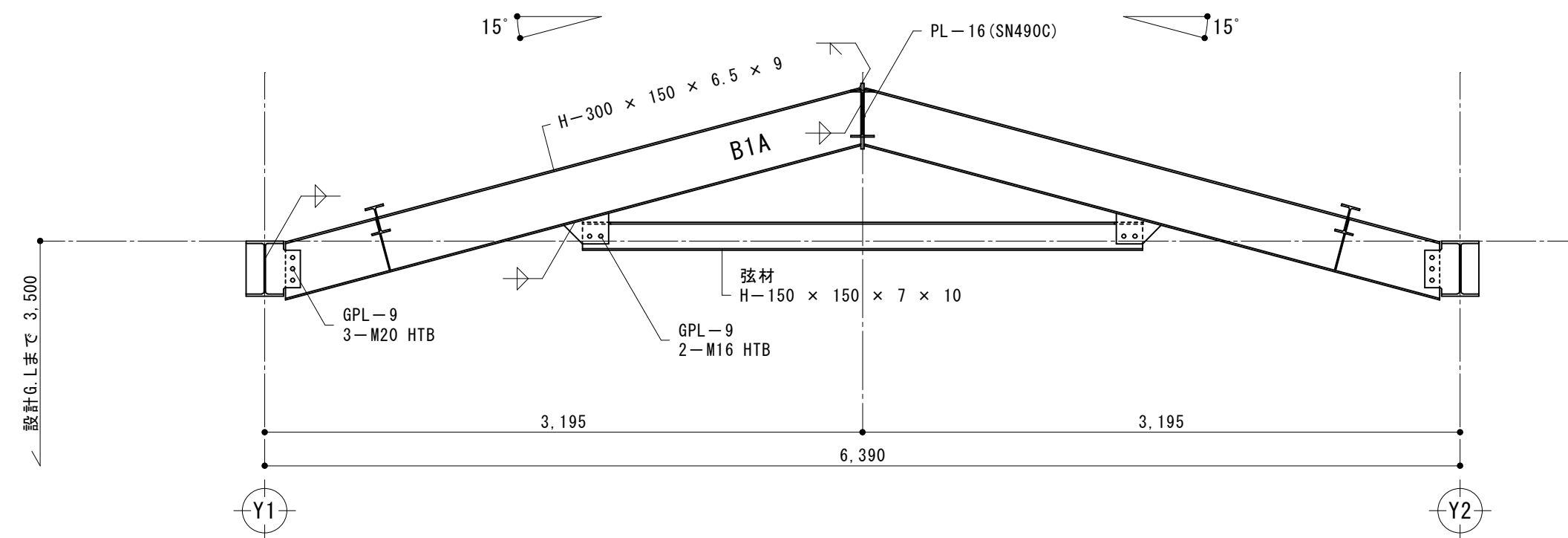
- 凡 例
- 縦筋線 C-100×50×20×2.3 #455 とする。
 - 縦筋線 2C-100×50×20×2.3 #1,820 とする。
 - 隅縁 2C-100×50×20×2.3 とする。

工事名称	道の駅那須高原友愛の森 観光交流センター増築工事		
図面名称/縮尺	軸組図	S=1/100 (A1) S=1/200 (A3)	図面番号
設計年月日	平成31年3月		S-10
設計者	一級建築士 (第332111号) 神谷 太郎		
発注者	那須町建設課		

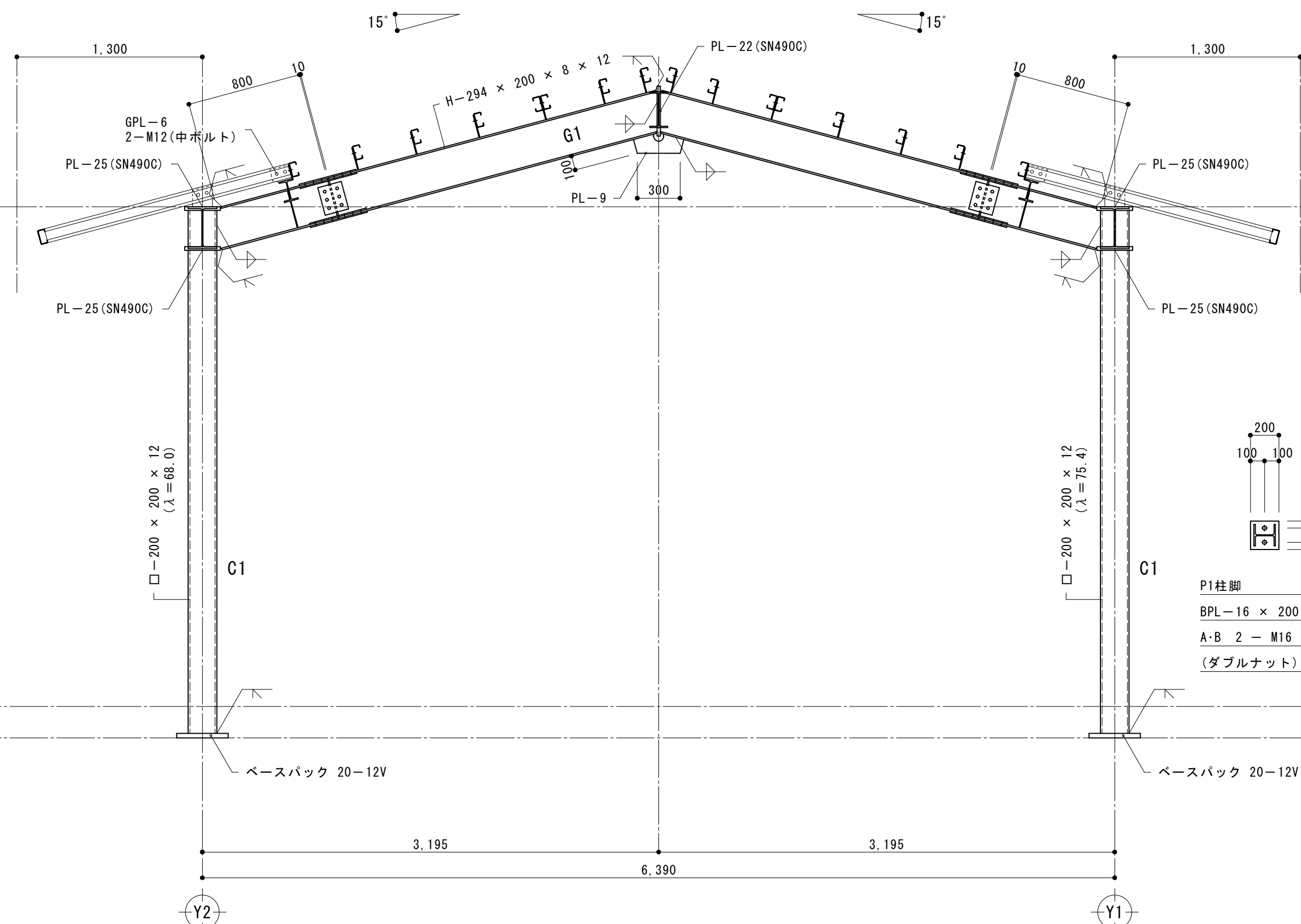
溶 接 要 領

- 1) 突合せ部にはエンドタブ $L=35$ を取付ける
- 2) エンドタブは溶接完了後切断除去する
(グラインダー仕上)
- 3) ノンスクラップ工法とする。

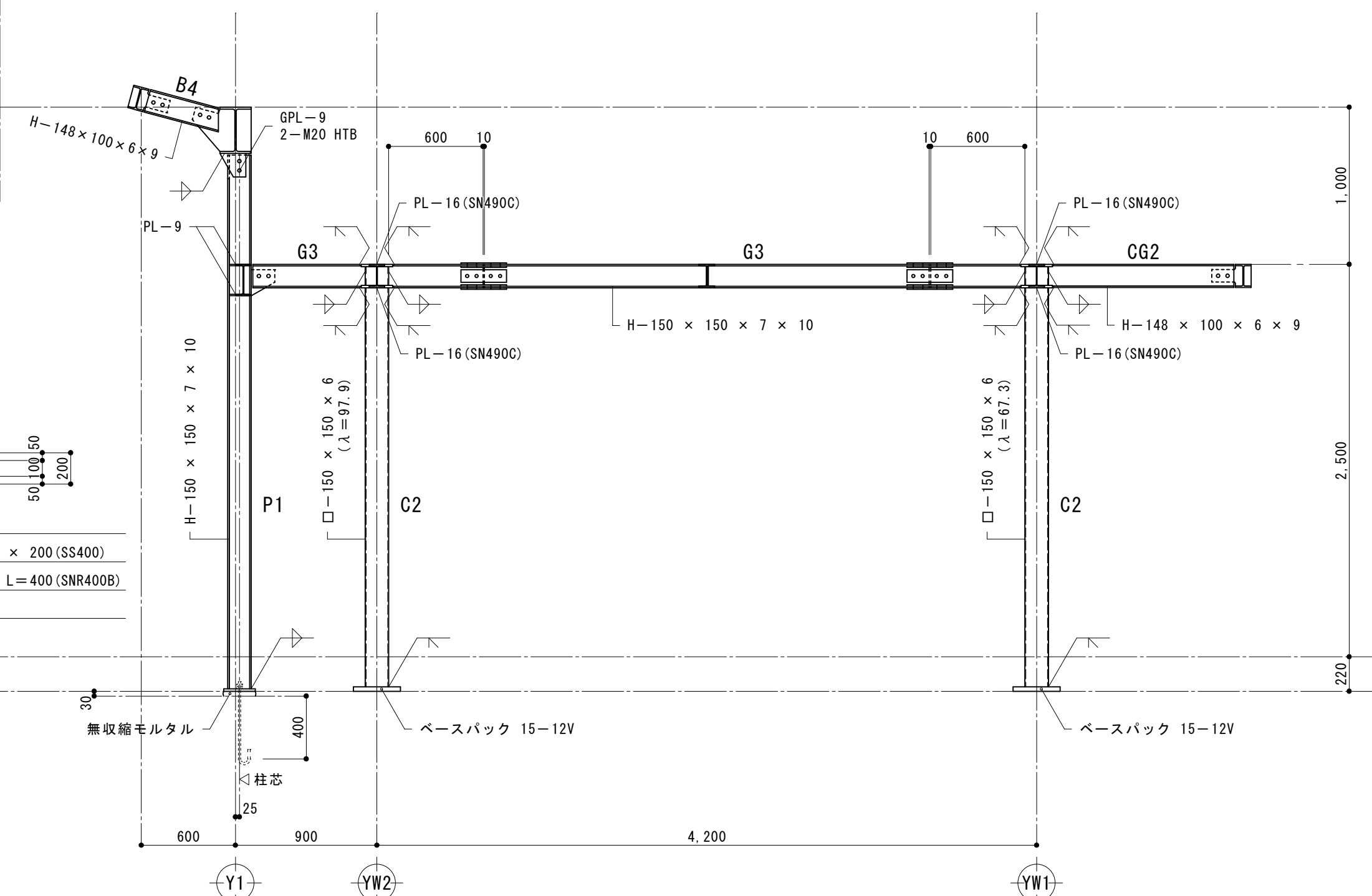
※ 特記なきプレートは PL - 6 とする



1/30

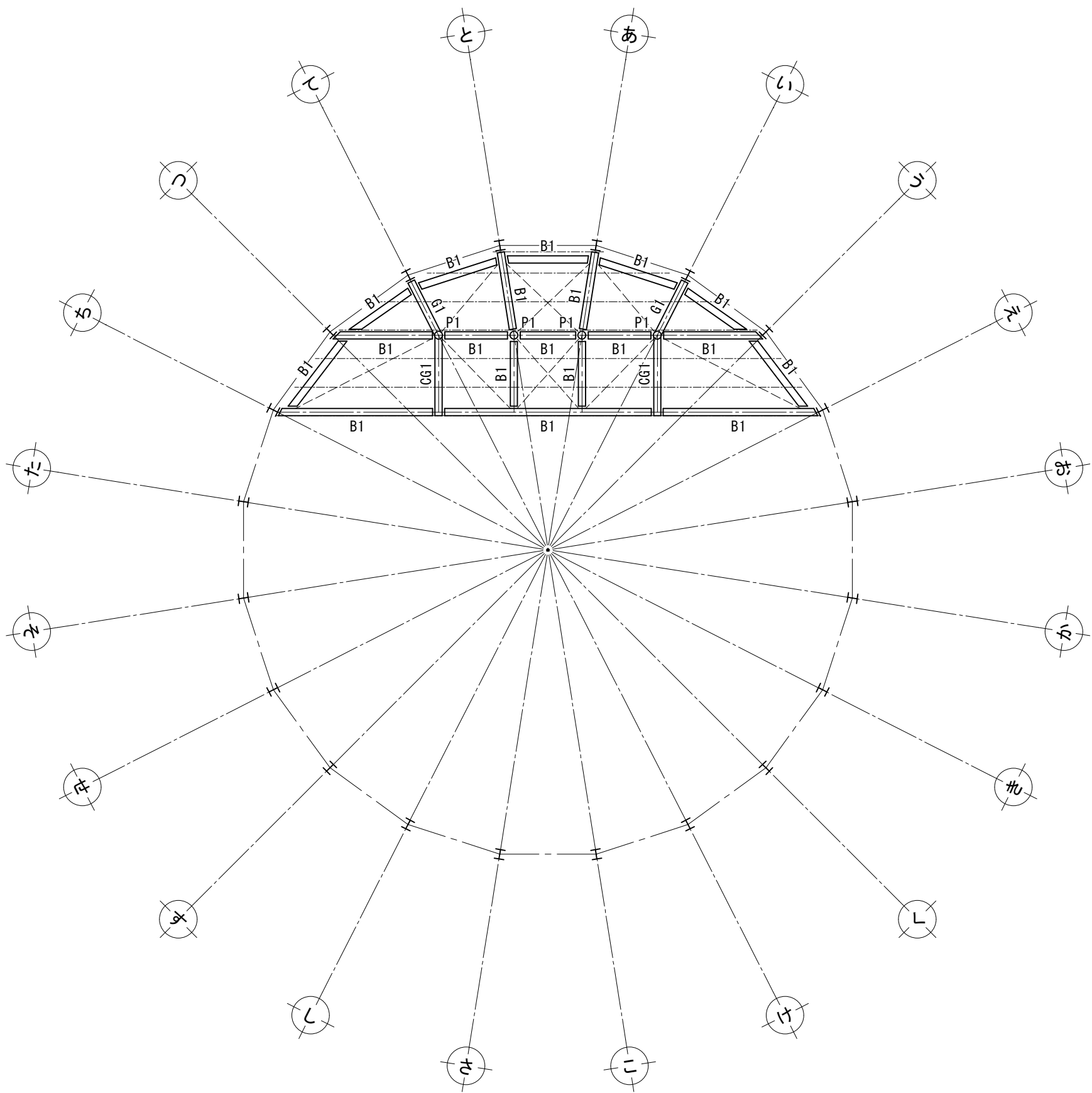


1 / 30



1 / 30

工事名称	道の駅那須須高原友愛の森 観光交流センター増築工事		
図面名称／縮尺	鉄骨詳細図	S-1/30(A1) S-1/60(A3)	図面番号
設計年月日	平成31年3月		S-11
設計者	一級建築士（第332111号） 神谷 太郎		
発注者	那須町建設課		



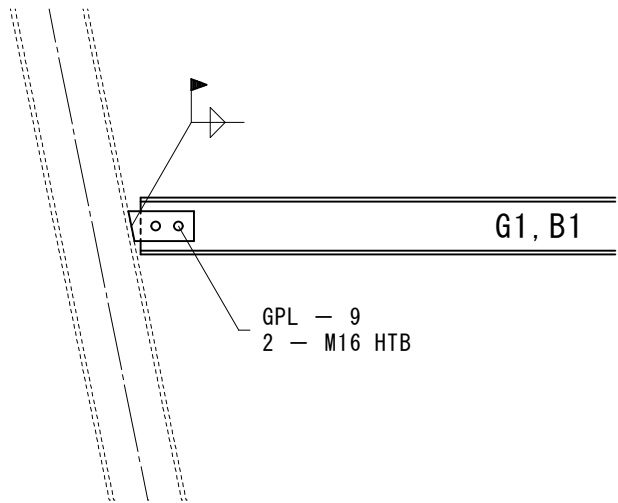
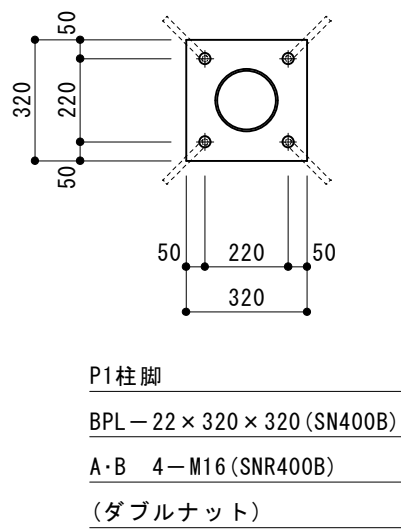
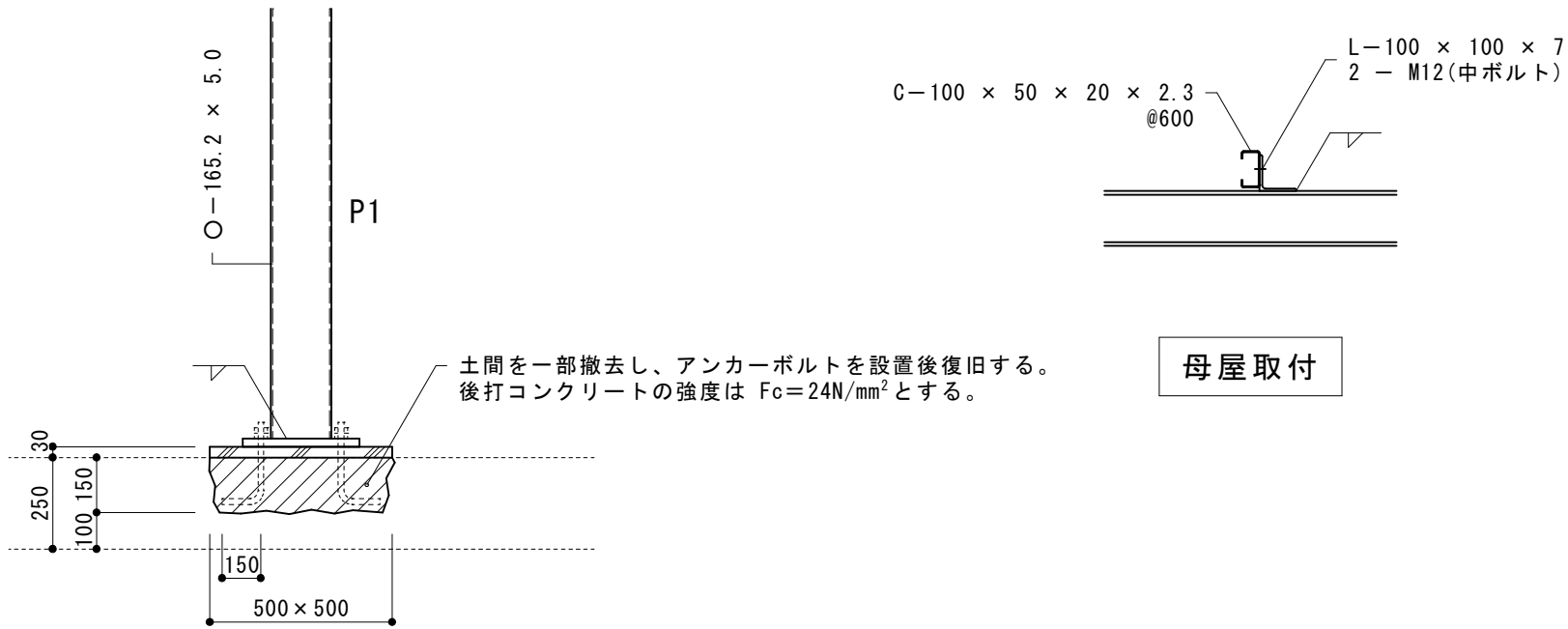
梁 伏 図 1/100

- 凡 例
- 屋根ブレース 1 - M12(ターンバックル付)とする。
 - 母屋 C-100×50×20×2.3 #600とする。

部 材 リ ス ト			
符 号	形 状	部 材	備 考
P1	○	○-165.2 × 5.0	STK400
G1	⊍	H-150 × 150 × 7 × 10	SS400
CG1	⊍	H-150 × 150 × 7 × 10	SS400
B1	⊍	H-150 × 75 × 5 × 7	SS400
屋根ブレース	○	1 - M12(ターンバックル付)	JIS規格品
母 屋	⊍	C-100 × 50 × 20 × 2.3 #600	SSC400
※通しダイヤフラムは SN490C とする。 ※ダイヤフラム厚は仕口部に集まる梁の最大フランジ厚の2サイズアップ以上とする。			

継 手 部 リ ス ト		1/20	
符 号	部 材	G1,CG1	H-150 × 150 × 7 × 10
形 状			
		PLATE	H・T・B
FLANGE	SPL-1	2PL- 9×150×290	16 - M16
	SPL-2	4PL- 9× 55×290	
WEB	SPL-3	2PL- 9×410× 80	4 - M16

仕 口 部 リ ス ト		1/20	
符 号	部 材	G1	H-150 × 150 × 7 × 10
形 状			
G・P・L	H・T・B	PL - 9 , 2 - M16	PL - 9 , 2 - M16
位 置		水平ブレース	
部 材		1 - M12(ターンバックル付)	
形 状			
		必要すみ肉溶接(両面)54mm以上	
		PL- 6×52×145	
羽子板		PL - 6 , 1 - M16	



工事名称	道の駅那須高原友愛の森 観光交流センター増築工事		
図面名称/縮尺	室内屋根構造図	S=1/100, 1/20 (A1) S=1/200, 1/40 (A3)	図面番号
設計年月日	平成31年3月		S－12
設計者	一級建築士（第332111号） 神谷 太郎		
発注者	那須町建設課		

5

1

施工調査

特別管理型産業廃棄物処理

(5.1.2)

分析調査を行う特別管理型産業廃棄物等の種類

採取する部位等

採取する数量

備考

7ｽﾍﾞｽﾄ

・図示
●ボード類

5検体

管理人住宅
K-04参照

・図示
・ボード類

・図示
・箇所

(5.4.4)

・PCB含有シーリング分析調査
・第一次判定
現場にてサンプルを採取し、シーリング材種及び分析の要否を判定する。
・第二次判定
専門分析機関にてPCB含有量の分析を行う。

(5.4.3)

・PCBを含む機器の微量PCBの分析調査
・
・絶縁油のPCB含有量の分析は、「特別管理一般廃棄物及び特別管理産業廃棄物に係る基準の検討方法（平成4年7月3日厚生省告示第192号）」又は「絶縁油中のポリ塩化ビフェニルの分析方法規定（電気技術規定JEC1201-1991）」により行う。

(5.4.7)

・焼却炉のダイオキシン類汚染物質の調査は、「廃棄物焼却施設内作業におけるダイオキシン類暴露防止対策要綱（平成13年4月25日付け基発第401号）」により行う。

(5.4.1～7)

特別管理型産業廃棄物の種類

仕様

数量

備考

・廃石綿等

・PCBを含む機器類

・PCB含有シーリング材

・廃油

・廃酸/廃アルカリ

・ダイオキシン類

3

PCBを含む機器類

(5.4.3)

引き渡しを要する機器類
・
PCB使用の疑いがある電気設備機器類については、施工前に調査を行い、結果を文書にて報告すること。
なお、安定器におけるPCB使用の識別は、安定器自体に記載された製造番号を各製造メーカーに照会することとし、確実に区分すること。
微量PCB分析調査
・行う
・行わない

(5.4.4)

撤去方法
・「標準施工要領書（日本シーリング工事業協同組合連合会／日本シーリング材工業界）」による。
・
撤去範囲
◎ 図示

(5.4.7)

廃棄物の焼却施設の解体
解体方法
・解体作業第一管理区域
・解体作業第二管理区域
・解体作業第三管理区域
処分方法
・

6

1

アスベスト含有分析調査済箇所

調査済箇所（材料名）

含有の有無

・なし

・あり（含有物質名：）

・なし

・あり（含有物質名：）

・なし

・あり（含有物質名：）

(6.1.2)

●行う（下表による）
・行わない

調査箇所

調査方法（1材料あたりの採取箇所数）

管理人住宅

図示

K-04

◎定性分析 各1ヶ所

分析対象
◎ アスベスト6種類（アモサイト、クリソタイル、クロシドライト、アクチノライト、アンソファライト、トレモライト）
分析方法
◎ JIS A 1481-2「試料採取及びアスベスト含有の有無を判定するための定性分析方法」及びJIS A 1481-3「アスベスト含有率のX線回折定量分析方法」による。
分析結果については、監督職員に提出すること。

3

アスベスト粉じん濃度測定

(6.1.3)

アスベスト粉じん濃度測定
・行う（測定名称及び測定点は下表による）

測定箇所

◎ 図示
・ 下表による

測定名称

測定時期

測定場所

測定点
(各施工箇所ごと)

備考

・測定1

処理作業前

処理作業室内

各点

—

・測定2

施工区面周辺又は敷地境界

計点

—

・測定3

処理作業室内

各点

—

・測定4

処理作業中

セキュリティゾーン入口

各点

空気の流れを確認

・測定5

負圧・除じん装置の排出口
(処理作業室外の場合)

各点

除じん装置の性能確認

・測定6

施工区面周辺又は敷地境界

計点

—

・測定7

処理作業後

処理作業室内

各点

—

・測定8

隔離シート撤去前

施工区面周辺又は敷地境界

計点

—

アスベスト粉じん濃度測定は「JISK3850-1空気中の繊維状粉粒子測定方法-第1部：光学顕微鏡法及び走査電子顕微鏡法」による位相差・分散顕微鏡法による。
測定機関は、都道府県労働局に登録されている作業環境測定機関とする。

測定3

測定1,2,4,6,7,8

測定5

計測機器

位相差顕微鏡

レンズ径の直径

25 mm

47 mm

試料の吸引流量

1 l/min

5 l/min

10 l/min

試料の吸引時間

5 min

120 min

240 min

試料の透明化

アセトナートリアセチレン法又はシュウ酸ジエチル法

計数条件

総アスベスト繊維数200本又は視野数50視野

計数アスベスト

直径3μm未満、長さ5μm以上、長さど直径比3:1以上

定量限界

50 f/l

0.5 f/l

0.3 f/l

報告書の作成（記載する項目）
ア. 測定結果
イ. 測定時間
ウ. 測定位置（測定高さとともに図面上に記載する）
エ. サンプリング条件（メンブレンフィルタ直径、吸引時間、吸引空気量）
オ. マウンティング方法
カ. 顕微鏡視野面積、計数視野数
キ. 測定時（各測定場所ごと）天候、温度、湿度、外気の風速及び風向

4

アスベスト含有吹き付け材の除去（レベル1）

(6.3.2)

アスベスト含有吹き付け材の除去
・行う
除去方法は6.3.2による他、除去の部位・内容に応じた除去は専門工事業者の仕様とする。
処理方法
◎密封処理（二重袋梱包）
◎湿潤化
・セメント固化
隔離養生に用いたシート、使用した使い捨て保護衣、高性能真空掃除機フィルタ、粉じん機フィルタについても密封処理を行う。
除去したアスベスト含有吹き付け材等の処分
・埋立処分（管理型最終処分場）
・中間処理（溶融施設）

(6.4.2～4)

アスベスト含有保温材の除去
・行う
作業上の隔離
・行う
・行わない
除去したアスベスト含有保温材の処分
・埋立処分（管理型最終処分場）
・中間処理（溶融施設）

(6.5.2.3)

アスベスト含有成型板の除去（レベル3）
アスベスト含有成型板の除去
●調査結果を踏まえ適切に行う
除去したアスベスト含有成型板の処分
・アスベスト含有石膏ボード
◎埋立処分（管理型最終処分場）
・アスベスト含有石膏ボードを除くアスベスト含有成型板
・埋立処分（安定型最終処分場）
・中間処理（溶融施設）

(6.5.2.3)

アスベスト含有建築物用仕上塗材の除去は、「建築物の改修・解体時における石綿含有建築物仕上塗材からの石綿粉じん飛散防止処理技術指針（国立研究開発法人 建築研究所）」（以下「指針」という。）によるものとする。
指針による工法区分
・Ⅰ（
・Ⅱ（
・Ⅲ（
除去範囲
・

7

1

施工調査

(7.1.3)

分析調査を行う特殊な建設副産物の種類

採取する部位等

採取する数量

備考

・図示
・箇所

・図示
・箇所

・図示
・箇所

2

回収及び処分

(7.3.1～7.3.7)

回収及び処分を行う特殊な建設副産物の種類

対象機器名称

・フロン(冷媒)

・建材用断熱材フロン

・ハロン

・イオン式感知器

・六フッ化硫黄(SF6)ガス

・P F O S (ﾊﾞﾙｳﾞｪﾝ酸)

・特定化学物質等（
）

・その他の特殊な建設副産物（
）

回収又は処分
：機械設備図による

工 事 名 称

道の駅那須高原友愛の森 観光交流センター増築工事

図面名称／縮尺

解体工事特記仕様書（その１）

図 面 番 号

設 計 年 月 日

平成30年12月

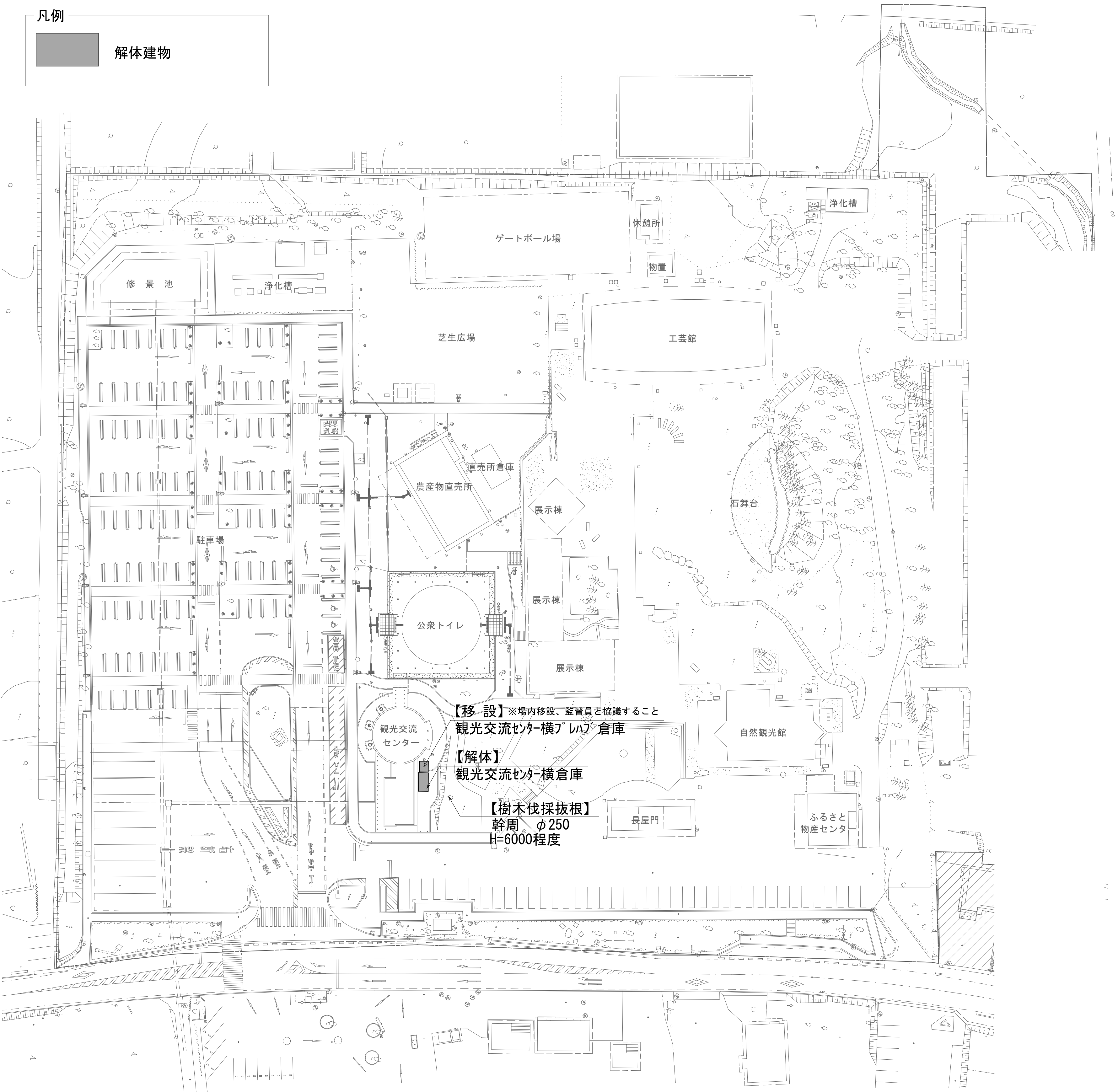
K-02

設 計 者

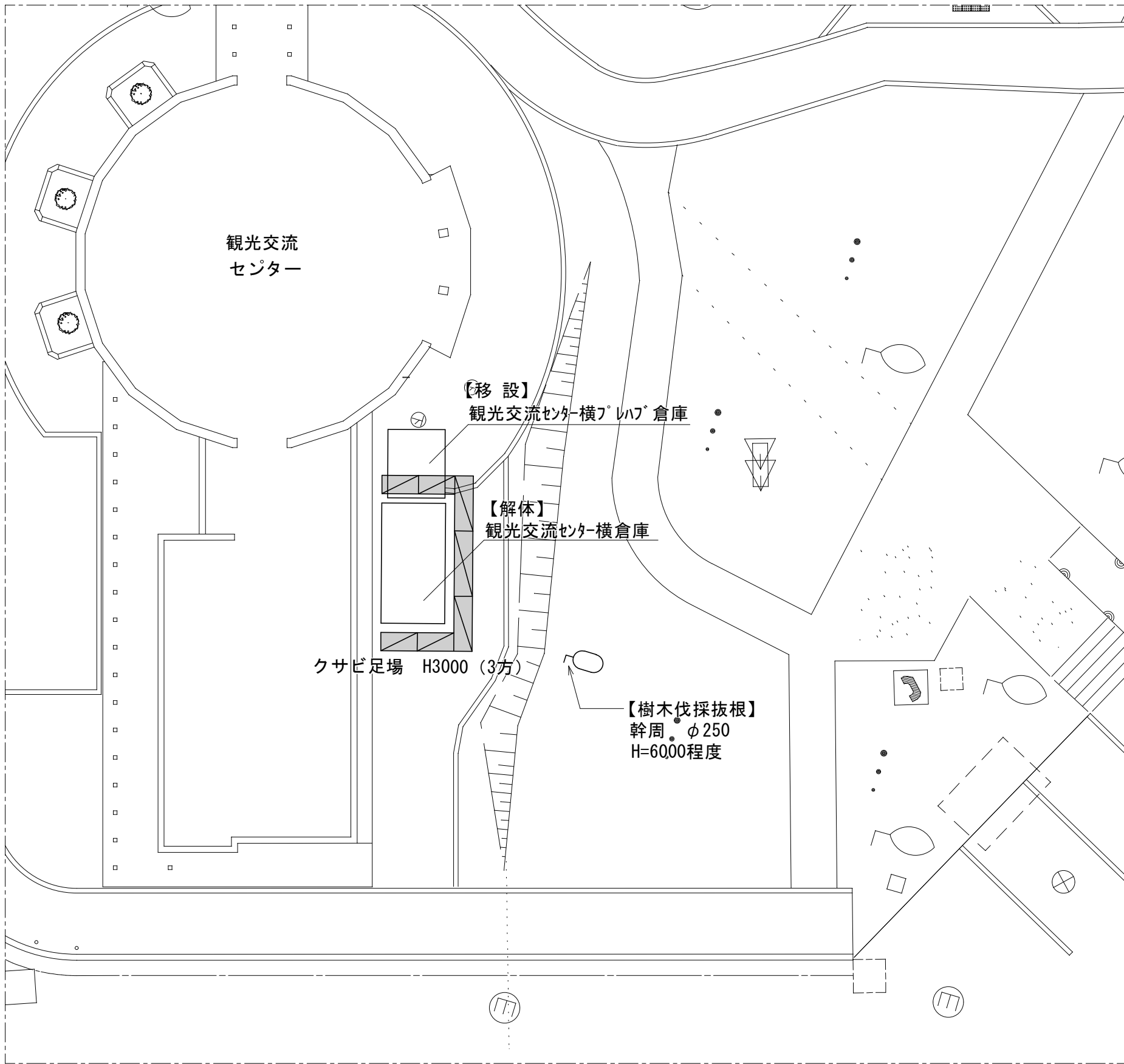
神谷 太郎
一級建築士（第332111号）

発 注 者

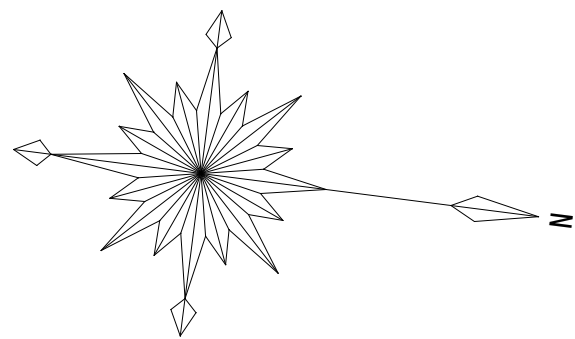
那 須 町 観 光 商 工 課



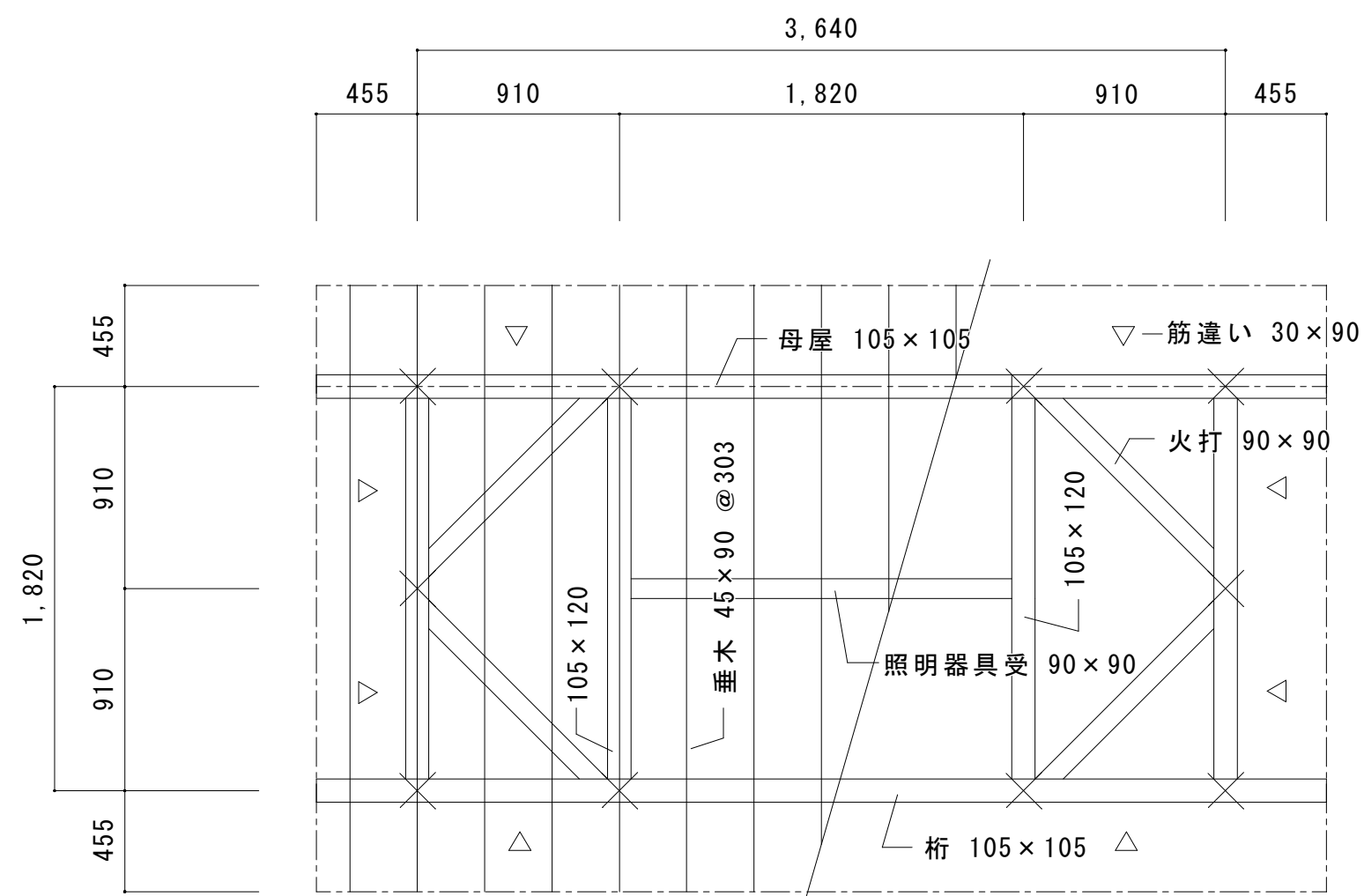
観光交流センター横倉庫解体配置図 S=1/500



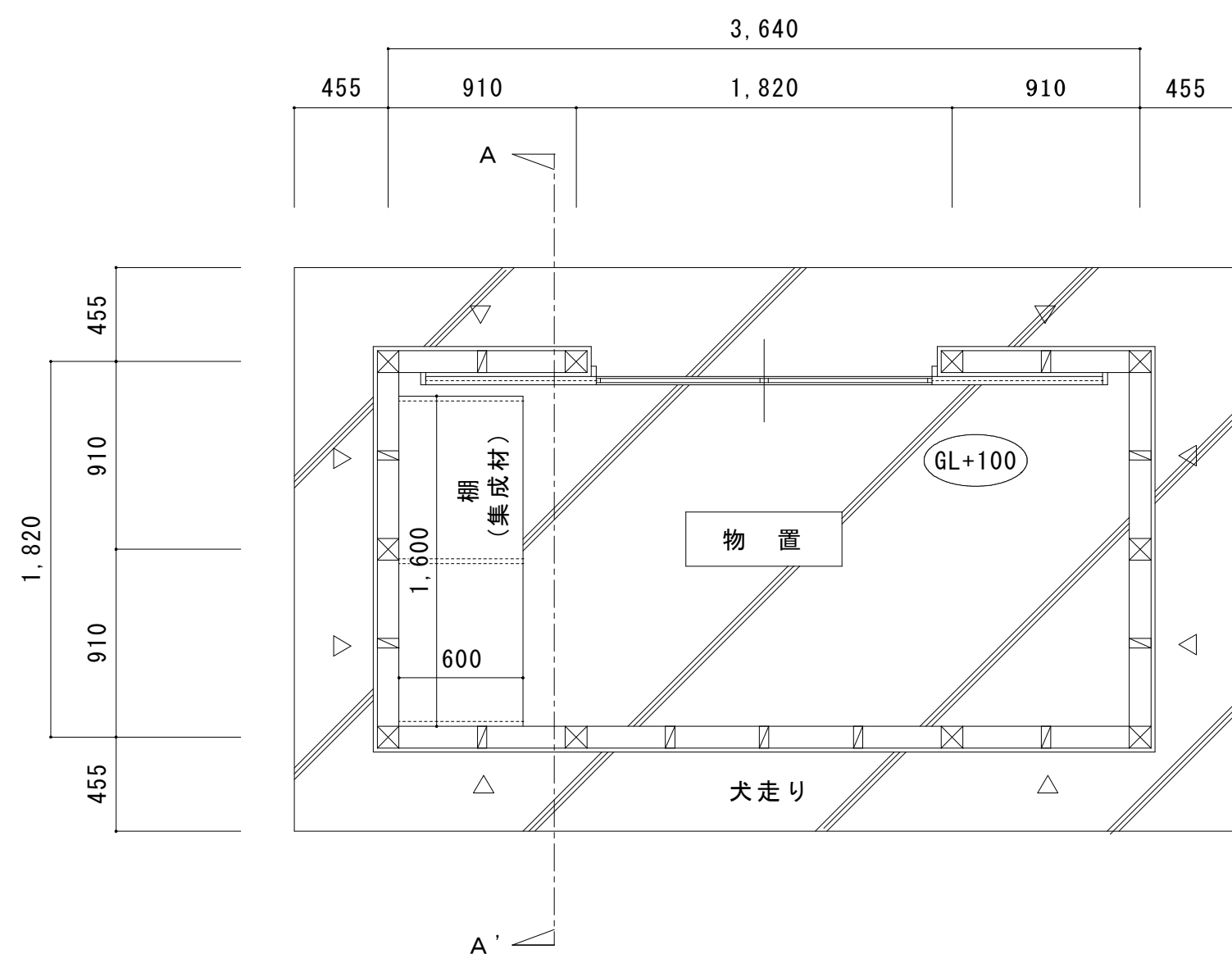
観光交流センター横倉庫解体工事仮設計画図 S=1/150



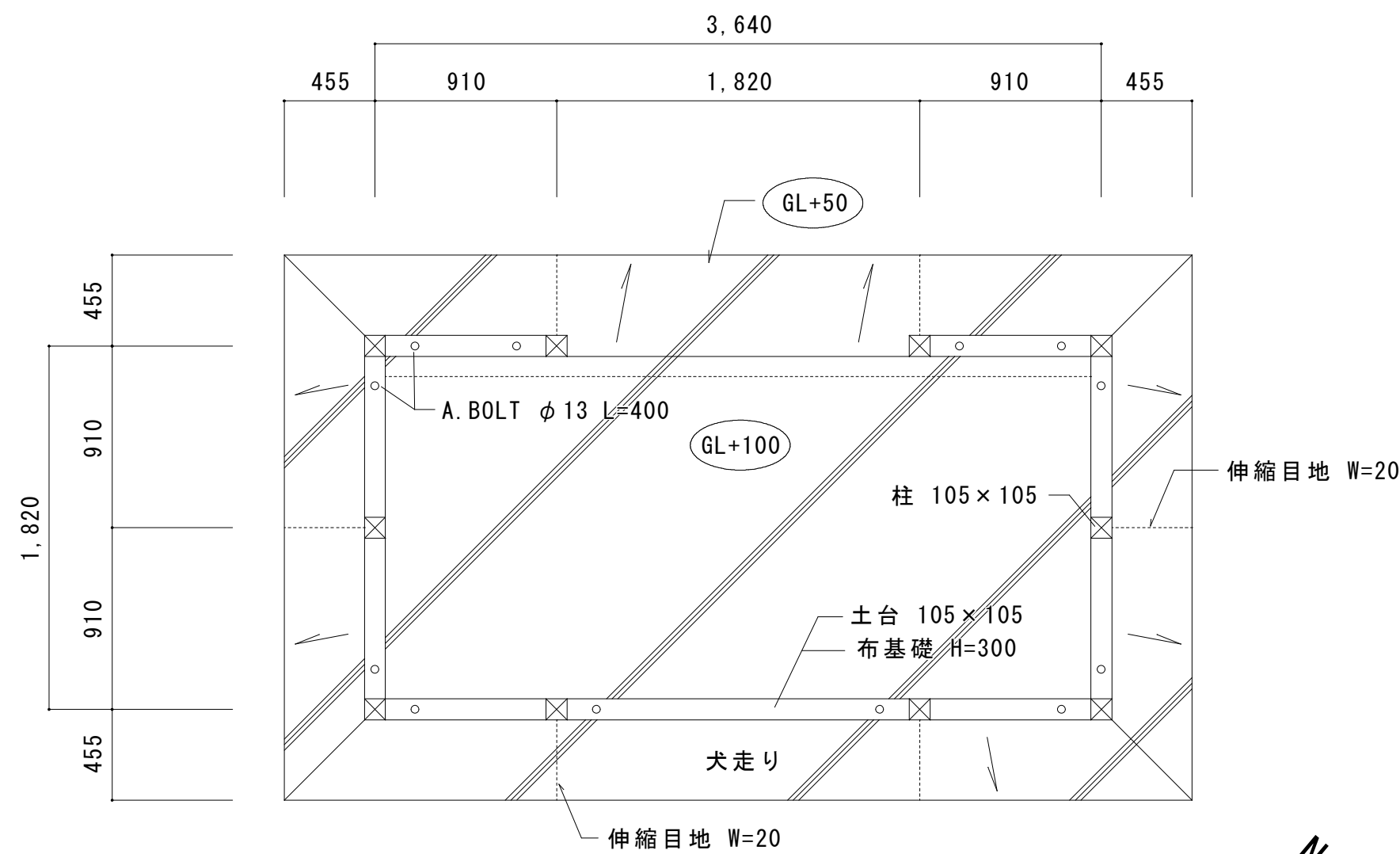
工事名称	道の駅那須高原友愛の森 観光交流センター増築工事	
図面名称/縮尺	解体工事施工箇所配置図 (S=1:500 A1)	図面番号
設計年月日	平成30年12月	K-03
設計者	一級建築士 (第332111号) 神谷 太郎	
発注者	那 須 町 観 光 商 工 課	



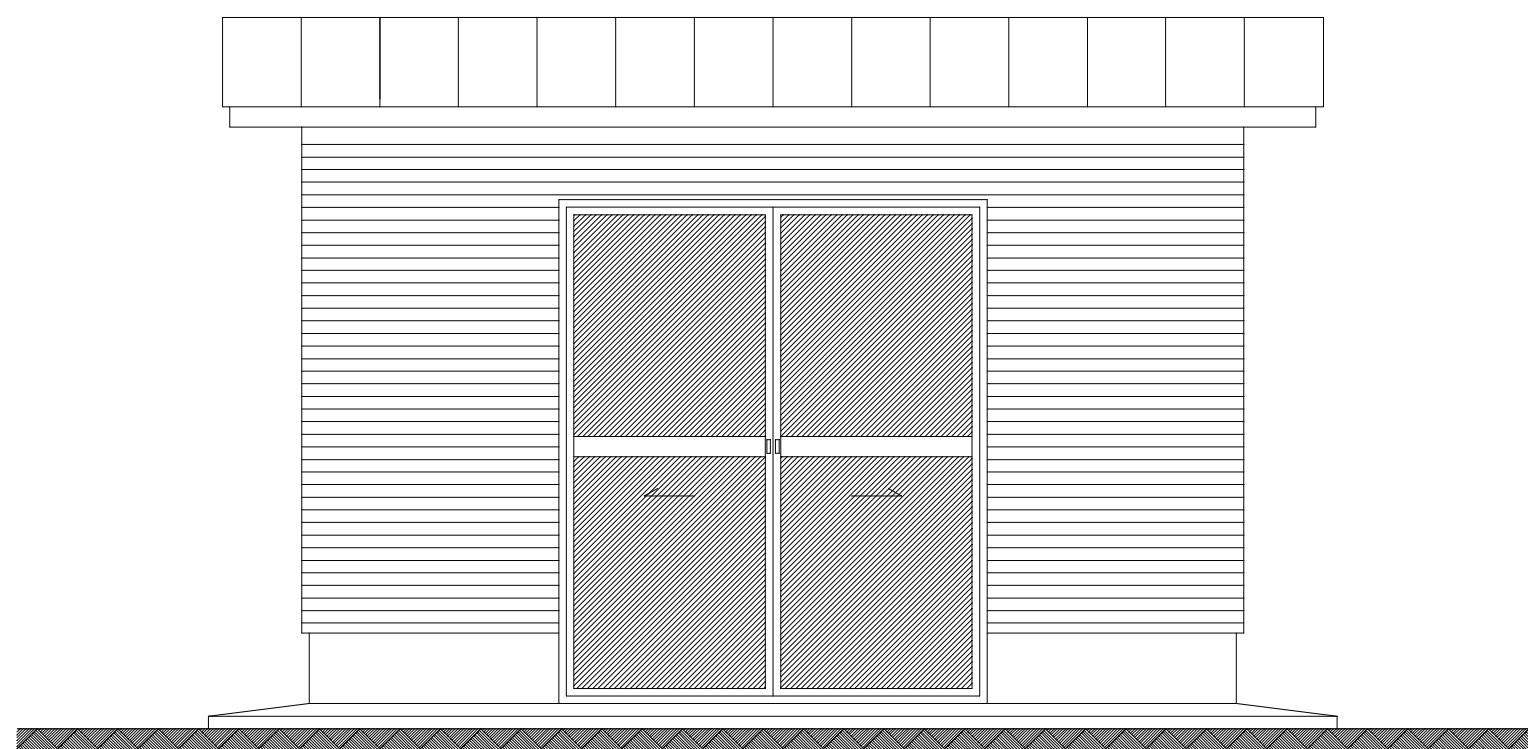
小屋伏図 S=1/30



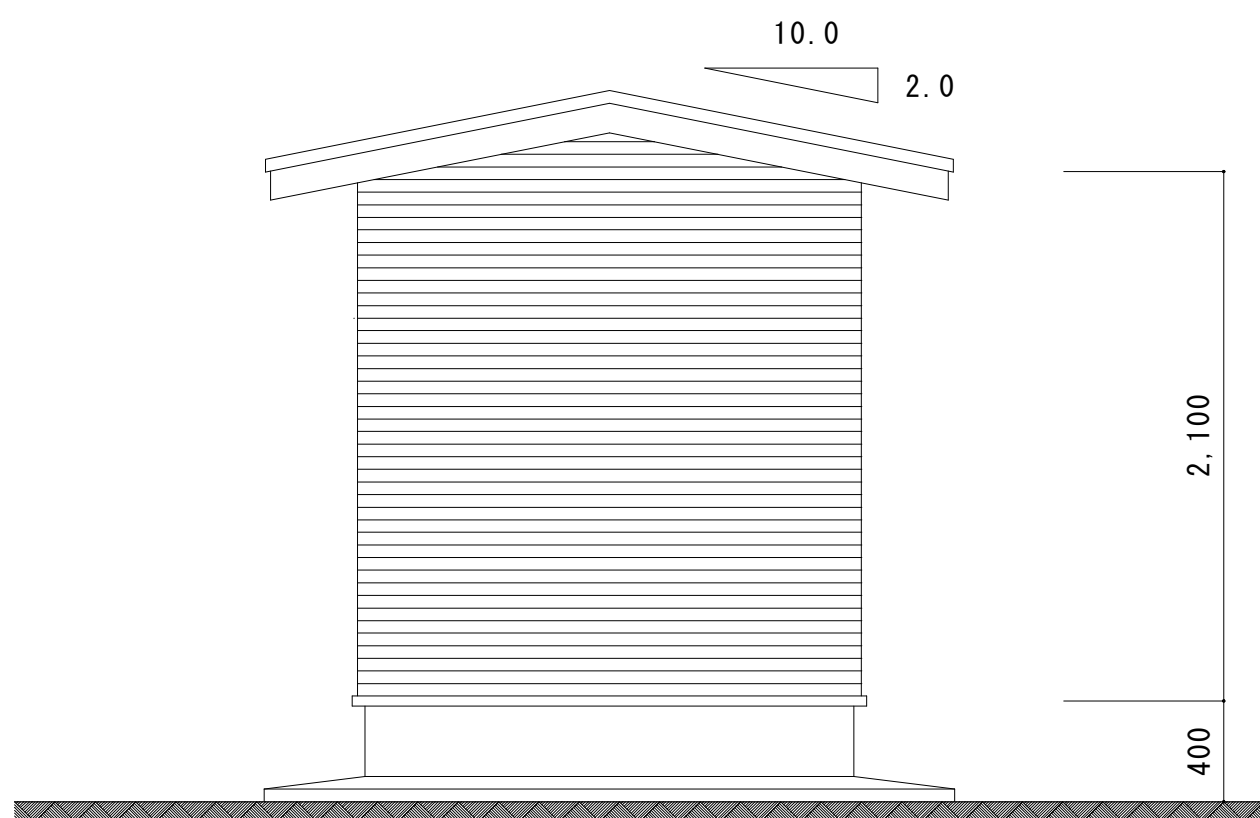
平面図 S=1/30



基礎・土台伏図 S=1/30



北側立面図 S=1/30



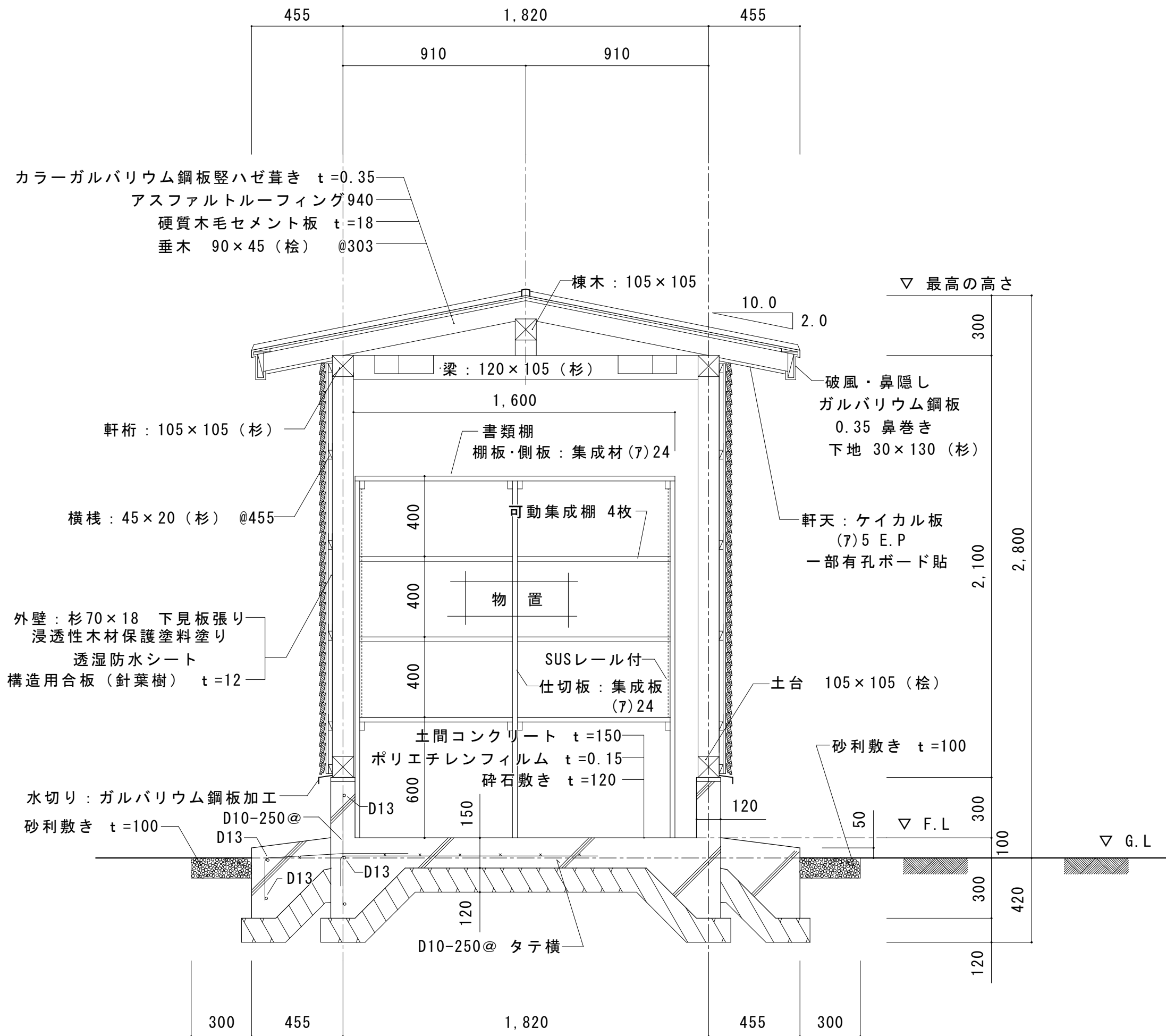
西側立面図 S=1/30

建 具 表				
記号	数量	場所	ADW-1	1
				物 置
形状・寸法				
名 称	両引き分けサッシュ			
材 質	アルミ製 カラー(シルバー)			
金 物	鍵付(ホオダテ付)、付属金物一式			
硝 子	アルポリックパネル 4ミリ			
備 考	見込 70mm			

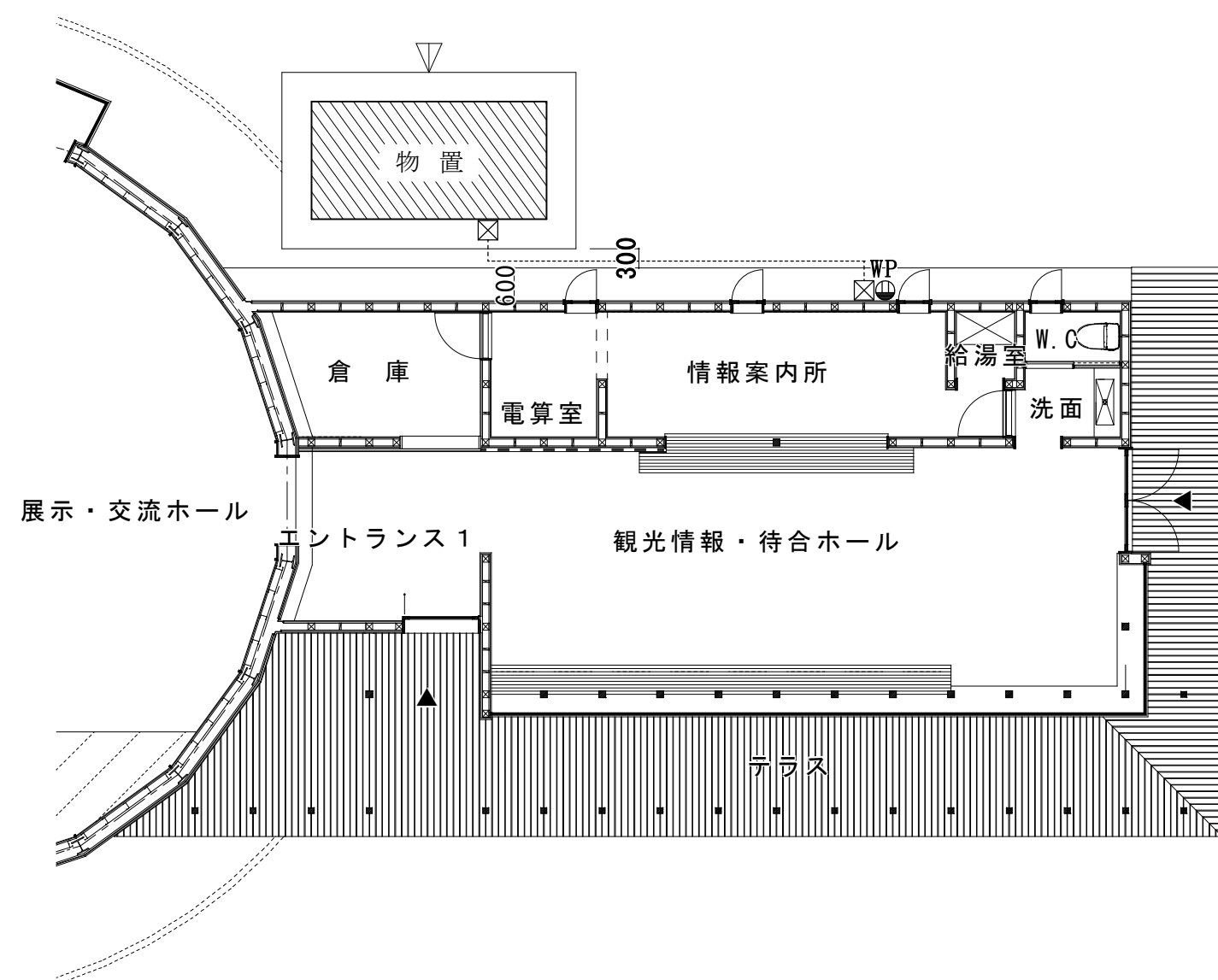
建物面積表			
	申請建物		合 計
1階床面積	6.62 m ²	(2.00 坪)	6.62 m ²
2階床面積			
延べ床面積	6.62 m ²	(2.00 坪)	6.62 m ²
建築面積	6.62 m ²	(2.00 坪)	6.62 m ²

特記事項	
○筋違い 30×90	●筋違い 45×90
□管柱 105×105	
* その他の金物は、告示 1460 号に準ずる。	

仕 上 表	
外部仕上げ	
屋根	カラーガルバリウム鋼板 t=0.35 堅ハゼ葺き
外壁	八溝杉下見板張り t=15 w=70 浸透性木材保護塗料塗
軒天	ケイ酸カルシウム板 (7) 5.0 E.P
内部仕上げ	
床	コンクリート打放し 金銀仕上げ
壁	無し(躯体現し)
天井	無し(躯体現し)



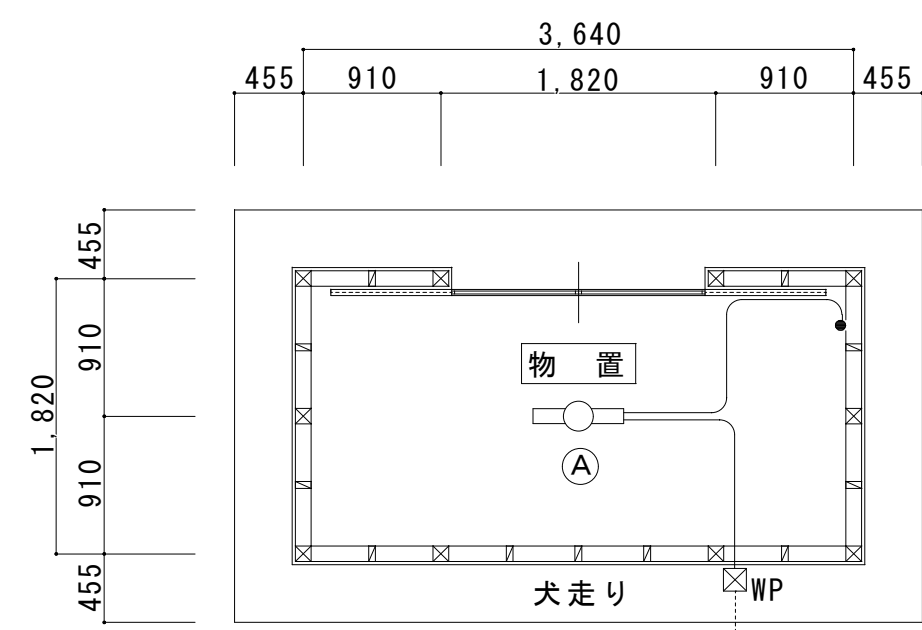
A-A断面図 S=1/20



配置図 S=1/100

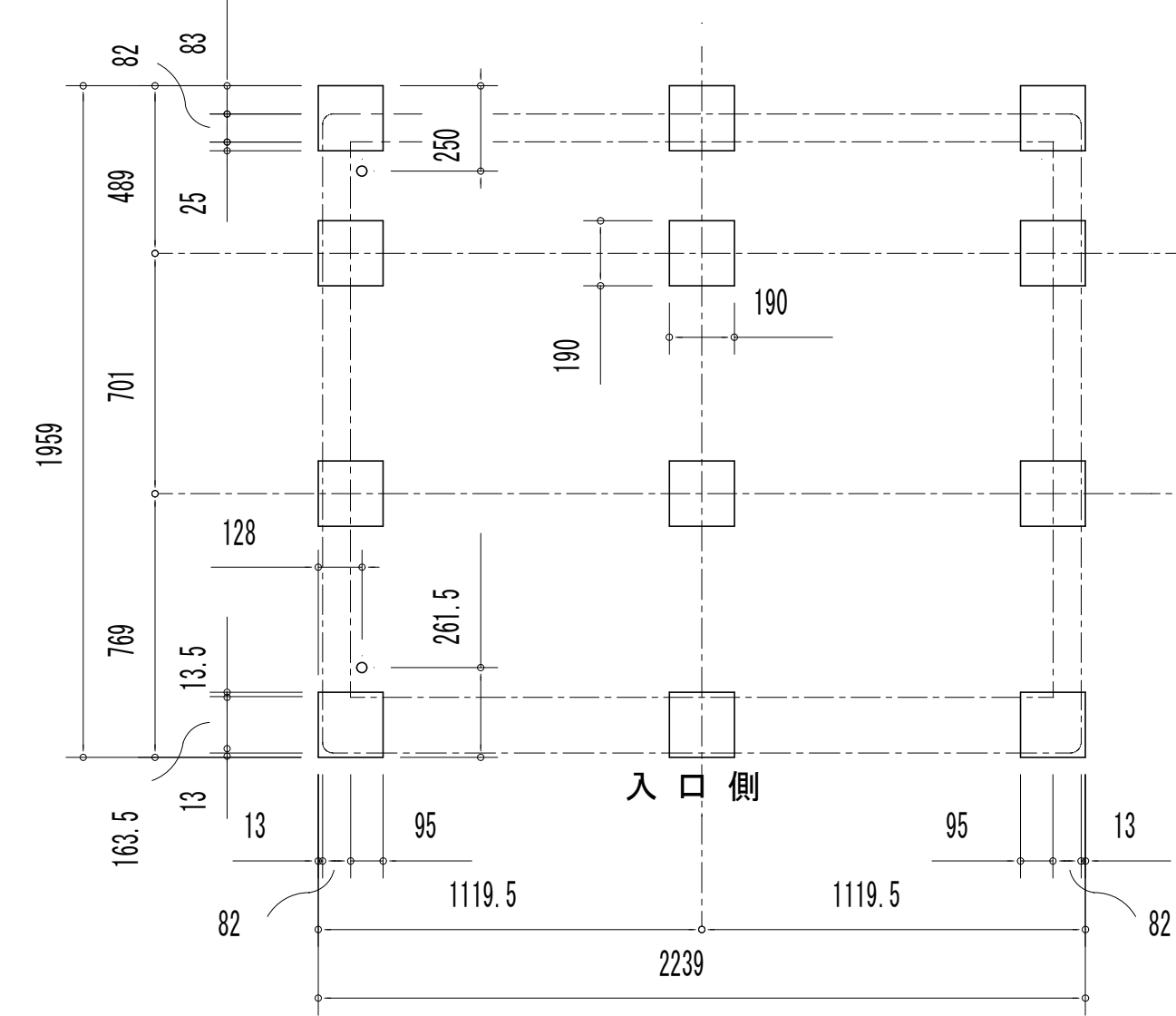
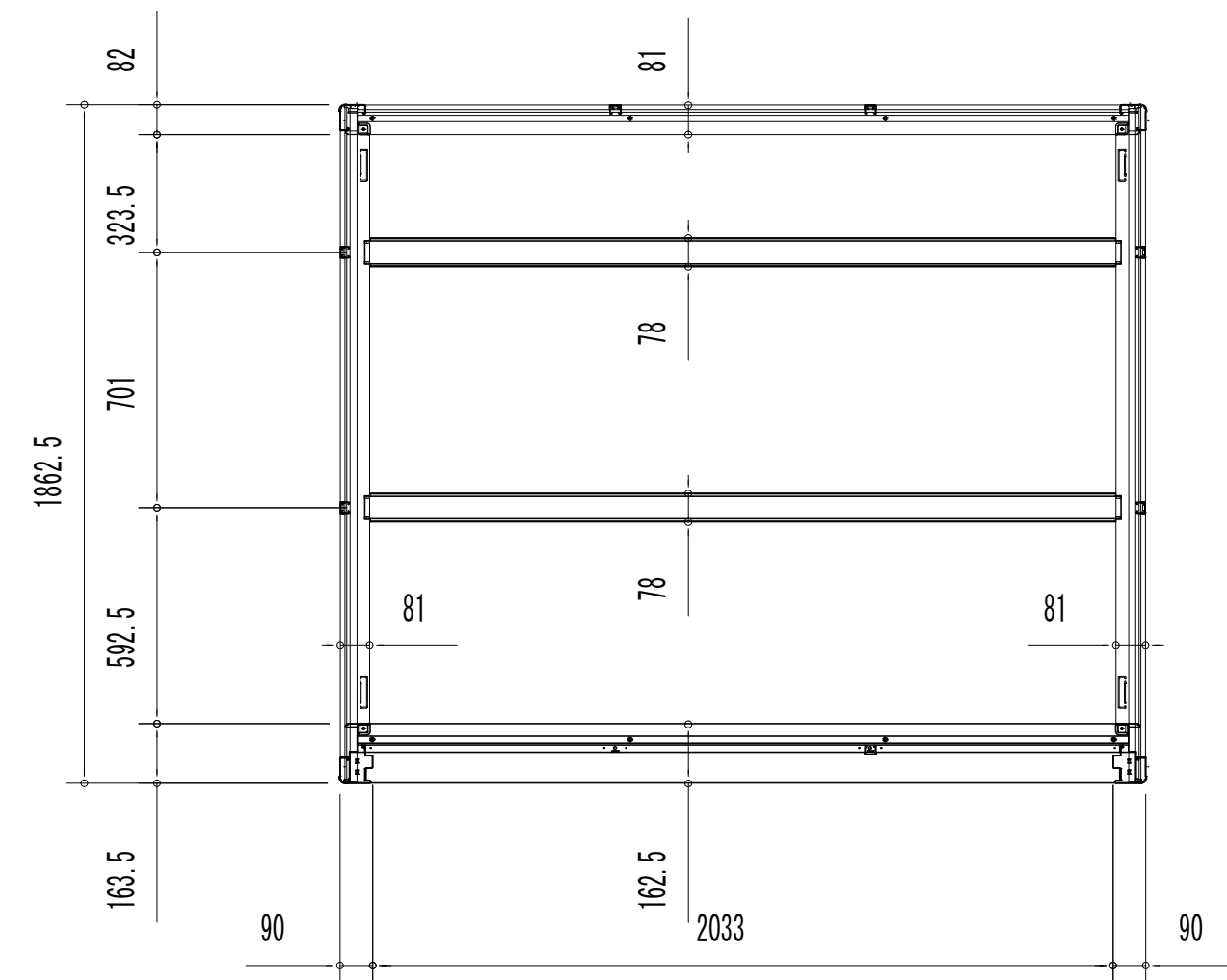
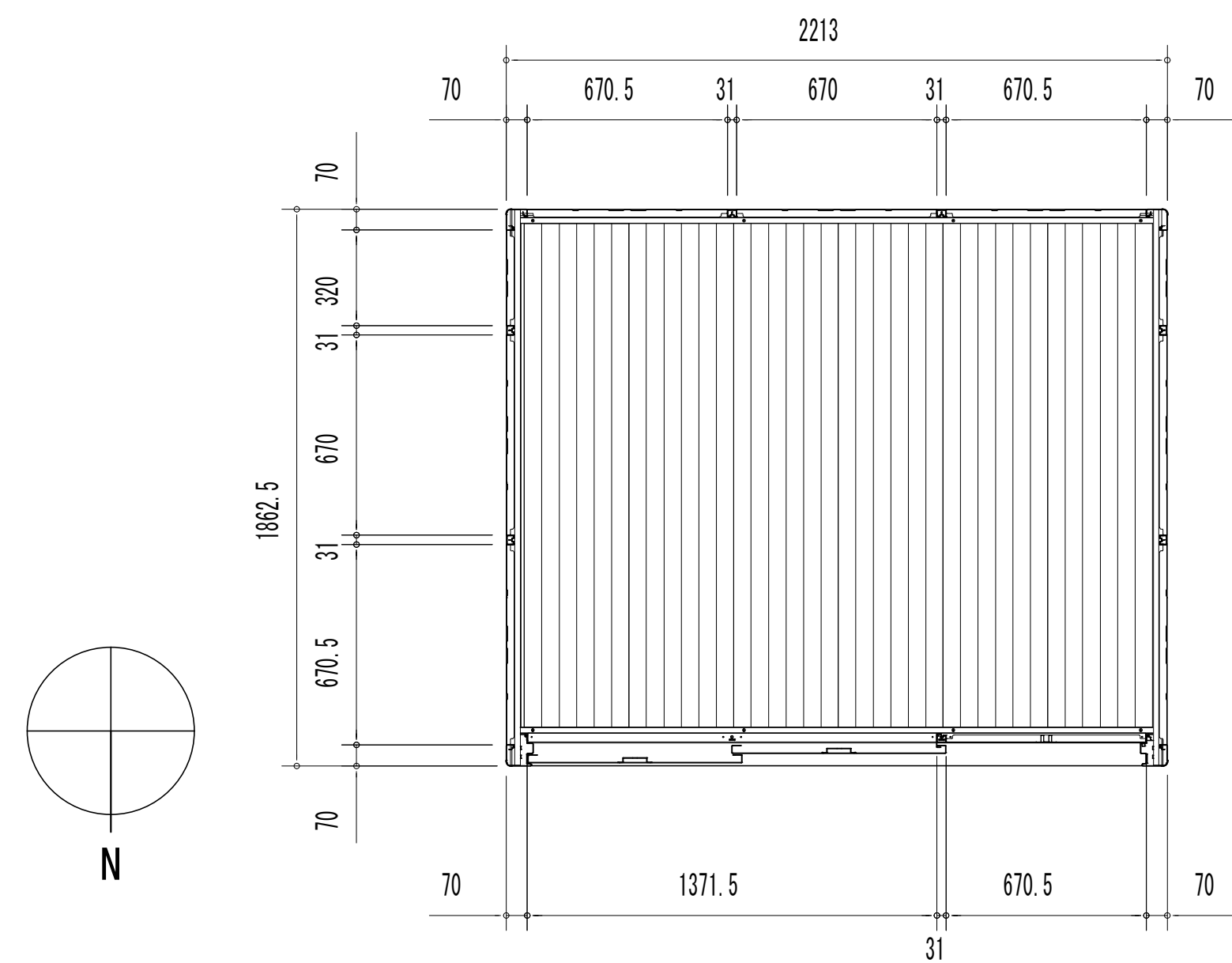
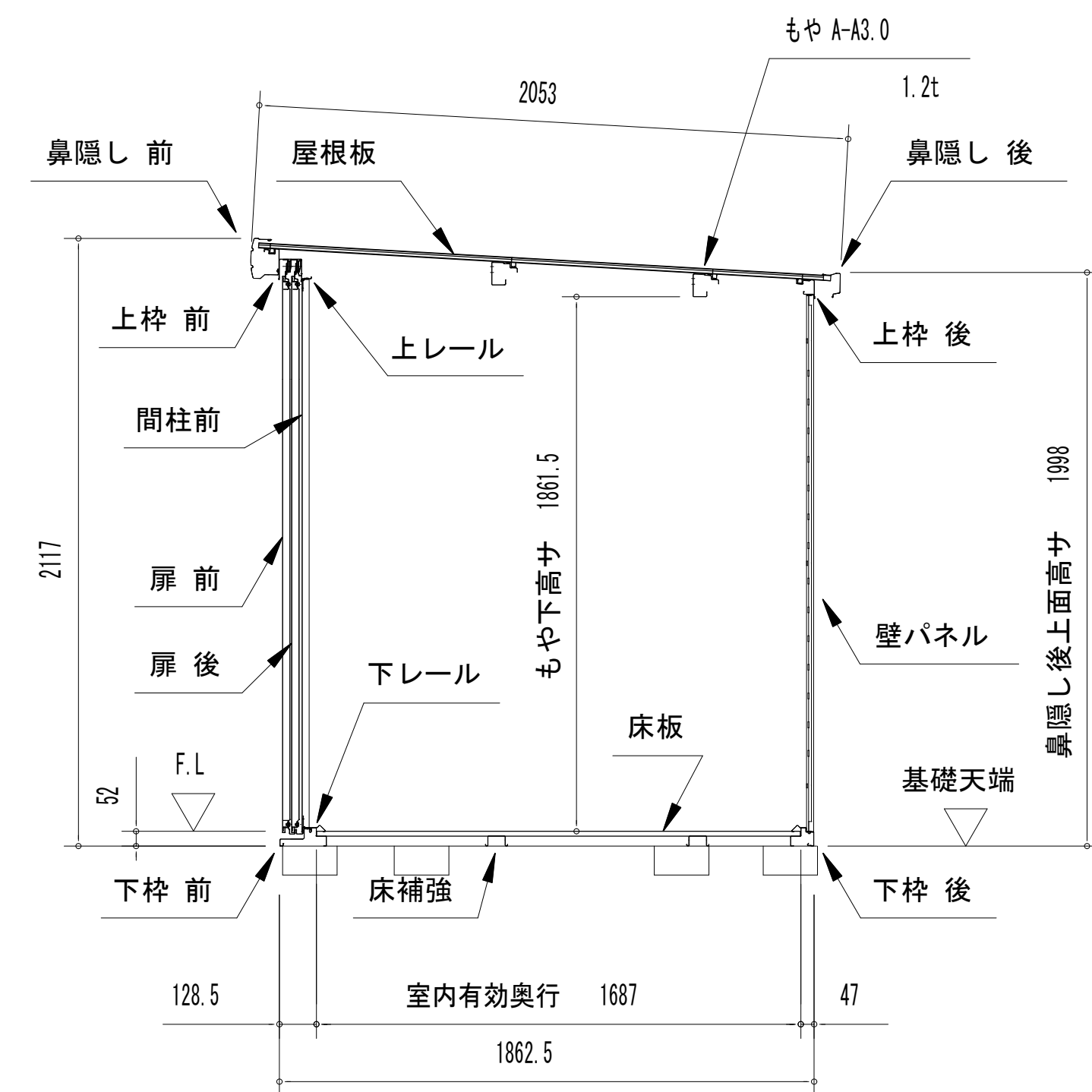
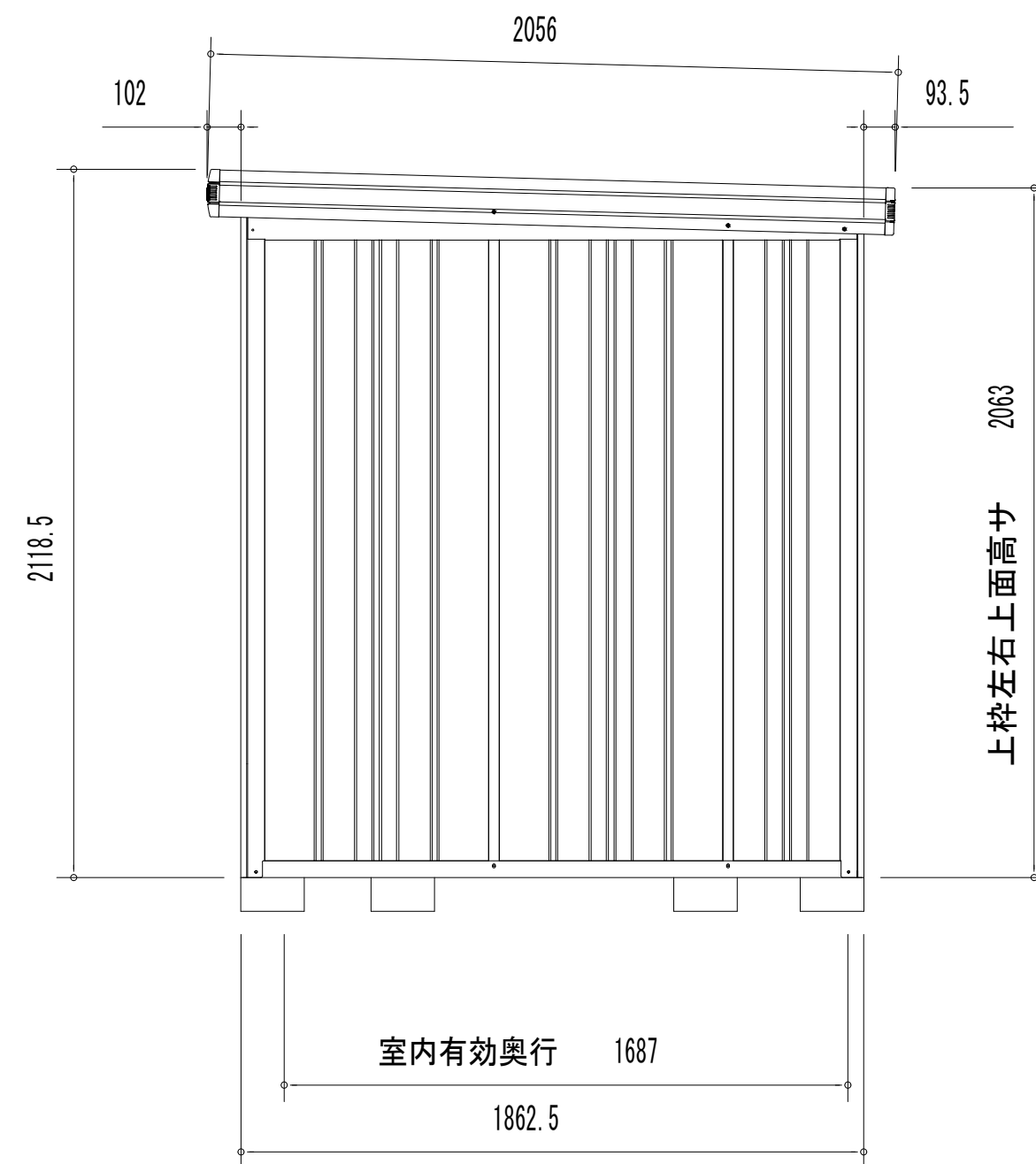
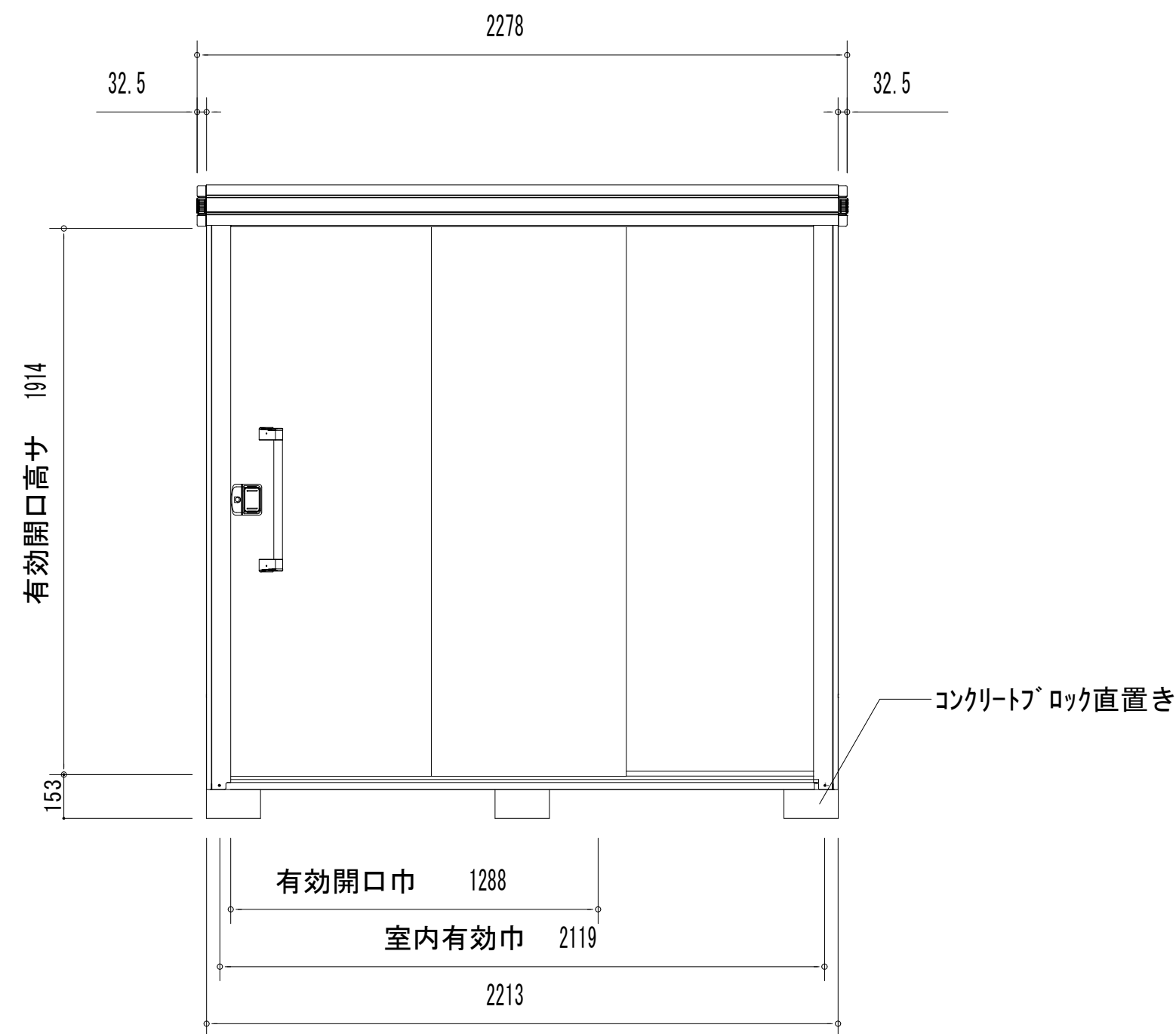
凡 例		
記 号	名 称	仕 様
○	照明器具	蛍光灯
●	スイッチ	新金プレート
□	ジャンクションボックス	
⓪WP2E	防水接地コンセント	2P 15A x 2 ET付 (既存)
—	配 線	露出
.....	配線・配管	地中埋設

A	天井付蛍光灯
松下電工 FA41032F GH	



物置平面図 S=1/50

工事名称	道の駅那須高原友愛の森 観光交流センター増築工事	
図面名称／縮尺	観光交流センター機倉庫解体参考図 (S=1:20・30 A1)	図面番号
設計年月日	平成30年12月	K-04
設計者	一級建築士 (第332111号) 神谷 太郎	
発注者	那 須 町 観 光 商 工 課	



部 材 名	厚さ (mm)	材 質
屋 根 板	0.4	JIS G3322 塗装溶融55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板 Q9LCC
床 補 強	1.2	JIS G3321 溶融55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板 S9LCC
<一般型> もや A-A3.0	1.2	JIS G3322 塗装溶融55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板 Q9LCC
<積雪型> もや C-A3.0S	2.3	塗装溶融亜鉛めっき鋼板
下 枠 前 (側・後)	1.2	JIS G3322 塗装溶融55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板 Q9LCC
上 枠 前 (後)	1.0	JIS G3322 塗装溶融55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板 Q9LCC
上 枠 左, 右	0.8	塗装溶融55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板 (ツートンカラー)
上 レール	1.2	アルミニウム合金押出型材
下 レール	0.8	JIS G3322 塗装溶融55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板 Q9LCC

部 材 名	厚さ (mm)	材 質
鼻 隠 し 前	0.5	塗装溶融55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板 (ツートンカラー)
鼻 隠 し 後	0.5	JIS G3322 塗装溶融55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板 Q96LC
柱	0.8	JIS G3322 塗装溶融55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板 Q96LC
扉	0.6	JIS G3322 塗装溶融55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板 Q96LC
壁 パ ネ ル	0.5	JIS G3322 塗装溶融55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板 Q96LC
袖 壁	0.5	JIS G3322 塗装溶融55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板 Q96LC
間 柱	1.0	JIS G3322 塗装溶融55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板 Q96LC
床 板	0.6	JIS G3322 塗装溶融55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板 Q96LC
アンカープレート (L)	2.3	塗装溶融亜鉛めっき鋼板 (後塗装仕上げ)

【製品図参考資料】

既存ヨド物置 エルモ
LMD (S) -2218 型 移設

工事名称	道の駅那須高原友愛の森 観光交流センター増築工事	
図面名称/縮尺	観光交流センター横プレハブ倉庫解体参考図 (S=1:30 A1)	図面番号
設計年月日	平成30年12月	K-05
設計者	一級建築士(第332111号) 神谷 太郎	
発注者	那 須 町 観 光 商 工 課	